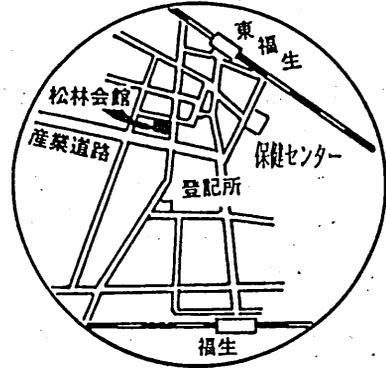


# I. 松林分館の位置と施設

## 1. 松林分館の所在地

福生市武蔵野台1-15の1  
 電話 042 552 3624



松林分館の所在地地図

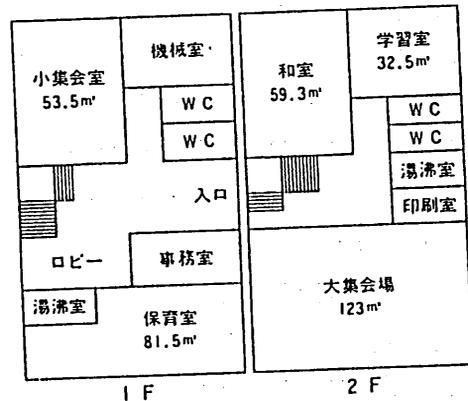
## 2. 松林分館 (松林会館) の建築

開館日 1979年(昭和54)5月3日  
 建設期間 1978年(昭和53)10月～  
 1979年(昭和54)月まで

用地面積 1104.9m<sup>2</sup>  
 建設・ 鉄筋コンクリート2階建て  
 本体面積 564.3m<sup>2</sup>  
 1階 282m<sup>2</sup>・2階282.3m<sup>2</sup>

## 3. 施設内容

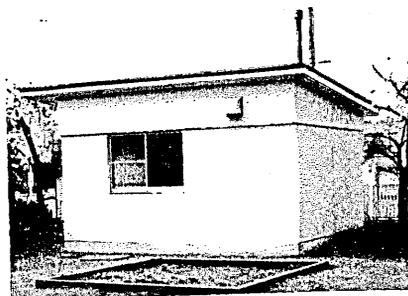
大集会室	123.0m <sup>2</sup>	定員90名
学習室	32.5m <sup>2</sup>	定員15名
和室	59.3m <sup>2</sup>	定員40名
小集会室	53.5m <sup>2</sup>	定員25名
保育室	81.5m <sup>2</sup>	
事務室	10.0m <sup>2</sup>	
印刷室	6.0m <sup>2</sup>	



松林分館 平面図

建設費 総計 207,234,2999円

陶芸作業所 ブロック造り平屋  
 面積 20.04m<sup>2</sup>  
 建設費 8,339,910円  
 1994年(平成6)施工



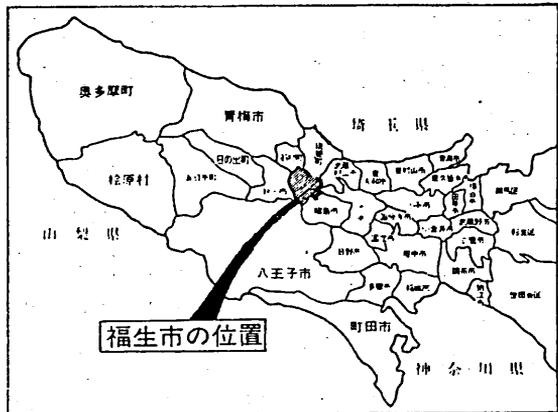
## II. 福生市の概要

### 1. 地理的な位置

東京郊外の地域を、南・北・西の3つの地域に分けて、それぞれ南多摩郡、北多摩郡、西多摩郡とかつて呼んでいた。奥多摩山系に源を発する多摩川流域の谷間集落として発展した青梅や秋川流域の谷間集落として発達した五日市等、多摩川とその支流の秋川流域が西多摩郡であった。その玄関口に当たるのが、福生市である。東京から約40Km、多摩川の東北側に南北に位置する福生市は、東西に3.6Km、南北4.5Kmで、面積10.24m<sup>2</sup>の地域である。地形は多摩川流域に向かって、立川段丘、拝島段丘、天ヶ瀬段丘・千が瀬段丘と4段丘からなる傾斜した平坦地である。地質の大部分は関東ローム層で、西南の多摩川の低地は沖積土である。その高低は最高143m、最低104mである。

交通は青梅線、五日市線、八高線の3本のJR線があり、青梅線で、福生、牛浜、拝島、五日市線で拝島駅、熊川駅、八高線で東福生駅と五つの駅があり、とりわけ、福生駅は昭和40年代まで、西多摩の交通の要所であった。そして、福生市は西多摩の玄関とし地方小都市の商業地域として賑わいを見せていた。しかし、40年代以後、急速に都市化のスプロール化で、交通の拠点としての位置を失い、商業地域としての賑わいはこのところ、いま一つと言った状況である。昭和15年に旧陸軍飛行場として建設され、昭和20年9月4日に米軍に接収された横田基地が市の東端にある。

福生市の行政面積は10.24m<sup>2</sup>である。横田基地の面積は3.32Km<sup>2</sup>で、それは市の面積の1/3にもおよぶ。



人口	62,160
男	31,510
女	30,650
世帯数	26,650
2000年(平成12)2月1日現在	

### 2. 福生市の歴史

#### (1) 近世までの福生

市内遺跡分布地図では、現在市内に18か所の遺跡が確認されている。縄文早期の遺跡が確認されているので約9000年前から人の文化の足跡がある。板碑による年号では鎌倉末期が確認されているので、中世期には武士が土着していたと考えられる。福生と言う地名は11世紀に鹿児島県の離島の旧家で発見された系図に、「福生村」の記述があり、

すでに村とし存在していたことが確認されている。その後、16世紀に入り戦国時代には、「福生郷」として歴史に現れる。福生市域は戦国時代には小田原の北条氏の支配するところで、直接には八王子城主、北条氏照による支配であったことが確認されて、永禄4年（1561）に北条氏から、福生郷内での乱暴狼藉を禁止をした制札が見ついている。近世に入って江戸時代は、福生村、熊川村の2村があり、代官、旗本支配下であった。福生村は幕府直轄地として代官が、熊川村は幕府直轄地と長塩氏、田沢氏の旗本支配による3給地であった。

## （2）近代、現代の福生

近代に入って、廃藩置県後、福生村、熊川村は韭山県や神奈川県に属していた。明治22年に熊川村、福生村組合役場を設け、その後、明治26年に三多摩が東京府へ編入された。昭和15年に陸軍航空審査部と整備学校が設置されると、同時に熊川村、福生村は合併して福生町となった。農村から軍都へと発展していった。昭和20年（1945）9月6日に終戦と同時に米軍に接收され、横田基地として現在も存続をしている。戦後は基地と小零細商工業、農業を核に発展をしてきたが、昭和30年代後半から急速に都市化の波に呑み込まれていった。

1968年（昭和43）、明治100年を記念し、人口を別にしても、すでに市としての要件を具備している地域の15町が全国から集まって新市制実現全国既成会が福生で開かれ、国会への陳情を繰り広げ、1970年（昭和45）3月に地方自治法の一部改正により人口、37,675名で福生市の誕生となった。その後、多摩川に沿った田園地帯、多摩河原地区の区画整理事業が、1970年（昭和45）に新都市公社に業務委託され着手され、1975年（昭和50）7月に完成。福生駅東口土地区画整理事業が1974年（昭和49）に着手、1984年（昭和59）に完成し、現在の街の姿をつくってきた。ハードの面が整うとともに、1970年、平和都市宣言、1973年、健康都市宣言、1980年（昭和55）市民憲章を制定した。

### 市民憲章

1. 私たちは、健康な心と体をつくり、充実した豊かな日々をおくりましょう。
2. 私たちは、老人を敬い、子どもの健やかな成長につとめ明るい家庭をつくりましょう。
3. 私たちは、自然をたいせつにし、花や木を育て、美しい緑のまちをつくりましょう。
4. 私たちは、教養を高め、情操を養い、文化の薫るまちをつくりましょう。
5. 私たちは、たがいに親しみ、助け合い、みんなが幸せになるまちをつくりましょう。

この市民憲章はその後の福生市の大きな目標となっている。

## （3）福生市社会教育施設の充実

1974年（昭和49）に教育委員会は福生市社会教育委員会に「福生市の社会教育基

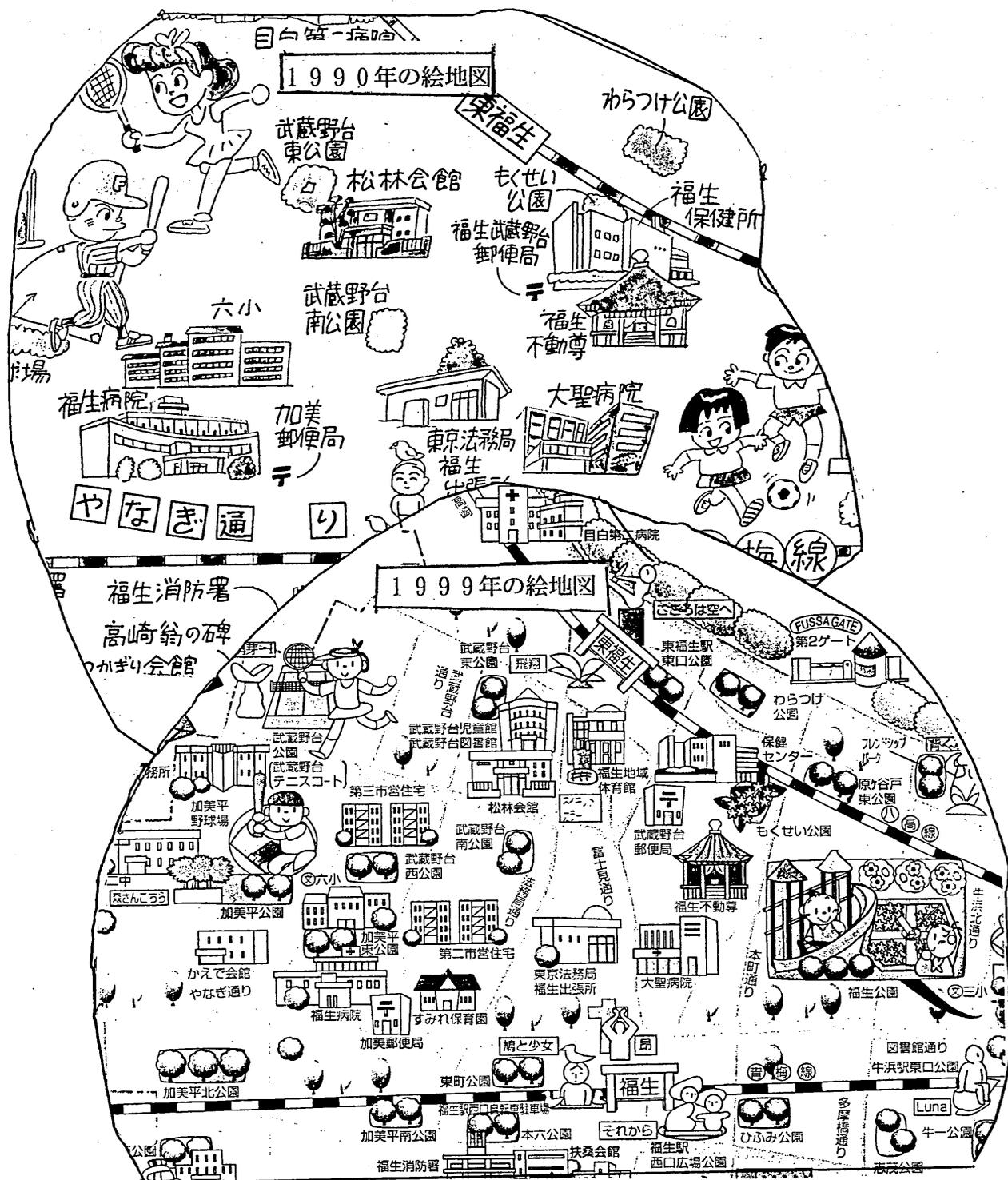
の策定について」を諮問し、1975年（昭和50）に福生市社会教育基本構想中間答申」が出された。この答申として、中学校区に地区公民館、図書館、博物館、児童館の建設等の指針が出された。

1977年（昭和52）に市民会館・公民館が建設され、1979年（昭和54）に武蔵野台地区に松林分館が、1980年（昭和55）白梅分館が熊川地区に建設された。図書館は1976年（昭和51）わかざり図書館、1977年（昭和52）わかたけ図書館、1980年（昭和55）福生市立中央図書館（郷土資料館併設）が建設された。中央体育館が1973年（昭和48）等の社会教育施設が次々に整備されていった。

1979年以前は、武蔵野台地域を含めて、加美平、本町7、8町会を含めて、公民館等の社会教育施設がほとんど無かった。1979年松林分館が建設され、1980年代を通して1つであった。しかし1990年代後半になって、松林分館から150m以内に、児童館と武蔵野台図書館、福生地域体育館が建設され、東京都福生保健所が都の機構改革によって、青梅市へ移り、同場所に福生市保健センターが移動し、地域の一大文化ゾーンが形成された。

### III

## 地域の変化 — 福生市はこの10年間とう変化してきたか



### Ⅲ. 地域の変化 —福生市はこの10年でどう変わってきたか—

#### 1. はじめに

1980年代は高度経済成長とその終焉の時代と言われ、とりわけ、1980年代後半から90年代の初頭にかけて、右下がりの経済成長と日本経済の構造改革の時代だと言われている。1980年代から90年代にかけて、「高齢化」「少子化」「情報化」「高学歴化」「価値観の多様化」等が時代のキーワードとして多用されてきた。高度な経済成長のなかで、「日本型福祉国家政策」が取られてきた。しかしこの「日本型福祉国家政策」を見直し、自己責任の強化、選択的負担の拡大、行政組織のスリム化、これらの状況に対応するために、中曽根臨時行政改革以後数次にわたる行政改革や経済改革が行われ、とりわけ、経済の活性化を生み出すために「行政改革の推進」「規制緩和」「民間活用」等を柱とした行政改革の推進・再編成が推進されてきた。

こうした中で、福生市はどのような変化を遂げてきたのかを見ておこう。

#### 2. 福生市の人口構成の特徴

福生市の人口の変化を市勢統計や国勢調査の報告をみながら、1990年代の変化を概括しておこう。1980年(昭55)、福生市の人口は48,793人(男・24,258・女・24,535)で1999年(平11)の人口は60,470人(男・30,654・女・29,816)である。11,677人で伸び率は1.24倍であった。1990年(平成2)57,141人、1995年(平成7)60,207人、1999年(平11)60,470人と90年後半から伸び率はほとんど変動しなくなった。しかし、その中身の変化は 大きいものがある。

1985	41,457人
1990	57,141人
1995	60,207人
1996	60,383人
98	60,484人
99	60,470人

人口が増えれば当然、世帯数も増加していく。福生市では、1980年 世帯数は16,123世帯で平均世帯人員は3.2人であった。1990年 21,533世帯 世帯人員2.79人、1995年の世帯数は24,237世帯、世帯人員2.70人である。

階層別人口構成でみると、例えば、1990年(平成2) 1位は25歳から29歳で4,940人で、2位は35歳 から39歳

で4,899人、1995年(平成7)は25歳から29歳が5,605人で1位、2位は20歳から24歳人口 5,011人であり、1999年(平成11)、25歳から29歳の人口が5,516人、2位は5,031人であった。そして、男女の人口差は50歳以後で女性が人口の優位性をもってくる。

年	世帯数	世帯人員
1980	16,123	3.02
85	17,670	2.91
90	21,533	2.79
95	24,237	2.70

多摩地区データブック 1997年  
東京市町村自治調査会発行

### 3. 乳幼児・児童生徒数の減少—進む少子化—

年/年齢別人口	人口構成比
1980 12,313	26.44
1990 11,068	18.67
1995 10,242	16.34
1999 9,457	15.63

国勢調査を基にして作成した年少人口とその構成比を表したのが左表である。1980年（昭和55）から1999年（平成11）の20年間で年少人口は1856人の減少である。人口構成比でみると、1980年26.44%、1999年は15.63%で、この20年間で約10ポイントの減少である。

	年少人口	生産年齢人口	老年人口
年齢	0~14歳	15~64	65~
1980	12,313	33,954	2,526
内	女 6,056	17,057	1,422
1985	11,555	36,724	3,178
内	女 5,660	18,204	1,830
1990	11,068	41,796	4,277
内	女 5,424	20,272	2,539
1995	10,242	44,123	5,840
	女 5,001	21,144	3,460
1998	9,622	43,681	7,181
	女 4,687	20,886	4,274

事業概要 東京都福生保健所・多摩川保健所各年版

国勢調査によると1985年から95年の10年間でみる

と一番の人口減は5歳から9歳人口で1,341人、2位は0歳から4歳で1078人減、3位は10歳から14歳で553人であった。

1990年代になると3歳児で幼稚園に入学する幼児が増える。保育園児を加えると、3歳児で67%、4歳児、5歳児では90%を越えている。

学齢期の児童生徒は1980年（昭和55）小学校7校、4985人、学級数131クラス 1学級あたり38名であった。中学校で3校、50クラス、2014人で、1学級当たり40名であった。

1990年（平成2）小学校7校、4096人、131クラス、1学級当たり33名、中学校3校、2135人、56クラス 1学級当たり38名となっている。1998年（平成10）小学校7校、児童数3665人で112学級、1学級当たり3

3名、中学校3校、生徒数1686人、46学級、1学級当たり、37人であった。少子化にともなって、子育てはもっと豊かになっていて良いと思うが、現実にはむしろきびしさを増している。

### 4. 生産年齢（15～64歳人口）の実態は

1995年の国勢調査における15歳以上人口は50,967人(男.26,030・女.24937人)、15歳から64歳迄の生産年齢人口は31,625人(男19,962、女11,663)で、生産年齢人口における男女比は、男子51.1%、女子は48.9%であった。就業者は、31,625人(男.19,962人・女.11,663人) 非労働力人口は11,734人(内婦・7,337人・群.3676人)であった。就業構成は、主に仕事26,397人、家事と仕事4,249人、通学と仕事549人、休業者425人、完全失業者1,782人で、生産年齢人口の構成は、仕事51.8%、家事と他の仕事8.3%、通学と仕事、1.1%で休業者0.8、完全失業者6%であった。非労働力は生産年齢人口の26.27%であった。

女子の生産年齢人口中就業者総数は11,039人で、女の生産年齢人口の51.8%であった。女性労働者を年齢階層別に見ると生産年齢人口で女性の就業率は仕事(6838)61.2

%、仕事と家事(3809人) 34.50%、通学・仕事(246人) 2%であった。休業者(162人) 1%、完全失業者(624人) 5.6%、非労働人口9,306人(寡7254人・群1786人)であった。

専業主婦の約1.5倍である。女の就業率は15歳～19歳が2.6%、20歳から24歳、13.5%、25歳から29歳、12.8%、30歳から34歳、9.5%、35歳から39歳が、9.1%で、40歳から44歳は10.6%、45歳から49歳、12.9%とまた上昇し、55歳から59歳・7.4%である。福生の女性の就業構造もM字型雇用形態であった。

女子労働力状態	平成7年国勢調査		労働力状態(8区分)・年齢(5階層)・15歳以上人口							
年齢	15/19	20/24	25/29	30/34	35/39	40/44	45/49	50/54	55/59	60/64
人数	284	1569	1490	1105	1059	1296	1544	1274	892	530
%	2.6	13.5	12.8	9.5	9.1	10.6	12.9	10.6	7.4	4.4

### 5. 急速に進む高齢化社会から高齢社会へ

1985年以後、急速に進んでいく少子化に引き換えて、高齢者人口は年々増加していく。

福生の高齢人口はどのように変化しているのか、人口構造的変化を見ておこう。

1980年代の10年間の高齢化率は5.

56%から1990年7.86%で2.3%増である。高齢化は1990年代には一層進んでいく。1999年は12.47%10年間で4.61%で、80年代の2倍の速さで進んでいる。

1995年(平成7)の町会別人口をみると、高齢人口が14%以上の高齢社会に入る

年人口の割合	福生市	多摩地区	東京都
980(昭和55)	5.56	6.31	7.70
985(昭和60)	6.58	7.50	8.93
990(平成2)	7.86	8.95	10.49
995(平成7)	10.26	11.44	13.00
999(平成11)	12.47	13.48	16.03

町会数は6町会である。1999年1月現在では高齢人口20%を超える、超高齢社会に到達している町

会は5か所にもなっている。

今後、高齢人口の急速な進展は今後の介護保険や地域福祉を考える時大きな課題となるだろう。

1995年(平成7)国勢調査で見ると、65歳以上の親族家族のいる

年齢/年	1980	1985	1990	1995	1998
65~69	1109(612)	1228(694)	1640(960)	2382(1320)	2796(1541)
70~74	702(354)	968(549)	1141(645)	1493(898)	1882(1101)
小合計	1811(966)	2196(1243)	2781(1605)	3875(2813)	4678(2642)
75~79	425(267)	543(299)	846(500)	972(595)	1157(717)
80~84	204(131)	310(207)	413(261)	652(418)	754(495)
85~89	67(045)	103(062)	186(216)	251(166)	429(300)
90~94	18(013)	26( )	45(32)	80(56)	132(95)
95~	(1)		6	12(8)	31(25)
	715(475)	982(594)	1496(1022)	1967(1243)	2503(1632)
合計	2526(1423)	3178(1830)	4277(2538)	5842(3461)	7181(4274)

一般家庭での構成は、夫婦のみ(1205) 26.4%、単独家族(高齢単世帯・1056) 22.7%、夫婦と子供と両親世帯(296) 6.4%、夫婦と子供と片親世帯(651)、その他の世帯(874) 18.8%である。青梅線沿線市町村の中でも福生市は一人暮らしの高齢者が一番高くなっている。

65歳以上の「夫婦のみ」世帯、「単身世帯」の率を表にしたものが下記の表である。

世帯/地域	福生	青梅	羽村	あきる野	瑞穂	日の出	檜原村	奥多摩	昭島	武蔵村山
夫婦のみ %	26	21.3	25.1	22.5	20.6	19.4	21.3	23.4	27.9	24.7
単身世帯 %	22.7	12.1	14.1	12.0	8.6	8.4	11.3	16.1	19.7	19.3

一人暮らしの高齢者、あるいは夫婦世帯の高齢者が、やがて抱えるであろう介護

や看取りの問題は今後の地域福祉の課題とからんで大きな課題になっていくだろう。

しかも1995年(平成7)の国勢調査によれば、福生市における住居の種類・住宅所有関係をみると「住宅に住む一般世帯 23,380 持ち家(8,862) 37.8%、公営住宅等の借家(3,761) 15.89%、民営の借家(10,550) 45.12%、給与住宅(537) 2%、間借り(207) 0.008%。その上「住宅の所有関係別住宅に住む65歳以上の親族のいる一般世帯」を見ると総数4628世帯、主世帯総数 4600世帯、持ち家(2976) 64.6%、公営・公団・公社の借家(569) 12.3%、民営の借家(1038) 22.5%、給与住宅(17) 0.03%、であった。34.89%の世帯は借家であった。高齢化社会から高齢社会にむけ急速に進んで行くだろう。

一般世帯	23,884		
住宅に住む一般世帯	23,380	民営借家	10,550
主世帯	23,173	給与住宅	537
持ち家	8,862	間借り	207
公営・公団・公社の借家	3,224	住宅以外に住む一般世帯	504
1995年国勢調査 住宅所有関係別住宅に住む65歳以上の親族のいる一般世帯			

こうした中では住宅問題も大きな課題となってくるだろう。

高齢期の配偶者関係を1995年(平成7)でみると、65歳以上の高齢前期人口は6310人の中で、死別は男・321人、女・1579人となっている。夫が死亡した妻は

平成7	総数	総数	未婚	有配偶者	死別	離別
男	6310	2666	40	2116	321	65
女		3644	154	1537	1579	179
65歳/74						
	4179	1896	31	1562	147	56
		2283	133	1242	719	136
75~	2131	770	9	554	165	9
		1361	21	295	860	43
配偶者関係・年齢・男女別人口 国勢調査平成7版						

約5倍になっている。何らかの理由で離別した妻は179人で男の65人に比べて2.75倍にもおよんでいる。

高齢期の生活が必ずしも、夫婦共にというわけではないことを示している。老後の人生をそれぞれが自立的に生きていくということが、いま求められているのではないか。生活能力を持った女が経済的な基盤の強弱はあるが、高齢期でなお、離別が多くなっている現実には厳しい。

## 6. 国際化—増える外国人

1980年代以後、国際化が叫ばれ、ここ10数年、急激に外国人が福生の中でもふえて来ている。1975年(昭和50)の福生における外国人人口は韓国・朝鮮492人、米国人195人、中国人70人を含めた12か国784人である。1980年も12か国726人であった。こうした構成が大きく変化していくのは1985年以後である。

東南アジア、とりわけ、タイ、フィリピン、中国、あるいは中近東のイラン・イラク・バングラデシュ、そして南米のペルー、ブラジル、ボリビア等を含めて増えてきた。南米からの入国が増えてきているのは、1990年に於ける入国管理法改正にともなうものである。

戦前から朝鮮や中国の人々、戦後の米国人等、比較的身近に外国人を見慣れてきた。1

国/年	1975	1980	1985	1990	1995	1998
	昭和50	昭和55	昭和60	平成2	平成7	平成10
国数	12	12	15	25	33	36
外国人数	784	726	782	1081	1667	1740
韓国・朝鮮	492	513	467	465	441	465
米	195	136	181	183	193	186
中	70	60	80	91	172	241
ペルー	0	0	0	24	278	246
タイ	7	5	9	17	172	142
フィリピン	2	3	25	53	178	208
フランス	4	2	1	0	0	1
ブラジル	0	0	0	10	85	69
イラン	0	0	0	1	0	29
パキスタン	0	0	0	9	0	20
バングラデシュ	・	・	・	・	・	20
以下略	・	・	福生市勢統計98			

980年代後半、85年に15か国、1990年に33か国、1998年には36か国と多様な人々が生活を共にすることになってきた。

改めて、その外国人の人々の生活がどうなっているのか、言語、風俗習慣の違った社会の中で、どのような暮らし方をしているのかという事を基本的な人権問題として考えておく必要があるし、異文化との共生がどのような形で実現していくのか、大きな問題である。とりわけ、アジアの人々に対する歴史的和解は、大きな課題となるであろうし外国人の基本的な人権がどのように保障されいくのかは、大きな課題となっている。1990年(平成2)の16歳未満の外国人は131人(男・81人・女50で、1998年で174人(男・86人・女88人)もいる。これらの乳幼児期から学齢期にかけての子ども達の教育権や学習権の保障、母国語の読み書き

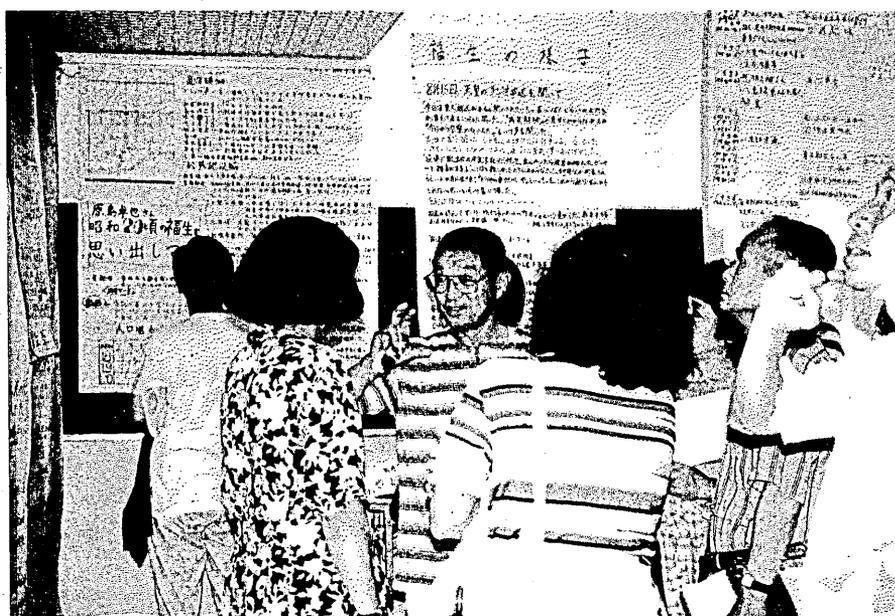
の保障、外国人に対して、日常語とし日本語学習の獲得など、基本的人権に関わる学習権保障をどうしていくのか、或いは生活保障等をふくめて課題は大きい。

IV.

# 松林分館の歩み

1990年(平成2)から1999年(平成11年)

## 松林分館の通史



1995年8月1日～15日 福生市立第2中学校歴史部

一見て聞いて歩いて知った 戦時中の福生一展(館で)



## 1. はじめに

### はじめに

松林分館の庭にある榎は20年の年輪を刻み、春、4月は、明るい茶色をした若葉が一斉に芽吹いてくる。5月には明るい黄緑色の葉が銀色の葉裏をみせながら風に揺らいている。夏、榎はその枝を空いっぱいに広げて、深緑の葉が、枝をしっかりと覆っている。そして夏の灼熱の太陽の光を遮り、涼しげな木陰を作っている。木漏れ日は時々吹く風に、揺らいている。木陰で、若い母親達はこども達の遊びを見守っている。庭のリンゴは数少ない実をつけ、照りつける8月の光の中で、赤く熟している。たいていはひよどりが味見をしたあとだが……。夏、子ども教室練習キャンプのテントが庭一面に張られている。甲高い声を張り上げながら、キャンプの食事作りに夢中になっている。街には、夏祭の山車や神輿が練り歩く、地域の子供会の子供たちは、揃いのハッピーをきて、白粉と紅でお化粧してもらって、街へと飛び出していった。

秋空が広がり、日の暮れがだんだんと早まっていく10月の末には、「だれでもなんでも展」の模擬店が庭いっぱいに広げられ、大勢のこどもや大人たちでにぎわいを見せた。

そして、秋風が冷たさをます11月の末に、風は木枯らしにかわっていく。木枯らしが吹きはじめると、榎はその衣装をはぎ取られていく。ひと風ごとに枝がゆれ、一枚一枚葉っぱは舞落ちていく。松林の庭に、そして風によって、道路へと舞っていく。青空がやがて、少しづつ冬空に変わりはじめるとき、木枯らしが吹くたびに落ち葉は、葉音をかかさとしてながら、庭や道路にもつもっていく。職員はこの落ち葉と競争しながら、落ち葉掃きの日々が続く。冬、すっかりと葉を落とした榎の枝は、一斉に空に伸び、寒さの中で、凜として、めぐる春を待つ。子ども会の餅つきのにぎわいが街にながれていく。1月、保育室の明かりの中で、「すんばらしいリーダー会」の青年たちは、活動のまとめ作りにおわれている。やがて3月、0歳から通ってきた保育室のこども達も、庭のすももの木がゆっくりとその花芽を開きはじめるころ、陽光の中から、巣立っていく。そんな姿を見送りながら榎は今年も空へと伸びていく。新しい年輪を刻むために。松林分館に刻まれた歴史とともに4本の榎は伸びていく。

福生市公民館松林分館が開館したのが1979年(昭和54)5月3日。憲法記念日がくしくも開館日となった。それから多くの地域の人々に支えられて、20年目の歩みを続けてきた。1980年代迄の活動は「松林分館10年の歩み—小さな分館の10年間の記録—」として1991年に発刊している。高度経済成長は最早バブルで消し飛び、長期的な低成長時代の中での1990年代の10年間、どのような活動を市民と共同して作ってきたかを振り返って見たい。

## 2. 松林分館の時代区分

### 1. 松林分館の時代区分

1979年(昭和54)5月3日の憲法記念日に開館し、今年20年目を迎えた。開館から10年の記録はすでに「松林分館10年の歩み—小さな分館の10年の記録—」の中でまとめられている。簡単にその10年の記録をいま振り返っておこう。松林分館の時代区分として大きく3つの時代区分に分けられていた。

第1期—1979年(昭和54)から1983年(昭和58)松林分館の基礎を作った時期である。子どもを対象にした学級や子育てにかかわる講座、教育講座等を含めて、20コースと多く、1979年7月に始まった「松林ホームシアター」や、1980年(昭和55)に利用者交流会の結成、分館のサークルと地域を結んで「だれでもなんでも展」、若い母親たちとの共同の「松林文庫」活動などが展開された。そして、この時期に松林分館の基本的な活動方向が確立されていった。

なによりも、松林分館の運営の基本方針が1980年(昭和55)に利用者交流会の討議の中で了承された。

#### 松林分館運営基本方針

1. 地域に開かれた公民館をめざす努力をしていこう。だれもが下駄ばきで立ち寄れる開かれた公民館にしていこう。
2. 民主主義と人権保障の確立をめざす自治体の教育分野を担う場として憲法、教育基本法の理念の実現をめざそう。
3. 公民館が地域の要求を教育要求に組み替えながら、出来るかぎり、市民の要求をくみ上げる努力をしていこう。
4. 地域のさまざまな情報センターとしての役割を重視していこう。
5. 主催事業を充実させていこう。当面、事業の中心を、未来の主権者である子ども達その命を生み、育む女性を中心にしながら、市民の文化的な活動を重視していこう。また、男の成人が公民館に関われる部分を積極的につくる努力をしよう。
6. なによりも、公民館のイメージを出来るかぎり地域に伝えていこう。そのために、地域にでかけ情報をとどける努力をしよう。

というものであった。

高橋邦彦氏と加藤有孝氏の2名がこの時期を担っていった。

第2期—1984年(昭和59)から89年(平成元)にかけて、この年に国では臨時教育審議会が作られ、1986年(昭和61)に「教育改革に関する第2次答申」が出され「生涯学習への移行」を打ち出した。そうした日本の生涯学習政策とは別に、1985年ユネスコの国際成人教育会議がパリで開かれ、「ユネスコの学習権宣言」が採択されている。この時代から、かなり国際的動向に切り結んだ実践が展開していく。この時期は地域と結んだ文化活動が勢力的に取り組まれていった。例えば、国際反戦年を契機に「シネ・フェスティバル—FOR—PEACE」など、そして地域と結んで子供フェスティバルや、松林ホームシアターの活動が充実していった時期である。

1984年(昭和59)に高橋邦彦氏は福生市公民館(本館)へ異動し、中根 浩氏が

本館から着任した。

第3期—1989年(平成元)から1991年(平成3)の時期である。臨時教育審議会の第2次答申「生涯学習への移行」を受けて中央教育審議会答申が1990年(平成2)に「生涯学習の基盤整備について」を答申し、「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」(一般的には生涯学習振興法と略されている、以後文中では「生涯学習振興法」と呼ぶ)が成立し、生涯学習体制が政策課題として動きはじめた。三多摩各市で「社会教育」という用語に代わって「生涯学習」という用語が多様化されてきた。そして、その推進体制に向けての審議会等が作られる時期であった。

一方で、憲法・教育基本法・社会教育体制に加えて、1985年の国際成人教育会議で採択された学習権宣言の内実をどう具体的につくっていくのかということが問われる1990年代の幕開けとなった。

1989年(平成元)4月に中根 浩氏が松林分館から本館へ戻っていった。新たに東芳行氏が主査として着任した。それは分館から地区館への確かな一步を示すものであった。

松林分館は開館10年目の節目の年であった。松林分館利用者交流会は、「だれでもなんでも展」の開催と共に「松林分館開館10年」を祝って何か記念になるものをつくろうか、という意見が出され、例年に増しての取り組みとなっていた。

この年の「だれでもなんでも展」のテーマは実行委員会の討議の中で、「まるく・まるくひろがれ、手づくり10年」がテーマとなった。その実行委員長に手作り絵本サークル「まっぼっくり」代表の滝沢昭子さんが選ばれた。「だれでもなんでも展」は例年よりは華やかさを持っていた。利用者交流会として「松林分館開館10周年記念」として壁画を作ろうということになった。松林分館10周年記念壁画制作実行委員会が作られ、翌年具体的な作業になった。壁画の原画作品の募集が行われた。すでに、利用者の手で壁画を作り上げていた神奈川県茅ヶ崎市の小和田公民館への見学会も行われた。その壁画が完成したのが1991年10月であった。200人以上の参加で8か月程かかったが、その制作の中核を担った利用者交流会が、公民館の自治と豊かな文化を共同で作りに上げるという新しい可能性を切り開いた。松林分館10年目の利用者交流会に結集した各サークルのたしかな学びの証であった。

1992年(平成4)高齢化社会を反映して、松林分館でも、高齢者を対象とした、生きがい講座「さつきひろば」が始まっていく。

1993年(平成5)は明治20年代中頃まで神奈川県に属していた三多摩が東京へ移管になって100年を迎える年であった。1990年(平成2)にその取り組みの大綱が発表された。1991年(平成3)その記念行事に向けてTAMAライフ21協会が準備のために設立された。三多摩移管百周年記念行事「TAMAライフ21」が各市の中で取り組まれた。

1990年以後福生市内の外国人人口が急速に増えていく。本格的に国際化の波にあらわれ、とりわけ、その人々の教育と人権保障が求められる年であった。その影響は識字学級の参加者の多様化となって現れた。

第4期 1993年(平成5)から1997年(平成9)、福生市の生涯学習体制の整備と職員体制の整備がされた時期である。1992年(平成4)4月に松林分館の主査であった東 芳行氏の異動にともなって、千羽和男氏が主査として着任し、翌年10月に、女性職員の薄田公子さんが着任し、長い間待たれた、分館の3人体制が実現した。

1993年(平成5)9月、福生市市議会は「福生市生涯学習審議会条例」を可決、同年12月1日、福生市の生涯学習審議会に「福生市における生涯学習の振興方策について」を諮問、福生市女性問題審議会が設置され女性行動計画の策定が日程に上った。

同年11月、福生市公民館館長井梅義彰は公民館運営審議会に「公民館における生涯学習計画の在り方について」を諮問した。翌94年(平成6)年8月には公民館運営審議会から「公民館における生涯学習の在り方について」の答申を得た。

この時期は外国人人口が急速に増えていく。福生における外国人は1990年には25か国、1081人に増えてきた。国際化の波は福生にも激しく覆ってきた。そして、外国人の識字学級への参加がふえ、識字の中でも母国語の違いが大きな課題となった。1995年には「戦後史講座」が開かれ、戦後50年を改めて基本的人権の視点に光をあてて開かれた講座であった。第2中学校の歴史クラブの「50年前にタイムスリッパ-中学生が見て聞いて歩いて知った戦時中の福生-」の展示発表を8月1日から15日までの連続15日間、松林分館の保育室で開かれた。歴史講座の一コマとして調査報告会を取り入れて実施された。これは、学社提携の一つの典型を具体的な形で示したものであった。

「平和のための映画祭」が一段と充実し、参加者は少ないが、「平和や戦争」を考える場として定着をし、高齢者学級の「さつきひろば」参加者は様々な努力によって松林分館に陶芸小屋をつくり出した。女性職員を迎えたことによって、夜間の女性問題講座が再開していく。女性問題学習は、男女共同参画型社会の形成に向けて一段と広がりや深まりをみせてきた。

施設面では松林の冷暖房工事改修、障害者トイレの改修、陶芸小屋の完成など、施設面での充実が図られていった時期であった。

第5期 1997(平成9)から。1997年(平成9)に松林分館主査の千羽和男氏は秘書広報課へ転任、市民課から田中孝治氏が着任、翌年10月には女性問題の中心を担った、薄田公子さんが健康センターへ異動し、健康センターから清水初代さんが着任した。この時期、地域の集会施設として、老人会や、老人会のサークル活動、PTA、町会、配食サービスの一つの拠点等、ひろがりが見え、地域の活動の拠点となってきた。そうした意味では、地域にある公民館から地域に根づく公民館へと発展していった時期である。松林分館は新しいメンバーを迎えながら松林分館の20年目の活動をしている。

それは21世紀につながるものである。改めて、10年間の取り組みを詳しく見ていこう。ふり返ってみることにしよう。

### 3. 松林分館の歩み

1990年(平成2)～1999年(平成11)

#### (1) 生涯学習政策と利用者交流会の自治の発展

1989年(平成元)から1992年(平成4)

1990年(平成2)9月「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」(一般的に略して生涯学習振興法とよんでいる。ここでもこの用法にならって生涯学習振興法と呼ぶ)が出されるが、この前後から三多摩各地で、例えば日野市「日野市文化・スポーツ行政推進本部」の設置、清瀬市「清瀬市生涯学習推進本部」、1990年(平成2)調布市、91年(平成3)、立川市、武蔵野市、町田市、田無市等で生涯学習推進に関する委員会等が作られていく。生涯学習に関連する動きが急速に動きはじめた時期である。福生市でも議会で「生涯学習施策」についての質問が出されたりしてくる。

1989年(平成元)に東 芳行氏が松林分館主査として着任した。1990年(平成2)9月に第5代目館長として堀口茂男氏が着任している。

#### (2) 力をつける松林分館利用者交流会 壁画の制作(1989年～1991年)

1989年(平成元)の利用者交流会は開館10年目の記念として意味合いをつよく持った。この年の「だれでもなんでも展実行委員会」の代表に絵本サークル「まつぼっくり」から滝沢昭子さんが選ばれた。6月17日に始まった「だれでもなんでも展」の準備会の中で、分館10周年記念として、意味合いを持たせた「展」をしたいということが論議され、「まるく、まるく・ひろがれ、手づくり10年」をテーマとした。もともと「だれでもなんでも展」は(1)地域でコツコツ行われている文化的な営みを掘り起こしつなげていく、(2)その役割を分館の利用者や地域の人々と公民館職員が共同で担っていくこと、(3)サークル、分館活動を地域にひろげ、公民館とつなげていくことを通して、松林分館の利用者が、地域でこつこつとさまざまな文化運動を展開している人々を掘り起こし、館とつなげ、市民をつなげていく場として取り組まれてきた。10周年記念は「展」終了後にとりくむ事が確認された。10月21日(土)・22日(日)の「だれでもなんでも展」は、一般公募作品536点、松林分館のサークル作品200点、参加サークル20団体入場者数延べ2600人であった。

コーラスをやっている伊東律子さんの作詩・作曲による「松林会館の歌」が作られ、コーラス虹が「だれでもなんでも展」の中で発表し、多くの人の共感を呼んだ。

「だれでもなんでも展」終了後、実行委員会はそのまま、松林分館10周年記念壁画作製委員会になり、引き続き手作り絵本サークル「まつぼっくり」代表の滝沢昭子さんが壁画作製実行委員会の代表に選ばれた。

神奈川県茅ヶ崎市小和田公民館で利用者で壁画制作に取り組んだ経験を学びに、小和田公民館への見学ツアーが実施された。この見学会を通して、壁画のテーマの追求が弱かったことが明らかになった。第2回目の実行委員会が12月に開かれ、改めて壁画のテーマが論議された。松林分館の活動を通して公民館のイメージが、①人が集まってワイワイ

やっていると、②人があつまってくる暖かい場所、③人がかかわりあう場所、④皆で力をあわせて何かをする場所、などが語られ、壁画のイメージとして①未来に羽ばたく子ども達 ②手づくりの暖かさが伝わる壁画にしたい。③未来にはばたく人の和、④焚き火の回りに集まる人のイメージ、という意見をもとに、テーマとして、①和と創造の明日、②和と創造の喜び、③和と創造の未来、などが出された。ここで論議された公民館や松林分館のイメージはある意味では松林分館10年間の活動の中身を市民側から捉えた言葉であった。論議の中で、テーマは「和と創造の未来」と決まった。そして、テーマの原画が再度募集され、2作者6点の作品が集まった。「手づくり絵本サークルまつぼっくり」の長島幸子さんの「母子像」が選ばれた。具体的な制作は1990年（平成2）に入ってから「第10回、だれでもなんでも展」に向けて完成をさせなければということで、分館利用者の多くの人々が関わっていった。「第10回だれでも展」当日、会場の入り口を飾ることになった。

実行委員長の滝沢昭子さんは「ふりかえてみれば、いろいろな事が思い出されます。小和田公民館・寒川中学校への壁画の見学に出掛け、行く先々で暖かく私達を迎えてくれた人達の親切心。テーマを決める時に候補が12点程あがり、選定に苦労し、利用者の熱い思いが感じられ自分の責任の重さを痛感しました。なかなか埋まらない壁画を見て大きく溜息をついた日々。朝10時から夕方6時までお弁当を持ち、ちいさな子ども達の手を引いてタイルを貼ってくれた人、サークルが終わってから、昼食も食べずに頑張っていたおばさん達、等々切りがない程次から次へと浮かんでいきます。

80歳の長老から下は1歳の子どもまでが参加した、私達の壁画。私はこの制作を通して共同制作の難しさと、素晴らしさを同時に知りました」（松林館10年の歩み 頁188 松林館誌1991年）と「松林分館10年の歩み」の中で書いている。絵本サークルまつぼっくりの坂本京子さんはその感想を次のように書いている。

「『これ、本当にできるだろうか。』初めて母子像の絵を見た時の実感である。畳二畳程もある大きさは、どれほどの時間で出来るか、皆目見当もつかなかった。なにせ、これをやる為の練習に作った鍋敷（直径11cm）が、一生懸命やって1日かかったのだから。しかし、そうは言われてられず、原画にそって、色を決め、とにかく皆で一枚貼っていくという気の遠くなるような作業が始まった。しかし、だんだん一枚一枚のタイル片が、母の髪、こどもの顔になっていくと、それは感動さえ覚えた。

しかし、そうは言っても、とにかく、ちょっとやそとやっても、なかなか進まない。朝10時に始めて、夕方6時迄なんて日もざらだったりして、子どもに『今日はどこへ行くの?』と聞かれて『松林』と応えるようになっていた。それでもなかなか進まない。期日は迫ってくる。しかし、そこは松林の利用者、なんとか頑張ろうと昼食も食べずに貼っていった人もいれば、日曜日に出て来て貼っていく人もいて、とうとう期日迄に仕上げることができたのである。こうした連帯感は、壁画をつくるという共同作業を通して、出来たと思うし、このことで、私自身『ああ、松林で本当に大勢の人のオアシスなんだ』と実感した。」（松林館10年の歩み 頁189 松林館誌1991）という。また、絵本サークルまつぼっくりの小林早苗さんは「・・・ある人はバイタリティーのかたまり、体を思い切り動かすサークル、又別な曜日は老化の予防のためと頭をよくつかうサークルへと・・・。私はいま通っているサークルと同じ曜日にも、他のサークルの方達の活動もあるのに、それすら気付

こうとしなかった自分が、ちょっと情けなく、皆で利用する公民館は頭でわかっている、ピンと体の中までは、なかった感じでした。それが今回の壁画制作を通して、得られたのです。これは私にとってなによりの体験でした」( 榎 蘭 10 月号 ) と書いている。

1991年1月にこの壁画は松林分館の壁にかけられた。利用者交流会を支えてきた親子映画の溝淵幸太郎氏のご息子が壁に付ける作業すべてにわたって担ってくれた。壁画の額縁も溝淵幸太郎氏の知人によるものであった。こうした善意の人々のお陰で、松林分館のシンボル「和と創造の未来」の母子像は作られた。

この10周年壁画制作への取り組みは、サークルがお互いに連帯することや、「みんなで利用する公民館」という意味を改めて確認し、体で確認する作業となっていた。それは正しく利用者交流会が10年間かかって積み上げてきた自治的能力の確かな発展の証であった。

この10年の活動を期にして、初期の松林分館のさまざまな活動を担った若い母親達は子どもの成長と共に、その多くが、働きに出始めたり、引っ越していく人も多かった。公民館にかかわる人々が比較的高齢者の人々へと代わっていく。

### (3) 広がりをもってきた学習内容

1989年(平成元)から1992年(平成4)、この時期、戦後の初期に社会進出た女性たちが会社で定年を迎え、地域に戻って来はじめていた。高齢化社会に対応して、高齢者に直接対応する「福生市寿ひろば」が本館を中心に開かれていた。松林分館でも1994年に「さつきひろば」が始まっていく。

松林分館は毎年4月か5月に行われる松林分館利用者交流会の年度始めに、分館運営にかかわってその年の「松林分館事業運営方針」を館側から提出している。その構成内容は、1. 福生の地域概況—地域の統計等による課題 2. 公民館や社会教育をめぐる情勢、3. 松林分館の活動の基本方針 4. 主催事業の充実—松林分館の主催事業の視点の4項目について書かれている。

1992年(平成4)の「運営方針の基本」の中で、事業については「未来の主権者である子ども達の教育や環境をめぐる問題、生命を育む大人の課題、地域福祉に関する課題を含めて高齢化社会に対応する課題、国際化と言われる中での人権保障に関する課題、或いは地域とかがわって政治や経済の課題等、さまざまな今日的な課題を公民館として、市民と共同して課題の整理に当たっていききたい。そして、誰もが、自由に学べる課題と学ぶべき課題を統一させながら自治能力や主体性の確立に向けて、努力していききたい。そして「学習権宣言」を具体的に実現できる場としていききたい。また、学習の質が保障され、質の高い情報が発進できる場として努力していききたい。」と述べられていた。

1989年(平成元)から1992年(平成2)子どもを対象にした事業は子ども教室・劇団ファンタステックを含めて、5本。開館以来続いてきた夏のサバイバル教室が10年目で終了し、代わって夏休み子ども将棋教室やパッチワーク教室、夏休み創作教室等の3コース、女性問題学習としては、子育て期の若い主婦を対象とした、家庭教育学級2コース、1990年(平成2)簿記3級・2級資格獲得を目指した「主婦の再就職講座」は30代40代の現役で働いている女たちの参加が過半数を占めていたが1993年(平成

5)に終了、女性のための囲碁講座が1992年(平成4)で終わり、自主サークル化が図られた。この参加者の多くは高齢期の女性であった。

成人教育の分野では、1989年、昭和64年が平成元年と年号が代わり、波瀾に満ちた昭和と言う時代が終わった。改めて、戦後の歴史、とりわけ近代・現代史を課題にすえた市民大学歴史講座が開催されている。そして、識字学級参加者の中心が高齢者から、若い外国人に急速に代わっていく1991年でもあった。ノーマライゼーションが言われはじめ、社会福祉制度が大きく変化していく中で、「豊かな老後を支える福祉とは」が開催され、人権週間に合わせた「差別ない社会をめざして—基本的人権講座—」がはじまっていく。開館以後10数年近く、活動の中心にあった若い母達に代わって、活動に高齢者の人々が目立ってきた時期であった。

#### 4. 福生市の生涯学習施策の確立と職員体制の充実

1993年(平成5)～1997年(平成9)

##### (1) 福生市の生涯学習施策の確立

1993年(平成5)9月福生市市議会は「福生市生涯学習審議会条例」を可決、同年12月1日、福生市の生涯学習審議会に石川市長は「福生市における生涯学習の振興方策について」を諮問、福生市女性問題審議会が設置され女性行動計画の策定が日程にのぼり、同年11月、福生市公民館館長井梅義彰は公民館運営審議会に「公民館における生涯学習計画の在り方について」を諮問した。翌94年(平成6)8月には公民館運営審議会から「公民館における生涯学習の在り方について」の答申を得た。

1994年(平成6)8月に出された「公民館における生涯学習の在り方」、1995年(平成7)8月に出された福生市生涯学習審議会答申「豊かな魅力ある『ひとつづくり』・『まちづくり』をめざす生涯学習」は共に、戦後社会教育の歴史や地域の社会教育の歴史を踏まえて、さらに、1985年、国際成人教育会議に於ける「学習権」宣言を踏まえて戦後の憲法、教育基本法体制の発展の方向で福生の「生涯学習体制」の在り方を答申した。とりわけ、生涯学習における学習と教育との関係を「『学習』とは、学習する本人の自由な意志に基づいて自主的に行われるものです。一方『教育』とは学習を援助する営みです。教育は学習者に働きかけて学習を促し、学習を手助けしますが、学習を強制すべきものではありません。したがって、公費で教育活動を行う場合には、それを教育機関に委ねるなど、一定の工夫が必要です。」(福生市生涯学習審議会答申 9頁)と教育機関における役割を明確にしていた。福生市公民館運営審議会答申は福生市における公民館の現状と到達点を整理しながら今後の公民館のとりくむべき課題を明確に提案した。

ノーマライゼーションの視点から障害者に関わる問題や社会の課題、高齢化、情報化、国際化、環境問題などの取り組みを具体的にあげていた。

これらの答申はいずれも、その後の公民館における実践の方向を示す羅針盤となった。

##### (2) 職員体制の整備—分館職員の3人体制—

1993年(平成5)主査東 芳行氏の異動にともなって主査として千羽和男氏が着任する。福生市公民館運営審議会答申「公民館における生涯学習の在り」の「5・市民の学習を支える公民館職員体制」の中で(1)公民館職員の専門性の必要性 (2)職員の間人性 (3)職員配置の問題(職員の増員について)「現状では職員の増員が必須条件であり、本館、分館とも増員が必要であります。(具体的に本館2名、分館1名)この場合、各館とも女性職員が一名含まれることが特に望まれます。」と書かれていた。そして翌年10月に薄田公子さんが初めての女性職員として着任する。

分館職員配置が3名となった。分館の3名体制は10年にもおよぶ職場集団の要求の成果であると共に、女性職員の配置については、福生市女性問題連絡会が「各公民館に女性問題担当の女性職員の配置を」要求し、公民館館長、教育長、あてに要望書を出しての取り組みがあった。それらの要求に加えて、公民館運営審議会の答申が大きな役割を果たした。

女性職員が増えたことで、女性問題に関わっての学習はこれまで以上に、内容を充実させていった。夜間に行われていた「主婦再就職講座一簿記講座」は終了し、夜間の女性問題講座は、「男女共同参画社会をめざして一女性講座」が開かれるようになった。この時期、薄田公子さんは松林分館だけではなく、公民館における女性問題学習の総括的な役割をも担っていった。

この時期、こどもの事業は「こども教室」「劇団 ファンタスティック」の2コース、それぞれの活動を担うリーダーたちが育っていた時期である。子育て期の母親を対象にした家庭教育学級が「手作り絵本一講師木住野利明氏(絵本作家)」「乳幼児の成長発達を考える一講師、園田トキ氏(保育問題研究所理事)、成人教育では、PTA講座、教育講座市民大学歴史講座「日本の近代とアジア」が引き続き行なわれ、高齢化社会をテーマにしていた福祉講座は、地域福祉講座として、地域福祉計画を中心にした学習が展開されていた。

公民館運営審議会委員として松林分館代表 溝淵幸太郎氏(福生親と子の良い映画を見る会代表)が利用者交流会から推薦され、1996年(平成8)5月に「これからの公民館事業の在り方について一公民館事業内容に関する体系及び編成の指針について」の館長諮問に対する答申作成に尽力された。

### (3) 国際化の広がり一増える外国人人口一

この時期は外国人人口が急速に増えていく。福生における外国人は1990年(平成2)には25か国、1081人に増えてきた。国際化の波は福生にも激しく覆ってきた。そして、外国人の識字学級への参加がふえ、識字の中でも母国語の違いが大きな課題となった。識字学級の参加者も、韓国・朝鮮・中国・ブラジル・ペルー・タイ等東南アジアや中南米からの移民2・3世の人々が増えてきた。とりわけ、中南米の人々の中には、来日1週間で、識字学級ことばの会へ参加してくる人々も少なくなかった。しかも、幼児を伴っての参加が多く、その参加も非常に流動的なものであったので、教室の運営はかなりむずかしいものとなった。この傾向はやがて2年くらいで落ち着きを取り戻した。

#### (4) 松林分館施設の整備と武蔵野台地区の公的施設の整備

松林分館に庭の一隅に松林陶芸小屋と共に、陶芸窯が設置された。1994年から、新しい窯での活動が始まった

1993年に開催された、さつきひろば（高齢者学級）は陶芸がテーマであった。松林分館は陶芸窯を持っていないため、数キロ離れた、白梅分館の窯を使わざるを得なかった。それは非常に不便であった。さつきひろばの参加者から、松林分館に窯を作りたいという要望が出され、さまざまな人々がその要望の実現の為に働いてくれた。建設に当たっては設計の段階から、利用者の声を積極的に反映させるために、数回にわたって建設担当職員と設計業者とさつきひろばの代表を含めて会議が設定され、利用者の声が直接的に反映された施設づくりとなった。1994年（平成6）バリアフリーの立場から、トイレの改修が行われた。とりわけ、障害者用のトイレの改修は、利用者にも良い評判を得ている。

1995年（平成7）1月から3月にかけて、かなり老朽化した冷暖房設備の改修工事が行われ、この間は松林分館は閉館せざるを得なかった。各サークルはそれぞれの地域会館を借りたり、一時活動を中止するサークルなども出たが、翌年の4月にはそれぞれのサークルは松林分館に戻って通常の活動が再開され、松林分館利用者交流会も一段と大きくなった。

武蔵野台は松林分館・会館が1979年に建った以外は、なにも公的な施設が無かった地域であった。松林分館を除いて、どの社会教育施設からも遠く、図書館の利用者のマップ調査でも、図書館の登録率は一番低い地域の一つであった。そのために、松林分館は1980年から地域の若いお母さん達と共同で松林文庫を開いて、10年間、文庫活動を担ってきた。又体育館からも、プールからも遠く、文化的施設が一番未整備な地域であったが、1995年（平成7）7月に武蔵野台に福生地域体育館が開館し、1996年（平成8）8月に武蔵野台児童館が作られ、10月に武蔵野台図書館が開かれ（児童館との併設施設）、1998年に母子保健事業の市への移管に伴って、東京都立福生保健所は福生市保健センターとして移管され、都立福生保健所は、多摩川保健所として、青梅市に移った。

加えて民間大手スーパーの進出などここ数年で武蔵野台地区は地域の教育・福祉の一大文化ゾーンを形成したことになる。その中心的な役割をどう公民館が担って行くのかが課題となっていった。

#### (5) 地域と結ぶ教育実践

1995年（平成7）は戦後50年という節目であった。

松林分館の事業方針は「・・・松林分館の初期の利用者は、子育て期の若い母親がその活動の中心であった。しかし、ここ数年、高齢者の利用がウエイトを占めはじめている。こうした事実を踏まえながら、未来の主権者である、乳幼児をもふくめた子ども達の教育課題や環境をめぐる課題、生命を育む大人（親）の課題、障害者や高齢者の課題を含めた地域福祉の課題、国際化時代の中で、人々の人権保障の課題、歴史認識や平和に関わる課題、地球規模での環境破壊に関わる問題、戦後50年と言う年に改めて、日本国憲法をめぐる戦後の歩みや、アジアに対する歴史認識の課題等を福生という地域を通して、市民と共同しながら課題の整理にあたっていく」こととしている。

そして、具体的に成人教育について「①国際成人教育会議での学習権宣言に見られる学習権を全ての成人に保障していく努力をしていく。特に社会的弱者に対する教育保障を基本的人権獲得の視点から重視していく。②成人のもつさまざまな教育要求に応える努力をすると共に、憲法・教育基本法を基に今日的な課題と地域課題を統一に捉え、自治能力を豊かに発展させていく。③国際化と言われるなかで、アジアに対する歴史認識、或いは、基本的人権保障の課題を意図的に追求していく。④憲法、教育基本法施行50年の節目である。戦後の歴史的発展を、憲法・教育基本法体制の視点から考える機会とする。⑤急速に進展する高齢化社会・高齢社会に向けての課題を整理しながら、地域福祉の主体形成に向けて努力していく。⑥成人が公民館にかかわれる事業を積極的に開拓していく。⑦成人の持つ趣味や余暇の課題を文化の問題として改めて重視していこう。」、加えて「文化活動のなかで、『シネ・フェスティバル FOR-PEACE』を充実し、平和と戦争に関わっての優れた映像文化を市民に提供し、戦争と平和の課題追求をしていきたい。」と  
なっていた。

この年、市民大学歴史講座のテーマは「日本の戦後の50年のあゆみ」であった。福生市立第2中学校の歴史部が、福生における戦争体験の聞き書き調査を実施していた。その調査報告を松林分館を会場としてやることになった。第2中学校の歴史クラブの「50年前にタイムスリッパー中学生が見て聞いて歩いて知った戦時中の福生」の展示発表を8月1日から15日までの連続15日間にわたって松林分館で行なった。そして、歴史講座の1コマを、報告会にあてるという形で、調査結果を報告してもらった。中学生の歴史クラブと公民館の歴史講座とのジョイントの試みは、多くの人の関心を呼んだ。とりわけ、いま、中学校の文化系サークルが地域となかなか結ぶことは困難な状況に置かれている中で、改めて、この取り組みは学社提携の場をつくり出したことで大きな意味をもった実践であった。

平和のための映画祭が一段と充実し、参加者は少ないが、「平和や戦争」を考える場として定着をし、高齢者学級「さつきひろば」の参加者は様々な努力をして松林分館に陶芸小屋をつくり出した。女性職員薄田公子さんを迎えたことによって、夜間の女性問題講座が再開していく。女性問題学習は、男女共同参画型社会の形成に向けて一段と広がり深まりをみせてきた。

## 5. 地域にある公民館から地域へ根ざす公民館へ

### (1) 広がる公民館

松林分館は地域会館としての役割をもつ複合施設であるが、ここ近年、地域福祉と関わって、配食サービスの拠点としても大事な役割を持ち始めている。また、老人会の拠点として、あるいは町会や子供会等の活動拠点として、高齢化社会を反映してか60歳以後の高齢者学級「さつきひろば」への応募は70人から80人と広がりを見せてきた。そして、自主サークル「さつきひろば」は80人近い会員を迎えて、生き生きした老後の活動の場を作り上げてきている。そして、このところ、男の高齢者も目立ち始めている。また夜間の水墨画教室や水彩画教室など、比較的高齢者が多くなっている。1997年以後、

地域の老人会のサークル活動が囲碁、将棋、カラオケ、書道クラブなどと盛んになっている。老人会のカラオケサークルにくる体の不自由なご老人は、「月2回のこの会がとても楽しくて、おかげで、このところ体の調子がいいのです。」という。松林分館が老人会のクラブ活動の拠点となり、また地域の配食ボランティアの拠点ともなっている。

昨年から「だれでもなんでも展」実行委員会に参加した食を考えるサークル栄友会は、福生保健所を拠点として活動していたサークルであった。福生保健所が多摩川保健所へ統合されたので、松林分館を活動の一つの場に行っている。サークル紹介をしたあとで、「配食サービス」のボランティアの募集を呼びかけた。夜間活動している囲碁愛好会の70代始めの男性が、呼びかけに応じて、配食ボランティアの活動を始めている。松林分館利用者交流会が地域の諸活動の交流の場であったり、出会いの場となっている。こうした一面、サークル活動を続けている人々もいつの間にか、介護や看取りに時間をさかざるを得なくなっている。開館当初から松林分館に関わってきた女性の一人は、夜間の活動をしばらくお休みにするという。夫の介護で出られなくなったと話す。コーラスのグループの一つは、「この頃、介護や看取りが多くなって会員も休会者が多くなった。でも、時間を見つけて、歌いに来なさいよ。体も心もリフレッシュが大事だから」と話しているのだとグループの代表者は話をしてきた。地域にある公民館から地域に根ざす公民館へとその根をはりはじめたこの頃である。

## (2) 議論のできる利用者交流会

松林分館利用者交流会は19年目を歴史に刻みこんできた。若い子育て期の母親から高齢期を生き生きと地域で過ごす90代の人まで、松林で活動しているさまざまなサークルが交流し、課題を論議しあえる場としての役割が年々深まってきている。例えば、ここ数年前から「福生市公民館のつどい」の分科会で各館ごとに、一つの分科会を担うということになった。「だれでもなんでも展」の実行委員会、或いは分野ごとの利用者交流会（保育室利用者交流会・陶芸サークル交流会等）など、なにかと集まることの多い中で、「公民館のつどい」の「分科会テーマ」を決めるために、利用者交流会がたびたび開かれ、その中で、テーマの大枠を論議し、小委員会を設けて、具体的に課題を煮詰めて当日を迎えるなど、自治的な運営が確実に育ってきている。それは自治体を支える主権者として、高齢社会、少子化、国際化 情報化などのいろいろな地域課題を抱えて迎える21世紀に、その課題の解決に向けて知恵を出し合い、解決の糸口を見つけ出す自治体における主権者としての役割を果たしていく可能性を確かな一歩として踏み出す場所になっていくだろう。





V.

# 松林分館の実践

1990年～1999年

1. 松林分館の運営の基本
2. 松林分館のこどもの事業 1990年～1999年
3. 松林分館の女性問題学習 1990年～1999年
4. 松林分館の成人の事業 1990年～1999年
5. 松林分館の文化事業 1990年～1999年



1995年市民大学歴史講座 での川村善二郎先生

## 1. 松林分館の主催事業の方針

### (1)

公民館の中身を決定するのは、そこで行われているさまざまな学習活動であろう。その意味では、公民館の主催事業はその要であろう。松林分館は開館以来、事業の基本的な視点をおさえながら学級・講座を実施してきた。初期利用者は、子育て期の若い母親がその活動の中心であった。しかし、ここ1990年代中頃から、急速に高齢者の参加がウエイトを占めてきた。こうした現実を踏まえながらも、未来の主権者である子ども達の教育の課題、環境をめぐる問題、生命を育む大人の課題、高齢社会にむけて、地域福祉を含めて地域のノーマライゼーションの実現に向けての課題、国際化と言われる中での人権保障の課題や、アジアに対する歴史認識の課題、平和に関する課題、あるいは戦後50数年を支えてきた憲法をめぐる問題等を福生市という地域を通して、市民と共同しながら、課題の整理に努力してきた。そして、その基本は何時も日本国憲法と教育基本法であった。1985年のユネスコの成人教育会議で採択された「学習権宣言」の精神を具体的に保障していく努力をしてきた。そして、学ぶ自由と学ぶべき課題の統一を図ってきた。とりわけ1990年代に入って、規制緩和・地方分権・行政改革が具体的な政策課題となっている。地方分権と地方自治は概念上は区別されて考えられている。分権概念は権限の集中に対比された分権を主にさし示すのに対して、自治は主権や統治の在り方を示す概念であるとされている。憲法第8章92条は「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める」と規定されている。地方自治の本旨の内容は①住民の権利の拡充 ②地方公共団体の自主性・自律性の強化、③地方公共団体の行政の公平性の確保の3原則をさすと言われている。そして、地方自治体は、住民自治と団体自治の二面の統一によって構成されると言われている。その存在理由は基本的人権の保障に求めている。そうした意味で、住民の自治能力は極めて重要な鍵になっていく。日本国憲法前文で、「主権が国民に存することを宣言し、ここに憲法を確定する」と宣言したように、住民が地方自治体の主人公として力を持っている。住民がそうした力を確実にわがものにしていくことは、今、とても重要な課題となっている。そうした場の一つとして公民館での学習は確かな意味を持っている。

そのために、「新しい公民館像をめざして」（通称三多摩テーゼと呼ばれている）は公民館の役割の一つに「住民にとっての私の大学です。」と言い、「現代のような激動の時代にあっては、困難な状況を自らが道をきりひらいていくことのできる主体的な判断力や認識力を我がものとしていくことがだれにとっても必要とされています。そのためには、どうしても、人間や社会についての継続的な学習が必要不可欠です。現在は、いわば地域の小さな問題の中に全世界の動向が反映しているような状況ですから、その学習も日常生活や身近な問題を内容とするだけでなく、人間存在の根本問題や、全世界的視野での

学習内容としてもつ事が必要となっています。つまり、身近な問題をふまえながらも、さらにつきつめた根源的な問題を学習していくことが、いま、国民ひとりひとりにとって重要な学習課題であるのですが、公民館がそのための十分な役割を果たす存在でなければならぬのです。」と公民館における学習の重要性を指摘している。今日、カルチャーセンターや、大学開放が広がってきた今日でも、「地域」と言う視点で課題を整理していく場はおそらく公民館の学習が最も大事なものになるろう。そうした視点で、松林分館は事業の方針を創ってきた。

## 2. 松林分館の事業の方針 松林分館の学級・講座の基本方針

### (1) 準備会の充実

市民と公民館職員が共に学習内容をつくりながら実施する「講座・学級の準備会」を一層充実させていく。

### (2) 共同企画への努力

公民館利用者の要求に基づいて共同企画の可能性を追求していくと共に、共同目標を設定していく。

### (3) 系統的な学習の充実

一つの課題を明確にしていくために系統的な学習を大切にしていく。

### (4) 学習内容編成にむけて

### (5) 主催事業について学習内容編成にあたっては次の事を大事にしていきたい。

#### 1) 子ども事業について

- ① 地域に異年齢の子ども集団の形成をめざす。
- ② 子どものなかに民主主義を回復していこう。
- ③ 子どもの手や体のしなやかさを回復しよう。
- ④ 仲間に働きかけ、一つのことを一緒にやりとげる力を育てよう。(子どもの民主的な組織能力やその実務能力を育て、子どもの主体性を育てよう。)
- ⑤ 子どもの活動を支える地域の青年や大人を組織的につなげる努力をしていこう。
- ⑥ 子どもが地域を科学的にみる力を育てよう。

#### 2) 女性の事業について

- ① 子育て期の母親の問題を女性問題の視点から捉えなおしていく。「女性に対するあらゆる差別撤廃に関する条約」で明らかにされた、性別役割分業意識の転換を積極的に培っていく。
- ② ライフサイクルの大きな変化の中で、子育て以後から高齢期にかけての課題を女性問題の視点から捉えなおし、主体的に生きる力を大事にしていく。
- ③ 自分の置かれている状況を客観的に判断できるような、系統的な学習を深めると共に女性問題の解決に向けての学習課題を積極的に進めていく。
- ④ 働く女性が、専業主婦の数よりはるかに多くなってきた現実の中で、働く女性の

学びの場所を積極的に保障していく。

- ⑤ 生活記録の優れた経験に学びながら、書くこと、話すことを大事にしていく。
- ⑥ 働く女性と家庭の主婦が共有できる学習の場を積極的に作っていかう。
- ⑦ 地域の女性のネット化につとめる。

### 3) 成人の事業について

- ① ユネスコの「学習権宣言」に見られる学習権をすべての成人に保障して努力をしていく。特に、社会的な弱者に対する教育保障を基本的人権の獲得の視点から重視していく。
- ② 成人の持つさまざまな学習要求に応じていく努力をすると共に、憲法・教育基本法を基に今日的な課題と地域課題を統一的に捉え、自治能力を豊かに発展させていく。
- ③ 国際化と言われる中で、アジアに関する歴史認識、或いは、基本的人権保障の課題を意図的に追求していく。
- ④ 戦後の民主主義を支えてきた憲法・教育基本法体制を発展させる方向で、改めて憲法、基本的人権学習を重視し、歴史認識を大事にしていく。
- ⑤ 急速に進んでいく、高齢化社会に向けての課題を整理しながら、地域福祉の主体形成に向けて努力をしていく。
- ⑥ 成人が公民館にかかわる事業を積極的に開拓していかう。その為に、多面的な活動を豊かにしていかう。
- ⑦ 成人の趣味の課題を文化の問題として改めて重視していかう。

### 4) 文化活動

- ① 一緒に活動しながら、市民同士が楽しく出会える場を豊かにしていかう。そのために文化事業を大事にしていかう。
- ② 市民の持っている技術を交換しあえる場所を作っていかう。そのための情報をできるだけ、市民に伝える努力をしていかう。
- ③ 市民の自主的な文化活動を積極的に援助しながら、その活動が共有できる場をできるだけ積極的につくっていかう。
- ④ だれでもなんでも展の充実  
松林分館利用者が分館を拠点にしながら、ア) 地域でコツコツと行われている文化活動を掘り起こし、つなげていく。イ) その役割を分館の利用者が担っていく、ウ) サークルや分館の活動を地域にひろげていかう。という3つの目標で出発した「だれでもなんでも展」を充実させていく。
- ⑤ 子どもが豊かな文化に接する機会を作っていかう。そのため、ホーム・シアターを充実させていかう。単に、映画だけではなく、地域の優れた文化活動を子どもと共有する場にしていきたい。
- ⑥ 平和のための映画祭の充実、戦争と平和の課題を追求した優れた映像文化を提供

していく。戦後50余年の今日、一向に戦争がなくなる。その多くの犠牲者は女や子ども達である。反戦・平和を目的とした映画を上映し平和教育の一つとして取り組んでいく。

#### 5) 利用者交流会の充実

市民の自主的な教育・文化活動を豊かにしていくには、公民館の職員の努力と共に利用者の活動が柱になっていく。そのためサークル間の交流活動を豊かにしていく場として利用者交流会や、保育室利用者交流会の充実を図っていく。その定期的開催に努力をしていく。

#### 6) グループ、サークル活動への積極的な援助体制を確立していく。

① 求めに応じて、サークル、グループを積極的に援助していく。

② 相談事業の充実、教育に関わる個人的な相談や、サークル・グループ等の運営上の相談等も含めて学習活動にかかわる個別的な要求にも、出来るだけ応える努力をしていく。そうした意味では、図書館におけるレファレンス活動と同様に公民館における相談活動を大事にしていく。

この基本方針が1980年(昭和55)に作られ、その後、時代状況に応じて手直しをしているが、1990年代における松林分館の講座・学級における実践上の基本的視点である。こうした視点に立って以下の事業を実践してきた。



松林分館南側

松林分館の子どもの事業  
1990年～1999年



子ども教室多摩川の土手で



子ども教室



夏の子ども教室の練習キャンプ



2年生・3年生朗読練習



子ども創作教室



夏休みおもしろ科学クラブ

## (1) 松林分館の子どもの事業

1990年(平成2)～1999年(平成11)

### 1) 1990年代の子どもをめぐる環境

1990年代に入って、いじめ、自殺、殺人、非行、家庭内暴力、学校での教師に対する暴力行為、性的非行の問題、学級崩壊まで含めて、今日、子ども社会の発達の歪みは教育問題というよりは、むしろ社会問題として取り上げられるようになった。いじめ問題は何人もの犠牲者を生み、文部大臣が異例の通達を出したほどである。

1970年代以後、子どもたちの生活が、殆ど学校中心になり、地域での子どもの生活文化活動(あそび)が急速に喪失していった。この30年余の中で、子ども社会から、時間、空間、仲間、の3間が急速に減少し、夢や希望が語られなくなり、地域の異年齢集団がなくなっていった。1990年代後半から、福生では3歳児の保育園、幼稚園入園率は当該人口の6割にもおよんでいる。そして、この間に、子ども達の生活は学校中心になるだけではなく、生活そのものが学校化していった。一方、子ども達が、同じ立場で共有できた生活体験や生活空間、あるいは、子どもの文化としての遊びも体験できなくなってきた。いってみれば多様な経験を保障してきた「地域と自然と仲間」がなくなったばかりか、子どもが子どもの時代を共有できない事態が生じてきた。かつて、子ども集団は地域で学校と違った価値観をもっていた。それは技術やそれに必要な知恵と、仲間関係のなかで育った集団の規律や仲間意識の獲得、そして、通常、それは子供たちの正義感と結びついていたものである。ところが、今日、子ども達の価値基準は、学校の成績が良いか悪いか、何番目か、そうした序列が問題となった。子ども達が時代を共有できたのは、そこに、基本的には経済力の差があまり持ち込まれてなかったからである。しかし、現在、基本的には、親の収入が子どもの文化的な体験の幅を決めている。こうした中で、生活体験が経済力で支配されるようになってきた。一方は塾やお稽古事へ、一方ではスポーツ信仰へ親をかりたてている。その世界はまた厳しい競争社会であって、勝つことが目標に転化していく。そうした構造の中で、子どもたちは大人の管理下におかれていく。子ども達の社会から自治が失われていくばかりではなく、子どもの文化そのものが失われてきた時代である。そうした中で、子ども達は激しい競争社会に取り込まれ、そのストレスの中で、自己防衛を図らざるを得なくなった。そこに、今日の子どもの発達の危機がある。

20世紀末、21世紀に向けて、本来豊かな世界が保障されているはずの子どもたち、エレン・ケーは20世紀を「児童の世紀」と呼んで、その未来へ明るさを託した。しかし残念なことに、地球規模での環境破壊や、南北問題に示された、北の子どもは豊かな経済成長の中で、子どもたちの発達の危機が語られ、一方南の子どもたちは、1990年の国連児童白書の報告に書かれているように、「自分の健康を犠牲にして債務を支払った。自分の教育を犠牲にして債務を支払った。自分の未来を犠牲にして債務を支払った」と指摘される困難な状況に子ども達は置かれていた。その子ども達の存在と比較したとき、資本主義国の中でも最も豊かな部類に入る、日本の子ども達の抱える発達の危機は極めて注目

せざるを得ない。

## 2) 福生市の子ども達の状況の変化

高齢化が地域で急速に進んでいる中で、一方では、少子化の進行も早い。厚生省が、日本の合計特殊出生率、1.54と発表し、大きな反響を呼んだのは、ほんの数年前であった。1999年(平成11)の東京都多摩川保健所の「事業概要」によれば、東京都1.06、あきる野市を除いた、西多摩地区、1.44、福生市は1.44となっている。核家族の世帯構成人員がすでに、3人を切る現実であるから、1.44という数字はもっと低下していくだろう。1998年1月の「福生市公民館のつどい」で松林分館は「子育て」の分科会をもった。その準備会の中で、「地域に本当に子どもが少なくて、朝10時に公園に出掛けても友達が見当たらない。そこで、いま午後2時頃、公園に行くんだ」と話した若い母親の声に、10数年前に子育て期を迎えていた母親たちはびっくりとしていた。家庭教育学級の中で「3歳までは自然に育つものだと思った」という若い母親は、やはり「公園にいってもなかなか乳幼児に出会わなくなった。友達をさがすのが大変だ」と語っている。生活習慣の基礎は殆ど家庭教育であった筈であるが、いま、乳幼児の生活リズムが非常に夜型になってきた。松林分館で言えば、乳幼児の就眠時間は夜10時代が過半数を越えていた。幼児期になると、1995年以後、3歳児から幼稚園や保育園に通う幼児は60%を越えている。加えて、スイミングや何らかの幼児教育産業のドリルやテキスト学習をさせられている子もまた増えているのが現状だ。

学齢期の子ども達、義務教育期間の6歳から14歳、児童・生徒数もここ10年減り続けてきた。1990年で6361人で、1999年、5465人で、この10年間に約1000人の児童生徒が減少している。小学校で言えば、既に40人学級から30人学級に近い福生ではあるが、子供たちの発達のもつれは、さまざまな問題を引き起こしている。非行、登校拒否、不登校、学校内暴力、暴走をも含めて、児童生徒の発達のもつれは、ますます大きな社会問題となってきている。学校へ躰けを期待し、勉強は塾へという、言ってみれば、学習内容に関わる部分は、塾という私企業へ委託し、二重の教育の場を持たざるを得なくなった子ども達である。福生市立第7小学校PTAがこどもの習い事の調査を1997年(平成9)に行っている。それによると1年生70名中58名がなんらかの習い事や塾に通い、5年生86人中なにもしていない子が20名いた。全学年では非常に珍しいケースであった。6年生は全員なんらかの塾や御稽古ごとに通っていると言う調査結果であった。(福生市立第7小学校PTA会報 1998)

1998年(平成10)、松林分館の教育講座に参加した18歳と20歳の女子学生は「学校で一番嫌な時期はいつでしたか」と言う質問に対して、二人とも「中学校だ」と答え、同時に「一番印象に残っているのは」の質問に対して両方共「やっぱり中学校だ」と応えている。その理由は合唱祭やクラブ活動で「クラスの一体感を感じたから」と応えている。嫌なことは「校則・強制的な先輩・後輩の関係」だったと言う。

改めて、人と人の関係を豊かに結び直していくことが非常に重要な取り組みになっていくだろう。「きれいな」子ども達の中でどう民主主義を担う力をつけていくのか、なにより

も、子ども達の「自治能力」を豊かに培っていく場がいま必要とされているのだ。  
それは、子ども達が地域の生活を取り戻していくということであろう。

## (2) 松林分館の子どもの事業

いま、地域の子どもの生活を取り戻すのに、必要な課題は1. 遊びを通して、異年齢集団を形成し、多様な人間関係と多様な経験の幅を広げること、2. 子どもたちが集団として持っていた、かつての規律や民主性を回復（オミソの世界の回復）3. こども達が文化としてもっていた、手労働の回復（手労働を通して手の巧みさを回復していくこと）、4. 子どもがもう一度、体で自然を体験し、自然の中で人間の感性を取り戻していくことである。自然の変化、風や水の冷たさ、暖かさ、真夏の太陽の厳しさ、風の優しさ、緑の美しさ、夕日の美しさ等さまざまに変化に富んだ自然の中へかえすことで、自然を体感し、自然の大事さを体でつかんでいくこと。そして、地域を科学的に見つめる事が出来る力を培っていく。5. 子ども達が、仲間にかかわりながら、何かを一緒にやり遂げる力を育て、子どもの自治能力を豊かに育てていく。6. 子どもの文化や生活に関心を持つ、青年や大人とつなげていく。こうした6つが非常に大事な今日的課題となっている。

こうした視点で、90年以後、こどもの事業が続けられている。

1990年（平成2）、こども教室、サバイバル教室（この年で終了）、夏休み将棋教室、（1991年で終了）パッチワーク（この年で終了）、劇団ファンタスティックの6コースが開催されている。1992年、冬の子ども教室 劇団ファンタスティック、とりっくおもちゃづくり等が開かれていた。1993年以後、松林分館の子ども教室は、長期的な取り組みとして、子ども教室や子ども劇団ファンタスティック、夏休み中の短期間での夏休み創作教室、夏休み科学クラブが行われている。夏休みおもしろ科学クラブは1980年代、中学校科学クラブのこども達が参加者の中心であった、夏休みおもしろ科学クラブが1990年代後半にまた復活している。

### 1) 子ども教室

- ① 地域に異年齢の子ども集団の形成をめざす。
- ② 子どもの中に民主主義を回復していこう。
- ③ 子どもの手や体のしなやかさを回復しよう。
- ④ 仲間に働きかけ、一つのことを一緒にやりとげる力を育てよう。（子どもの民主的な組織能力やその実務能力を育て、子どもの主体性を育てよう。）
- ⑤ 子ども活動を支える地域の青年や大人を組織的につなげる努力をしていこう。
- ⑥ 子どもが地域を科学的にみる力を育てよう。

という6つの視点を通して、毎年行われている。

この教室は松林分館における子どもの事業の柱になっている。毎年5月末から始まる。募集は小学校1年生以上で、例年30人近い子ども達が参加してくる。ここでの特徴はこの教室で育った子ども達で中学生や高校生が必ず参加していること。長い子は9年から

10数年間、この教室に関わっている。それも兄弟、姉妹関係の参加が多いことも一つの特徴である。夏のキャンプの時は、社会人になった子ども教室のOBやOG達が必ず参加していることも特徴の一つある。この教室の活動は大きく分けて、仲間づくりのエポック、野外活動のエポック、創作のエポックの3つのエポックから活動が成り立っている。なかま作りのエポックは「友達づくりのエポック」とも言う。初めて出合った子ども達が人間関係をつくりながら、まとまりをつくっていく時期である。第2期は第1期で作った人間関係を土台にして野外活動に入っていく。野外活動は多摩川や川原、草花丘陵（あきる野市）羽村市郷土資料館などを含めてかなり広い地域の活動範囲で行なわれ、この時期は出来るだけ全身を使い、自然に親しみ、自然の中で、生活体験を豊かにしていく。8月に松林分館での1泊2日の、予備キャンプ、そして、五日市青少年キャンプ村での本キャンプが野外活動の仕上げで2泊3日のキャンプ実習が行われた。十分に育ってきた仲間関係を土台としながら、9月から全員で一つのものをつくる「創作のエポック」に入る。十分に手も頭も使いながら、道具の使い方を身につけて、一つの作品をみんなで創っていく期間である。10年間の創作エポックでの取り組みは下表である。

創作エポックで作られたもの

1990年	1992	1993年	1994	1995	1996	1997	1998	1999
乗れる自転車を作る	乗れる自転車を作る	ペーパークラフト	粘土創作	ペーパークラフト	ペーパークラフト	覆り子で	キャンプの	タンボール
				クラフト	で動物園	バンバン虫	双六作り	で大きな家

(2) リーダー会の成立—すんばらしいリーダー会の活動

子ども教室のリーダー達と劇団ファンタスティックの女子リーダーが合同して、1996年3月10日に、子ども教室リーダー会「すんばらしいリーダー会」が組織された。劇団ファンタスティックは1987年10月に、子ども教室の中から、演劇をやりたい子供たちが始めた活動で、リーダー同士は相互に活動を支えあってきた。

設立の動機は、子ども教室のキャンプ実習の運営をスムーズに運営するために、リーダーとして研修をするために、中学・高校生のリーダーが集まってリーダー会を結成した。「すんばらしいリーダー会」は子ども教室の運営の中核になり、指導を全面的に担っている。結成時は8名で、1999年現在で18名のリーダー達で、その構成は中学1年生から社会人までである。

リーダー会は担当職員と相談しながら、年間計画や、それぞれのエポックでの内容編成・検討・プログラムの作成、実施、父母会での説明（教室の内容、個々の子どもの変化、キャンプの取り組み、父母への説明）など活動は多彩である。さらに、リーダー会部内報「すんばらしいリーダー会通信」の発行などさまざまな仕事をこなしている。そして、年間活動の総括を兼ねながら、子ども教室の活動記録集を作成している。

現在中心的に担っているのが 漆山和美（中2）、五十嵐友梨子（中2）、清水英臣（中3）、五十嵐千絵子（高1）、福永利美（高1）、村田誉彦（高1）、清水秀樹（大学高崎宏一（大学）、小泉元香（大学）、平野陽子（大学）、名々井美帆（社会人）の人々である

このリーダーの活動は年間90日を越えている。しかも、日曜日は朝9時に集合してその日子ども教室の内容の検討・打ち合わせ、午後1時30分から4時30分まで、子ども教室の活動、午後5時からの総括会議と次回の打ち合わせ、これが終わるともう8時過ぎ。と活動の中身がびっちり決まっている。

この青年リーダー達の力で、毎年活動記録集（150～200頁）が発行された。1999年度（平成11）で4冊目の活動記録が出されている。すばらしいリーダー会の新聞「ちいどれんすくーるたいむS」は現在80号を迎えている。

リーダー年	男	女
中1年	2	2
2年	0	2
3年	1	0
高1年	1	3
2年	0	0
3年	0	0
大学生以上	3	6

### 3) 夏休みおもしろ科学クラブ

子ども達にどの様に科学認識を豊かに育てていくか、子どもの発達にとっても大事な課題である。1990年代に入って、理科嫌いの子が増えてきている。又、子ども達の生活体験が非常にせまくなってきたこともあって、身の回りの自然の中で起きているさまざまな出来事を体で体験出来るという機会も少なくなった。



そして、多くの場合、科学認識が、ある事柄の事象を覚えるということに流れがちになってきている。とりわけ、近年直接的な体験をなしに、ビデオソフト等を通して、疑似体験

で物知りになる子ども達も増えてきている。そして、理科をふくめて、科学認識が筋道をたてて科学事象を認識していくことの力が弱く、多くの場合、事柄を覚えるということに流れがちになってきている。こうした中で、改めて、仮説実験や科学を遊びを通して、科学の面白さ、筋道をたてた科学認識力の獲得を目指して、日常体験の出来ない事を改めて体験する機会とした。1991年（平成3）「テーマ・気体の重さを計る・電気の性質・静電気」などを中学教諭の田代正夫氏が担い、子ども教室のリーダーや、子どもフェスティバルのリーダーであった斉藤明朗氏（現埼玉県養護学校教諭）子どもフェスティバルの高校生指導員であった中川美奈子氏（元私立敬明学園高等部教諭・彫刻家）を迎えて行われていた1998年の、夏休みおもしろ科学クラブは光をテーマに行なわれた。「人の目の構造」は哺乳類である牛の目を解剖して、人間の目の構造を把握するものであった。この実験は非常に子ども達には衝撃的なものであった。1999年は電気をテーマに行われた。子ども教室や子どもフェスティバルを担った子どもたちが、成人して、また同じ公民館で、今度は講師として、子ども達の前に立つ。公民館の事業に自身が参加した経験を含めて、次世代へつなぐ事業は公民館という地域に根ざした教育施設であるから可能なのだ。

#### 4) 子ども夏休み創作教室

「子どもの手が不器用になっている」と言われたのが1970年代である。それ以後、その傾向はますますひろがってきている。今日、手の不器用ということに止まらず、手労働そのものが衰退をしてきているばかりか、道具の名前や使い方も知らない子ども達が増えているのも事実である。かつて子どもたちは 日常の生活の中で刃物を使い、道具を工夫して使いやすく改良する技を身につけていた。しかし、子どもが消費者となっていく過程で、ますます手労働にかかわる手のしなやかさや道具を巧みに操る技をなくしていった。「手の労働は、直接、具体的な内容としては、機械労働が現れる以前の、農民や職人の労働に代表されるような手労働である。手そのもの手の延長である道具を巧みに使いこなして目的を実現させる労働である」（「手と労働の教育」須藤敏明著 青木書店）と手労働の意味を述べている。改めて、夏休み期間にそうした体験の出来る場として開催してきた。1992年（平成4）、トリック玩具づくり・1994年 紙粘土教室（人形を作ろう）を滝沢昭子氏が、1997年（平成9）夏休み創作教室 以後毎年、木住野利明氏（造形作家・絵本作家）を講師に、木の枝を使った、大きなお面や、動物づくりをテーマに開催してきた。



お面作り 夏休み創作教室



夏休みおもしろ科学クラブ

#### 4) 劇団ファンタスティック (Fantastic) の活動

1987年(昭和62)の子ども教室から演劇をやりたいという子ども達によって、作られた劇団である。この劇団の特徴の一つは子ども達の自治によって歴史が作られてきたことだ。

劇団の紹介を公演パンフレットの中で書いているので、その記事を載せておこう。

「劇団ファンタスティックは 子供たちだけの劇団です。練習から道具作りまで、自分達で考え行っています。1987年10月に、松林分館の子ども教室の中からおしばいをやりたい子たちが集まって発足しました。今年の10月で11年目を迎えます。現在は小学4年生二人を中心に少ない人数ながらもお互い支え合ってがんばっています。(他に裏方として、手伝っている学生たちもいます) 練習は毎週土曜日に(本番前水・日曜日)松林分館で元気に活動しています。(第21回公演 村一番のさくらの木・一つの花・朗読劇・パンフレットより、1997年8月9日)。

残念ながら1998年(平成10)7月を持って解散した。この間に発行された「劇団Fantastic」途中「ちょっぴり劇団Fantastic」と改題をしているが、1号が1987年11月に発行されてから、1998年6月の最終号273号まで発行した新聞は地域で子ども達が作り上げた一つの文化運動の確かな息吹を伝えるものである。11年間に、子どもフェスティバル1回・だれでもなんでも展で7回・単独公演5回、田園会館こどもけっさく展4回、田園児童館での単独公演1回、市民会館小ホールで、福生第2中学校とジョイント公演1回、単独公演1回、福生第1小学校PTA主催「支部合同1年生・6年生新入生・6年生歓送迎会」1回。21回におよぶ公演は劇団の豊かな歴史の成果でもある。この劇団の特徴の一つは子ども達自身による手で運営がされてきたことである。第二は公演時の衣装もすべて日常生活で使用しているものを自分達で調達してくること、第3に、公演もノーメイクであることなど、第4は台本選定は、担当職員が数冊の本を子供たちに提供し、その中から子ども達が選び取って上演していること一作品は、作品内容の多くは中学・高校生レベルの作品を設定した、と担当者は語っている。第5に、裏方をつとめる青年達は、元ファンタスティック団員で、高校・大学生や社会人になった青年たちや、こども教室リーダーが照明や音響の裏方を担っていたことである。そして劇団機関紙、「劇団Fantastic」273号の発行も含めて、松林分館における子ども達の文化活動の確かな足跡となった。

##### 公演作品一覧

1988年	5月8日	松林分館	第6回子どもフェスティバル	「おもちゃ裁判」
	10月22日	松林分館	だれでもなんでも展	朗読劇「ベロだしチョンマ半日村」
89年	3月26日	田園会館	こども傑作展	「花咲き山考」
89年	8月28日	市民会館	福生2中演劇部と合同公演	「花咲き山考」
1990年	3月10日	田園会館	こども傑作展	「おもちゃ裁判」

- 10月26日 松林分館 だれでもなんでも展 朗読劇「ベロだしチョンマ」
- 1991年3月17日 松林分館 単独公演 「こうして豆は煮えました」
- 10月19日 田園会館 単独公演 「こうして豆は煮えました」
- 1992年8月29日 松林分館 単独公演 「いじわる王女さま」
- 10月25日 松林分館 だれでもなんでも展 「いじわる王女さま」
- 1993年3月17日 福生第1小学校支部合同歓迎会 「いじわる王女さま」
- 8月31日 松林分館 単独公演 朗読劇「川とノリオ・かわいそうな象・モチモチの木」
- 10月23日 松林分館 だれでもなんでも展 「もえろ天の火・ふくろうと子ども」
- 1994年3月13日 田園会館 こども傑作展「もえろ天の火・ふくろうと子ども」
- 8月26日 市民会館 単独公演 「もえろ天の火・ふくろうと子ども」
- 10月14日 松林分館 だれでもなんでも展 「花咲き山考」
- 1995年6月5日 松林分館 「目をさませトラゴロウ」
- 10月29日 松林分館 だれでもなんでも展 「朗読劇 一つの花・川とノリオ・夜のくすの木」
- 1996年3月10日 田園会館 こども傑作展 「おもちゃ裁判」
- 10月20日 松林分館 だれでもなんでも展 「まねし小僧」
- 1997年8月9日 松林分館 シェ・フェスティバルFor-PEACE 「村一番のさくらの木・一つ花」

#### 1990年以後歴代役員

平成1年 団長	平野聖子 (中1)	平成7年団長	水村智恵	中3
団員 副団長	大久保彩 (小4)	団員 副団長	唐沢洋子	中1
12名 書記	平野陽子 (小3)	16名 書記	大竹克枝	中1
平成2年団長	平野陽子 (小5)			
団員 副団長	丹治みゆき (小5)	平成8年団長	水村智恵	中3
13名 書記	黒木摩耶 (小5)	団員 副団長	唐沢洋子	中1
平成3年 団長	黒木摩耶 (小6)	12名 書記	大竹克枝	中1
団員 副団長	小泉元香 (小6)			
11名 書記	平野陽子 (小6)	平成9年団長	青木真美	小5
平成4年 団長	平野陽子 (小6)	団員 副団長	瀬戸真帆	小3
団員 副団長	水村智恵 (小6)	5名 書記	佐藤吉美	小3
10名 書記	黒木摩耶 (小6)			
平成5 団長	平野陽子 (中1)	平成10年団長	小泉二与	小3
団員 副団長	水村智恵 (中1)	団員 副団長	高橋千尋	小3
8名 書記	里島佐知 (小6)	3名 書記	瀬戸真帆	小4

## 「劇団ファンタスティックのこと」

平野 陽子（元団長大学1年生）

「劇団ファンタスティック」“ファンタ”の愛称で昔は毎日、口にしていたこの言葉も、今はなんだか懐かしく、口にするのもくすぐったい。私がファンタを引退したのは中3の時だから。あれからもう6年も経ってしまったのだ。9年間、毎週松林会館に行ったファンタの活動は、私にとって欠かせない貴重な経験であり、現在の私につながっている。

劇団 と言ったらなんだか恰好がいいけど、本当は演劇サークル。ただお芝居が好きでやりたくて、というか、“なにかおもしろそうなことをやっているな”という好奇心からやってきた、そういう人の集まりだった。松林こども教室からの流れ



なので、集まる人は小中学生の子どもたち。劇団の命名から練習の内容まで、全て自分達で決めていた。お客さんをあつめた公演も10数回行った。指導してひっぱっていってくれる、先生のような人は誰もいない。松林会館の“かとさん”（加藤さん）がなにかあった時の責任者として見守ってくださっているだけだった。このような環境、私にとってはとても居心地のいい場所であった。自分達でなにかをしなければ始まらない。というプレッシャーの反面、やりたいことはなんでもできる、という解放感。こういう大きな気持ちの中で、私はたくさんのことを学んできたと思う。自分達の手で一から創る大変さ・そして楽しさ、やり遂げた時の充実感、私達にも出来るんだ！という自信、そして仲間の大切さ。

外から見ても、内から見ても、とてもステキな場所だったけど、常に存続の危機にも見回れていた。みんなのやる気が心臓であるこの劇団は、やる気がなくなってしまえば、活動することはもはやできない。またひとりのやる気だけでは心臓が動かない。自分達でやっていると言っても、練習ははっきりいって厳しかった。公演はしたいけど、練習はちょっと・・・毎週土曜日ファンタはあるけど、友達とも遊びたいなあ、ファンタを取るか、他をとるか、小学生の私達にとっては厳しい二者択一をしいられて、やめる子、残る子に分かれていった。演劇の出来ないような人数になった時もあるけど、「ここはあそびではない、中途半端にやってはいけない。」というファンタ独自のルールに従って常に運営されていた。だれが発案したわけでもない自然発生的なルールは、小中学生の集まりだとは思えないくらいファンタの、すごさだと主張したい。

残念ながら、ファンタはもう続いていない。私がファンタで培った多くのことを考えると寂しい限りであるが、だからと言って今の私達がやるわけにもいかないで、今度はそういう力を秘めている“やる気”の子ども達を応援する側になりたいと思う。

いまになって実感することは、あの時私はなんて恵まれた環境にいたのだろう、とただただ、なんだか楽しいから続けていたファンタだけれども、「ファンタに育てられた」といえる私は、ファンタの仲間、加藤さん、ファンタを支えてくださった多くの方々、そして「松林会館」に感謝したい。



中3組の最終公演が終わって

劇団ファンタスティック  
「はな咲き山考」市民会館  
市民会館小ホール公演



目をさませトラゴロウ

女性問題の解決にむけての事業



家庭教育学級手作り絵本



家庭教育学級「乳幼児の成長と発達」

保育室で講師の園田とき先生と

## 4・女性問題解決に向けての事業

### (1) 女性問題の解決に向けての国際的・国内の動き

1979年(昭和54)12月18日に第34回総会で採択された「女性差別撤廃条約」から20年日本でこの条約が効力を持ったのが1985年(昭和60)7月25日である。憲法14条で法のもとでの平等が謳われていても、第24条における個人の尊厳と両性の平等が規定されていても、現実には、さまざまな差別がまだ存在している。しかし、この条約に批准をした日本でも、この20年間の中で、国籍法改正など法制度上の女性差別を解消し、女性の地位の向上のための諸制度の改革に取り組んできたことも事実だ。しかし、なかなか差別がなくなることも一つの事実である。国連は1975年(昭和50)を国際婦人年と定めて「世界行動計画」を採択、そして1976年(昭和51)から向こう10年を「国連婦人の10年」と定め、「平等・発展・平和」をテーマにこのプログラムの実施を各国政府に要請した。1985年に国際婦人年の最終年にあたり、ナイロビで世界女性会議が開かれた。婦人年10年の成果を踏まえて「ナイロビ2000年将来戦略」が採決され、その成果を見直すために、1995年(平成7)9月に北京世界女性会議が開催されている。世界のNGOはジェンダーの視点から1993年に開催された世界人権会議に「女性の権利は人権」と訴え、女性に対する暴力の廃絶を訴えた。国連は1993年12月に「女性に対する暴力撤廃宣言」を採択した。

### (2) 日本の女性問題解決に向けての取り組み

日本は1977年(昭和52)メキシコ会議で採択された国際行動計画を受けて「国内行動計画」を作成、1989年(平成元)ナイロビ将来戦略を国内に取り入れた「西暦2000年に向けての新国内行動計画」を作った。1990年に「新国内行動計画の第1次改定」が行われた。

国籍法の改正、家庭科の男女共習及び雇用機会均等法の制度化問題等が課題となった。

1985年(昭和60)1月1日から女性を差別する「帰化及び国籍取得要件」を男女平等に改めた国籍法の改正、1994年度(平成6)から学習指導要領の改訂による家庭科の男女共修の実施、1988年(昭和63)に男女雇用機会均等法が施行、1995年(平成7)5月に育児休業制度の改訂、1996年(平成8)に優生保護法を母体保護法と改め、1996年(平成8)7月、男女共同参画審議会が「男女参画ビジョン」を答申し、同年12月に「男女共同参画2000年プラン」を策定した。1997年に雇用機会均等法の改正がおこなわれ、女子労働者に対する時間外・休日労働・深夜業の撤廃等を内容とするものになった。しかし、これは本当に女性の母体保護ができるのかという大きな課題を残していた。

1999年(平成11)6月に「男女共同参画社会基本法」が制定と「児童買春防止法」の制定が行われた。

### (3) 福生市の女性問題解決の施策

こうした国内外の女性問題解決への制度の充実は地方公共団体の政策にも具体的な形で「女性差別撤廃」への取り組みが始まった。

「公民館のつどい」をきっかけに、福生市女性問題連絡会が作られ、1985年（昭和60）に「福生市の婦人問題を解決するための行動計画策定に関する要望書」を提出、1993年（平成5）11月に、市民の代表、学識経験者などの15名の委員からなる福生市女性問題審議会設置、福生市女性問題審議会「福生市における女性行動計画策定のための指針について」答申、福生市女性行動計画策定委員会設置、1996年（平成8）「福生市女性行動計画」を策定している。その内容は「女性問題の解決を目指し、男女共同参画社会を形成するために、市が施策を行うための基本方向を明らかにし、施策を総合的かつ効果的に推進することを目標」とし、主要な課題として「1. 男女平等にねざした人間形成の推進。 2. 男女共同による社会参加・参画の促進。 3. 労働における男女平等の推進。 4. 健やかな心身の保持と福祉の向上。」をあげている。

### (4) 福生の女性の生活現実

1990年（平成2）の国勢調査で、福生市の労働人口の労働力状態で見ると、女性の47.1%が何らかの形で就労している。1990年の国勢調査では、20歳～24歳が14%（東京都15.5%）30歳から34歳は9%（東京都7%）、40歳から44歳までが第2のピークで13.5%（東京都11.5%）であった。そして、1995年（平成7）の国勢調査では、女性の労働力人口は12236人で、就業者は総数11590人 主に仕事 7130人、家事と仕事、4052人、通学と仕事、246人 休業中、162人 完全失業者、646人。非労働力人口は、12340人 うち家事、8802人 通学1787人である。家事を担う女性の1.5倍近くの女性が就労している。就労年齢は20歳から24歳までの1569人が第1のピークで、第2のピークは45歳から49歳まで1544人である。福生も女の就労形態は全国的傾向と

同じM字型を示している。経済的自立が問われて久しいが、現実には、経済的自立というよりまだまだ、働かざるを得ないと言うのが現実である。講座参加者の声として聞こえているのは、幼稚園に入る時期からパートに出る層も増えてくる。幼稚園・小学校・中学校、高校、大学と どもの進学に伴い、パート労働に出ざるをえない女達が増えて来 ている。

40歳代後半から、50歳代にかけて、両親の介護や看取り等の問題が突然押し寄せてくる中で、仕事もまた中断せざるを得ない。しかも、介護の長さも、1年以内、6.5% 1年1月から2年未満 14.0%、2年1月から3年未満 14.0%、3年以上4年未満 3.2%、4年以上5年未満 9.7%、5年以上10年未満 17.2%、10年以上 7.5%である。この調査は1998年（平成10）2月の「福生市高齢者・障害者生活実態調査報

年齢別就業者数	女
15/19	248
20/24	1569
25/29	1490
30/34	1105
35/39	1059
40/44	1296
45/49	1544
50/54	1270
55/59	892
60/64	530
1995年国勢調査	

告書」の数字である。

寝たきり老人の介護も5年から10年が一番多く、2番目に、14. %の1年から3年未満、3番目に7. 5 %の10年以上という数字は、予想以上に介護期間が長いことを示していた。その介護の担い手の希望は、本人の配偶者36. 6 %、同居の息子の嫁31. 2 %、同居の親族、14. 0 %である。約7割近くが、妻(夫)や嫁の肩にかかっていくわけである。一見平和な家族に見えるが、子どもや家族のために必死で働いてきた40歳後半から50歳代にかけて、家事労働に加えて、介護や看取りの問題を抱え込んで、自らの老いを含めて、生活が急激に変化をしていく。

## (5) 松林分館の女性問題解決に向けての学習

### 1) 家庭教育学級

1990年(平成2)厚生省は、日本における特殊合計出生率が1. 43になったという発表で、大きな衝撃を与えた。福生市の1999年における特殊合計出生率は1. 44(東京都1. 06)で、年々減少していることも事実である。因みに、福生市の保育園や幼稚園児の3歳からの就園率は、3歳で63%(1998年)となっている。その傾向は今後も増えていくだろう。少子化傾向で、家庭での育児は0歳から2歳児がその中心になっている。そして初めての子育てに「夜3回起きるので、ぐっすり眠りたい。」「一人でのんびりとまったく子どもを忘れてみたい。」「とりあえず横になって眠りたい」「自分一人の時間がほしい。」と言うかたちで、孤独な子育てから開放されたいと言う願い、ストレスの中で、母子密着がますます強まっていく。「母と子の一体の中で子どもが歪んでいかないか」、「子育てに対していやだなあということ直したい」「子育てを楽しめない」「子育ては難しい」「自分は密着育児なのか」という子育ての悩みを抱えながら「子どものために自分を犠牲に出来ずにいる自分自身にイライラしている」(1996年家庭教育学級KJ法による)「親としてこれでいいのか」と悩みを抱えている。しかも近年は少子化のために、なかなか、公園で子供と出合わなくなったという。夫の帰りも遅く、母子密着を強め、公園でもなかなか人に出合わず、孤独な子育てを強いられている、若い母親達が増えている事にも注目していく必要がある。

こうした現実を踏まえて家庭教育学級は、

1. 社会から孤立した子育て、心理的にも肉体的にも母子密着を強めている環境を、母子がはなれる事で改めて、自分の子育てや暮らしを考え直す。
2. 子育て、とりわけ母親が担うという伝統的な価値観を改めて、性別役割分業体制の現実の価値観の転換をはかり、子育てが男女共同の仕事であることを認識する力を培い、子育てについて共同責任を暮らしのなかにつくり出す。
3. 子どもの見方を他人との比較の中で推し量るという見方を変えていく。一人一人を大切にしながら、人間が育つということの意味をしっかりと擲んでいく。
4. 子育て期を含めて、育てる側の主体性を確立していく。差別撤廃条約に示された方向で、自らの生き方や生活を点検する機会としていく。

こうした視点から家庭教育学級が開催されてきた。1990年(平成2)以後、3年間、松林分館家庭教育学級は、2コース、前期、手作り絵本講座、講師 木住野利明氏(造形

作家)で実施し、後期は「幼児の体と心の発達を考える」「豊かな子どもの成長、発達を考える」が開催された。1996年(平成8)には、家庭教育学級は「子育て・手づくり絵本・女性問題」をテーマに、通年で開催された。参加者の一人は「一言で言いあらわせないほど、私にとって勉強になりました。講座を申し込んだ動機は子どもに世界で一冊しかない絵本を与えたいというのと、昨日と同じ今日を送るのに退屈さと焦りを感じながら、その動機が吹き飛ばすようなカルチャーショックでした。世界が広がりました。今、改めてノートを見ると、子育て、人生のポイントだと思った事が書き留められています、わたしのこれからの課題はいかに、多くのポイントを私の人生、生活に体現していくということでしょうか」(28歳)と書いている。この事業をきっかけに、保育室は0歳児の保育を開始した。講師として、1995年から「乳幼児の成長・発達」のテーマは元西久保保育園園長、園田とき氏(こどもの絵本研究會理事)にお願いをした。

## 2) 性問題学習—男女共生の社会を目指して—

夜間の女性問題学習は1980年から始まっている。とりわけ、仕事を持っている女性も持たない女性も共同の学びの場を創ることで始まった。とりわけ、専業主婦よりは、働く女性がふえてくる中で、夜間に女性問題の講座を実施してきた。1990年~1993年迄、「主婦再就職講座」として、簿記3級・2級資格獲得を目標にして行われた。1992年、婦人学級「40代からどう生きるのか」が講師に、白梅学園短期大学教授、富永静枝氏や、「ケアセンターやわらぎ」石川所長を迎えて、午後という時間帯で行われた。1995年、分館はじめての女性職員、薄田公子が着任し、夜間講座は、女性問題の今日的課題を積極的に取り上げ、講座を開催してきた。とりわけ、1995年(平成7年)福生市女性行動計画」が出され、男女共生の社会への取り組みの必要性を強調した。その状況も踏まえて、1995年、2月1日から3月7日、全6回、武田京子氏(評論家・早稲田大学講師)を迎えて、「女性があるままの自分を大切にしながら、暮らしの中で、社会の中でいきるための力をどうつけていくのか。生活をつくりだしている人間の意識と行動が良い方向に向かって進むために、一人、一人が、今の現状と社会の中での自分の存在をきちんとつかみとり、未来に向けて、女性の自立の問題を考え合い、男女共生をめざして、はじめの一步を踏み出すこと」を目的とした「あるままの自分—男女共生をめざしての講座—女性問題入門講座」を開催、翌年、「女性が輝いて生きるための講座」をテーマに働く女達の課題を「①自立と年金・税制問題 ②女性労働の現状 ③再就職をめぐる ④働く女性と介護、⑤まとめ」の5回を富永静枝氏(白梅学園短期大学教授)・斉藤誠氏(弁護士)を講師に開催した。1994年、カイロで開催された、世界人口開発會議のリプロダクツ・ヘルス・ライトが主唱された。こうした流れを受けて、1997年に「自分の生き方の問題として性を考える講座」として「男女共生をめざしての講座—からだ・性・女性」を開催した。講師は「もっと知ろうよ自分の体」石橋初子氏(彫金作家)、「歴史の中で母性はどう創られてきたか」長沖暁子氏(慶応大学講師)「性と法律」大橋由香子氏、(産むこと、産まないことは女が決める著者)、「産むこと、産まないこと」堀口雅子氏、「からだ・性・自立」を内容に9月30日から10月28日の5回で開催。1998年3月、女性が輝いて生きるために働くことを考える講座を「女性労働の現状と法1・II」富永静枝氏、「派遣労働者の現状と法・パートタイム労働の現状と法」杉井

静子氏（弁護士）で開催した。1998年（平成10）「もっと知ろうよ「からだ」と「心」」の講座が開催されている。講師は石橋初子氏・長沖暁子氏（慶応大学助手）・斉藤有紀子氏（明治大学講師）等を迎えて実施している。この年、10月1日、担当の薄田公子氏が健康センターに異動し、健康センターから、清水初代氏が着任した。1999年10月から5回にわたって、「女性労働者の歩み」「女性労働者の現状と課題」を中央大学講師、川口和子氏、「雇用機会均等法改正のポイント・問題点と今後の課題」を栗山れい子氏を講師にして開催された。

1995年の「ありのままの自分—男女共生をめざしての講座—女性問題入門」の参加者の一人は講座の感想文の終わりに「男も女も真に自立しあうこと、お互いがもたれあうことで成り立ちあうのではなく、男も女も一人一人の人間として生き、さらに共に生きていけることを楽しく思えるよう生きていけたらと思います。女一人の力では歴史はかえられないけど、らせん階段を一段ずつ、登るように夫を変え、次の時代をつくる子ども達を変えていく力をやしない続けたいと思います。」（45歳）と書いている。

1995年以後「男女共生社会をめざして」の講座を担当してきた薄田公子氏は、この間の講座について、講座への視点をつぎのように書いている。

## 「女と男が共に生きるために」の 学習を通して—

薄田公子（元講座担当者）

### 1. 行動するための知識とエネルギーを

講座参加者で一つのテーマを話し合い学習するには、参加者が大切にしていきたいことを明確にしていく作業である。ひとつの悩みや苦しみは人との関わりの中で生まれているものであり、多くの人達も同じように感じている現実を忘れてはいけない。

そして、相手ときちんと向き合い、問い返していく中で、今ある本当の自分を認めた上で、その先を見つめながら前へ進んでいくための知識やエネルギーを得ることができるだろう。

### 2. テーマ「働くことを考える」から

社会の関わりの中で、働くということは、自分の生活を支える経済的な自立とともに、自分の能力を生かすことで自己実現という精神的な自立につなげていきたい。

#### （1）結婚—女と男

- ・結婚をし、自分がはたらくことを辞めて、夫の働きの収入で生計を共にするのか？
- ・結婚を選ばず、自分の働きで収入を得ていくのか？
- ・結婚をして、子どもを産み、子育てをしながら、自分の働きで収入を得ていくのか？
- ・結婚をしたということで、女の生き方が変わってしまうというのはなぜか？

男は結婚したからといって、子どもができたからといって、自分の生き方はほとんどかえないではないか。

女が継続して働くことは、きびしい働きの現状（労働形態・労働環境・女と男の賃金格差）などがあり、その中で「女は働き続けるか否かを選択させられているのではないのか？」を問いかけとして、すべての人達と考えていきたい。

### 3. テーマ「からだ・性と女」

子どもを産む、産まないというだけで、人はあれこれと言うけれど、どちらかを選んでも女という性には違いないこと、体の自己決定権は本人にあることを認めていける社会でなければならない。

- ・「女は子どもを産んで成長するものだ」と言うけれど？
- ・母たるものに絶対的な愛情があるといわれれば、はみだす母だっている。「理想の母」と「現実の母」とのギャップなどと言われるけど？
- ・「障害をもっている場合、子どもを産んで育てるなんて大変」と言われているけど？
- ・「優性保護法はなにを意味してきたのか」出生前診断は何を意味するのか？
- ・「月経」は女にとって、自分の体を知るバロメーターである。「月経」があるからといっても子どもができない、できにくい現実もある。それにパートナーの体の状況が影響することもある。どちらにしても、この事実を受け止めるのが女だけであってはいけない。不妊治療は産める体にしてくれるという治療だけではなく、生殖医療という医療技術の中にあり、産む行為をする本人の意志がどこかに消えてしまう危険がいつもつきまとう。

少子化と言われる中で「産む」ことが正当化され、「産む行為をする女」としてだけで扱われることのないように、「人間とは？」の問いかけをすべての人達で考えていきたい。

### 4. 行動を始めるために

今の社会に存在して、痛みもあるのに痛くないと言わされているような性による差別。ひとり、ひとりが意識してみれば、生活する中にはとても平等ではないと思われることがたくさんある。

ひとつの考えによる個人の生き方が否定されるというのではなく、ひとつの考え方によって他者の生き方が左右されてはいけない。

力関係の存在する社会的機構の中で縛りつけられていて、不平等と思っていることをすぐに変えていけないのか知れないが、まず、自分の生き方を少し変えてみることから始めてみたい。たくさんの人達が行動することを始めるために、テーマを決めて、今後も話し合い学習を続けていきたい。

5.

成人の事業

1990年(平成2)～1999年(平成11年)

- 松林分館の成人教育の柱
  - 教育問題の学習
  - 歴史学習
  - 福生市立第2中学校の報告会と戦争を語る会
  - 地域福祉講座
  - 人権学習
- 差別のない社会をめざして  
識字学級  
平和学習



識字学級高崎伊平先生

## 松林分館の成人の事業

1990年(平成元)～1999年(平成11)

### (1) 松林分館の成人教育の柱

1960年代、当時国立の公民館にいた、徳永 功氏によって、公民館三階建論が主張され、公民館で社会科学の系統的な学習の重要性が説かれ、市民大学等の実践を含めて、国立の実践は三多摩の地域に大きな影響を与えただけではなく、全国的な影響を与えていた。1970年代に入って、住民の学習運動が発展する中で、公民館の役割が注目をされはじめていた。東京都社会教育部は「都市型公民館のあるべき姿」を検討する資料作成委員会を1972年(昭和47)に設置し、国立公民館 徳永 功氏、小平公民館 西村 弘氏、国分寺公民館 進藤文夫氏、小金井公民館 小嶋道男氏、学者として、学芸大学小林文人氏が中心委員として活躍をした。その成果として、「新しい公民館像をめざして」が東京都社会教育部から発表された。それは、三多摩における公民館の実践を土台にしなから作られたものであった。

「新しい公民館像をめざして」は三多摩テーゼと呼ばれ、当時、1970年代から1980年代にかけて、各地域で起きてきた公民館建設を求めた市民のバイブル的な存在となった。

三多摩テーゼは「公民館の4つの役割」として「1. 公民館は住民の自由なたまり場です。2. 公民館は住民の集団活動の拠点です。3. 公民館は住民にとっての『私の大学』です。4. 公民館は住民による文化創造のひろばです。」と書いた。「公民館は住民にとっての『私の大学』です。」について「・・・現代のような激動の時代にあっては、困難な状況の中で自らの道を切り開いていく主体的な判断力や認識力を我がものとしていくことはだれにとっても必要とされています。その為にはどうしても人間や社会についての継続的学習が不可欠です。現在は、いわば地域の小さな問題の中に、全世界の動向が反映しているような状況ですから、その学習も日常生活や身近な問題を内容とするだけではなく、人間存在の根本問題や全世界の視野での問題を学習内容としてもつことが必要になってきています。つまり、身近な問題をふまえながらも、さらにつきつめた根源的な問題をいかに学習していくかが、いま国民のひとりひとりにとって重要な学習課題ですが、公民館はそのために十分な役割を果たす存在でなければならない」と課題を提起しました。福生市で、1972年、市民大学講座が、教育・歴史学習の2コースが開催されている。それはプログラムを市民と共同でつくり、3～4年かけて系統的な学習を深めようというものであった。

こうした事をふまえて、松林分館は、1980年に、成人に対する事業の柱として、①大人のもつさまざまな学習要求に応えていく努力をすると共に、系統的な学習を深め、学術研究の豊かさを、参加者が自ら体得できるよう努力をしていく。②市民のなかにいる専

専門的な知識や技術をもっている市民と市民をできるだけつなげる努力をしていこう。③成人が公民館にかかわれる場を積極的に開拓していこう。そのために、多面的な事業を恐れずにやっていこう、という方針を出していた。

1990年代に入って、少子化・高齢化・情報化・国際化が一層進む中で、1985年のユネスコの学習権宣言を受けて1990年代の松林分館の成人に対する方針は、80年代の視点をベースにしなが

- ① 1985年のユネスコ学習権宣言にみられる学習権を全ての成人に保障する努力をしていく。特に社会的弱者に対する教育保障を基本的人権の獲得の視点から重視していく。
- ② 大人の持つさまざまな学習要求に応えていく努力をすると共に、憲法・教育基本法を基に、今日的な課題と地域課題を統一的に捉え、自治能力を豊かに発展させていく。
- ③ 国際化と言われるなかで、アジアとの歴史認識、或いは基本的人権保障の課題を意図的に追求していく。
- ④ 急速に進む高齢化社会に向けての課題を整理しながら、地域福祉の主体形成に向けて努力をしていく
- ⑤ 成人の持つ趣味の問題を改めて文化の問題として重視していこう。

#### 文化活動について

- ① 一緒にやりながら、市民が楽しく出会える場を豊かにしていこう。その為に文化事業を大事にしていこう。
- ② 市民の持っている技術を交換しあえる場を作っていこう。そのための情報をできるだけ、市民に伝える努力をしていこう。
- ③ 市民の自主的な文化活動を積極的に援助しながら、その活動が共有できる場を出来るだけ積極的につくっていく努力をしよう。
- ④ グループ、サークル活動への積極的な援助体制の確立。  
という方針をつくっている。

こうした視点にたって、成人の学習活動を展開してきた。1990年代松林分館における学習活動を概括しておこう。

松林分館は、成人の学習として大きく、教育問題の学習、歴史学習、人権学習、高齢化社会を受けて地域福祉・福祉問題を中心課題に据えきた。そして、文化事業の展開という5つの柱で事業展開されてきた。

#### 1) 教育問題の学習

1990年代の特徴のひとつは、子どもの教育をめぐるさまざまな事件が多発し、登校拒否、非行、殺人、援助交際、不登校、家庭内暴力、対教師暴力等々、学級崩壊から学校崩壊まで教育問題が社会問題として語られ、とりわけ、小学校・中学校等の教育課題が中心となった。こうした状況を解決できる一つの手だてはPTAの活性化であると考えた。

PTAの本来的な役割が発揮され、教師と父母が子どもの教育の課題について真剣に論

話しあい、解決に向けて共同できたならば、事態はもっと変わっていただろう。戦後のPTAの理念に立ち返って、PTAの課題を改めて考える場として、1990年のPTA講座（6月7日から全7回）・PTA広報づくり（9月6日から全4回）が講師に溝淵幸太郎氏（元福生3小PTA会長）前橋弘子氏（元読売新聞PTA広報審査員・PTA問題研究会）を講師に実施され、以後毎年PTA講座は継続的に開催されている。この講座を受けた参加者のひとり「PTAの書記になっても、PTAの事は、ほとんど知らないというよりも勉強不足でわからない。そんな時に見つけたこの講座、PTAのことがとてもよくわかって来ました。とても良かった。本部会に出席しても、以前のようなオドオドした気持ちがなく、意見もはっきり言えるようになりました。初めて作った広報？文章を書くむずかしさ、・・・時間がかかったです。しかし、皆の努力で出来上がった「ひまわり」は一生懸命やったのです。うれしかった。」（1995年参加者Wさん）と書いている。

教育問題の解決を図っていくために、教育の権利主体として、親が教育の現状や課題を理解していくことが大事な課題となっていた。1990年（平成2）「子どもの居場所を求めて」、91年（平成3）「中学校・中学生」は「いま、学校教育をめぐる」平湯紘一氏（雑誌母と子主幹）「中学生とは」林、友三郎氏（岩波新書「中学時代」著者）、「中学時代の危機を乗り越える」（国民文庫「中学時代の危機を乗り越える」著者）等を講師に迎えて実施されていた。92年「戦後教育の歴史を通して教育を見直す」が2月18日から全5回で講師に徳武敏夫氏（教科書編集者）、1994年（平成6）16ミリ映画で教育を語る会、1995年（平成7）「中学時代の危機を乗り越える」は、いじめ問題や、いじめによる自殺等の問題が深刻な状況迎える中での講座であった。講師に、尾木直樹氏（教育評論家）や白井 慎氏（法政大学教授）を迎え「思春期の子ども達」「中学生の苛めや自殺の問題を考える」「受験期の子どもをもつ親は一揺れる子どもの心を支えるには」「学校とは一改めて義務教育とは」「地域や学校で親はなにが出来るのか」をテーマ実施している。社会教育や生涯学習のために、公民館再発見講座一社会教育・生涯学習が、横山 弘氏（明星学園大学）、進藤文夫氏（中央大学講師）等を迎えて行なわれた。1997年は「権利としての社会教育」をテーマに学習している。1997年教育講座一人が人間として育つにはをテーマに開催されていた。

## 2) 歴史学習

1990年代は昭和という時代が終わり、平成という時代になった。とりわけ、昭和という時代は、大日本帝国憲法と日本国憲法という二つの異なった時代を経過している。しかも、戦争と平和の時代であった。とりわけ、戦前のアジアをめぐる、アジアの人々と日本の間には、歴史認識の違いが目立っていた。国際化時代と言われる中で、この認識の違いは時には国際問題にも発展していった。1990年代、歴史講座はこうした背景を受けて、「日本の近代とアジア」をテーマに1990年「日本の近代の歩み」1991年「大正デモクラシー」、1992年～1994年、「日本の近代化とアジア」をテーマで、1995年「日本の戦後50年のあゆみ一改めて民主主義・人権の視点から戦後50年を一」をテーマにして学習している。川村善二郎先生（東京経済大学講師、日本近代史研究

会)、1996年「戦後の教科書の歴史を学ぶ」が2月から5回、講師に徳武敏夫氏を迎えて行われた。歴史講座の内容の編成は歴史講座準備会を組織して、プログラムの大枠を編成し、講師との討議を経て最終プログラム化された。1999年、日本が戦後憲法・教育基本法体制の中で積み上げてきた民主主義が、第134国会以後、大きく揺らぎだし、歴史の結節点になろうとしている。こうした中で、改めて「戦後史」学習が取り組まれている。1995年の歴史講座参加者の一人は「私はこの講座に参加して、いままで自分が学んできたものが、いかに一方的な面でのみで、本当の日本の姿についてはまったく無知であった事をしみじみと感じさせられた。私自身歩いてきた道を思い出しながら整理できずにおります。それはちょうど大正から昭和という時代がまさに自分の歩いてきた一生であり、自分自身歩んできた道を、先生に教えられた本当の歴史の動きとが、私の心の底にしみ込んで、あまりにも惨めで情けなくなりました。そして正しい本当の歴史を学ぶことが如何に大事なことであるか、しみじみと感じました。私はこの週に一度の先生の熱のこもった話に引きずられながら、その時々、私自身の当時の生きざまを重ねながら生きていました。(77歳)男」と感想に書いている。

#### ○福生市立第2中学校歴史部の報告会と戦争体験を語る会

1995年は、戦後50年という節目の年であった。福生市第2中学校歴史部が「50年前にタイムスリッパー中学生が見て聞いて歩いて知った戦時中の福生一」の歴史調査展を松林分館で8月1日から15日までの期間で展示をした。調査報告会を歴史講座の中に入れて行行った。8月5日、講座の受講者の中から高崎伊平氏(当時70歳)、島田作一氏が、それぞれご自身の戦争体験抑留体験を報告、そして第2中学校の歴史部の報告、最後にまとめの報告を歴史講座講師の川村善二郎先生がおこなった、この会は70人近い人の参加を得て、盛会の内に終了した。この展示を見学しにきた44歳の女性は「東京新聞に掲載された記事を見て『福生2中?うちの息子が通っている中学だわ。』と思ったのと、実は私も一昨年、戦時中の勤労働員された女性の方々の聞き書きをしましたので、二つの関心からやってきました。

私たちの住む町のことが、とてもよく調べてあって、興味深く拝見しましたが、やはり本を通して知る歴史よりも、どんなに小さな史実でも自分の体を動かして知ったことは、ずっと心に残るものだと思います。『まず、本当のことを知る』ということが何かを考えていく上での基礎なんでしょうね。皆さんの調査が自然な形ではっきり『反戦』の気持ちにつながっていた後書きを読んで、胸を熱くし、また心強い気持ちにさせてもらいました。44歳 女」と感想に書いている。

歴史部でこの調査活動を直接に担った中学生は「今回歴史クラブでお話を聞いたりしている内に、もう二度と戦争はしてはいけないと思うようになりました。『お国のため』と言い、自分の命をなげ出し、だんだん笑顔が消え、愛する人をなくし、楽しさよりも悲しみがふえてきていて、命の大切さなんかなくなってしまった悲しい戦い。そんなの自分は

絶対に経験したくありません。いったいなにを望んでいたのでしょうか。なんで戦っていたのでしょうか。私にはわかりません。アメリカは平和を守るために広島・長崎に原爆を落とすと言っていました。原爆を落とすことによって、被害を最小限にすることができる、事実そう言ったとも言っていました。最小限と言ってもあれほどひどかったのに・・・戦争が終わって50年がたち、戦争の恐ろしさや事実を話す人達があります。その人達がいるからこそ私たちは戦争について知ることができました。そしてこのことがわかりました。発表を見た人もこのことはわかったと思います。「このこと」とは、戦争を繰り返してはいけないということです。14歳・女」と調査の中での自分の変化を記している。子どもたちが中心になって課題が明確になった時、その課題に沿って、教師や公民館の職員が、その活動の場を保障しあっていく。こういう形での学社提携の可能性を示した取り組みであった。

### ○ 松林史跡見学

地域にはその土地土地の歴史を刻んだ文化財がある。改めて、地域の歴史を振り返りながら、今日の地域の環境や歴史を、体で感じ取る機会とすることで、史跡見学会を1980年代に引き続き1990年代も行なわれていた。熊川や福生という地域だけではなく、西多摩地域にも足を広げて行なわれて、「自由民権の足跡を尋ねて」などがおこなわれていた。

### 3) 地域福祉の課題の学習

福生市の高齢化率も1990年代に急速に伸びて行った。1970年、3.9%、1975年、4.1%、1980年5.6%、1985年6.6%、1990年7.9%、1995年9.7%、1998年12.7%となっている。1990年、福祉8法が改正された。その特徴の一つは、財源的な裏付けがないまま、福祉の権限を大幅に自治体へ下ろした点。そうした特徴をもちながら、①地域福祉計画の法制化、とりあえず当面する課題である「老人福祉計画」が中心に据えられ、②在宅介護のシステム化 ③福祉政策作成の段階に住民の参加保障 ④老人健康保持事業の法制化、⑤社会福祉協議会の法制化、⑥在宅福祉サービスの小地域によるサービス提供システムの総合化を打ち出してきた。こうした福祉関連法の大改正を受けて、地方自治体における福祉政策のあり方が大きな課題となっていた。こうした課題を受けて、1991年(平成3)から地域福祉の課題が論議されはじめて行った。1991年、11月7日から12月12日全5回夜間の事業として「地域福祉講座—高齢化社会を考える—豊かな老後を支える地域福祉とは」が開催された。講師は富永静枝氏(白梅短期大学教授)、地域福祉と社会福祉関連法の改正問題を宮島敏氏(川崎市高齢社会福祉総合センター主任)、立川ケアセンターやわらぎ、の実践を相田茂氏が語っている。1993年7月から13回の準備会を開催している。その準備会の中で、地域福祉や高齢化問題を考える4つの課題が出された。①高齢化社会の到来で国民の負担が大きくなるというが、その背景を明確にしていく。②福祉8法の改正の内容と

その課題をつかみたい。またその影響を考えたい。③地域福祉と言う概念と具体的な課題をつかみたい。④民間福祉サービスを含めて、高齢者をめぐる福祉サービスのあり方や実態を知りたい。そして具体的に地域福祉の課題を考えて行きたい。という事が論議されていた。

1980年代に「高齢化社会を考える」ことが主なテーマとして展開していたが、1991年（平成3）から、地域福祉が中心的なテーマとなった。以後、福生市という地域から参加者それぞれの立場から地域福祉を考えあう場となった。

地域福祉講座の視点は①高齢化社会の課題を明らかにする。②地域福祉とは何かを理解する。③福生市における福祉の実態や、福祉先進地での実践を学ぶ。④これらを通して、福祉の権利主体形成、地域に於ける福祉実践主体の形成を目的として、地域福祉講座が通年事業として開催されていった。

#### 4) 人権学習

##### ①. 「差別のない社会を目指して」－基本的人権を学ぶ

世界人権宣言は1948年12月10日に国連で採択された。12月に入って直ぐに人権週間になっている。戦後、憲法で保障された人権であるが、現実にはまだまだ多くの差別が存在をする。人権教育には二つの面がある。一つは人権に対する理解をふかめるための学習であり、差別や人権を侵されている現実に対する理解をふかめること、もう一つは基本的人権を侵されてきた人々に対して人権回復のために、どれだけ、具体的な手だてを保障していくかである。とりわけ、部落問題学習は、人権教育として非常に大事な課題である。

1990年「差別のない社会をめざして」をテーマに部落問題学習を中心に講座が開催された。1992年（平成4）、「基本的人権と私達の課題」をテーマに「基本的人権とはなにか」「現代社会と部落差別」を内容に2回、1994年（平成6）「現代社会と人権」をテーマに5回、1995年は国連の国際人権年であった。以後10年間を「人権教育」として、人権学習の取り組みを世界的規模で取り上げる重要性を宣言していた。

こうした状況を踏まえて、「差別のない社会をめざして、基本的人権と私たちの課題」をテーマに「現代の社会と部落問題『人間みな兄弟』」「部落の歴史」「現代社会と人権問題」、1996年（平成8）、11月30日から2月1日、土曜日午後の時間帯で7回、内容は①世界人権宣言、②基本的人権の思想の歩み、③近代社会における人権問題－明治憲法と基本的人権、④現代社会における人権問題－日本国憲法と人権、⑤基本的人権と部落問題、⑥人の世に熱あれ－部落解放の歴史から学ぶ、⑦「差別のない社会を求めて」が開かれていた。講師は、部落史の研究者である、川村善二郎氏が担っている。

## ②. 識字学級

人権教育の一つとして、人権を奪われた人々に、奪われた人権を具体的に回復していくことは人権教育だけではなく、人権を保障する意味で非常に重要であった。義務教育が普及、徹底している日本では、文字の読み書きができるということは当たり前になっている。しかし、現実には、福祉分野では、日本語を十分に読み書き出来ない人は、それほどめずらしいことではないという。加えて 近年、登校拒否、あるいは、不登校児もふえ、学びから疎外されていく子ばかりではなく、学びそのものから逃避する子どもがふえている現実がある。義務教育形式卒業者も近年増えてきている。そうした機能的非識字者を加えるとその数はもっと増える。識字の参加者の多くが、「貧しさ」ゆえに学ぶ機会から疎外されてきた。当初はケースワーカーの依頼で、生活保護家庭の大人に対する識字学級としてスタートしたが、その後、1990年代に入って、とりわけ、1990年（平成2）から数年間は、南米ペルー、ブラジルの人々が急激に増えていった。年齢も3歳児の幼児から小学生もふくめて、参加してきた時期があった。それも、来日3日でまだアパートも見つからないという時期に参加すると言う人がいた時期であった。1995年は、韓国人が6名と多かった。1997年（平成9）以後は日本人が中心となり、年齢は76歳から60歳の人々となった。昼間の開設のために、女性が多いことも事実だ。

識字教室の参加者の一人は、「学校へいけなかったけど、勉強したいという気持ちはずうっと持ちつづけていた。読み書き出来ない人生ほど不便で、かなしいものはないと思う。私が識字学級を知ったのは平成4年4月に発行された「広報ふっさ」だった。読んだ時は、一瞬グラッと動いたがいまさら、この歳になって恥をかいてまで……。時が過ぎて平成7年4月のある日、「広報ふっさ」を見ていた娘が「お母さんみたいな読み書きできない人はどうぞと書いてあるよ」と言った。「忘れていたのに、……心にピィピィときた。ああ、それって識字学級と書いてないかいと言ったら、娘は一瞬おどろいた顔をして「なんだー知っていたの、どうしていかなかったのよ。いつもおかあさんは読み書きができたらどんなにいいかと思ってたでしょう。歳なんか、かんけないと思うよ。今がチャンスだ、だめでもともとじゃないの。とにかく電話かけてみたら」とせかせるので、私は心の中で、人ごとだと思っ

	平成1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
日本	3	1	2	2	2	3	4	4	5	5	5
韓国	2	2	4	6	4	4	2	2	0	0	0
フィリピン	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0
ペルー	0	1	7	2	0	0	0	0	0	0	0
ブラジル	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
タイ	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1
中国	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0

て、よく言うわと思ったり、娘の言うようにいまがチャンスかもしれない、自分自身に言い聞かせた。（略）家に帰り教室での出来事を娘に話して聞かせたら「お母さん良く頑張ったね」と私を気づかせてくれる娘の優しさに思わず涙してしまった。娘が涙声で「お母さん、いけそう」と聞くので私は胸をはって「大丈夫、教室の皆さん明るく親切だし、そ

れに先生方も優しそうなので、絶対に行くわと言ったら、娘の目が嬉しそうに笑っていた。心動かされながらも、一度は諦めた識字教室だったが、娘に進められて、長年の夢が叶ってこんなにうれしいことはない。(後略)」(識字教室作文集第4集平成8年)と書いている。この13年間、講師を勤めていただいた高崎伊平先生、そして、1997年(平成9)から、ボランティアとして参加している学芸大学大学院生の江頭 晃子さんの二人を中心にして、教材は基本的に、文学教材を中心に、学習してい。

### ③. 平和学習

「シネ・フェスティバル FOR PEACE」は1985年から始まった取り組みである。国連は1985年10月から1986年を国際平和年として位置づけ、世界に対して平和教育の重視を訴えた。平和年の主要な目的は「国連・加盟国、政府間組織、非政治組織、学術機関、マス・メディアが国連憲章に基づき、平和促進のために、一致した効果的行動をとることを働きかけること」「今日、世界で、平和にとって基本的なことに注意を注ぎ、影響を高めようとする」を軍縮ニューズレター7月号(1985年7月)で書いている。国際平和年とこうした呼びかけが始まった年にこの映画祭は出発している。1999年で13年目を数える。毎年8月を中心に反戦・平和、反核をテーマにした映画を上映してきた。

平和教育にはさまざまな方法があろう。映像を通して、具体的に描かれる戦争の姿とその酷さを知ることは、どんなものよりも、感性を揺り動かすものである。感情から入って知で裏付けられたならば、それは、一層強い認識になっていくだろう。

小さい子どもから大人まで含めて、一つの映像を通して、考え合える、或いは、見おわってから、家庭で親子で感想を語りあう等の行為を通して、その映像のもつ意味は一層深められていくだろう。また、映像という媒介を通して、心に刻まれていく感性が、理性によって裏付けられるならば、それは非常に豊かなものになっていくだろう。そうした意味で、松林分館としても非常に大事な取り組みとなっている。

映画フィルムは都立日比谷図書館、都立多摩教育会館の視聴覚ライブラリーを使用しているの映画会のために、作品そのものの選択の幅が狭められている中での取り組みであるが、1996年からはこの映画祭に、フィルムをまとめて貸し出してくれるようになった、日比谷図書館の裏方としての支援活動はこの映画祭の継続に大きな力になってきた。

1997年には、劇団ファンタスティック(子ども達だけで運営・公演をしている劇団)が「村いちばんのさくらの木」「夜のくすの木」の朗読劇とジョイントで行なわれた。

この映画祭に参加した親子は次のような感想を残している。

「はだしのゲン1～3部見ました。戦争の悲しさが大変感じられた。町内のお祭りとなってしまう、みる人が少なくて残念でした。戦争を知らない世代が増え、こういう映画を通して、戦争の悲しさを知ってほしいです。中学生・高校生には是非見てもらいたい映画でした。(30代母)」「昔は、戦争があって、かわいそうな子たちがたくさんいたけど、今は戦争がなくて、くらしている私達はとても幸せだなぁ。(娘 小3年)」

また45歳の男性は「先日、戦争中の話をおじに聞く機会がありました。観念的にはわかっているつもりでも、実際の体験とはやはり違う気がします。しかし、そうは言っても、我々は2度と体験出来ないわけだし、そういったことを追体験して観念的でも、きちっと、自分のものとしていかなければいけないと思います。人数が少なかったですが、こうした会は大切です。どうか続けてください。」と感想に記して、この小さな映画祭の意味を受け止めて応援している。また、「正直、ショックでした。しかも、戦争中だけではなく戦後の、それも現在までも、同じアジアの人達に、荒れた山々、川の状態、農業で死寸前の土地。私たちになにができるだろう。もうおそいのだろうか、このような実状をもっと、もっと若い人達に観てもらいたい。63歳・女」と「教えられなかった戦争」をみての感想を述べている。

こうした、松林分館における小さな平和学習に対する共感と励ましを受けて、この映画祭は続いてきた。今後もこの映画会の役割はますます大事になっていくだろう。

松林分館で活動している子ども劇団「ファンタスティック」は朗読劇「8月を読む」を1993年から始めた。

上映年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
上映本数	3	7	5	6	6	13	16	14	14	13
上映日数	2	1	1	3	3	3	5	3	3	3

1993年(平成5)朗読作品は「川とノリオ・かわいそうなぞう・もちもちの木」、1995年「一つの花・川とノリオ・夜のくすの木」、1997年に「村いちばんのさくらの木・一つの花」を上演している。小学生が朗読の中心を担っているが、その指導をしている元劇団員で中学生以上の青年たちが必要な演技指導や朗読指導を行なっている。指導過程で、映像を使ったり、写真を見せたりしながら、戦争というものの感性を伝える努力をしていた。こうした努力、子ども達にも、指導する青年達にとっても優れた平和学習の側面を持っていた。

歴史学習も含めて、松林分館の平和学習は多様な学習形態をとりながらも、行なわれてきた。平和教育はまさしく人権教育の重要な柱の一つとして今後も主要な事業として、続けられていくだろう。

1997年上映作品					
7/25	午後7時~9時	はだしのゲン1部	8/9	午後1~2時	劇団ファンタスティック朗読劇
	26	午後7時~9時	はだしのゲン2部		午後2時~3時 戦争-子ども達の遺言
	27	午後7時~9時	はだしのゲン3部		午後7時~9時 教えられなかった戦争
8/8	午前10時~11時30	対馬丸	8/10	午前10時~11時	ヒロシマに一番電車が走った。
		午後2時~4時	千羽つる		午後 2時~3時 沖縄1部
		午後7時~9時	戦争と青春		午後 7時~9時 沖縄2部
8/9	午前10時~11時	一つの花			
		16地蔵物語			





はじめに

1987年(昭和62年)6月17日。松林会館の加藤さんが来られ、識字講座を開設したいと言われ、その概要を説明してくれました。その時点で「受講者が一人であっても続けていきたい。」という堅い決意の程が感じとれました。

私は、新設された田園児童館の努めを退職した時でしたから、講師を引き受けました。この講座は、先ゆき不透明で効率の悪いことは目にみえていました。軌道に乗せるまでには、多くの反対や困難は覚悟しなければと思いました。

初めての受講生

初めての受講生は、ケースワーカーさんが連れてこられました。この方はずっと福祉のお世話になっておられたようでした。

お子さんは、小学5年生の女の子さんで、いつも連れてこられました。識字能力は小学校の中学年程度でした。ご自分で「字がわからないし、けんかつ早い。馬鹿は相手にしない。」と強調していました。

この人にあった指導過程を考えました。「まずは公民館に足が向くようにすること。」2回目の日になりました。今日は学習する初めての日です。午後1時過ぎても姿を見せません。30分程過ぎた頃、ござっぱりした身なりをしてお子さんと一緒に来られました。

「あっ、見えた。」と思わず声を出してしまいました。私はすべて聞き役で、今までのことをぶちまけられる場をつくることを基本にしました。このことは「心の障害になっているものをみつけて、自ら取り除く努力が出来るようにする。」という一番難しい問題を正面にすえたのでした。

それには、加藤さんが選んでくれる文学作品をじっくり時間をかけて読むことだと考え取り上げました。

その中から、心の和らぎ、すなおさを引き出そうとしたのでした。教材には心を動かす作品が多かったと思います。そして、受講生の心に感じたこと、気づいたこと、考えたことなどすなおに、ありのままに書いていくことを毎回の課題にしました。

この記録をもとに、更に考え、思い出と合わせて、まとまった短いひらがな文に仕上げていく学習に取り組みました。

さらに、自らの生活を、思い出を作文にまとめることを次の目標にしました。何回か来られた後、作文を書いてくれました。子どものころの親子関係、友達との遊び、地域の様子など、驚くほど素直に表現してくれました。ほっとしたような笑顔も見せてくれました。しかし、これが最後でした。世間の風に堪えられなかったのか、来なくなってしまいました。

9月30日の私の日記には「松林会館講座とりやめか？」の文字が、10月21日には「松林会館講座お休み、もう来ないだろう。」の文字がみえる。今読んでもやるせない気持ちがします。

しかし、この経験がその後の識字指導の大きな力になっていると思います。

#### その後の識字指導・受講生のようす

識字教室での指導を始めてから、今年の6月で満13年になります。その間にふれ合った方は、年令も環境も、生き立ちも考え方も違う方たちでした。

60代・70代の年輩の方々、昭和初期の経済不況時代に奉公に出され、学校教育も満足に受けられなかったと、しんみりした顔で訴えられます。「私は学校の門をくぐったこともないよ。」と言われる方もいました。

戦中戦後の学童疎開や食糧難。終戦になって帰ってみれば学校がなかったという方もいました。

精神的な障害をもった方は、多くを語ろうとしませんでした。内面にせまることなどとても出来ませんでした。

沖縄から南米ペルーに移民された方々の2世、3世の方がたくさん来られました。この方々は、あまり多くを語りませんでした。私も勉強不足で、沖縄県の戦中戦後を細かく理解していませんでした。そのために温か味や思いやりに欠けていたことを恥ずかしく思います。

日本に永住されている韓国の方もたくさん来られました。この方たちは言葉はしゃべれるけれども文字の読み書きが出来ない。何とか普通に読み書きが出来るようになりたいと話していました。しかし、仕事との関係で休みがちな人もいました。

東南アジアの方や中国の方も少数でしたが来られました。この方たちは、会話から文章の読み書きへと考えておられました。

日本人と結婚された東南アジアの方も数人来られました。この方たちは、家族に支えられて熱心に学習していましたが、子育てと両立せず、又の機械を約して教室から離れていきました。

終戦直後は厳しい生活を強いられ、学校どころではなかったと言われる方もいました。このようにそれぞれの方が、一人一人条件が違う中で、それぞれにあった指導が要求されました。

#### どんな教材を用意したか

教材選択の任に当たる加藤さんは大変でした。あちらこちらとかけめぐって用意してくれました。

加藤さんと私は、教材選びで常に相談しました。今は加藤さんが全部用意してくれます。私達が第一に考えたことは、日本語は「日本文化をつちかった基礎的基本的なものの一つである。」ということでした。

そこで、みんなに親しまれていて、表現の理解し易い物語を中心に選ぶことにしました。エッセイや理解し易い詩、色彩の美しい絵本、五十音図、音の響（音韻）を理解出来るもの、簡単な語法教材（主語述語のはっきりしている説明文）辞典辞書類など、以上を選択教材の目やすにしました。

## 体験発表の場をつくる

私達も受講生も、気楽に話しあえる場をつくることを考え、30分程度のお茶の時間をつくりました。

この時間は主に自己表現が遠慮なく出来る場としました。日本語の話せない人は、片言や同じ言葉話す友達と教えあいながら発言するようにしました。主語や述語を体験的につかんでいただければと思いました。

日本語を話せる方や日本の方は、生活体験を話し合う場と考えました。

もう一つは、簡単な文章が書けるようになった方には、3カ月に1度程度作文指導を行い、生活に根ざした作文を書いて貰い、作文を通しての発表の場を作りました。

## 指導と実践で留意したこと

私達は、お互いに人間として思いやりの気持ちでふれあっていくことを確認しました。年輩の方は、人生経験が深いので、体験を通して学び合うことを心がけています。

外国の方との関係では、人としてのふれあいを大切にしました。

辞書がいつでも使えるように努力しました。画数のこと、部首のこと、さく引のことなどを覚えながら毎回使って貰うようにしました。

現在来られている方は、辞書活用が習慣化してきました。この方達は、作文も立派に書けるようになりました。時々文集を出しています。

## 受講生の思いと公民館

新聞を読んで世の中の動きを知りたい。雑誌を読んで楽しみたい。孫に手紙が書けたら。役所へ行った時恥ずかしい思いをしたくない。子どもが学校からもってくる文章が読めるようになりたい。職場で月1回発表する意見が書けるようになりたい。

受講生の方のこのような思いは、一つの例ですが、生活の中でのみじめさやくやしき・もどかしさを取り除いて、内面の充実した生活をおくりたいとの思いでいっぱいなのだろうと思いました。外国の方は言葉が通じないのですから、なおさらのことでしょう。受講生の方のえらさの一つに、このことをぐちったり、人のせいにするようなことは、いっさいありませんでした。多くの方は、このような生活にじっと耐えてこられたのです。

これらの方々の思いをくみとり「少しでも心の負担を軽くしなければ……」と公民館が識字に取り組んだ意義は大きいと思います。私は識字教室に参加して13年。福生市がいかに市民の一人一人を大事にしているかがよくわかりました。

公民館が、市民に対する基本的な役割をよくふまえ、実践されていることもわかりました。公民館が、市民の生涯学習の場を提供し、市民がまたそれを支えるような運営をめざしているようにも思いました。

## あとがき

私は、13年間松林分館の識字教室に講師として参加させていただいたことを感謝しています。私達は、人としてお互いが思いやっていたら、いつかは理解しあえるものだと思います。同時に母国語は、その国の文化の象徴でもあると思いました。

なぜなら、今（2000年）教室に来ておられる方が、精神的にも一まわりも二まわりも大き

く深くなられたと実感をもって言えるからです。

また、私達と同じように、世界のどの民族も母国語によって、すばらしい文化を創造してこられています。世界の人々がお互いの文化をすなおに理解し合い、ふれ合うことが出来たら、国と国、民族と民族間の抗争も減少し、世界平和へと一歩近づくのではないかと思います。

#### 識字教室に参加して

Kさん (63歳)

私は、識字にお世話になって、2年になります。

福生の歯医者に行って、福生広報を見ていたら、識字教室で生徒募集しているのを知りました。私は福生市はいいな一と思いました。

家に帰って主人に、今日読んできた識字教室のことを話しました。「お母さんが勉強してみる気があれば聞いてみなさい。」と言いました。どうしようかと、私は悩みました。

とにかく電話だけしてみようと思って、電話しました。今思うと加藤先生でした。「待っているから、いらっしゃい。」と言ってくださいました。

私は思いきって出て来ました。1998年(平成10年)4月12日だったと思います。

出て来たものの、松林会館の前で、なかなか中に入れません。今なら間に合う、帰ろうか、どうしようかと、松林の前を行ったり来たりしていました。私は胸がドキドキで、心臓が爆発するのではないかと思います。でも、やる気で出て来たのだからと、気を取り直して中に入りました。

中に入って待っていると、加藤先生がみえました。「私、Kです」と言いました。先生はにこにこして、よく来たねと言って、教室に連れて行ってくださいました。

私が一人っていると、若い女の人が入って来ました。私は今日からお世話になりますと言いました。するとその人は黒板に、私は、江頭晃子ですと書きました。私は、なんて字のじょうずな人なんだろうと思いました。後でわかった。この人が、江頭先生でした。しばらくして、生徒さんたちが来ました。私のほかに、一人中国の人が来ました。

高崎先生がお見えになって、席に掛けられた。みんなで挨拶をしました。加藤先生が、私と中国の人を、今日から来られた方ですと紹介していただきました。加藤先生が、一人一人自己紹介してくださいと言われ、私はあわてて、「Kです。どうぞよろしく。」と言いました。後はよく覚えていません。

今思うと、あの時帰らなくてよかったと思っています。帰っていたら、今の自分がなかったと思います。高崎先生、加藤先生、江頭先生のご指導の賜物と感謝しております。国語辞典も、漢和辞典も引くこともできなかった私を、よく見て教えて下さいました。本当にありがとうございます。

この頃は、郵便局や銀行に行っても、物おじしないで、人の顔を見て話が出来るようになりました。前は人前に入るのが、自信がなくて、いやで、いやでいつも下を向いていました。字が読めないという事は、いつも私の心の障害になっていたのだと思う。

高崎先生は、書けなくても読めればいいと教えて下さいました。私はその言葉に勇気づけられています。今年は、主人に頼まれて、確定申告にも行って来ました。識字に来ていなければ出来なかったことです。2年前までは、考えられないことだと思う。識字で勉強して、本当によかったと思っています。これからも、頑張っ<sup>て</sup>勉強していきたいと思<sup>い</sup>ます。先生始め、皆さん、よろしくお願<sup>い</sup>いたします。

## 識字に参加したこと

○さん (64歳)

私<sup>が</sup>子供の頃は、家が貧乏で学校に行く余裕などなかったです。子供心にも回りの子が学校に行けば、やはり自分も行きたい思<sup>い</sup>が、口には出さなかったけど多々ありましたが、親たちの事を思えば、いやがうえにも言うことを聞いて、我慢するしかなかったのです。親元を離れ、子守奉公に出ました。他人様の家に行けば、朝から夜は寝るまで、自分の時間がほとんどなかった。体で覚えたことは、今でも忘れないのですが、学問だけは本当に困りました。

そんな私<sup>が</sup>親になって、自分の子供には、随分不自由な思<sup>い</sup>をさせたなあと思<sup>い</sup>ます。子供達が社会人になってからは、私の方が代筆を頼んだり、分からない時は、「ねえちょっと、これ教えてよ。」そんな調子で助かっていたのですが、子供達が二人とも結婚して、慌た<sup>だ</sup>しく私のそばからとび去って<sup>い</sup>ってしまった事で、回りの物が白一色にしか見えなくなって、心の整理がつかないでいた時に、私の妹が、教習所で車の免許を取りなさいと強調したので、私は「とんでもない。学校も行ってないのに分かる訳ないじゃん。」私はプーンとした口調で言い返したら、「大丈夫、○×式だから。」と言われて、それならばと思<sup>っ</sup>て教習所に通った。毎回、汗かきべそかきの連続でした。卒業できた時は、大きな山の上で虹を見たような、とても感動した思<sup>い</sup>がありました。

識字教室に参加して、本を読んで感想文を書いたり、作文を書く時も、心の格闘はありますが、体験してみ<sup>て</sup>、発見もあり、感動したり、尊敬する事もたくさんあります。

教習所へ行った事も、識字に参加してみ<sup>て</sup>、どちらも私事ですが、似たような思<sup>い</sup>があるので、今はすごく感動しています。自転車では思うところに行けなかったけど、今度はどこでも行ける。常になにか字を習いたいという思<sup>い</sup>があっても、出掛ける勇気がなかった。

ある時、会館だよりを見て、これだあと思<sup>っ</sup>て、松林会館に電話を掛けて、木曜日の3時に加藤先生が合<sup>っ</sup>て下さることになった。待ちこがれていた木曜日、約束の時間に遅れないよう、早目に家を出て会館に行きました。緊張と不安で堅くなっていたら、加藤先生が見えて、気さくに私の話を聞いて下さったので、子供時代学校に行けなかったこと、読み書きが不自由で、辞書の引き方も分からないので、識字学級に参加したいと思<sup>っ</sup>て来ました。

先生は私の話を聞いて下さった後、授業をしている教室に案内して、私を皆さんに紹介して下さいました。その時、高崎先生、江頭先生、生徒の方が4人いました。教室の皆さんが

とてもあたたかく迎えて下さって、初めてとは思えないほどとても親近感が湧きました。

初めの頃は何も分からないで、どきどきして本を読むことがやっとでした。回を重ねるうちに、高崎先生が細やかで、ゆっくり丁寧に、分かりやすくご指導して下さいるので、少しずつ理解が出来るようになりました。辞書の引き方も、教えて頂いてからは、何でも相談できるお友達が出来たようです。

先生方が、毎回熱心に授業を続けて下さるので、私も一生懸命、無駄にしないよう頑張ります。先輩の方にも難題を言ったりしても、いつも快くアドバイスして下さる。先生方にも何でも話せることが、私の観点の元になっていると思って感謝しています。これからも、這ってでも識字に来たいと願っています。いつまでも識字学級を無くさないで、加藤先生、高崎先生、江頭先生、これからも宜しくご指導下さい。いつも心の中で感謝しています。

## 松林会館と私

(Hさん76歳)

松林会館20周年記念おめでとうございます。

私は、この会館の中の識字教室に来ております。この4月で3年になります。

家庭の事情で学校に行けなくて、読むことや書くことができませんので、孫に勧められたのですが、私はとても恥ずかしく思いましたが、私は覚悟を決めてまいりました。来てみれば、高崎先生、加藤先生、江頭先生はとてもわかりやすく、ていねいに教えて下さいますので、私はとても嬉しく思い、楽しく思いました。

お友達もいい方ばかりで、皆さんがいたわって下さいますので、頑張っって通って行きたいと思いました。こんないい会館を、早く知っておればよかったと思っております。私は一字でも習って行きたいと思っております。私の学校です。私は、松林会館の識字教室がとても好きです。皆さんも、そう思っていられっしょう。

私は、この4月で77歳になります。私は大阪の人間です。主人が平成2年に亡くなって、東京の娘の所に世話になっております。孫が2人おりますが、別に暮らしております。おかげ様で、皆からやさしくしてもらっております。私は毎日とても幸せでございます。大阪の孫は女の子です。その孫に、手紙を書くことができるようになり、孫も、おばあちゃんとても上手になったと言ってくれます。これは識字教室に行くようになってから、こんなに書けるようになったと思うと、とても嬉しくてなりません。私は週に1度は手紙を出すのに、孫からはいつも電話ばかりです。でも、声が聞こえるので楽しみにしています。これからも、もっともっと書きたいと思っております。年をとると、なんでもめどくさくなって困ってしまいます。私は識字教室には、いさんで行く気になります。それは、先生を初め、お友達に会って、いろんなお話しが聞けるのがとても楽しみです。これからもいろんな事を教えて下さい。私も、できるかぎり頑張っってまいりたいと心より願っております。先生方、お友達の皆様、これからもよろしくお願ひいたします。

## 識字教室に参加して

○さん (68歳)

私は家の事情で、小学2年しか行くことができませんでした。常々気軽に学ぶ所があるといいなあーとっていました。ある日、初めて広報ふっさを、何気げ無く見ていましたら、識字学級「ことばの会」と書いた記事が、目にとまりました。これだあーと、思わず叫んでしまいました。しかし私は、年齢のことや、無学に等しいので、トンチンカンなことを言っ、回りの方々に迷惑をかけるのではないかと考えると、電話をかける事もできず、残念ながら諦めました。

あれから2年過ぎたある日、広報ふっさを見ていた娘が、突然大きな声で「お母さんはいつも読み書きができたらどんなにいいだろうと言っていたよね。あったんだよ。場所は松林会館なんですよ。」と、声を弾ませながら話しかけてきました。すっかり忘れていたはずの私は、あー、それって識字学級「ことばの会」って言うのでしょうかと、すかさず言ったので、娘は大変驚いた顔をして、「なーんだ、知っていたの。どうして行かなかったの」と尋ねるので、先に書いたようなことを話しました。すると娘は、「歳なんか関係ないよ。今がチャンスだよ。」と娘に励まされて、今度は迷うことなく電話をかけ、しどろもどろで事情を話したところ、「歳は関係ありません。どうぞいらしてください。」とおっしゃったので、心ときめかせながら家を出ましたが、松林会館へ近づくにつれ、ときめいていた心も不安と緊張でがちがちになり、なかなか中へ入れず、会館と近くの公園を何回も行ったり来たりしながら、やっと見つけた勉強場だから、何が何でもと言う思いでとびこみました。女性の方が笑顔で対応して下さいました。その時松林会館は工事中でした。「4月一杯はかえで会館で授業しています。今、加藤先生は留守なので、私のご案内します。」と言って連れて行って下さいました。とても親切にして頂き、本当に助かりました。

気持ちをおちつかせて、教室へは行ってびっくり。皆さん若い方ばかりで、ついて行くにはちょっと無理だから、帰ろうと思いましたが、せっかく識字教室へ行く切っ掛けをつくってくれた娘に申し訳ないと思い、ふみとどまりました。しばらく窓際につっ立っていましたら、「こんにちは」と笑顔で挨拶されながら黒板の前へ立たれたので、「ああ、この方が高崎先生」とすぐわかりました。若い先生でなくてよかったと、とっさにそう思いました。私が61歳になっていたからでしょう。先生が「新しい方は前の方へ来て、掛けて下さい」とおっしゃいました。私は恐る恐る前の席につきました。まもなく自己紹介が始まりました。聞いていますと、中国、台湾、タイ、韓国、といった方々が7、8人おられました。その時、日本人はSさんという方が1人でした。外国の方の多いのには驚きました。そして、国際色ゆたかな教室だなあーと思いました。私は、見学のつもりで来たので筆記用具は持ってきていませんでしたが、隣の席の方がエンピツと用紙を「どうぞ」と言って下さいました。私はその方に感謝しました。すこし雑談をしていましたら加藤先生が、春の子もり歌という本を「はい」と言って下さいました。私は、もしかしてこの本を読まされるのではと思ったとたん、緊張して貝のように口をとぎしてしまいました。しかし高崎先生は、やさしく、分かりやすい言葉で、

ていねいにご指導して下さい、皆さんは明るくて親切な方ばかりでした。これだったら私もついて行けると思いました。

私は、主人と娘にその時の心境を話したら、娘は「お母さん、よかったね。やっと夢がかなって。」と我がことのように喜んでくれました。主人も「身体に気を付けて、気楽にやればいいじゃないか。」と言ってくれました。家族の優しさに触れて、目頭があつくなりました。

気持ち新たに、識字教室通いが始まりました。最初のころは本を読むのに、唇がわなわなと震えて、スムーズに読めませんでした。高崎先生に質問されても、恥ずかしさで頭が一杯になり、答えるどころではありません。もう、逃げ出したい気持ちで一杯でした。2カ月過ぎた頃から教室の雰囲気にも慣れ、わからない所は先生が、繰り返し、繰り返し教えて下さるので内容がつかめて、本を読むのも楽しくなりました。

半年、1年と過ぎて行く中で、読書感想文や作文の書き方なども教えて頂きました。高崎先生が「今日は皆さんじょうずに読まれたので、感想文でも書いてみましょうか。」とおっしゃると、皆いっせいに拒絶反応をおこして大変でした。Tさんなどは「高崎先生、私は標準語でないだめよ。この本、九州弁だからだめよね。」と言って、笑わせてくれました。

私は3年半前に高崎先生の勧めで生まれて初めて、孫娘を話題に作文を書くことになり、自分の考えを思うように書けない、言葉のむずかしさに苦しみながら、何とか書き上げることができたのは、高崎先生のご指導と、加藤先生の励ましがあつたからこそなしたと、心から感謝しています。

私は、識字学級へ参加して4月で丸5年になります。5年前は書く、読むはまったくだめだったのに、こうして漢字をつかって文章を書いているのがなんだか嬉しいような、恥ずかしいような、不思議な気持ちです。市役所、銀行、郵便局へ行くときも、読むことない、書くことないでしょうねと10回ぐらい念をおしてから行っていたのに、今はへっちゃらです。私自身は何もかわっていないように思っていたけれど、かなり「変身」していることに気づき、心がわくわくしてきます。

和やかな雰囲気の中で、先生初め皆さん方とお茶を飲みながら学べるということは、最高に幸せです。これからも先生方のお力をお借りして、知的変身して行きたいと思います。どうぞご指導のほど、宜しく願いいたします。

平成11年7月17日の悪夢

Tさん(63歳)

この話は私の夫の健康上のことでありますが、以前から“かぜ”をひきやすく、その度“喘息”のような“せき”が出る事が多く、近くのかかりつけの医者に受診していました。ところが11年7月17日、医者からCT検査をしましょうと言われて、CT検査を受けました。そして、主人が家に戻って来たら、医者から電話があり、検査結果が出ましたので話をしますからすぐ

来て下さいという連絡でした。私はその電話で医者と主人の会話を聞いておりましたので、その時私は何となくいやな気がしたのです。私は主人に、すぐ行きましようと言ひ、検査の結果をいっしょに聞きに行きました。ところが、CTフィルムを見ながら医者の話を聞いていた主人は、「肺がん」ではないかと医者に聞いても、医者は「私は肺の専門医ではないので、大きい病院を紹介しますから早く見てもらって下さい」と勧められました。私はその時、目の前が真っ暗くなり頭の中が真っ白くなり、私が病人になったように何の言葉も出なくなりました。全く悪い夢を見ているような気がしました。私はこれまでの人生で、身内の人や友人やテレビなどで「がん」のこわさを聞いたり見たりしましたので知っていましたが、まさか主人の身に「がん」ができたと思うと、信じたくない気持ちでした。

平成11年7月18日、今度はかかりつけ医者の紹介状を持って大きい公立病院に行き、紹介状とCTフィルムを渡し見てもらったところ、「残念ですが肺の右の下と、左の上に肺がんがあります。」と、はっきり告知されました。私はその時、二度悪夢におそわれたのです。しかし、夢がほんとうのことになったのだと気づきました。そして、主人は「やっぱり、がんですか。」と先生に聞きましたが、主人の声はいつもより低く、元気がなかったように思いました。

主人は、その時から「がん」とのたたかいが始まったのです。私はどんなことをしてでも主人の病気を治すと心にきめました。先生からは「今後の治療のため精密検査をやります。そして、病室があいたら入院の連絡をします。」と言われました。検査を次から次といろいろやて行くうちに病院から電話があり、11年8月30日に入院することになりました。入院してからも検査が続き、外科右肺下の「がん」の検査。手術をすることになったのです。その時私は、主人がベッドに横になって手術室に行くのを見送ったのですが、無事にもどって来ることばかり思い、不安でたまりませんでした。手術室に入って4時間過ぎたころ、ようやく出て来ましたが、主人は「ますい」がきいており、眠っているようでした。しばらくして目をさました主人に、私は「がんばったね。痛かったですよ。」と声をかけてやりました。そして、2週間位して再び内科に移りましたが、その部屋は「肺がん」の治療の人ばかり5人で、主人と6人でした。同じ病室の人はみんな良い人ばかりで、治療の話をしてくれました。先生からも治療のことは聞いていましたが、「抗がん剤」で毛が抜けたり、食事が出来なくなることもあります。同室にも頭の毛が抜けた人もおりましたし、食事が出来ないという人もいました。私は、主人もそんなことになるのかと心配でたまりませんでした。先生からは「抗がん剤」と「放射線」で治療を始めますと言われ、1回目の治療で主人は食事が出来なくなりました。私は主人が入院してから毎日自転車で病院に行きました。そのつど主人の食べたい物を持って行くのですが、何を持って行っても主人は「食べたくない」と言うので、私は本当に困りました。主人は、そのため点滴注射を毎日続けました。主人も苦しかったと思います。

入院中そんなことをくりかえし、中から治療を続けた結果「がんの大きさが3分の1まで小さくなったので、通院でやりましよう。」と先生に言われ、11月26日退院しました。その話を先生に聞いたとき、私の気持ちは夢からさめたようになりました。主人の顔を見ると、どんなことがあってもがんばってくれといのるだけです。

平成12年3月2日、検査結果によると「がん」はほとんどなくなったように小さくなったので、

治療は終わりですと話されたとき、私はほんとうに悪い夢から目をさますことができました。私は、主人と結婚して今年で40年になりますが、50年、60年と共に生活を続けることが今の夢です。

私が初めて識字教室に行った時は、字を書くことも読むこともできなかつた。しかし、先生方のおかげでここまでこれたことをほんとうにうれしく思います。高崎先生は、戦争での持病があるのに、私達のためにがんばってくださいしていますので、私はもっともっと頑張りたいと思います。また、加藤先生も透析をしながら、私達のためにがんばってくれていますので、これからも、ずうっと長く識字教室を続けて下さい。

私は平成9年に2月からお世話になっています。おかげさまで少しは本を読んだり、字を書くことが出来るようになりました。これも先生方のお陰です。心から感謝しています。今までは主人にすべておんぶしていましたが、今回主人が病気で入院しても、教室で勉強したため大変助かりました。

## II. 成人の文化事業

### 1. ホビー教室

趣味や文化事業について、1980年（昭和55）につくった事業の方針、成人の趣味の問題を改めて文化活動として捉え、重視してきた。文化事業に対する方針として、①一緒にやりながら、市民が楽しく出会える場を創っていこう。そのために文化事業を大切にしていこう。②市民の持っている技術を伝えあえる場をつくっていこう。そのための情報を出来る限り、市民に伝えていく努力をしよう。③住民の文化的な活動を援助しながら、その活動が共有できる場を積極的に提供していこう、という課題を発展させてきた。

現代の高度な情報化社会と管理社会の中で、人々の生活は日々緊張とストレスを高め、生活者としてのアイデンティティを喪失してきた。1990年代のバブル経済、崩壊後の低成長時代に入り、リストラ、労働強化が一段と強まってきたことも事実である。余暇時間が増えたという事が言われているが、本当に実態がそうなっているだろうか。日本における長時間、超密度の労働環境は先進資本主義国でも有名である。過労死は1990年代ふえているということもまた事実である。こうした中で、改めて、人間らしい自分を取り戻すために、趣味に生き甲斐を求めたり、自己のアイデンティティを確認する場としても、趣味的な活動やレクリエーション活動が注目を集めてきた。しかし、そうしたものが、必ずしも、疎外状況を主体的に切り開く力になっていないという現実があった。人間疎外の状況を主体的に切り開いていく力として、改めて趣味の問題を文化活動の一つとして捉えることが重要な課題であった。

また一方では地域の流動性が激しくなる中で、なかなか地域での人間関係をつくり出すことが困難な時代にもなっている。改めて文化事業は単なる個人的な趣味や文化だけではなく、地域における人間関係を新たに構築していく場の役割を担いはじめた。そこでは、少なくとも、会社や家族とは別な、地域で生活者としての個を取りもどし、地域での生活者として地縁的關係を育む場として重要な位置を占める場所となってきた。

夜間の文化事業にも高齢者の参加も多く、老後の生き甲斐や趣味発見を担う場となっている。陶芸は日曜日に開催されているせいか、若い夫婦や老後の趣味を夫婦で一緒に持つようとしている人々の参加が増えてきている。こうした形で、夫婦単位での参加者が1990年代中頃から見られるようになってきた。陶芸教室の参加者の一人は、「京都からきて、1年半だけで、友達もないので参加しました。1995年、20代夫婦」「7回とは思えないくらいあっという間に感じます。・・・同じ講座に参加された大勢の方々の作品作りを通して、いろいろと話もできました。1999年参加者 30才」と語っている。1994年（平成6）に松林分館に陶芸小屋がつくられたこともあって、陶芸教室は終了後、毎年、サークル化に成功している。1995年水彩画教室も自主サークル化、水墨画も講座終了後、自主サークルとして活動を始めた。

創作教室一覧 1994年(平成6)～1999年(平成12)

平成6年度篆刻教室	平成7年2月3日～3月3日	5回	廻	田端敏氏
1994	篆刻の技術を学び、自分の印を作る。参加者の親睦を図る。			(彫刻師)
平成7年度水彩画教室	平成8年2月3日～3月1日	5回	廻	木住野利明
1995	水彩画の基礎的技術を獲得する。参加者の親睦を図る。			(造形作家)
平成8年度初心者陶芸教室	平成8年5月18日～6月22日	7回	輪	柴田 繁氏
	陶芸の基本技術の習得する。参加者の親睦を図る。			(陶芸家)
初心者木版画教室	平成9年2月7日～3月14日	5回	廻	戸田敏郎氏
	木版画の基礎を学ぶ。参加者の親睦を図る。			(版画家)
平成9年初心者陶芸教室	平成9年5月11日から6月15日	7回	輪	柴田 繁氏
	陶芸の基本技術の習得する。参加者の親睦を図る。			(陶芸家)
水墨画教室	平成10年1月27日～3月31日	10回	廻	山本瑞謙氏
	墨絵の画法の技術の獲得する。参加者の親睦を図る。			(日本画家)
平成10年度初心者陶芸教室	平成10年5月17日～6月21日	7回	輪	柴田 繁
	陶芸の基本技術の習得する。			(陶芸家)
初心者水墨画教室	平成11年1月27日～3月3日	10回	廻	山本瑞謙氏
	墨絵の画法の技術の獲得する。			(日本画家)
平成11年度初心者陶芸教室	平成11年5月30日～7月4日	7回	輪	柴田 繁氏
水墨画教室	平成12年1月28日～3月31日	10回	廻	山本瑞謙氏

## 2. ひだまりハイキング

春日よりの自然の中で、地域の間人関係を豊かに育んでいく機会として、1980年から続いている事業である。1990年代は、主に、秩父、奥武蔵を中心に、ハイキングを実施してきた。その指導を小野寺久雄氏にお願いをしてきた

年度	年・月・日	目的地	参加者数
平成元	平成元年10月8日	都民の森・奥多摩	33
2年	3年 3月17日	青梅永山公園・梅の公園	11
3年	4年 1月6日	青梅七福神めぐり	33
4年	5年 3月30日	五常の滝一鎌北湖	13
5年	6年 3月29日	御岳・吉野梅郷	8
6年	雨天中止	秩父番所めぐり	
7年	平成8年 3月28日	13・26・27・28番札所	18
8年	平成9年 3月19日	宮の倉山・石尊山	15
9年	10年 3月25日	巾着山・金刀比羅神社	6
10年	11年 3月26日	観音寺・秩父神社	15

6.

松林分館の高齢者事業

さつきひろばの活動

1990年(平成2)～1999年(平成11)



さつきひろばのバス旅行

## 6. 松林分館の高齢者事業 さつきひろばの活動

### (1) はじめに

わが国でも、1970年代に入って高齢化社会へのきざしが見えはじめており、今や人生80年の時代と変わってきた。人生80年の時代において、如何に豊かに生きるかが課題になってきた。会社勤めを終えて定年を迎えた人達を例にとると、その人達は第1の人生、第2の人生を無事クリアして、新たに第3の人生をスタートさせることになった。60歳で定年の場合、退職後の人生の平均寿命から考えると、約15~20年残されている。この退職後の人生をどう過ごしていくのかは、本人にとっても、まわりの人々にとっても重要な問題となった。年齢から考えても、もっと働きたい人、自分の趣味を楽しみながら人生を送りたいと言う人、自由な時間もっと勉強したい人、いろんな分野があるが、こうしたことを考えるのは、なかなかむずかしい事だと思う。。自分として、これからの人生設計をどう描き、できるだけ、これに近づいた悔いの残らない人生を送りたいと思う。それは出来れば、その年齢の前に具体的なものが見つければもっと、豊かな老後にはなるだろう。いま、生涯学習といわれ、高齢者の学習意欲はますます高まってきている。それに伴って、高齢者の要求にどう応えていくのかが大きな課題となってきた。

### (2) 松林分館の高齢者事業の経過

福生市の公民館で、高齢者事業の取り組みが始まったのは1980年(昭和55)10月、本館で準備会がはじまった。実際の事業が展開されていくのは1981年(昭和56)、「語らいの広場」という名称で、本館・白梅分館・松林分館・扶桑会館の4か所で始まる計画であった。本館では「語らいの広場」、白梅分館で「熟年ひろば」として開設をしている。それぞれ高齢者のなかま作りや生きがいづくりを目標として講座がくまれていった。

松林分館で具体的に、高齢者を対象にした講座「さつきひろば」が始まったのは、1992年(平成4)からであった。事業は9月10日から11月26日にかけての10回、その内容は陶芸、福生市の歴史、高齢者の健康、バス旅行で、参加者36名であった。この最初の事業は東氏がになった。

#### ○プログラムは市民との共同で

1993年(平成5)にこの事業を担当した千羽氏は「公民館紀要—1993年度—」の中で「先ず準備会を開催し、とりあえず、今後の学習方向づけをしようと言うことに決まりました。準備会は市民と職員が共同しながら、学級や講座の編成していく場であり、公民館での学習は、参加者と職員がそれぞれのテーマに対して、充分話し合いながら、自分たちの学びたい課題を明確にしていく場です。プログラムを編成していく作業を共に創っていくものです。このような趣旨に基づきながら、「さつきひろば」に集まっていた

いた方の中から、毎回5～8名の方に出席していただき4回の準備会を持つことができました。1回目は5月14日に実施しました。まず自己紹介ということで、生い立ちと現在に至るまでの自分の歴史をいろいろな体験談を交えて話していただきました。私たちが経験出来ない大変貴重な話しを聞き、みなさんのさまざまな生き方が伝わってきました。

(略) ちなみに、参考テーマとしては、「老後の生き甲斐」「自分の歩んできた道のり」「古い住居」等が上げられました。第2回の準備会が行われ、プログラムの学習内容について、具体的にどんなことがやりたいか、どんなことが知りたいか、いろいろと検討していただいた。その結果は、

- 人生を歌い、語り合う
- 検察審査制度について勉強する
- 体の仕組みと高齢者の体の変化を知る
- 健康のための栄養と料理を学ぶ
- 若さを保つための体操を行う
- 市の福祉事業について勉強する
- お茶室を使って茶道を体験する
- 本の朗読を学ぶ
- 植物園の見学をする
- 遺跡の発掘経過等の話を聞く
- 福生の歴史について学ぶ

さらに話し合い検討を加えて実施回数と日程等の調整がされました。そして平成5年度「さつきひろば」は9月9日から12月16日の期間、計10回のコースで実施することに決定しました。

と準備会の様子とプログラムの決定過程を報告している。

この年の最終プログラムは

(1) 自己紹介 語り合い、(2) 若さを保つ栄養と料理 講演、(3) 実習、(4) 検察審査制度について、(5) 小江戸「川越」の町並み散策 (6) 高齢者の陥りやすい病気とその予防法、(7) 若さを保つ体操、(8) 福生の歴史、(9) 悪徳商法について、(10) お茶室を使おう の10回の講座となった。

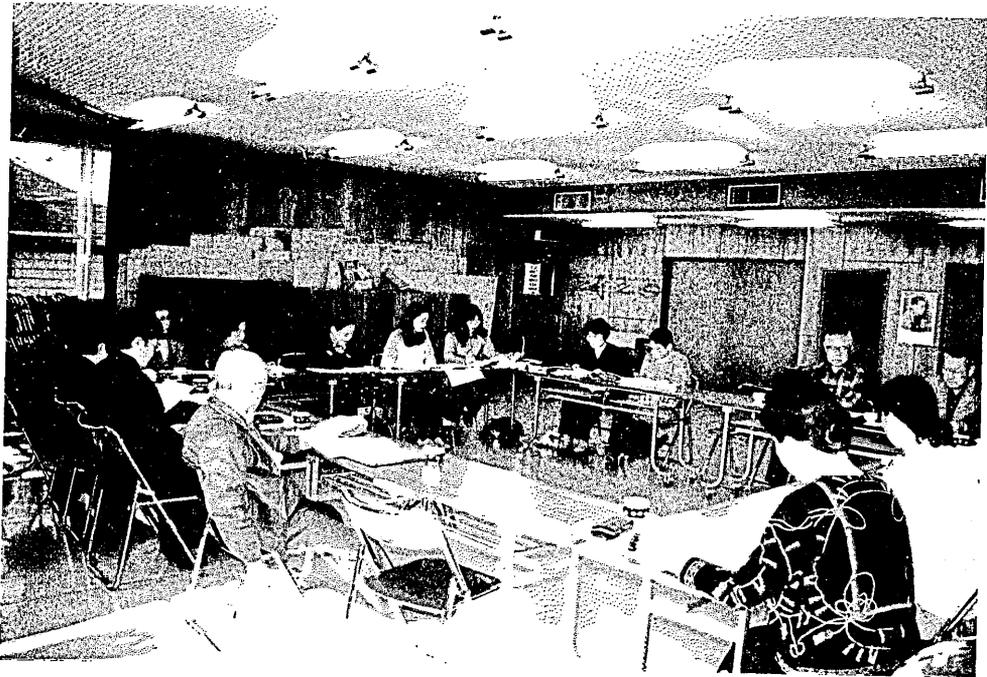
以後、体操と見学会を中心としたプログラム編成となった。その申し込み人員も70～80名近くなっている。講座終了後サークル「さつき」と活躍を続けている。その人数はいま80人におよんでいると、その代表の澤田 寛氏は語っている。

今後、高齢者の課題はますます重要さをまして来るだろう。今後の取り組みの課題として、老後の健康維持の課題、看取り、介護、等含めて、地域福祉の担い手として、老後の生活環境をどう豊かに地域でつくっていくか、大きな問いが出されている。

VI.

松林分館利用者交流会  
1990～1999年

- 松林分館利用者交流会
- 松林分館利用者交流会学習会
- 保育室 利用者交流会
- 保育室 利用者交流会学習会
- 陶芸サークル利用者連絡会



利用者交流会会議

## VI. 松林分館利用者交流会

1990(平成2)～1999年(平成11)

### 1. 利用者交流会

松林分館のように小さな施設は、その運営に直接どれだけ、公民館の利用者が主体的にかかわっていくかが、また、その場をどう組織していくのかが大きな課題となった。

松林分館の運営方針の一つに、「より使いやすい公民館をめざしての条件整備として、①利用者交流会の充実。市民の自主的な教育・文化活動を豊かにしていくためには、利用者の活動の深まりと広がりが必要な柱になります。そのためにサークル間の交流活動を豊かにしていく場として利用者交流会や保育室利用者交流会の充実に努めていく。その定期的な開催に努力していく。」と運営方針には書かれています。

「松林利用者交流会」は1980年(昭和55)4月24日に「利用者と職員の交流会」として始まった。分館運営についてさまざまな要求や希望が出せる場であり、利用するサークルやグループの交流を図る場として出発をした。松林分館利用者交流会の初代代表、橋本 増子(文章サークル会長)副代表、溝淵幸太郎氏(祖親と子の映画を見る会)や「だれでもなんでも展実行委員会」が1980年(昭和55)に組織された。以後松林分館と共に歩んできた。その歴史も2000年には20年の歴史をきざむ。毎年、その年々の運営方針を館側から報告し、1年間の活動の方向を利用者と共に作ってきた。この利用者交流会や「だれでもなんでも展」の実行委員会を加えると毎月1回は確実に利用サークル全体の代表者は顔をあわせている。

1996年(平成8)利用者交流会では、福生市公民館長から「公民館における生涯学習の在り方」について公民館運営審議会に諮問しその答申が8月に出されるが、答申の経過と答申の骨子が報告された。その答申原案に対する意見が活発におこなわれた。1996年(平成8)建物管理や庭の管理を担っていた「シルバー人材センタ

利用者交流会・だれでもなんでも展実行委員会・年度別回数									
年 / 回数	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10
利用者交流会	4	9	2	2	3	3	2	2	4
だれでもなんでも展	10	9	11	11	10	10	12	10	9
計	14	18	13	13	13	13	14	12	13

ー」からの委託職員の予算が削減されることが、明らかになり、緊急の利用者交流会が開かれた。その時は、白梅分館からも、何人かが参加して合同の会議となったこともあった。保育サークルの一人が「ここは、高齢者の方がすごく気軽に発言しているのね」と活発に話し合いをしている利用者交流会の雰囲気を語っていた。

「公民館のつどい」は福生市公民館3館の利用者が集まって、暮らしの課題や地域の課題を分科会を通して話し合い、改めて、公民館活動の意義を確かめあう場として年に1回、開かれている。1998年(平成10)から、各分館で、分科会を担当することになった。

分科会の取り組みも利用者交流会が中心になって、1998年は、「子どもと大人・子育てを見つめ直そう～」をテーマに、1999年（平成11）は、「老人と若い人・世代を越えての交流—家族をめぐって—」の中心的な役割をになった。この間の利用者交流会を担った人々は・1990年（平成2） 代表、溝淵幸太郎氏（親と子の良い映画を見る会代表）、副に小川由利子氏（福生市剣詩舞同好会）。1991年（平成3）代表、溝淵幸太郎（親と子の良い映画を見る会）、副に小川由利子氏（福生市剣詩舞同好会）が選ばれている。平成5年から代表1名、副代表2名となり、1998年から、代表1名、副代表1名と、但し、利用者交流会の運営上の問題として必ず、前副代表が、次年度の代表を務めるということになった。以後、松林分館利用者交流会を積極的に担ってくれた人々は下記の表に一覧した。

平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
中村ゆかり氏 (シュガー)	大重一郎氏 (囲碁会)	滝沢昭子氏 (サークル清歌)	滝沢昭子氏 (サークル清歌)	澤田 寛氏 (さつき会)	亀山マサ子氏 (コールレベン)	高崎文江氏 (シュガー)
大重一郎氏 (囲碁会)	星野正己氏 (つくの会)	小川由利子氏 (剣詩舞同好会)	奥山豊美氏 (おもちゃ箱)	田淵裕子氏 (絵本の会)	高崎文江氏 (シュガー)	持田昭子氏 (コール・コスモス)
星野正己氏 (つくの会)		波岡真砂子氏 (コーラス虹)	溝淵幸太郎氏 (親子映画代表)			

松林分館は全体の利用者交流会だけではなく、分野別の利用者交流会が組織されてきた。例えば、1986年（昭和61）には、保育室利用者交流会、1996年に、陶芸のサークルが陶芸サークル利用者交流会が組織されていった。

## 2. 利用者交流会学習会

公民館を利用するサークルが、その活動を通して、自分達の活動を豊かに発展させていくと同時に、その教育・文化活動がなぜ、公で保障されているのか、自分達の活動がなぜ、社会性を持っているのか、を絶えず考えながらの活動でないと、公民館は単なる貸し部屋へと転化していこう。教育機関としての公民館の役割を、利用するサークルやグループが意識的に認識しあうことは、非常に大事なことである。それは、まさに公民館の要であると言える。公民館で活動することの意味や社会性を改めて確認しあっていく場として利用者交流会学習会を開催してきた。具体的には下記の様な研修を実施してきた。

平成2年度	平成3年度
平成3年3月2日（土）	平成4年3月28日（土）
「生涯学習振興法と公民館」	「公民館を100倍楽しむ方法」
講師 長澤成次氏（千葉大学助教授）	講師 重本弘子氏（元東村山公運審委員）
平成4年度	平成5年度

平成5年3月24日

生涯学習とはどんなことか

講師 島田修一氏(中央大学教授)

平成6年度

平成7年2月24日(土)

「民間事業者に公民館が開放されこと」

(社会教育法23条解釈をめぐって

講師 長澤 成次(千葉大学助教授)

平成10年度

平成10年4月28日

「社会教育の公共性について」

講師 朝岡幸彦氏(東京農工大助教授)

平成6年3月19日(土)

市民が創る生涯学習計画

立川叶子氏(東大生涯学習研究会)

平成8年度

平成9年3月15日

「公民館活動とはなにか

サークル・グループ活動」

講師 進藤文夫氏(中央大学教授)

### 3. 公民館運営審議会委員の選出

社会教育法29条は「公民館に公民館運営審議会を置く。」と定め、第30条で公民館運営審議会の委員の選出母体を決めている。松林分館利用者交流会の大事な役割の1つに公民館運営審議会委員を選出する役割がある。この1990年から1999年まで、以下の人に公民館運営審議会へ松林代表として選出してきた。

氏名	任期	
滝沢昭子氏(隣誼)	1991年(平成2)～1994年(平成6)	3月31日
溝淵幸太郎氏(親睦)	1995年(平成7)～1994年(平成8)	3月31日
中村けい子(シユガ)	1999年(平成9)～1997年(平成10)	3月31日
佐々木京子(シユガ)	1998年(平成10)～2000年(平成12)	3月31日

滝沢昭子委員の時は「福生市公民館の生涯学習の在り方について」の諮問に対する答申作成で、溝淵幸太郎氏は「福生市における市民の学習動向と今後の公民館事業」の諮問での審議で活躍をいただきました。

## 公民館運営審議会委員になって

中村けい子（シュガー）

松林分館の利用者の人達でつくっている「利用者交流会」から利用者の代表として、公民館運営審議会委員（略して公運審）に選ばれて一期（2年間）勤めさせていただきました。公運審になるまでの私の公民館に対する認識は「市民が学び合う場、サークルが無料で借りられる場」というところでした。

しかし公運審としての審議会、各市の公運審との委員会、研修会、関東甲信越静ブロック大会、東京都公民館研究大会などに参加する中で、公民館に対する認識が「公民館とは、市民の税金で成り立っている社会教育機関であり、それは、市民が主体であるということ、そして、公民館で得たことは自分のものだけにしないで、何らかの形で市民に返していく場ではないか。」というふうに変わっていきました。

市民が主体の公民館というのは、例えば、松林分館で現に行っている「だれでもなんでも展」です。それは松林を利用している各サークルが一年間の学びの発表の場であり、同時に地域の人々の文化的営みを掘り起こし、地域の人達と交流する場でもあります。

この実行委員会は市民がつくり、職員が一緒になって、取り組むものです。

松林分館利用者代表の公民館運営審議会委員とは、利用者の公民館に対する意見や要望をとりあげ、市民が主体的に公民館で活動していけるよう、そして、市民にとってよりよい公民館となるよう利用者と公民館を結ぶパイプ役的存在です。

しかし、昨年社会教育法が改正され、今まで10名いる公民館運営審議会委員は学識経験者2名、学校長1名 各団体から7名選出されていましたが、その枠が取り外されました。間口が広がったといえますが、しかし、自分達の要求や意見を取り上げてくれる公運審が身近にいと、いないとは大いに違いがあると思います。

このことは、現在の公運審が今まで通り選出できるよう市の条例に入れてくれるよう要望書を提出していくなど、取り組みを考慮中だということです。

市民が主体である公民館なので、公民館をより良くしていくのは市民です。私も市民の一人として、公民館が市民主体として、学べる公民館、普段着姿で仲間と集える公民館であり続けるよう、できるところで協力し、これからも公民館に関わって行きたいと思っています。

#### 4. 保育室利用者交流会

松林分館では、1979年（昭和54）に開館し、保育室の開放を「ヨガサークル」から受けて、共同保育を前提に保育室開放を行ってきた。その後、家庭教育学級等の参加者が自主化し、保育室の利用が日曜日を除いて満杯となった。1983年（昭和58）12月15日に、公民館職員と保育室利用者との間で、会場の占有化問題をめぐって話し合いが行われ、曜日の決定を3か月ごとに、移動するということが決まった。「同じ部屋を使ってもなかなか話し合う機会か持てない状況を何とかして、活動の中身の交流や保育にかかわっての交流をしっかりとしたい」という意見が出されて、保育室利用サークルと職員で「保育室利用者交流会」が組織された。その後1990年代に入って、少子化傾向もあって、保育室を使用するサークル数が減少していく。1990年には6サークルであったが1995年には3サークル、1997年 おもちゃ箱、ももたろう、絵本の会の3サークル 1998年、おもちゃ箱、ももたろう、おひさま、加えて、家庭教育学級2コース。保育室の利用は、松林分館の近くに武蔵野台地区児童館が建設され、1998年から活動を続けているのが「ももたろう」「おもちゃ箱」の2サークルになった。現在はこの2つのサークルと講座「家庭教育」に係わる保育者、館の職員で松林保育室利用者交流会を開催している。乳幼児のより良い発達環境を創っていくために、1年1回保育室学習会を開催し、研修の場としている。

#### 5. 陶芸サークル利用者交流会

松林分館に1994年に高齢者学級「さつきひろば」を中心としたさまざまな人の努力によって、陶芸小屋が建設された。その後、陶芸教室をホビー教室の一つとして毎年開催しているが、現在、一会窯、陶炉の会、つくの会、彩、あじさい、ぐるーぶ焰、釉々、の7サークルが活躍する事になった。1996年、陶芸小屋の運営にかかわって、利用者と松林分館職員とで、「陶芸サークル利用者交流会」が組織され、窯使用の仕方や管理についてや、サークルの運営等も含めて、サークル間の交流する場として1996年に設けられ、毎年、必要に応じて開くことにしている。

#### 6. 松林分館のサークル活動

公民館事業の一つの大事な柱に、市民の学習、文化活動の場を保障する役割が在ります。1979年に出された「新しい公民館像をめざして」（東京都社会教育部発行）の中でも「公民館は住民の集団の拠点です。」と書き、「住民自治にとっての基本は住民による自主的な集団活動が、多方面において活発に展開されていることです。そのためには、まず集団活動に必要な場が確保されなければなりません。（中略）活発に展開された諸活動が地域や市全体の生き生きとした文化を創造し発展させていくための拠点ともなるような連帯と運営が大切であり、そのための連絡や条件整備など触媒的役割を果たす職員の存在も必要とされます。」と書かれている。サークルやグループがどれほど豊かな活動をしていくかは、公民館にとって一番大事な課題である。

松林分館を拠点として活動するサークルは1990年（平成2）36団体、1993年

36団体、1996年(平成8)38団体、1999年、42団体である。

## 皆さまの暖かさに支えられて

—利用者交流会の代表を務めて—

高崎文江(平成11年度代表)

平成10年度・11年度と利用者交流会の副・正委員長を受けて、2年が過ぎようとしています。10年度から“公民館のつどい”の分科会を各館で一つ担当することになりました。

松林の利用者交流会では

10年度 「子どもと大人の社会」いまこどもたちは遊んでいる? 遊ばれている?

—子育てを見つめ直そう—

11年度 「老人と若い人。世代を越えた交流」—家族をめぐって—  
という分科会を持ちました。

10年度には年明けの寒い中、保育室を活動の拠点にしているサークルや、松林のサークルの方が大勢つどって下さり、子育ての悩みや思いを出し合ったり、それに返しての意見を出し合ったりと充実した分科会でした。

11年度は“だれでもなんでも展”の時期と重なったりし、なかなか話し合いの時間がとれずとても心配でした。が「別な日を設けてじっくりと話した方がいい」との提案があり、数回の分科会に向けての話し合いを経て、当日を迎えることかできました。

丁度青少協の行事と重なりましたが終わってから駆けつけてくれたり、自分は参加出来ないけど、代わりの人が、・・・等。皆さんの向けてくれる暖かさが、とてもうれしかったです。

初めは、「時間がないから」「むずかしくて・・・。」等々、参加を渋っていた方々も耳を傾け、自分なりの意見をはっきりと出して下さいました。そのやりとりを聞きながら、松林のサークルの人達はすごい。内心で手をたたきました。

10年度は亀山さんのリーダーシップに学び、11年度は持田さんの力強さに支えられ、みなさま方の多大なるご協力と職員の方々の方向づけで乗り越えられました。目と目を合わせ、言葉で伝え合う。これこそ、人間の交流そのものなんだと実感した2年でした。





VII.

松林分館主催事業一覧

1990(平成2)～1999年(平成11)

- こどもの事業一覧
- 女性問題解決にむけての事業一覧
- 成人の事業一覧
- 利用者交流会



PTA講座の広報紙づくりの実習  
指導する 前橋弘子先生

# 子どもの事業一覧表

1990年(平成2)～1999年(平成11)

平成7年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
1999	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999

こども舞臺 ○—午前—○

カキム教室 ○—午後—○

ハチロー教室 ○—午後—○

子ども教室 ○—午後1時～4時30分—日曜日

劇団アウタスアウタ ○—土曜日午後1時30分～5時

夏休み創作教室 観劇土形 大きなお面 大きなお面 動物を作る 大きなお面

午前 午前 午前 午前 午前 午前 午前

おもしろ科学クラブ 空気 気体 電気 光

ホームシアター ○—土曜日 午後2時～3時

### サバイバル教室

期間 平成元年7月22日(土)～8月23日(水) 全8回 参加者 延105人  
 講師 佐久間直冬氏、坂本隆氏、佐藤克年氏、村井基樹氏、星野恵子氏

月日	内 容	講 師
7.22	オリエンテーション、自己紹介、室内ゲーム、他	栗原 玄氏 (日本将棋連盟 福生支部)
26	みんなで料理を作ってみよう	
8. 2	室内ゲーム	
9	川にテントをはって、遊ぼう	
11	キャンソフの準備会	
15	キャンソフ 買い出し、山歩き、キャンソフファイヤー	
16	川遊び	
23	反省会	

期間 平成2年7月15日(日)～8月29日(水) 全9回 参加者 延144人

月日	内 容	講 師
7.15	オリエンテーション、自己紹介	栗原 玄氏 (日本将棋連盟 福生支部)
22	カレーライオンづくり	
25	都民の森から三頭山をハイキング	
8. 1	菅西臨海水族園の見学	
3	キャンソフの打ち合わせ	
7	キャンソフ キャンソフファイヤー	
8	近くの滝までハイキング	
22	紙飛行機づくり	
29	紙飛行機とばし、反省会	

### こども将棋教室

期間 平成3年7月24日(水)～8月29日(木) 全11回 参加者 延88人

月日	内 容	講 師
7.24～25	将棋のルールと知識	栗原 玄氏 (日本将棋連盟 福生支部)
7.31～8.1	将棋の指し方	
8.7～8.8	駒落ちの指し方	
8.14～15	やさしい戦法	
8. 22	遠足(菅西臨海公園及び将棋会館)	
8.28～29	詰め将棋と必至	

### こども将棋教室

期間 平成2年2月25日(日)～4月2日(月) 全10回 参加者 延110人

月日	内 容	講 師
2. 25	駒の動き方、駒の呼び方、盤面の符号を暗記しましょう	栗原 玄氏 (日本将棋連盟 福生支部)
3. 11	将棋のルール、読み、詰め方	
25	必至(確実に勝つ手)	
26	戦型(やぐら囲い、みの囲い)	
28	効果的な動かしかた	
29	戦い方の急所(二枚落ち戦)	
30	”(平手戦)	
31	実践、詰め将棋	
4. 1	” ” 必至	
2	総括、質問	

期間 平成3年3月24日(日)～3月31日(日) 全7回 参加者 延56人

月日	内 容	講 師
3. 24	将棋を始める前に(基本的な知識・ルールと常識)	栗原 玄氏 (日本将棋連盟 福生支部)
25	駒の効果的な使い方(駒の働き、駒の連携)	
27	”(応用編)	
28	将棋の基本的な指し方 ①玉の囲いと駒組の仕方	
29	” ” ②囲いのくずし方・必至	
30	駒落ち将棋(六枚落ち・二枚落ち)	
31	平手戦の指し方(相矢倉等・まとめ)	

### パッチワーク教室

期間 平成元年8月2日～8月5日 全4回 参加者 延46人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 2	パッチワーク	型紙を作る、作品を決める	深瀬恵子氏 (パッチワーク 研究家)
3		パジャマ入れ、さいふ、人形を作る	
4		”	
5		作品完成	

パソコン教室

期間 平成8年3月28日～4月1日 全4回 参加者 延12人

月日	テーマ	内容	講師
3.28	パソコン	型紙を作る、パソコンの基礎	深瀬恵子氏
29		手さげバッグを作る	(パソコン
30		"	研究家)
4.1		作品完成	

夏休み創作教室 紙粘土教室

期間 平成6年8月23日～8月26日 全4回 参加者 延72人

月日	テーマ	内容	講師
8.23	デザインを考える		滝沢昭子氏
24	人形制作		(公民館運営審
25	" 着色		議会委員)
26	着色・合評会		

夏休み創作教室 お面を作ろう

期間 平成7年8月23日(水)～8月25日(金) 全3回 参加者 延45人

月日	テーマ	内容	講師
8.23	木の枝を使った大きなお面	組み立て	木住野利明氏
24	デザイン、彩色		(造形作家・絵本作家)
25	彩色・完成・合評会		

夏休み創作教室 一握の枝を使って大きなお面や動物を作ろう

期間 平成8年8月21日(水)～8月23日(金) 全3回 参加者 延15人

月日	テーマ	内容	講師
8.21	お面や動物のデザインを考える・形を握の枝で作る		木住野利明氏
22	お面の土台に和紙を張る		(造形作家・絵本作家)
23	彩色・完成		

期間 平成9年8月27日(水)～8月29日(金) 全3回 参加者 延30人

月日	テーマ	内容	講師
8.27	作るものを決めよう	お面・動物・紙張り	木住野利明氏
28	紙張り		(造形作家・絵本作家)
29	彩色・完成		

内容

月日	内容
1.30	98年度作文集版下制作、98年度作文集校正について
2.3	" "
6	" "
7	" "
10	" "
11	" "
13	" "
14	98年度作文集完成

夏休みおもしろ科学・歴史教室

期間 平成3年8月12日(月)～8月21日(水) 全4回 参加者 延20人

月日	テーマ	内容	講師
8.12	気体の重さを計る・重い気体、軽い気体		田中正夫氏(中学教諭)
14	電気の性質・静電気		斎藤明朗氏(養護学校教諭)
19	玉川上水について		田村光男氏(中学教諭)
21	福生の歴史		立川愛雄氏(市史編纂委員)

夏休み面白科学教室

期間 平成10年8月4日(火)～8月7日(金) 全4回 参加者 延52人

月日	テーマ	内容	講師
8.4	光の性質を調べる・光の3原色・光で遊ぶ		斎藤明朗氏
5	日写真を作ろう・見える光、見えない光・光のエネルギー		(埼玉和光養護学校教諭)
6	立体眼鏡を作る・立体映像・立体眼鏡制作		中川美奈子氏
7	人の目の構造・牛の目玉を解剖する		(元啓明高校生物教諭)

子ども教室

期間 平成元年5月27日(土)～9月30日(土) 全21回 参加者 延735人

月日	テーマ	内 容	講 師
5.27	仲間作りのエポック	オリエンテーション、自己紹介、レクリエーション、室内ゲームで楽しもう	担当職員
6. 3		室内ゲームで楽しもう	
11		野外ゲームで楽しもう	
17		作って遊ぶ 割りばし鉄砲	
25		竹笛を作る	
7. 1		公園で遊ぼう かに坂公園であそぶ	
9		川原に出かけよう 多摩川原で川遊び	
13	野外活動のエポック	草花丘陵をたんけんしよう	
23		野外活動の基礎 キャンプ計画を作る	
30		訓練キャンプ	
8. 5		キャンプ準備、買出し	
11		本キャンプ (五日市青少年キャンプ村)	佐藤克年氏
12		草花たんけん 草花丘陵を歩く	担当職員
17-19		自転車ですごす 自転車解体しよう	
9. 2		自転車ですごす	
23		自転車ですごす	
30		自転車ですごす	

期間 平成2年6月9日(土)～10月12日(日) 全20回 参加者 延600人

月日	テーマ	内 容	講 師
6. 9	仲間作りのエポック	ゲームを覚えよう 室内ゲームのいろいろと指導法	担当職員
16		野外ゲームのいろいろ	
23		作ってみよう 竹笛、割りばし鉄砲	
7. 1		たんけんに出よう 多摩川、川遊び	
8		竹笛、割りばし鉄砲	
15		竹笛、割りばし鉄砲	
22	野外活動のエポック	草花丘陵	
30		草花丘陵	
8. 5		松林ワークキャンプ 松林の庭で1泊2日	
10		松林ワークキャンプ 松林の庭で1泊2日	
11		キャンプの基礎知識を学ぶ	

月日	テーマ	内 容	講 師
16-18	野外活動のエポック	本キャンプ(五日市青少年キャンプ村)2泊3日	担当職員
9. 9		たんけんに出よう 草花丘陵を歩く	
15	創作活動のエポック	みんなで作ろう 自転車解体	
22		自動車を作る 自動車の組み立て	
29		自動車を作る	
10. 5		自動車に乗って遊ぶ	
12		自動車に乗って遊ぶ	

期間 平成3年5月24日(金)～12月14日(土) 全25回 参加者 延750人

月日	テーマ	内 容	講 師
5.24	仲間作りのエポック	オリエンテーション、楽しく遊ぼう、ゲーム	担当職員
1. 30		楽しく遊ぼう、室内ゲーム	青年指導者
6. 1		室内ゲーム	村井基樹氏
8		野外ゲーム	佐藤克年氏
15		野外ゲーム	
22		作って遊ぶ 割りばし鉄砲、竹笛づくり	
7. 6	野外活動のエポック	公園で遊ぶ	
13		多摩川で遊ぶ	
20		たんけんしよう、草花丘陵、多摩川	
27		松林ワークキャンプ(松林分館前庭)	
8. 3		松林ワークキャンプ	
9		松林ワークキャンプ	
10		松林ワークキャンプ	
14		キャンプ実習父母説明会	
15-17		本キャンプ (五日市青少年キャンプ村)	
9. 7	創作活動のエポック	多摩川原をたんけんする	
14		紙ヒコウキを作る	
21		自動車を作る 設計を考える	
28		自動車を作る	
11. 2		自動車を作る	
9		自動車を作る	
16		自転車解体する	
30		自転車解体する	
12. 7		自動車の土台を作る	
14		自動車の土台を作る	
21		自動車の土台を作る	

平成4年8月17日(月)～8月21日(金) 全4回 参加者 延44人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
8.17	科学模型	空気大砲	担当職員
19		"	
20	トリックおもちゃ	ゲルゲル飛行機	
21		"	

期間 平成4年12月13日(日)～平成5年2月28日(日) 全10回 参加者 延80人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
12.13	凧を作ろう	凧作り、ダイヤ凧	担当職員
20		ダイヤ凧に絵をつける	
27	凧をおげよう	かに坂公園で凧をおげる	
1.17	ペーパークラフトを	ペーパークラフトで動物作り	
24	作ろう	"	
31	多摩川をたんけん	多摩川原で遊ぶ	
2.7	しよう	多摩川原のあし原たんけん	
14	凧を作ろう	竹笛、紙笛作り	
21	草花たんけん	草花丘陵で遊ぶ	
28		" 多摩川原で遊ぶ	

期間 平成5年6月13日(日)～12月5日(日) 全24回 参加者 延480人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
6.13	仲間作りのエポック	ゲームを覚えよう(室内ゲーム)	担当職員
20		"	
27		"	中学生指導員
7.4		笛、割りばし銃砲を作る	坂垣浩太郎
11	野外活動のエポック	多摩川で遊ぶ	高崎宏一
18		"	村田啓祐
25		"	
8.1		予備キャンプのプログラム作り	青年リーダー
7-8		松林予備キャンプ実習	佐藤克年
12		キャンプ父母説明会	村井基樹
15-18		本キャンプ(五日市青少年キャンプ村)	
9.5	創作活動のエポック	ペーパークラフト(飛行機・動物)	
12		"	
19		陶芸	
26		"	

平成6年5月29日(日)～10月2日(日) 全15回 参加者 延360人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
5.29	仲間作りのエポック	室内ゲーム	担当職員
6.5		"	
12		割りばし銃砲、的当て	
19		野外ゲーム	
26		"	
7.3	野外活動のエポック	多摩川原で遊ぶ	
10		多摩川、川渡り	
17		多摩川で遊ぶ	
24		笛作り	
31		多摩川で遊ぶ、川渡り、草花丘陵ハイク	
8.6-7		予備キャンプ実習(松林分館の庭)	担当職員
14		キャンプ話し合い	名々井美帆他
18-20		本キャンプ(五日市青少年キャンプ村)	
9.11		多摩川で遊ぶ	担当職員
18	創作活動のエポック	粘土創作	
25		"	
10.2	野外活動	多摩川で活動	

期間 平成7年6月4日(日)～12月23日(土) 全20回 参加者 延500人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
6.4	仲間作りのエポック	ゲーム	担当職員
11		" 室内ゲーム	中学生リーダー
18		ゲームで楽しむ、野外ゲーム	
25		手作り玩具づくり、紙飛行機づくり、笛づくり	
7.2		野外ゲーム、野外で遊ぶ	
9		"	

月日	テーマ	内容	講師
7.16	野外活動のエポック	たんけんに出かけよう 多摩川の川原	担当職員
23		草花丘陵	中学生リーダー
30		多摩川羽村の堰	
8. 6		多摩川、羽村ハイキングコース	
12-13		予備キャンプ(松林分館前庭) 幕営	担当職員
15		本キャンプ打ち合わせ、父母会	中高生リーダー
16		” 買い出し	
17-19		本キャンプ(五日市青少年キャンプ村)	
9. 3	創作活動のエポック	ペーパークラフト	担当職員
10		”	
17		”	
10. 8	野外活動のエポック	登山の計画	6年生リーダー
22		登山の計画(御岳から鳩の巣へ)	を中心に中学
11. 5		案内作成・しおり作成	3年生リーダー
26		御岳実踏(中学生リーダー、小学生リーダー)	
12. 3		御岳～鳩の巣コース	
23	クリスマス会	ケーキづくり・コロッケづくり	

期間 平成8年6月2日(日)～12月22日(日) 全26回 参加者 延780人

月日	テーマ	内容	講師
6. 2	仲間作りのエポック	室内ゲーム	担当職員他
9		”	
16		野外ゲーム 武蔵野台テニス公園 班分け	
23		” Sけん他	
7. 7	野外活動のエポック	雨のため室内工作 割りばし鉄砲、笛、パタパタ	
14		多摩川のたんけん・羽村の堰	
21		”	
28		多摩川の渡り・草花丘陵、羽村資料館	
8. 3		保護者キャンプ説明会・上期活動報告	
4		本キャンプに向けて、メニュー作り	
6		本キャンプに向けてのしおり作り(5年生)	
10		練習キャンプ(麒麟)テント張り・肝試し・食事作り	
11		” 2日目 手打ちうどん作り・本キャンプ説明	
14		本キャンプ食料買い出し	
15		本キャンプ・開村式、村探検、夕食作り、肝試し、	
16		” 山登り、川遊び、キャンプファイヤー	

月日	テーマ	内容	講師
8.17	野外活動のエポック	本キャンプ・バンガロー整理、掃除、個人表彰	担当職員他
9. 1		ゲーム大会、キャンプ表彰状渡し	
15	創作活動のエポック	ペーパークラフトでの動物園作り	
29		動物園作り、ペーパークラフトの動物作り	
10.13		” 土合、小物作り	
20		だれでもなんでも展へ出品(餅つき、餅つり、パン)	
11.10	野外活動のエポック	御岳登山	
17		かに坂でキックベース	
12. 8		室内ゲーム	
22		クリスマス会と保護者会一子ども教室報告	

期間 平成9年5月25日(日)～12月21日(日) 全27回 参加者 延972人

月日	テーマ	内容	講師
5.25	仲間作りのエポック	室内ゲーム	担当職員
6. 1		”	名々井美帆
8		”	中高生リーダー
15		外遊び(武蔵野台テニス公園)	
22		”	
29		”(かに坂公園)	
7. 6	野外活動のエポック	多摩川川渡り、川遊び、羽村の堰	
13		室内ゲーム大会	
20		多摩川川渡り、川遊び、羽村の堰	
24		第1回保護者会、これまでの活動報告、キャンプ説明	
27		多摩川川渡り、羽村郷土資料館見学	
8. 3		キャンプに向けて・抹茶め、菓、フナダマ、5-6年生はしおり作り	
9		練習キャンプ(松林前庭)・テント張り、食事作り	
10		” 手打ちうどん作り	
13		本キャンプ買い出し(4年生以上)	
14		本キャンプ1日目(五日市青少年キャンプ村)	
15		” 2日目 追跡ハイク、キャンプファイヤー	
16		” 3日目 バンガロー整理、授与式(全員)	
9. 7		ゲーム大会・チーム対抗	
21	創作活動のエポック	大きな双六を作ろうー草案作り	
10. 5		” ーキャンプ生活	
19		”	
11. 2		”	

すんばらしいリーダー会 (子ども教室リーダー会)

期間 平成8年3月10日(日)～平成9年3月末日迄 全62回 参加者 延630人

月日	内 容	講 師
3.10	すんばらしいリーダーの会発足	
23	子ども教室、卒業、入学者歓迎会の打ち合わせ(中学、高校入学者でリーダー会に参加する者)	
26	卒業・入学者歓迎バーベキュー大会	
4.20	星を見る会(ごと座流星群の観察会)	
5. 9	6月から10月までの活動予定及び子ども教室の日程決定。リーダー会活動予定・夏のキャンプについて検討	
6. 2	子ども教室第1回、今回の活動のまとめ	
1. 8	子ども教室第2回、活動の反省、キャンプの日程について	
12	前回の反省、次の班編成について	
16	子ども教室第3回総括会議・次回予定検討 中学生、高校生等	
23	子ども教室第4回総括会議・7月予定のキャンプについて・リーダーキャンプについて検討	
7.12	リーダーキャンプについて検討	
19	リーダーキャンプ実習・奥多摩町営キャンプ場 子ども教室のキャンプについて検討	
20	リーダーキャンプ実習・フナイヤー検討	
24	キャンプ実習説明会資料作り、父母会報告書作り	
26	” ”	
28	子ども教室・多摩川渡り	
31	父母会活動報告作り	
8. 3	キャンプ説明会	
4	子ども教室第6回、練習キャンプ、本キャンプの役割について検討	
6	本キャンプしおり作成・肝試し下見	
7	練習キャンプ下見	
8	練習キャンプについて検討	
9-10	練習キャンプ	
11	8/14、本キャンプの買い出しについて	
12	8/16に行く三つ合鍾乳洞下見	
14	子ども教室、西友買い出し(キャンプ食料)	
15	本キャンプ 五田市青少年キャンプ村 中学生リーダーの仕事について、16日の内容について検討、キャンプフナイヤーの役割分担について	

月日	テ ー マ	内 容	講 師
11.16	野外活動	秋の大運動会、飯盒炊飯(川井キャンプ場)	担当職員
23		やきいも大会(松林分館前庭)	名々井美帆
12.14		外遊び(武蔵野台テニス公園)	中高生リ-ダ-
21		お楽しみ大会、保護者会(活動報告会)	

期間 平成10年5月31日(日)～9月27日(日) 全20回 参加者 延800人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
5.31	仲間作りのエポック	室内遊び・名前を覚える・仲間作り	担当職員
6. 7		ゲームを楽しまう	名々井美帆
14		”	中高生リ-ダ-
21		野外ゲーム・外遊び(武蔵野台テニス公園)	
7. 5		”	
12	野外活動のエポック	ゲーム・多摩川で川渡り、羽村ハイキングコース	
19		多摩川で川遊び、山登り、羽村郷土資料館見学	
26		創作活動・笛、割りばし鉄砲を作る	
8. 2		川遊び、多摩川川渡り、羽村の堰	
4		保護者会(キャンプ説明会、上期活動報告)	
8-9		練習キャンプ(松林分館前庭)	
12		本キャンプ食料買い出し(参加者全員)	
13-15		本キャンプ(五田市青少年キャンプ村)	
9. 6		外遊び(武蔵野台テニス公園)	
13	創作活動のエポック	張り子で作る“へんぺん虫”	
20		”	
27		”	

月日	内 容
8.16	本キャンプ2日目・1日目の感想、リーダーの役割、キャンプファイヤーの中でリーダー板垣兄弟のお別れ会(シンガポールに親の転勤で)リーダー会として活動記録のアルバムを作っている。
17	本キャンプ3日目・本日の様子(子ども達、中学生リーダー ※仕事の与え方の指導)
23	子ども教室第7回、ゲームの準備
9. 1	ゲーム・創作エポックの検討
8	動物園について検討
15	本日の子ども教室について総括
18	動物園作りについて・K君の指導について
23	子ども教室総括
10.13	子ども教室ベーパークラフト動物園作成・11月10日の登山について
16	ベーパークラフト動物園外形完成(リーダー会)
18	ベーパークラフト動物園の展示模型完成
19	ベーパークラフト動物園の展示
20	劇団フアンタステイクの公演の手伝い、照明
26	登山計画(11/10分)
11. 3	11/10の登山のおおりに作成
8	11/10について、しおり、おしらせ作成・班編成
9	11/10の登山の準備
10	御岳登山
13	高校生以上 写真集計、来年の子ども教室の方向について検討
15	今後の予定、父母会の資料作成について話し合う
17	クリスマス会について、リーダー会の報告会について
20	高校生以上 クリスマス会当日の予定
22	12/22についての役割分担
12. 8	子ども教室の反省
13	リーダー会の予定について、報告会について検討
14	父母会資料作り リーダー打ち、報告のレポートを作成
15	原稿書き
16	高校生リーダー 子どもの成長について話し合い
17	練習キャンプについての総括報告 レポート書き
18	高校生リーダー 子どもの成長について話し合い
19	報告書作成、子ども教室活動記録作り
20	報告書印刷
21	年表の作成・キャンプのまとめ
22	保護者会・クリスマス会実施 父母10名参加 報告書の配布

期 間	内 容
平成9年4月6日(日)～12月21日(日)	全63回 参加者 延840人
月日	内 容
4. 6	フナーケダンス講習(講師:泊江市 大和勝好氏)
20	ロープ手品を学ぶ(講師:泊江市 大和勝好氏)
27	野外調理の方法 講義と実技(講師:全国レクリエーションリーダー会議 草一平)
29	今年度の子ども教室について
5.11	子ども教室の一年の活動予定決定
25	第1回子ども教室 反省会、次回打ち合わせ
31	今後の予定、6月からの子ども教室打ち合わせ
6. 1	第2回子ども教室 班編成
8	第3回子ども教室 反省、次回打ち合わせ
15	第4回子ども教室 “ リーダー新聞「Children school times」創刊
17	研修キャンプについて打ち合わせ
20	キャンプファイヤーについて
25	研修キャンプの打ち合わせ
7. 6	第6回子ども教室 キャンプファイヤーのアプログラム案
9	研修キャンプ下見
10	研修キャンプ雨天の場合の対応
11	本キャンプ下見・下見報告
12	リーダー研修会(講師:和光養護学校 斎藤明朝)
13	“ ロープワーク
15	保護者会の確認
18	練習キャンプのおおりに作成
20	第9回子ども教室
23	資料原稿チェック・印刷
24	保護者会(午後7時から)キャンプ説明
8. 1	本キャンプについて、3日の子ども教室の内容について
2	スタンプラリーについて、担当決め(時間帯責任者及び担当者)
3	第11回子ども教室内容検討、良い文章の書き方(斎藤明朝のミニ講座) 総括の意味 (加藤さんのミニ講座)
5	資料整理、担当決め(時間帯責任者と担当者)備品リスト
6	練習キャンプメニューと分量
7	買い出しメニュー、練習キャンプと本キャンプについて細かく決める
8	本キャンプ、練習キャンプについて打ち合わせ
9-10	練習キャンプ 本日の反省、本キャンプについて
12	本キャンプの準備、キャンプファイヤーの点火式練習
13	本キャンプの買い出し

月日	内 容
8.14	本キヤンゾフ1日目 本日の反省、子ども達の様子、明日のチェック
15	本キヤンゾフ2日目 " " " 個人賞について
16	本キヤンゾフ3日目 " 9月からの活動について、3日間の反省
17	本キヤンゾフ後片付け
27	本キヤンゾフ3日間の出来事を流れに沿って箇条書き、来月からのこと、創作で何をやるか
9. 4	第12回子ども教室 ゲームの企画、本日の反省、遠足企画
12	今後の日程内容の検討
17	秋の創作「大きな双六」企画
21	第13回子ども教室 本日の反省
26	11月8日の下見時間調整・ルート確認
10. 5	第14回子ども教室
19	第15回子ども教室 本日の反省、感想
11. 2	第16回子ども教室 " "
8	11月23日の下見(川井キヤンゾフ場) 文集原稿の割り付け
16	第17回子ども教室 本日の反省 遠足について
21	文集の構成、原稿書き、遠足準備
22	" 明日の打ち合わせ
23	第18回子ども教室 川井キヤンゾフ場
29	文集作成、遠足反省、感想
12. 7	文集の写真加工
12	保護者懇談会とお楽しみ会について、資料作り
14	第19回子ども教室 本日の反省、感想、今後の日程
16~20	ひたすら文集作り
21	第20回子ども教室懇談会、お楽しみ会、本日の反省、感想

期 間 平成10年4月26日(日)~平成11年2月14日(日) 全48回

月日	内 容
4.26	98年度年間予定決め
5.31	第1回子ども教室反省会及び次回打ち合わせ
6. 7	第2回 " "
14	第3回 " "
21	第4回 " "
7.11	保護者会の内容詰め日程、資料作成
12	第6回子ども教室反省会及び次回打ち合わせ
18	練習キヤンゾフ打ち合わせ・保護者会打ち合わせ

月日	内 容
7.19	第7回子ども教室反省会及び次回打ち合わせ
22	キヤンゾフファイヤーについて
25	報告書作成、しおり作成、保護者会について
26	第8回子ども教室反省会及び次回打ち合わせ
30	本キヤンゾフの流れ、練習、参加者確認
31	練習キヤンゾフの流れ確認、班分け
8. 1	練習キヤンゾフ備品チェック
2	第9回子ども教室反省会及び練習キヤンゾフ打ち合わせ
4	保護者 打ち合わせ及び反省会
6	練習キヤンゾフ ナイトハイクについて及びファイヤー打ち合わせ
7	練習キヤンゾフ備品チェック
8	練習キヤンゾフ1日目 本キヤンゾフのフレイヤーについて、子ども達の様子について 本日の反省、練習キヤンゾフ2日目の打ち合わせ
9	練習キヤンゾフ2日目 本キヤンゾフのメニュー検討、リーダの指導内容検討
11	本キヤンゾフの流れ最終確認、メニュー分量決め、肝試し班の決定、フレイヤーの流れ確認
12	キヤンゾフ買い出し、荷造り、賞状作り
13	本キヤンゾフ1日目 反省、2日目の打ち合わせ、子ども達の様子について、子ども達のかかわりについて
14	本キヤンゾフ2日目 反省、3日目の打ち合わせ、子ども達の様子について、子ども達への賞状決め
15	本キヤンゾフ3日目 反省、キヤンゾフの総括、9月からの予定
19	9月からの予定プリント作成、リーダレポート提出
9. 6	第10回子ども教室反省会及び次回打ち合わせ
13	第11回 " "
20	子ども教室反省会及び次回打ち合わせ
27	子ども教室反省会、作文チェック返却分表紙はりつけ
10. 1	キヤンゾフ実習感想文の集約
7	原稿チェック、今年の活動を振り返って
11. 1	提出原稿ワープロ打ち
12. 5	文集割り付け担当決め 前期分総括
12	本キヤンゾフ作文の版下作り
19	本キヤンゾフ作文の版下完成 加藤さん原稿提出 後期分総括
26	中学1年生原稿提出
1. 9	98年度作文集版下制作、98年度作文集校正について
23	" "

# 女性問題学習一覽表

1990年(平成2)～1999年(平成11)

平成5年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999

家庭教育学教1 手印松

家庭教育学教2 乳幼児の成長

主婦層の読図 婦記(夜) 婦記(夜) 婦記(夜) 婦記(夜) 婦記(夜)

婦人学級 40歳から

どう生きるか(午後)

女性問題講座 ○

女性問題学習

高齢社会 男女共生の 女性が輝いて からだ・おとこに 培殖政策に  
 と豊かに接 会を求めて 生きる講座 性・女小で語り ついて

問題集

家庭教育学級

期間 平成元年6月7日～10月18日 全15回 参加者 延270人

月日	内 容	講 師
6. 7	オリエンテーション、保育について、これからの学習	担当職員
14	子育てについて①、子育ての現状について	木住野利明氏(絵本作家)
21	絵本とは、私の絵本論	
28	ストーリーを作る、絵本のストーリーを作る	
7. 5	”	佐々木京子氏
12	子育てについて②、保育だよりを読む	木住野利明氏
19	絵本の技法 彩色の方法	
26	絵本の製作 まめ本を作る	
8.30	”	
9. 6	”	
13	保育室を考える 保育だよりを読んで	高崎文江氏
20	絵本の製作	木住野利明氏
27	” 製本技術を学ぶ	
10. 4	” 絵本完成、合評会	
18	保育を考える 子どもの育ちを捉える眼	田中加代氏

期間 平成元年11月9日～平成2年3月15日 全15回 参加者 延165人

月日	内 容	講 師
11. 9	保育室紹介	担当職員
16	自己紹介	
30	幼児の心の発達について①	大堀容子氏(幼稚園教諭)
12. 7	保育室での子どもの様子①	中村けい子氏
14	幼児の栄養管理について	谷口美津子氏(管理栄養士)
21	幼児の健康管理について	阿部せつ氏(保健婦)
1.11	映画「善悪のげじめ」鑑賞	担当職員
18	保育室での子どもの様子②	穴戸夏子氏
25	幼児の心の発達について②	大堀容子氏
2. 8	お母さん同士の話し合い①	担当職員
15	保育園での幼児①(共に育ち合う場)	市川幾与恵氏(保育園園長)
22	保育園での幼児②	野村喜美枝氏
3. 1	保育園での幼児③	(保育園主任保育)
8	お母さん同士の話し合い②	担当職員
15	保育室に参加して、まとめ	

期間 平成2年5月25日～9月28日 全15回 参加者 延255人

月日	内 容	講 師
5.25	オリエンテーション	木住野利明氏(絵本作家)
6. 1	子育てをめぐる状況を考えようI	
8	私の絵本論	
15	ストーリーを考える	
22	絵本の枠組みを考えよう	中村けい子氏
29	子育てについて考えるII	木住野利明氏
7. 6	絵本の枠組みを考える	
13	絵本の技法	坂本由美子氏
20	子育てについて考えるIII	木住野利明氏
27	絵本の製作	
*8.31	”	
9. 7	”	
14	”	
21	子育てについて考える	田中加代氏
28	合評会	木住野利明氏

期間 平成2年11月19日(月)～平成3年3月18日(月) 全15回 参加者 延165人

月日	内 容	講 師
11.19	オリエンテーション	担当職員
26	自己紹介	
12. 3	幼児の身体の発達について	福生保健所保健婦
10	幼児の病気と健康管理について	
17	保育室の子どもたち1	梶谷克子氏
1. 7	話し合い	担当職員
14	幼児の心と身体の発達について(体の発達について)	岡本富郎氏(白梅短大教授)
21	保育室の子どもたち2	田中加代氏
28	幼児の心と身体の発達について(体の発達について)	岡本富郎氏
2. 4	話し合い	担当職員
18	保育室の子どもたち3	中村けい子氏
25	幼児の心と身体の発達について	市川幾与恵氏(保育園園長)
3. 4	(保育園の子どもを例に)	野村喜美枝氏(保育園保育)
11	保育室の子どもたち4	高崎文江氏
18	まとめ	担当職員

期 間 平成3年5月22日(水)～10月2日(水) 全17回 参加者 延256人

月日	内 容	講 師
5.22	オリエンテーション 自己紹介・保育室について	担当職員
29	子育てについて語ろう、子育てをめぐる状況	木住野利明氏(絵本作家)
6.5	私の絵本論・絵本とは、絵本の出来るまで	
12	どんな絵本を作るのか、ストーリーを考える	
19	絵本の枠組みを作る、絵本の作成上の留意点	
26	子育てと自立I・子どもが集団の中で育つ意味	中村けい子氏
7.3	絵本の技法・まめ本を作る	木住野利明氏
10	絵本製作	
17	”	
24	子育てと自立II・運営会議の報告、保育について	高崎文江氏
8.21	絵本製作 彩色	木住野利明氏
28	”	
9.4	”	
11	製本の技法・製本	
18	”	
25	子育てと自立III	田中加代氏
10.2	絵本合評会	木住野利明氏

期 間 平成4年10月26日(月)～平成5年9月2日(火) 全16回 参加者 延320人

月日	内 容	講 師
10.26	オリエンテーション	担当職員
11.2	子育てや文化について語りましょう	
9	絵本について、私の絵本論	木住野利明氏(絵本作家)
16	絵本のストーリーを考えるよう	
30	子育てを考える	田中加代氏(保育者)
12.7	絵本の枠組みを考えよう	木住野利明氏
14	絵本の技法	
21	子育てと女の自立I	田中加代氏
1.12	絵本の製作	木住野利明氏
19	”	
26	子育てと女の自立II	田中加代氏
2.2	絵本の製作	木住野利明氏
9	絵本の製本技術と方法	
16	絵本の実際	
23	子育てと女の自立III	田中加代氏

月日	内 容	講 師
3.2	絵本の合評会	木住野利明氏

期 間 平成5年6月1日(火)～10月5日(火) 全15回 参加者 延105人

月日	内 容	講 師
6.1	オリエンテーション	担当職員
8	公民館とは	
15	絵本についてー私の絵本論	木住野利明氏
22	子育てを考えるーいま子育て期の女たちは	担当職員
7.6	絵本のストーリーを考える	木住野利明氏(絵本作家)
13	絵本の枠組みを考えよう	「びっくりかえる」他
20	絵本の技法① 絵の構成	
27	絵本の技法② 色彩と紙の関係	
8.3	絵本の製作	
24	”	
31	”	
9.7	”	
14	製本の技術ー製本の用語・製本の技術	
21	子育てを考える	担当職員
28	絵本の製本	木住野利明氏
10.5	絵本の完成 合評会	

期 間 平成5年10月12日(火)～平成6年3月29日(火) 全21回 参加者 延315人

月日	内 容	講 師
10.12	オリエンテーション・保育室について	担当職員
19	今、子育てをめぐって、KJ法で	
26	課題を整理する KJ法で	
11.2	自分の子どもの時代と遊び KJ法で整理	
9	「さくらんぼ坊や1」幼児の全面発達を求めて	
16	保育学習会-10/13を受けて	高崎文江氏(保育者)
30	「さくらんぼ坊や2」模倣と自我	担当職員
12.7	保育学習会-12/4運営会議を受けて	田中加代氏(保育者)
14	「さくらんぼ坊や3」言葉と自我	担当職員
21	「さくらんぼ坊や4」4歳と仲間・子どもの体	
1.11	「さくらんぼ坊や5」5歳と仲間	
18	「アリス」ヒトから人間への記録	
25	保育学習会-1/22運営会議を受けて	田中加代氏(保育者)

月日	内 容	講 師
2. 1	乳幼児の成長・発達 の道筋 0歳～2歳	園田とき氏 (元西久保保育園園長)
8	乳幼児の成長・発達 の道筋 3歳～5歳	丸岡玲子氏(子どもと食事)
15	子どもの自立と生活力	石川三郎氏(明大講師)
22	学校とは	藤田恭平氏(教育評論家)
3. 1	本物の学力とは何か	石川三郎氏(明大講師)
8	中学生という時代	田中加代氏(保育者)
15	子育ては今一保育室から	担当職員
29	まとめの会	

期 間 平成6年6月7日(火)～平成7年3月14日(火) 全34回 参加者 延330人

月日	内 容	講 師
6. 7	オリエンテーション	担当職員
14	公民館とは、子育ての課題を明らかに	
21	私の絵本論	木住野利明氏(絵本作家)
28	絵本を読む	
7. 5	子育てを考える I	田中加代氏(保育者)
12	絵本のストーリーを考える	木住野利明氏
19	絵本の枠組みを考える	
26	絵本の製作—絵本の下書きの製作	
8. 23	画材について 絵の具、彩色道具とその性質	
30	絵本の製作	
9. 6	”	
9. 13	子育てを考える II	田中加代氏(保育者)
20	絵本の製本の技術	木住野利明氏
27	絵本の製本	
10. 4	絵本完成 合評会	
18	今日の教育課題を整理しよう KJ法①	担当職員
25	今日の教育課題を整理しよう KJ法②	
11. 1	ファミリーフォーラム「さくらんぼ坊や」1・2	
8	子どもと教育「さくらんぼ坊や」3・4(映画)	
15	子どもの発達 映画「アリス」	園田とき氏
22	乳幼児の成長と発達 1 豊かな乳幼児の発達	(元西久保保育園園長)
29	乳幼児の成長と発達 2 3歳期の発達	田中加代氏(保育者)
12. 6	保育学習会	園田とき氏
13	乳幼児の成長と発達 3 集団とは	
20	子どもの権利条約を学ぶ	

月日	内 容	講 師
1. 10	映画「林 竹二 授業・人間について」1部「ビーバー」	担当職員
24	保育学習会	田中加代氏(保育者)
31	映画「断 崖・人間カマエ」 2部「狼に育てられた人間」	担当職員
2. 7	子どもの教育—今、子ども達は	白井慎氏(法政大学教授)
14	今日の教育の現状	
21	保育学習会	田中加代氏(保育者)
28	女性のライフサイクルの変化	担当職員
3. 7	いま、女性問題は—性別役割分業を越えて1	橋立弘子氏 (都社会教育主事)
14	” ” 2	

期 間 平成7年5月30日(火)～平成8年3月26日(火) 全36回 参加者 延360人

月日	内 容	講 師
5. 30	手作り絵本のエポック オリエンテーション	担当職員
6. 6	保育室オリエンテーション	
13	子育ての課題を整理しよう KJ法まとめ	
20	私の絵本論・絵本と子ども	木住野利明氏(絵本作家)
27	絵本を読む	
7. 4	保育学習会 ・子育てを考える	田中加代氏
11	どんな絵本をつくらうか、ストーリーを考える	木住野利明氏
18	絵本の枠組みを考える—絵本の原画をつくる	
25	絵本の製作—画材の話、絵の具	
8. 22	絵本の製作	
29	”	
9. 5	保育学習会 子育てを考える	田中加代氏
12	絵本の製作	木住野利明氏
19	絵本の製本技術—手作り絵本の製本技術	
26	絵本の製作	
10. 3	合評会(絵本の講評)	
17	教育のエポック 子育てについて語る—KJ法	担当職員
24	乳幼児の発達 さくらんぼ坊や1.2 ファミリーフォーラム	
31	さくらんぼ坊や3	
11. 7	さくらんぼ坊や4.5	
14	さくらんぼ坊や6	
21	保育学習会 保育だよりを読んで	田中加代氏
28	” ”	
12. 5	乳幼児の成長発達 1	園田とき氏(元西久保保育園園長)

月日	内 容	講 師
12.12	乳幼児の成長発達2	園田とき氏
19	乳幼児の成長発達3	
1.9	保育学習会-運営会議報告 保育だよりを読んで	
23	からだ作りと子どもの心 フォルムフォーラム	担当職員
30	食の問題を考える 新編・そだてねばいばい	
2.6	保育学習会-運営会議報告 保育だよりを読んで	田中加代氏
20	おやつ調査・子どもの生活調査	担当職員
27	子どもの生活調査をまとめる-保育連絡票-	
3.5	子どもと食	安藤節子氏
12	子育て以降をどう生きるか	担当職員
19	ライフサイクルを描く	
26	保育学習会	田中加代氏

期 間 平成8年5月28日(火)～10月29日(火) 全18回 参加者 延240人

月日	内 容	講 師
5.28	オリエンテーション	担当職員・保育者
6.4	公民館とは 課題の整理	
11	映画「アリス」を見てフォルムフォーラム	
18	私の絵本論(絵本とはなにか-絵本を読む)	木住野利明氏(絵本作家)
25	絵本を読む	
7.2	手作り絵本の作り方	田中加代氏
9	保育学習会	
16	どんな絵本を作るのか ストーリーを考えよう	木住野利明氏
23	絵本の枠組みを考えよう	
30	画材・絵の具・用紙について	
8.27	絵本の製作	
9.3	”	
10	保育学習会	田中加代氏
10.1	絵本の製作	木住野利明氏
8	製本の技術	
15	”	
22	合評会	
29	保育学習会	田中加代氏

月日	内 容	講 師
10.17	教育のエボック 今、教育について考えていることKI	担当職員
24	乳幼児の発達-「さくらんぼ坊や」1・2 7/11/71-71	
31	「さくらんぼ坊や」3	
11.7	「さくらんぼ坊や」4・5	
14	「さくらんぼ坊や」6	
12.5	乳幼児の成長発達 1	園田とき氏(保育研究者)
12	乳幼児の成長発達 2	(元西久保育園園長)
19	乳幼児の成長発達 3	

期 間 平成8年11月12日(火)～平成9年2月25日(火) 全13回 参加者 延208人

月日	内 容	講 師
11.12	今、子育てについて考える KJ	担当職員
19	”	
26	”	
12.3	”	
10	授業「狼に育てられた人間」「ピーパー」鼎-7/11/1	田中加代氏
17	保育学習会 保育だよりを読んで	担当職員
1.7	乳幼児の発達	田中加代氏
14	保育学習会	
21	乳幼児の成長と発達 1 さくらんぼ坊や1	園田とき氏 (元西久保育園園長)
28	” 2 ” 2	
2.4	” 3 ” 3	
18	” 4 ” 4	
25	保育学習会	田中加代氏

期 間 平成9年5月20日(火)～10月28日(火) 全18回 参加者 延180人

月日	内 容	講 師
5.20	オリエンテーション 保育室・講座説明	担当職員
27	自己紹介・公民館とは	
6.3	課題を整理しよう-KJ法による課題整理	
10	絵本とは何か	木住野利明氏(絵本作家)
17	手づくり絵本の作り方	
24	保育室を通して学ぶ～保育だよりを読んで	田中加代氏(保育者)
7.1	どんな絵本を作ろうか(ストーリーを考える)	木住野利明氏(絵本作家)
8	画材の話、絵の具、紙、色鉛筆	

月日	内 容	講 師
6.30	子育て「人と人との関係を豊かに育てる」(園「棘」)	保育者
7.7	乳幼児の発達・発達の道筋は「さくらんぼ坊や」を見て	園田とき
14	乳幼児の成長発達と社会性	
28	地域の中で子育てをどう位置付けていくのか (自分の小さい頃)	
8.25	折り染めをしてみよう	
9.1	保育学習会-「はい」 「いっしょに食べよう」	保育者
8	子どもの体と生活リズム 昼寝・睡眠をグラフに	園田とき
22	子どもの体と生活リズム	
29	子どもの体と食	子どもの食研究所員
10.6	保育学習会-「箱積み木で遊ぼう」	保育者
13	私たちの生き方 ー今、私たちの状況は	園田とき
20	ライフサイクルをってみて	
27	私たちの生き方 ー社会に生きる一人として	
11.10	保育学習会-「お兄ちゃん いないね」	保育者
17	子どもからの自立-子どもの人格-	園田とき
12.1	まとめ	

期 間 平成10年11月25日(水)～平成11年3月16日(火) 全15回 参加者 延225人

月日	内 容	講 師
11.25	オリエンテーション	担当職員
12.2	公民館とは、大人の学習とは	
8	絵本とはなにか	木住野利明氏 (絵本作家・造形作家)
15	手づくり絵本の作り方	保育者
22	保育学習会-保育室の出来事を通して学ぶ	木住野利明氏
1.12	絵本のストーリーを考える	
19	絵本のダミーを作る	
26	"	
2.2	保育学習会-保育室の出来事を通して学ぶ	保育者
9	絵本の製作	木住野利明氏
16	"	
23	"	
3.2	保育学習会-保育室の出来事を通して学ぶ	保育者
9	製本の仕方	木住野利明氏
16	合評会	

月日	内 容	講 師
7.15	絵本の製作	木住野利明氏
22	保育室を通して学ぶ～保育だよりを読んで	田中加代氏(保育者)
29	絵本の製作	木住野利明氏(絵本作家)
8.26	保育室を通して学ぶ～保育だよりを読んで	田中加代氏(保育者)
9.2	絵本の製作	木住野利明氏(絵本作家)
9	"	
10.7	製本の方法	田中加代氏(保育者)
14	保育室を通して学ぶ～保育だよりを読んで	木住野利明氏(絵本作家)
21	製本の方法	
28	" 絵本の合評会	

期 間 平成9年11月11日(火)～平成10年2月24日(火) 全12回 参加者 延120人

月日	内 容	講 師
11.11	「母性」について KJ法の分析	園田とき氏 (元西久保保育園園長)
18	"	
12.2	"	
9	「授業-林竹二」	
16	保育室を通して学ぶ～保育だよりを読んで	田中加代氏(保育者)
1.13	乳幼児の成長・発達の道筋は(1)	園田とき氏
20	「さくらんぼ坊や」2 模倣と自立	
27	乳幼児の成長・発達の道筋は(2) 「さくらんぼ坊や」3 言葉と自我-4歳と仲間 乳幼児の成長・発達の道筋は(3) 「さくらんぼ坊や」5 5歳児と仲間・自治と創造	
2.3	保育室を通して学ぶ～保育だよりを読んで	田中加代氏(保育者)
10	幼児期の子どもと絵本	園田とき氏
17	子どもの体と生活リズム-調査表の分析	担当職員
24	"	

期 間 平成10年6月2日(火)～12月1日(火) 全20回 参加者 延280人

月日	内 容	講 師
6.2	オリエンテーション (保育室説明会)	担当職員
9	講義学習について (オリエンテーション)	
16	今、子育てで考えていることは? KJ法	
23	今、子育てで考えていること (父母、祖父母の時代の子育ては)	園田とき (元西久保園長) (こどもの本研究所理事)

## 女性問題学習

男女共生をめざしての講座  
 期間 平成7年6月25日(木)～3月7日(木)  
 参加者 9×6回=54人

月 日	内 容	講 師
2. 0 1	男女共生をめざして	武田京子(主婦(独))
7	ライフサイクルの変化	
15	家族・家庭	
22	労働・仕事	
29	社会参加と余暇活用	
3. 7	高齢化社会	

## 女性が輝いて生きるための講座

期間 平成8年11月8日(金)～12月13日  
 参加者 13×6回=78人

月 日	内 容	講 師
11. 0 8	オリエンテーション	富永静枝氏(主婦(独))
15	女性の自立と税制度・年金問題	斉藤 誠(婦)
22	女性労働の現状	富永静枝氏(主婦(独))
29	女性の再就職をめぐる	富永静枝氏(主婦(独))
6	働く女性と介護問題	富永静枝氏(主婦(独))
13	まとめ	富永静枝氏(主婦(独))

## 男女共生をめざしての講座一からだ・性と女性

期間 平成9年9月30日(火)～10月28日(火)  
 参加者 13×5回=95人

月 日	内 容	講 師
9. 3 0	もっと知ろうよ自分のからだ	石橋初子(主婦(独))
10. 7	歴史の中で母性はいかに作られてきた	長沖暁子(主婦(独))
14	性と法律	大橋由香子(主婦(独))
10 20	産むこと・産まないこと	佐々木元子(主婦(独))
10. 2 8	からだ・性・自立	佐々木元子(主婦(独))

## 女性が輝いていけるために働くことを考える講座

期間 1997年(平成9)3月6日～3月27日 午後7時30分～9時30分  
 参加者 8×4回=52

月 日	内 容	講 師
03. 0 6	女性労働の現実と法律 I	富永静枝(主婦(独))
13	女性労働の現実と法律 II	富永静枝(主婦(独))
20	派遣労働の現状と法	杉井静子(主婦(独))
27	パートタイム労働と法	杉井静子(主婦(独))

## 女も男もともに生きる社会をめざしてーもっと知ろうよ「からだ」と「心」

期間 平成10年9月29日～11月10日 午後7時30分～9時30分  
 参加者 10×8回=80人

月 日	内 容	講 師
9. 2 9	もっと知ろうよ自分のからだ	石橋初子(主婦(独))
10. 6	初潮「母さんになれるね」とお話し	石橋初子(主婦(独))
13	自分を生きる可能性「性の自己管理」	石橋初子(主婦(独))
20	女性の選択「産むこと」産まないこと	長沖暁子(主婦(独))
27	出生前診断って女性の味方かしら?	石橋初子・斉藤有紀子(婦)
11. 0 3	不妊治療は女の望むことかしら	長沖暁子(主婦(独))
10	人生を選ぶのは私 差別のない社会は	石橋初子(主婦(独))
17	まとめ	担当職員

## 女性労働講座ー均等法改正をめぐるー

期間 平成11年10月26日(火) 午後7時30分から9時30分  
 参加者 5×6回=30人

月 日	内 容	講 師
10. 2 6	女性労働者の権利獲得の歩み	川口和子(主婦(独))
11. 0 2	参加者の現在の状況は	参加者・担当職員
09	女子労働の現状と課題	川口和子(主婦(独))
16	多様化する就労形態	川口和子(主婦(独))
30	均等法改正のポイント	栗山れい子(婦)
12 7	働く女性に関する法律・調停制度	

### 主婦の再就職への設計図

期間 平成2年6月16日(土)～11月17日(土) 全61回  
 土曜日 午後1時30分～4時  
 日曜日 午前9時30分～12時  
 他 午後6時～9時

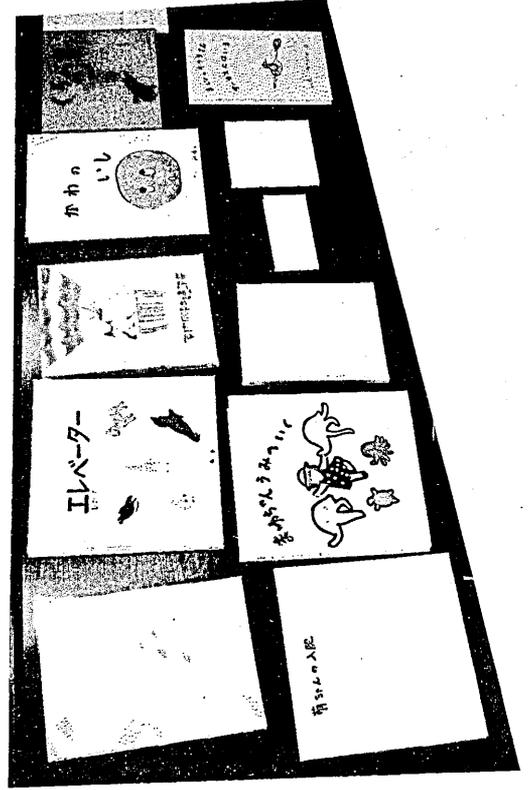
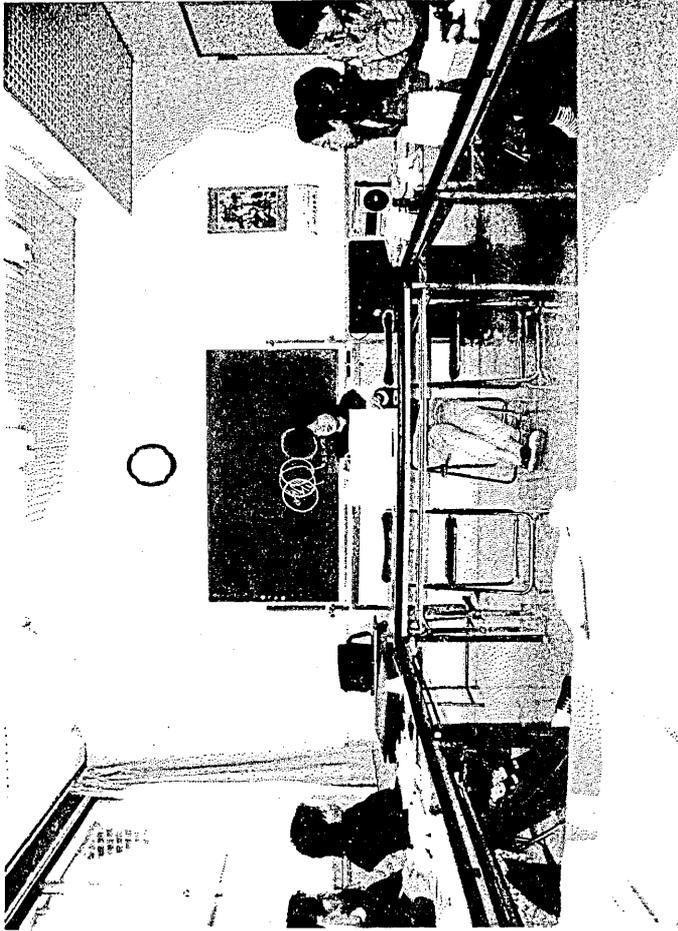
参加者 延べ1140人 講師 伊東一夫氏(元職業訓練学校講師)

月	費	内	容
6.	16. 20. 23. 27. 30		商業簿記、現金取引、3級練習問題
7	4. 7. 8. 11. 14. 15. 18. 21. 22. 25. 28		有価証券取引、債務・債権償却、貸し倒れ、固定資本・税金・減価償却、貸し倒れ
8.	1. 4. 6. 8. 11. 13. 15. 18. 20. 22. 25. 27. 29.		帳簿決算・清算表、工業簿記と原価計算、労務費・経費・工業簿記問題
9.	1. 3. 5. 8. 9. 12. 14. 19. 22. 23. 26. 29. 30		工業簿記・部門別計算・商業簿記・保証・未決算、荷為替手形、棚卸減耗
10.	3. 14. 17. 21. 24. 29. 31.		株式会社会計
11.	4. 5. 7. 10. 11. 14. 17		工業簿記・練習問題、総合問題

### 主婦再就職への設計図

期間 平成2年6月16日(土)～11月17日(土) 全30回  
 土曜日 午後1時30分～4時  
 日曜日 午前10時～12時  
 他 午後6時～9時  
 参加者 18人×30回=540人

月	日	内	容	講	師
7.	13. 14. 20.		簿記の基礎		伊東一夫氏
	21. 27. 28		勘定科目と仕分け		
8.	10. 11. 17		帳簿について・3分法と分記法		元職業訓練学 校講師
	18. 24. 31		3分法と分記法・手形		
9.	1. 7. 14. 15		その他の債券・債務・税金他		
	21. 22. 28. 29		資本金・原価償却・貸倒償却、試算表		
10.	12. 13. 19.		精算表・三伝票・費用・収益の繰延べ		
	26. 27.		費用・収益の見越し・		
11.	2. 3. 6. 9.		回答練習		



# 成人の事業一覽表

1990年 (平成2)	1991年 (平成1)	1992年 (平成4)	1993年 (平成5)	1994年 (平成6)	1995年 (平成7)	1996年 (平成8)	1997年 (平成9)	1998年 (平成10)	1999年 (平成11)	
事業/年 1989	平成2年 1990	平成3年 1991	平成4年 1992	平成5年 1993	平成6年 1994	平成7年 1995	平成8年 1996	平成9年 1997	平成10年 1998	平成11 1999
教育講座	子典の居場所 を求めて	中学校・ 中学生を考える	戦後教育史 を見直す	16ミリ映画 で教育を考える	中学時代の危機 を乗り越える	権利としての 社会教育	豊かなPTA を作るには	PTAの 運営・広報	PTAを豊かに 運営・広報	

PTA講座  
識字教

- PTA講座
- PTAN講座・PTAの  
運営の基礎
- PTA講座I  
PTA講座II
- PTA講座 生き生きPTA
- PTA活動の手引き
- PTAの  
運営・広報
- PTAを豊かに  
運営・広報

市民大学歴史講座

- 日本近代の歩み
- 大正モ  
クラナー
- 日本の近代と  
フジ I
- 日本の近代と  
フジII
- 日本の近現代  
とフジ
- 日本の戦後  
50年の歩み
- 戦後教科書の歴史  
学ぶ

人権講座

- 差別のない社会  
を求めて
- 基本的人権と  
私達の課題
- 基本的人権と  
私達の課題
- 現代社  
と人権
- 基本的人権と  
私達の課題
- 基本的人権と  
私達の課題
- 基本的人権と  
私達の課題

地域福祉講座

- 豊かにならば  
を支える福祉
- 地域福祉講座
- 地域福祉を  
考える
- 地域福祉を  
考える
- 地域福祉を  
考える
- 地域福祉を  
考える
- 地域福祉  
を住民の参加で

ホビー1  
ホビー2

- 七宝焼講座
- 女性の為の囲碁講座  
初心者囲碁教室
- 初心者陶芸教室  
初心者水彩画教室
- 初心者陶芸教室  
築城教室
- 陶芸教室  
版画教室
- 陶芸教室  
水墨画教室
- 陶芸教室  
水墨画教室
- 陶芸教室  
水墨画教室

平和の為の映画祭

3日(午前・午後・夜間)

ひだまりハイク

都民の森

吉野崎郷

青梅七福神  
廻り

御岳・梅郷  
(雨天中止)

扶父村おぐり  
宮ノ倉山

日和田山

扶父神社

3日(午前・午後・夜間)

史跡見学会

利用者交流会学習会

識字学級

期間 平成元年5月8日(月)～平成2年3月26日(月) 全39回 参加者 延320人  
 講師 高崎伊平氏(元小学校々長)・島田修一氏(中央大学教授)

月日	内容	教材
5. 8	オリエンテーション、自己紹介、日本国憲法を話す	
15	文学作品を読む「べろだしちよんま」斎藤隆介作	
22	作品解説	
29	感想文を書く	
6. 6	漢字テスト	
12	文学作品を読む「最初の記憶」=徳永直作を読む	
19	読みと解説	
26	"	
7. 3	"	
10	"	最初の読後感を話し合う
17	"	読後感を書き、自分の最初の記憶を作文に書く、漢字テスト
26	"	"
9. 4	夏休みの感想 夏休みの出来事を話し合う	
11	文学作品を読む 宮城まり子著 戦後まじり子著 戦仕度の日々より「白い運動ぐつ」読み	
18	"	"
25	"	作品解説 主題の読みとり
10. 2	"	"
9	"	"
16	"	「金メダル」の読み
23	"	「金メダル」の主題を読みとる
30	新聞記事を読む 朝日新聞、天声人語	
11. 6	"	天声人語、赤トンボを読む
13	"	朝日新聞論壇「会話能力を高める」
20	子どもの権利条約 子どもの権利条約を読む	
27	"	"
12. 4	学習権宣言を読む 1985年ユネスコ学習権宣言の話し	
11	自分の考えを伝える 「ことばの力」を読む	
18	"	"
12.25	反省会 反省会とクリスマス会、作文集作成	
1.23	作文を読む 参加者の作文を読む	
30	文学作品を読む 朝鮮民話「ねぎをはじめてうえた人」	
2. 5	"	「もうふりむかない」読み

月日	内容	教材
2.12	文学作品を読む 「テレビと馬」住井すゑ著 読み	
19	"	田宮虎彦著 「絵本」を読む
26	"	"
3. 5	"	"
12	"	"
19	"	"
26	"	作品解説

期間 平成2年5月7日(月)～平成3年3月18日(月) 全38回 参加者 延228人  
 講師 高崎伊平氏(元小学校々長)

月日	内容	教材
5. 7	文学作品を読む	
14	「黒い御飯」 永井龍男著	
21	"	"
28	"	"
6. 4	"	新しい参加者名
11	"	「漢字のなりたち」
18	"	「八郎」を読む
25	"	漢字の筆順のきまり
7. 1	"	漢字の筆順
8	"	「八郎」
15	"	辞書の引き方
23	学期のまとめの話し合い	
9.10	「野麦峠」	
17	"	"
10. 1	"	"
8	"	新しい人が参加
15	"	「おおきなカブ」
10.22		
29	「私の前を見る鍋とお釜と燃える火と」 石垣りんの詩	
11. 5	"	の解釈、「雨」
12	"	「雨」
19	「女工哀史」読み 「三びきのめだか」	
26	"	新しい人が参加
12. 3	"	「かちょうのたんじょうび」
10	「いのちの重さ」沢地久枝著	"

月日	内 容 ・ 教 材
12. 17	「いのちの重さ」読み、解説
1. 7	” 読み、解説
14	「いのちの重さ」解説
21	「しっかり母さんとぐうたら息子の人生論」(岩波ブックレット)
28	”
2. 5	”
11	「ナチュラリスト＝昆虫の四季」(岩波ブックレット)
18	”
25	”
3. 5	「ほろびゆくナナの森」(岩波ブックレット)
11	”
18	話し合い

期 間 平成3年5月13日(月)～平成4年3月25日(水) 全40回 参加者 延400人  
講 師 高崎伊平氏(元小学校々長)

月 日	内 容 ・ 教 材
5. 13	オリエンテーション 自己紹介
20	日本語・平仮名、「おおきなカタ」読み
27	「おおきなカタ」読み、内容、聞き取り
6. 2	「かたつむり」
9. 9	自己紹介「おおきなカタ」
18	「おおきなカタ」「かたつむり」日本語 平仮名
30	”
10. 5	日本語・平仮名・平仮名の書き順・教材「おおきなカタ」
12	”
19	「おおきなカタ」読み、意味 「かたつむり」読み、内容理解
22	”
26	”
28	”
11. 6	「三びきのめだか」(住井すゑ作)読み、読解
11	”
13	”
20	内容理解、筋道をたてて内容を話す
22	”
28	”
12. 2	「かちょうのたんじょう日」読み、読解、漢字の書き順

月 日	内 容 ・ 教 材
12. 4	「かちょうのたんじょう日」読み、読解、漢字の書き順
9	”
1. 13	西郷竹彦作 「さるかにばなし」 読み、読解
20	”
22	”
27	” 読解、あらすじを話す
29	”
2. 3	「スーホの白い馬」読解、漢字の書き順、「おおきなカタ」「かたつむり」
5	”
10	”
17	” 読み、漢字「三びきのめだか」読み、濁音、半濁音
19	”
24	”
26	「三びきのめだか」(住井すゑ作)「スーホの白い馬」読み、漢字
3. 2	” 読解、「わたしはそれでもいきてきた」(うえだまさよ)
4	”
11	「わたしはそれでもいきてきた」(うえだまさよ) 読解、作文を書く
16	”
22	”
25	”

期 間 平成4年4月18日(月)～平成5年3月25日(木) 全40回 参加者 延160人  
講 師 高崎伊平氏(元小学校々長)

月 日	内 容 ・ 教 材
4. 13	「たんぼの花」
20	”
27	”
5. 11	”
18	”
25	”
6. 8	「テレビと馬」
15	”
22	”
29	”
7. 6	「へろだしちゃんま」(斎藤隆介作)
13	”

月日	内容	教材
7.20	「べろだしちよんま」	(斎藤隆介作)
9.7	"	"
14	"	"
21	"	"
28	"	"
10.5	「井戸」	(千葉省三作)
12	"	"
19	"	"
26	"	"
11.2	"	"
9	"	"
16	"	"
30	"	"
12.7	「めじろとせいかじいさん」	(川崎来治作)
14	"	"
21	"	"
1.7	「わたしのおいたち」	(うえだまさよ作)
14	"	"
21	"	"
28	"	"
2.4	「おおきなカブ」	"
11	"	"
18	"	"
25	"	"
3.4	詩、ことばのけいこ、かぼちゃの葉	"
11	"	"
18	"	"
25	"	"

期間 平成5年4月1日(木)～平成6年3月31日(木) 全41回 参加者 延328人

講師 高崎伊平氏(元小学校々長)

月日	内容	教材
4.1	やさしい漢字	"
8	"	"
15	詩「教室は間違うとこだ」	読み、漢字テスト
22	「これはのみのびこ」	(谷川俊太郎作) 読み、「漢字が楽しくなる本1」

月日	内容	教材
4.28	日本語の発音、日本語について	"
5.13	漢字の回数、漢字のテスト	"
20	"	「がちょうのたんじょう日」(新見南吉作)
27	教室の中にあるもので、文を作る	"
6.3	「がちょうのたんじょう日」	漢字テスト
10	「漢字が楽しくなる本1」	テスト
17	文章構成、「がちょうのたんじょう日」	"
24	「ひとりぼっちのつる」(椋鳩十作)を読む	"
7.1	"	"
8	"	"
15	"	読解
22	"	"
29	漢字、回数、漢字の音、訓	"
9.8	「春のこもりうた」	読み
30	"	読解
10.7	「スーホの白い馬」	読み、読解
14	"	"
21	"	"
28	"	"
11.8	朝鮮民話「ねぎをうえた人」	読み
15	"	"
23	"	読解
12.9	「スーホの白い馬」	"
16	"	"
23	"	"
1.13	「最後の葉」	(オー・ヘンリ作) 読み
20	"	"
27	"	読解
2.3	"	"
10	「井戸」	(千葉省三作) 読み
17	"	"
24	"	読解
3.3	「おあさんの木」	(大川悦生作) 読み
10	"	"
17	"	読解
24.31	「いじめっこが2人」	(佐藤さとる作) 読み

期 間 平成6年4月7日(木)～平成7年3月31日(金) 全45回 参加者 延405人  
 講 師 高崎伊平氏(元小学校々長)

月 日	内 容	教 材
4. 7	「ピーマン大王」(住井すゑ作)	
14	〃	
21	〃	
28	〃	
5.12	〃	
19	詩「手」	
26	〃	
6. 2	「雨ニモマケズ」	
9	〃	
16	漢字テスト	
23	詩「生きる」(谷川俊太郎作)	
30	〃	
7. 7	「いま、若い母親に言いたいこと」(田中澄江作)	
14	〃	
21	「沼をわたるかわせみ」(今西裕行作)	
8. 4	学習の仕方・日本語の表記	
11	〃	
18	〃	
25	〃	
9. 1	「いま、若い母親に言いたいこと」(田中澄江作)	
8	〃	
21	「天で大吉がないているわ」(早船ちよ作)	
28	〃	
10. 6	〃	
13	〃	
22	〃	
29	〃	
11.10	「わらぐつの中の神様」(杉みき子作)	
16	〃	
17	〃	
23	〃	
24	〃	
12. 8	〃	
15	〃	

期 間 平成7年4月6日(木)～平成8年3月26日(火) 全44回 参加者 延301人  
 講 師 高崎伊平氏・担当職員

月 日	内 容	教 材
12.22	「わらぐつの中の神様」(杉みき子作)	
1.10	「はじめてのお使い」(絵本)	
19	「最後の授業」(ドーテ作)	
25	〃	
2. 2	〃	
9	〃	
3. 2	「小さな出来事」(魯迅作)	
9	〃	
16	〃	
23	〃	
30	〃	

期 間 平成7年4月6日(木)～平成8年3月26日(火) 全44回 参加者 延301人  
 講 師 高崎伊平氏・担当職員

月 日	内 容	教 材
4. 6	「春のこもりうた」(平塚武二作)	
13	〃	
20	「川とノリオ」(松谷みよ子作) 「たんぼぼ」(川崎洋作)	
27	〃	
5.11	〃	
17	「野球とベースボール」(斎賀秀夫作) 「おじいさんのかさ」(佐野祥子作)	
25	「最初の記憶」(徳永直作) 「一つの花」(今井祐介作)	
6. 8	〃	
15	〃	
22	〃	
29	〃	
7. 6	〃	
13	〃	
20	〃	
26	〃	
8. 3	〃	
31	〃	
9. 7	〃	
14	〃	
21	〃	
28	日本語と外来語	

月 日	内 容	教 材
10. 5	日本語と外来語	
12	"	
19	"	
28	"	
11. 2	話し言葉と書き言葉 「てんぐと百姓」	
9	"	
16	"	
23	作文を書く	
30	"	
12. 7	"	
14	"	
21	" 生い立ちを書く	
1.11	自分の考えを伝える時 「もちもちの木」(斎藤隆介作)	
18	"	
25	"	
2. 8	"	
15	"	
22	"	
29	「一番星」 詩から学ぶ(まともちお作)	
3. 7	"	俳句を書く
10	「花さき山」(斎藤隆介作)	
17	"	
28	"	

期 間 平成8年4月4日(木)～平成9年3月27日(木) 全44回 参加者 延264人  
 講 師 (B) 高崎伊平氏(元小学校々長)  
 (B) 江頭晃子(学芸大学院生)  
 (A) 加藤有孝

月 日	内 容	教 材
4. 4	「こったら豆っ子」(西郷竹彦作)	
10	日本語の構造	
17	「召をわたるかわせみ」(今西裕行作) 読み、読解	
24	"	
5. 2	「セメント樽の中の手紙」(葉山嘉樹作) 読み、読解	
9	"	
15	"	感想文

月 日	内 容	教 材
5. 23	「セメント樽の中の手紙」 感想文	
30	辞書の引き方 「ことばのけいこ」(与田準一作)	
6. 6	"	
13	「大工と鬼六」(木下順二作) 読み、解釈	
20	"	
27	"	
7. 4	"	「Sさんからの手紙」 Oさんの作文完成
11	「かたつむり」	
19	「おじいさんのかさ」(さのようこ作)	
25	"	わかち読み
8. 1	"	読み、書き取り
8	「いばりんぼうのくせに」(みやかわひろ作) 読み、読解	
22	"	漢字テスト ※昭島の在日朝鮮の人が見学(2名)
9.12	「夜のくすの木」(大野亮子作) 読み	
19	"	
26	"	
10. 3	(A) 「かさこ地蔵」(岩崎京子作) 読み (B) 「沢内村」読み	
10	(A) " (B) "	
17	(A) " (B) " 文章を作る	
30	(A) 「したきりすずめ」 (B) " "	
11. 7	(A) " (B) " "	
14	(A) " (B) " "	
21	(A) " (B) " "	
28	五十音図 日本語の組み立て (B) 文章を作る	
12. 5	「生きるということの意味」(高史作) 精読、文章の理解	
12	作文、辞書の引き方、種類 「生きるということの意味」	
19	"	言葉の意味の正しい理解
	(A) 「スーホの白い馬」	
26	「生きるということの意味」	
1.23	(A) 「モチモチの木」(斎藤隆介作) (B) 「村いちばんのさくらの木」(栗栖良夫作)	
30	「生きるということ」(岩波少年文庫) (高史作)	
2. 4	"	読解(B)金子みすずの詩集 読み、読解 Tさん(B)コースでやる
20	"	漢字意味調べ、熟語、音訓の読み
27	"	金子みすず詩集「たんぼぼ」朗読
3. 5	"	標準語、地方語、生活語
12	"	

月日	内 容	教 材
3.19	「生きるということ」	
3.27	金子みすず詩集「土」朗読、読解	

期 間 平成9年4月3日(木)～平成10年3月26日(木) 全47回 参加者 延329人  
 講 師 高崎伊平氏(元小学校々長)  
 江頭晃子(ボラソチイア)  
 担当職員

月日	内 容	教 材
4. 3	「こつたら豆っ子」(西郷竹彦作) 読み、解釈	
10	〃	
17	五十音図の構成、日本語、平仮名、片仮名	
24	〃	
5. 1	「セメント樽の中の手紙」文を作る、外国人(外)「モチモチの木」(斎藤隆介作)	
8	〃	
14	〃	
21	「野麦峠」(山本茂美作) 「モチモチの木」読解	
29	〃	
6. 4	〃	辞書による言葉の確認一辞書を引く
11	〃	〃
18	「二銭銅貨」(黒島伝治作) 漢字読み	
26	〃	〃
7. 3	〃	読解 作文
10	〃	〃
17	〃	〃
24	文章を書く、識字教室に来て一課題作文一	
31	〃	〃
8. 8	「原爆詩集」(峠三吉作) 読解	
21	〃	〃
27	〃	〃
9. 4	〃	〃
11	「馬」(徳永直作) 読解	
18	〃	〃
25	〃	〃
10. 2	「級長の願い」(小林多喜二作) 読解	
9	〃	〃
15.23	「山の民話のこと」(山代巴作) 読解	

月日	内 容	教 材
10.30	「山の民話のこと」(山代巴作) 読解	
11. 6	〃	
13	〃	
20	〃	
27	〃	
12. 4	「イモの島」(栗栖良夫作) 読解	
11	〃	
17	〃	
12.25	茶話会	
1.22	「イモの島」読解	
29	〃	漢字テスト
2. 5	〃	
19	〃	
26	句集「かたかごの花」を読む 句作り	
3. 5	「イモの島」読解	
12	「豚群」(黒島伝治作) 読解	
19	〃	
26	〃	

期 間 平成10年4月2日(木)～平成11年3月25日(木) 全43回 参加者 延344人  
 講 師 高崎伊平氏(元小学校々長)  
 助手：江頭晃子氏(学芸大学大学院卒業・識字教育研究者)

学 期	教 材
一 学 期	おはよう、こんにちは 「国語」(安野やすまさ他編著) 「春のこもりうた」(平塚武二作) 五十音図・詩と歌・おもいをえがく・ことばのねっこ・文字とねっこ・絵文字・辞書 さるかにばなし(西郷竹彦作) こむぎのは(訳 西郷竹彦) キャンデー(栗栖良夫作) かげ・ちいちゃんのかげおくり 村いちばんのさくらの木(栗栖良夫作) べろだしちよんま(斎藤隆介作) ※3学期の最初に取り上げる。 詩「手」(新見南吉作) 雨ニモマケズ(宮沢賢治) 生きる(谷川俊太郎)
二 学 期	春(吉野せい作品集より) 私は百姓の女(吉野せい作品集より) 投げられたチェーソングム(灰谷健次郎著「いま 島で」)
三 学 期	痛んだ一枚の葉 ( )

地域福祉講座 高齢化社会を考えるー豊かな老後を支える地域福祉とは

期間 平成3年11月7日(木)～12月12日(木) 全6回 参加者 延56人

月日	内 容	講 師
11. 7	オリエンテーション 講座の内容について	担当職員
14	高齢化社会をめぐって	
22	高齢化社会とは	富永静江氏(白梅大教授)
28	国の福祉政策はー福祉入法の改正をめぐって	宮島敏氏(川崎市高齢社 福祉総合センター主任)
12. 5	地域福祉を支える実践から学ぶー 立川ケアセンター「やすらぎ」の実践を通して	相田茂氏(立川「やすら ぎ」運営委員長)
12	地域福祉とは その課題をさぐる	宮島敏氏

期間 平成5年1月28日(木)～3月18日(木) 全7回 参加者 延70人

月日	内 容	講 師
1. 28	オリエンテーション	担当職員
2. 4	地域の福祉はいま I 障害者福祉の現状	北村章氏(市福祉部)
18	” II 老人福祉の現状	三沢哲也氏(市福祉部)
25	” III 社会福祉協議会の活動は	田村保氏(社協)
3. 4	今、福祉政策の現状は＝	久保寺光良氏(福祉課)
11	ノーマリゼーションとは	宮島敏氏
18	市民が作る福祉ネットワークとは	聖隷福祉事業団

期間 平成5年11月12日(金)～平成6年3月31日(木) 全17回 参加者 延221人

月日	内 容	講 師
11.12	オリエンテーション 自己紹介	担当職員
19	高齢化社会とは	
26	高齢化社会は本主に危機なのか	
12. 2	福生市高齢者、障害者の生活実態調査を読む	
9	”	
16	一番ヶ瀬泰子著「地域に福祉を築く」を読む	
1.13	”	
20	”	
27	”	
2. 3	シュミレーション、地域で寝たきりの介護は	
17	大熊由紀子著「寝たきり老人のいる国」を読む	
24	”	
3. 3	中本毅著「北欧の医療と福祉」を読む	

月日	内 容	講 師
3.10	一人暮らしの死をめぐってー福生の福祉条件を探る	担当職員
17	中本毅著「北欧の医療と福祉」を読む	
24	福祉先進地域に学ぶ「日野市の福祉」	川松ゆり氏(町社公社)
31	中本毅著「北欧の医療と福祉」を読む	担当職員

期間 平成6年10月27日(木)～平成7年3月16日(木) 全11回 参加者 延88人

月日	内 容	講 師
10.27	課題整理 K J 法	担当職員
11.10	福生の高齢者・障害者の実態調査報告書を読む	
17	福生市地域福祉計画を読む	
12. 1	現場から学ぶー共同作業所ひまわりからの報告	平沢由利子氏
7	れんげ作業所からの報告	柳正氏
15	福生の高齢者福祉ー在宅をめぐって	阿部せつ氏
2.16	地域福祉計画を見る視点	宮島敏氏(聖隷福祉課)
23	福生の地域福祉計画	山崎雄大氏(福祉センター職員)
3. 2	在宅福祉を考える	担当職員
9	”	
16	日野市の在宅ケアーセンターから	島田五美子(田野7-センター)

期間 平成7年11月9日(木)～12月14日(木) 全5回 参加者 延100人

月日	内 容	講 師
11. 9	社会福祉法の改正と地域福祉の課題	担当職員
16	地域福祉の課題	
30	地域福祉の現実とは 福生における調査から	
12. 7	「福生市高齢者・障害者の実態調査」を読む	
14	”	

期間 平成8年2月2日(金)～4月4日(木) 全8回

月日	内 容	講 師
2. 2	福生市の地域福祉計画を読む 第1章・2章	担当職員
9	第3章「地域福祉計画の目標」・第4章「推進体系」	
16	第2編 総合的なサービス供給体制	
23	在宅サービスの充実	
3. 7	”	
14	”	
28	施設サービスの充実	



期 間 平成3年2月1日(金)～3月29日(金) 全8回 参加者 延192人

月日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
2. 1	オリエンテーション	担当職員
8	いま、家庭、家族に問われるもの	平湯統一氏(「親子」雜誌)
15	いま、子ども達は	林友三郎氏(教育評論家)
22	中学生、中学校	”
3. 1	いま、高校の多様化は	白井慎氏(法大教授)
8	学カってなんだろう	中内敏夫氏(一橋大教授)
15	話し合い	担当職員
29	子どもの権利条約を読む	木田堯氏(法大教授)

期 間 平成5年1月29日(金)～3月19日(金) 全7回 参加者 延49人

月日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
1. 29	戦後教育のあけぼの-1945年の前と後	徳武敏夫氏
2. 5	「新教育の発露」-戦後教育の発露とその理念	(法大、和光大講師)
19	1950年代の教育の二つの流れ	
月日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
2. 26	高度経済成長と教育-人的能力開発と新幹線授業	徳武敏夫氏
3. 5	教育をめぐる二つの路線、国民の教育権と国家の教育権	(法大、和光大講師)
12	臨時教育審議会の答申と学習指導要領	
19	国際的検証に耐える教育とは-「87年学習指導要領」	

期 間 平成8年2月2日(金)～3月8日(金) 全6回

月日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
2. 2	思春期の子ども達の現実、福生の中学生は	担当職員
9	中学校はどう変わってきたか、戦後中学校の変遷	白井慎氏(法大教授)
16	いじめ問題を考える、中学生のいじめと自殺	尾木直樹氏
23	高等学校とは、高等学校の課題、戦後高等学校	福永笑子氏
3. 1	地域や学校で親にできることはなにか	担当職員
8	”	”

公民館再発見講座-社会教育・生涯学習-  
期 間 平成6年2月17日(土)～3月9日(土)  
参加者 5×4回=25人

月 日	内 容	講 師
2. 17	公民館は-三多摩の公民館から学ぶ-	進藤文夫氏(仲瀬)
24	民間営利事業者に公民館を開放するとどうなる	長沢成治氏(京大)
3. 2	社会教育とは-おとなが学ぶ意味	横山 宏氏 明星大学教授
9	生涯学習って-生涯学習の歴史と生涯学習	

講座「権利としての社会教育・生涯学習を学ぶ」  
期 間 平成8年2月17日(土)～3月9日(土)  
参加者 5×4回=25人

月 日	内 容	講 師
1. 2. 13	社会教育・生涯学習をめぐって	担当職員
20	社会教育の権利性と公共性	内田純二氏(京大)
1. 24	改めて社会教育法を読む1	担当職員
31	改めて社会教育法を読む2	
2. 7	「新しい公民館像をめざして」から学ぶ	進藤文夫氏(仲瀬)

市民大学歴史講座—日本近代の歩み

期間 平成元年6月7日(水)～11月1日(水) 全17回 参加者 延170人  
講師 川村善二郎氏(歴史学者)

担当職員

月日	テ	ー	ラ
6. 7	オリエンテーション、自己紹介、現代史を学ぶにあたって		
14	日本の近代、日本の近代社会と国民Ⅰ		
21	” 日本近代社会と国民Ⅱ		
28	満州事変の道、昭和時代の序曲、金融恐慌の勃発		
7. 15	話し合い、これまでのことを話し合う		
12	満州事変の道、満州事変の背景、国際的孤立		
19	非常時の世相、フレンジムの台頭、世相		
26	準戦体制の強化、満州事変から華北へ、天皇機関誌		
9. 6	日本の近代と農村、近代日本の農村、不況下の多摩農村		
13	多摩の農村、昭和初期の多摩の農村レポート		
20	” ”		
27	15年戦争下の教育、近代国家と教育、日中戦争と教育		
10. 4	太平洋戦争への道、第二次大戦と日本		
11	” ”		
18	戦時下の国民生活、政治体制と国民、戦争の長期化と国民生活		
25	” ”		
11. 1	大日本帝国の敗北、1945年8月15日の意味		

期間 平成2年6月6日(水)～11月7日(水) 全15回 参加者 延135人

講師 川村善二郎氏(歴史学者)

月日	テ	ー	ラ
6. 6	オリエンテーション		
13	なぜ、なんのために、近代を学ぶのか		
20	「富国強兵」の早期実現をめざして＝明治維新の明と暗		
30	有司専制の打破と立憲体制の樹立をー自由民権運動の展開		
7. 7	草の根民主主義のモニュメントー民衆憲法草案ー五日市憲法創造		
11	人間の自由と平等を求めてー民衆運動と部落の人々ー		
18	天下の政事を直すためにー社会不況と困民党の活動		
25	社会不況と困民党の活動2		
9. 19	日本における「近代国家の成立」ー大日本帝国憲法制定		
26	「新興国」に敗れた「眠れる獅子」ー日清戦争と中国分割		
10. 3	日本の資本主義と社会問題ー足尾銅毒事件と社会民主党		

テ

月日	テ	ー	ラ
10. 17	「君死にたもうこと勿れ」ー日露戦争と非戦論		
24	話し合い		
30	アジアの中の日本・朝鮮・中国ー「脱亜入欧」への道		
11. 7	独立国から「保護国」「植民地」へ韓国合作の動き		

市民大学歴史講座 大正デモクラシー

期間 平成3年5月15日(水)～7月24日(水) 全11回 参加者 延121人  
講師 川村善二郎氏(歴史学者・東郷大講師)

月日	テ	ー	ラ
5. 15	オリエンテーション、自己紹介、講座に期待するもの		
22	日本の近代国家の成りたち、大日本帝国憲法体制と国民		
29	「時代閉塞の現状」の克服をめざして 「明治から大正」		
6. 5	「帝国主義」時代の世界と日本		
12	「天佑神助」の第一次世界大戦		
19	「戦争景気」と「成金」時代の明暗 独占資本主義と民衆		
26	労働組合運動と普通選挙運動の高まり 民主主義運動の展開		
7. 3	母性保護運動と婦人参政権を求めて		
10	人の世に熟あれ人間に光あれー全国水平社の創立		
17	日本統治下の植民地「朝鮮」 三・一運動と関東大震災事件		
24	普通選挙法と治安維持法制定 「大正」から「昭和」へ		

市民大学歴史講座 日本の近代とアジアⅠ

期間 平成5年1月30日(土)～4月10日(土) 全10回 参加者 延210人  
講師 川村善二郎氏(歴史学者・東郷大・学芸大講師)

月日	テ	ー	ラ
1. 30	オリエンテーション		
2. 6	なぜ、なんのために歴史を学ぶのか		
13	領国から開国へ 近代世界の成立と日本		
20	富国強兵の実現をめざしてー世界史の中の明治維新		
27	「脱亜入欧」への道 自由民権とアジア問題		
3. 6	圧迫された国から圧迫する国へ 日清戦争		
13	アジアにおける帝国主義時代 北清事変と日露戦争		
20	独立国「朝鮮」から植民地「朝鮮」へ 朝国併合への道		
27	第一次世界大戦と日本 二十ヶ条約と五・四運動		
4. 10	日本統治下の植民地「朝鮮」 三・一運動と関東大震災		

市民大学歴史講座 日本の近代とアジアⅡ

期間 平成5年9月11日(土)～平成6年1月29日(土) 全15回 参加者 延315人  
講師 川村善二郎氏(歴史学者・「図説日本近代史」編者・日本近代史研究会幹事)

月日	テ	ー	ラ
9.11	オリエンテーション、自己紹介、講座について		
18	近代中国史1 ファイルムフォーラム		
25	近代中国史2・3		
10. 2	なぜ、なんのために歴史を学ぶのか (近代日本の歴史とアジア)		
9	日本国民の朝鮮人・中国人意識 (関東大震災と虐殺事件)		
30	対新中国政策と張作霖事件 (協調政策から強硬政策へ)		
11. 6	守れ滿蒙・帝国の生命線 (滿州事変と「滿州国」)		
20	日中戦争の全面化と長期化 (東亜新秩序の建設)		
27	日本と中国の友好と平和を求めて 植木徹之介と長谷川テイル		
12. 4	日中戦争下の植民地「朝鮮」		
11	滿蒙開拓移民と大陸の花嫁 (五族共和と王道楽土) の現実		
18	大東亜新秩序と高度国防国家の建設・南進政策と新体制		
1. 8	「大東亜共栄圏」の夢と現実 アジアから見た太平洋戦争		
22	“ ” 労働力の徴発と強制連行		
29	第二次世界大戦とアジアと日本-戦争責任と戦後責任		

### 市民大学歴史講座 日本の近代・現代とアジア

期間 平成6年6月4日(土)~10月29日(土)全14回 参加者 延2994人

講師 川村善二郎氏 (学芸大講師、歴史学者、「國政日本近代の歴史」編者)

担当職員

月日	テ	ー	ラ
6. 4	オリエンテーション		
11	歴史の教訓に学ぶということは一戦争責任・戦後責任		
18	映画「朝鮮半島の植民地支配」		
7. 2	ビデオ「橋のない川 第7巻完成記念講演 住井すゑ氏」		
9	日本の国民は祖国の敗戦をどう迎えたか		
23	アジアの諸国は日本の敗戦をどう迎えたか		
30	連合軍の日本占領政策をめぐって		
8. 6	日本国憲法の制定をどう受け止めたか		
9.17	東京裁判で裁かれたものはなにか		
24	戦争責任の反省の見方をどうするのか		
10. 1	冷戦構造とアジアをめぐって-朝鮮戦争と日本の対応		
8	日韓会談と日韓条約をめぐって		
22	歴史の教訓に学ぶことは		
29	全体を通して、まとめ		

期間 平成7年6月24日(土)~11月18日(土) 全15回 参加者 延183人  
講師 川村善二郎氏 (東京経済大学講師)

月日	テ	ー	ラ
6.24	歴史の教訓に学ぶ		
7. 1	日本の近代国家とアジア・太平洋戦争-戦争と戦争責任		
15	戦争責任と戦後責任を考える-米田佐代子論文から		
22	討論		
29	大日本国憲法から日本国憲法へ-憲法改正の道筋へ		
8. 5	福生第二中学校歴史部の調査報告会と私の戦争体験		
12	戦後民主教育の曲がりかど-改憲論が語られる時代背景		
9.16	誠意迎勅の動き-朝鮮戦争と講和条約の中で		
30	60年安保条約改定をめぐって-戦後民主主義		
10. 7	“ ” “ ”		
14	戦後民主主義とは-植民地支配の反省と韓国・朝鮮		
28	“ ” 日米共同声明と沖縄返還		
11. 4	“ ” ベトナム戦争と日本		
11	問われる人権-高度経済成長と公害 水俣病から		
18	“ ” “ ”		

### 市民大学歴史講座 戦後教科書の歴史に学ぶ

期間 平成9年2月15日(土)~3月15日(土) 全5回 参加者 延66人

講師 徳武敏夫氏 (法政大学講師)

月日	テ	ー	ラ
2.15	墨塗り教科書から		
22	戦後の民主的な教科書の発行		
3. 1	第一次教科書問題		
8	学習指導要領と教科書-家永裁判をめぐって-		
15	第二次教科書問題		

PTA講座一  
PTA講座一よまれる広報づくり PTA講座



期日 平成元年5月18日(木)～6月29日 午前10時～正午 全7回  
参加者 10×7回=70人

月日	テーマ	内容	講師
5 18	PTAの課題	今日のPTAの問題を話し合う	担当職員
5 25	PTAの歴史	PTAの歴史(アメリカと日本)	藤田 博(中央大学講師)
6 1	PTAの運営	PTAの運営(1)	"
6 8	PTAの会計	"	溝淵幸太郎(元PTA会長)
6 15	PTAの活動	各種委員会活動と役割	"
6 22	PTAの広報	PTA広報活動	前橋弘子(全P研)
6 29	PTAの実践	PTAの実践について話し合う	担当職員

PTA入門講座

期日 平成2年6月7日(木)～7月5日 午後2時～4時 全5回

参加者 10×5回=50人

月日	テーマ	講師
6 7	PTAとは何か=学習するPTAへ	前橋 弘子(全P研)
6 14	PTAの活動、委員会活動を考える	溝淵 幸太郎 (元PTA会長)
6 21	"	"
6 28	学級PTAの活動を考える=教育を語る場に	"
7 5	読まれる広報づくり	前橋 弘子(全P研)

PTA講座一よまれる広報づくり

期日 平成2年9月6日(木)～27日 午後2時～4時 全4回  
参加者 10人×4回=40人

月日	テーマ	講師
9 6	広報の役割 - PTA広報とは何か -	前橋 弘子(元全P研)
9 13	記事のつくり方、見出しのつけ方	"
9 20	割つけの仕方、手書き広報をつくる	"
9 27	手書き広報をつくる。合評会	"

PTAの運営の基礎講座

期日 平成3年5月17日～6月28日 午後2時～4時 全7回  
参加者 18人×7回=126人

月日	テーマ	内容	講師
5 17	PTAってなあに	PTAの歴史を通してその役割を学ぶ	前橋 弘子
5 24	PTAの運営I	民主的な運営を目指して活動のイロハ	溝淵幸太郎

6 2	PTAを楽しく	前橋 弘子
6 9	PTAの運営Ⅱ	溝淵幸太郎
6 16	PTAの広報の役割	
6 23	PTA広報の編集	
6 30	手作り広報のつくり方実習	
7 7	手作り広報のつくり方実習	

### PTA講座一よまれる広報づくり

期 間 平成7年5月25日(木)～7月6日(木) 全7回  
 参加者 10人×7回=70人

月 日	内 容	講 師
5 25	PTAを楽しく	溝淵幸太郎
6 1	PTAの運営Ⅰ	
6 8	PTAの広報とは	前橋 弘子
6 15	PTAの広報の編集	
6 22	広報を作る	
6 29	広報を作る	
7 6	手作り広報	

### 豊かなPTAを作るには

期 間 平成8年5月31日～7月5日 全6回  
 参加者 延べ35人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5 31	PTAとは	PTAの歴史と役割	溝淵幸太郎
6 7	委員会活動とは		
6 14	広報の役割	委員会活動の進め方 広報の役割、広報委員会の仕事	前橋 弘子
6 21	広報編集の技術		
6 28	広報編集の技術		
7 5	手書き広報の作り方		

### PTAの運営の基礎講座

期 間 平成9年5月23日(金)～7月6日(金) 全6回  
 参加者 35人

月 日	内 容	講 師
5 23	PTAの歴史 歴史を通してPTAの未来の活動を知る	溝淵幸太郎
5 30	PTA専門部活動 専門部活動を豊かにするための方法	
6 5	学級活動を豊かにするためには	
6 12	PTA広報の役割と編集 編集技術と実習	前橋 弘子
6 20	PTA広報の役割と編集 編集技術と実習	
6 27	PTA広報の役割と編集 編集技術と実習	

期 間 平成10年10月1日～11月19日  
 参加者 延べ30人

人権講座「差別のない社会を求めて」

月日	テーマ	内 容	講 師
10 1	P T A とは何か	P T A の歴史	溝淵幸太郎
10 8	P T A の組織と運営	組織図を作ろうー規約を読んで	
10 15	P T A の組織と運営	専ら部活動を豊かにするために	
10 29	P T A 広報の作り方	P T A 広報の役割	前橋 弘子
11 5	P T A 広報の作り方	P T A 広報の編集技術	
11 12	手書き広報を作ろう	編集の実習	

期 間 平成11年5月27日(木)～7月7日(木) 全6回

参加者 14人×6回=84人

月 日	内 容	講 師
5 27	P T A の歴史・なぜ生まれ、どう発展してきたか	溝淵幸太郎
6 10	役員会・委員会活動をどうゆたかにするか(1)	〃
6 17	役員会・委員会活動をどうゆたかにするか(2)	〃
6 24	P T A 広報の編集と編集技術(1)	前橋 弘子
7 1	P T A 広報の編集と編集技術(2)	〃
7 7	P T A 広報の編集と編集技術(3)	〃

松林分館利用者交流会

日 時 平成2年6月27日(水)

参加者 4サークル 13人

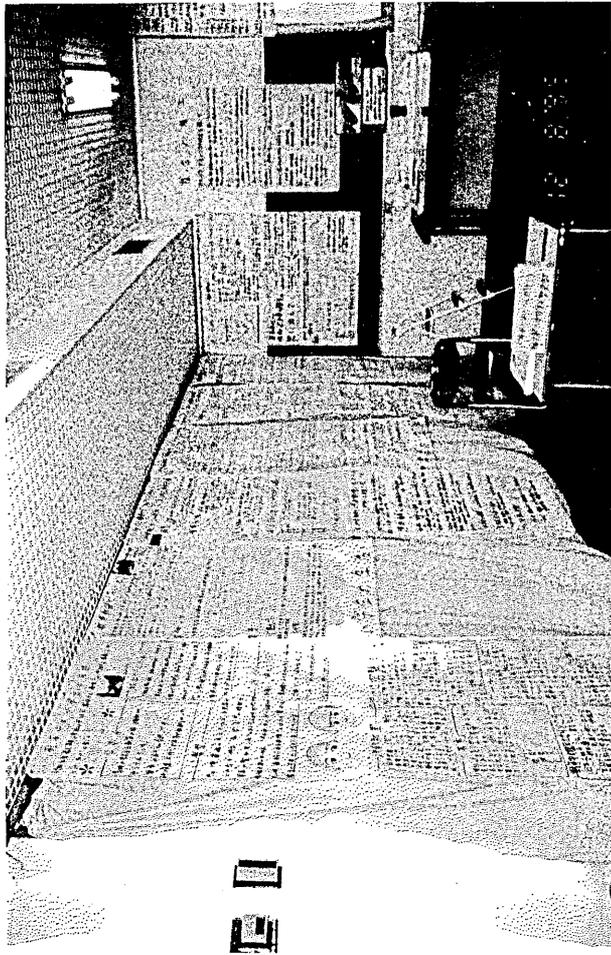
月 日	テーマ	内 容	講 師
1991.12.10 平成3年	差別のない社会を求めて	差別をなくして差別人権をなくす	川村善二郎氏 学芸大講師
1992.12.05 平成4年	基本的人権とはなにか	基本的人権の成立経緯	川村善二郎氏 学芸大講師
12.12	現代社会と部落差別	部落問題と差別の課題	前橋弘子氏 講師
1993.11.27 平成5	映画「人間みな兄弟」	74分VTR	担当員
2.04	部落問題の歴史	部落問題史と差別の課題	川村善二郎氏 学芸大講師
12.11	現代社会と人権問題	現代社会と差別をなくす	前橋弘子氏 講師
1994.11.19 平成5年	九十歳の人間宣言	山村善二郎先生講演	担当員
11.26	現代社会と基本的人権	基本的人権をどう実現していくか	川村善二郎氏
1995.11.25 平成7年	映画「放鶴の空」を見て	74分VTR	担当員
12.02	現代社会と差別	基本的人権と差別	川村善二郎氏 学芸大講師
12.09	基本的人権の歴史	国と人権	前橋弘子氏 講師
12.16	部落差別は生きている①	基本的人権と部落差別	歴史学者
12.23	部落差別は生きている②	基本的人権と部落差別	
1996.11.30 平成8	基本的人権の歩み	基本的人権の歩み(動画)を収	担当職員
12.1	歴史は自由への歩み	基本的人権の歴史の歩み	川村善二郎氏 学芸大講師
12.14	現代社会と人権問題	差別と基本的人権	前橋弘子氏 講師

第二中学校歴史部

「中学生が見て、聞いて、調べて知った戦時中の福生」展

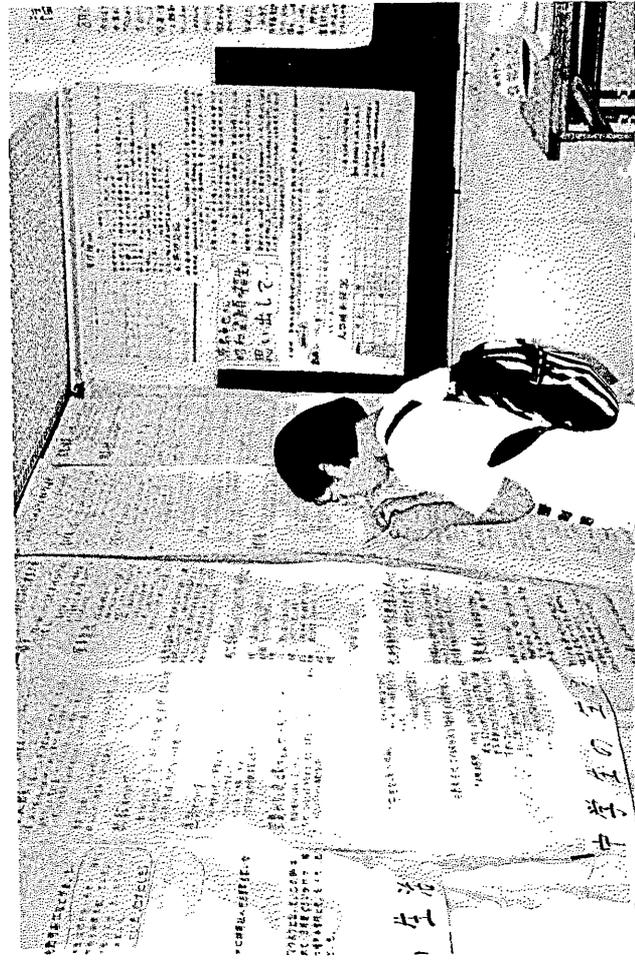
1995年(平成7)8月1日～15日 保育室で

月 日	テーマ	内 容	講 師
1997. 01. 11 一戦時	現代社会と人権問題	日本国憲と権	川村善二郎氏 学芸大講師
	部落差別は生きている	基本的人権と総論	
2. 1	人の世に熟あれ人間の光を求めて	水戸運動から学ぶ	川村善二郎氏 学芸大講師
2. 08	差別のない社会を求めて	東の差別を語る	川村善二郎氏
2. 17	90歳の人間宣言一世村長	ビデオを見て話し合	担当員
3. 5	現代の差別問題	部落問題を掘り上げて人権を語る	川村善二郎氏
24	子どもの人権	いじめ問題と人権	牧 征名 教人館



戦争体験を語る、高崎伊平さんと島田作一さん

1995(平成7)8月市民大学歴史講座



松林分館のホビー教室



陶芸教室—指導する柴田 繁先生



手ろくろで抹茶茶碗の成型



初心者水墨画教室 指導する中村瑞謙先生



なかなかむずかしい筆使い

初心者水彩画教室

平成6年2月2日(金)から3月1日(金)午後7時30分～9時30分

9×5回=95人

月日	テーマ	内容	講師
2. 2	絵とはなにか	描くことの意味	木住野利男氏 造形作家
9	作画法	画法を学ぶ	
16	彩色・絵の具について	好きな風景を描く	
23	作画法・彩色法		
3. 1	合評会		

初心者陶芸教室

平成7年6月21日(日)から7月30日(日)午前9時30分～12時

参加者 17×7回=119人

月日	テーマ	内容	講師
6. 25	陶芸について、土練り	陶芸の話・土練りの基礎	柴田 繁 陶芸作家
7. 2	作品づくり(成形)	作陶の技術・手びねり	
9	作品づくり	抹茶茶碗をつくる	
16	素焼き、釉薬づくり	素焼き・焼成温度と窯	
22	釉薬かけ、窯詰	釉薬づくり・窯詰	
23	本焼き(焼成温度)	本焼き	
30	窯だし	合評会	

算数教室

平成7年2月3日(金)～3月3日(金)午後7時30分～9時30分

参加者 19×5回=95人

月日	テーマ	内容	講師
2. 3	算刻とは	算刻のおもしろさ	田端克敏氏 書家
10	算刻の技術	石と彫り 字体を書く	
17	算刻の技術	石と彫り 彫りの技術・	都立八王子北 高校教諭
24	算刻の技術	石と彫り 彫りの技術・	
3	合評会	合評会	

初心者水墨画教室

平成9年1月27日(水)～3月31日(日)午後7時30分～9時30分

参加者 14×10回=140人

月日	テーマ	内容	講師
1. 27	調墨と線の描き方	墨のすりかた、色合い	山本瑞穂氏 日本画家
2. 3	葉の描法	画法の獲得	
10	竹の描法		
17	ぶとうと母の描法		
24	椿の描法		
3. 3	白木蓮の描法		
10	蛙の描法		
3. 17	菊の描法	画法の獲得	山本瑞穂氏 日本画家
24	牡丹の描法	画法の獲得	
31	作品の裏打ち・合評会	裏打ちの技術	

初心者陶芸教室

平成10年5月30日(日)～7月3日(日)午前9時30分～12時

参加者 21×7=147人

月日	テーマ	内容	講師
5. 30	陶芸について、土練り	陶芸の話・土練りの基礎	柴田 繁 陶芸作家
6. 7	作品づくり(成形)	作陶の技術・手びねり	
14	作品づくり	抹茶茶碗をつくる	
6. 20	素焼き、釉薬づくり	素焼き・焼成温度と窯	
21	釉薬かけ、窯詰	釉薬づくり・窯詰	
27	本焼き(焼成温度)	本焼き	
7. 3	窯だし	合評会	

初心者陶芸教室

平成11年5月29日(日)～7月3日(日)午前9時30分～12時

参加者 21×7=147人

月日	テーマ	内容	講師
5. 29	陶芸について、土練り	陶芸の話・土練りの基礎	柴田 繁
6. 6	作品づくり(成形)	作陶の技術・手びねり	

初心者陶芸教室  
 期間 平成8年5月18日(土)～6月22日 午前9時30分～12時  
 参加者 21×7=147人

月日	テーマ	内 容	講 師
5. 18	陶芸について、土練り	陶芸の話・土練りの基礎	柴田 繁 陶芸作家
25	作品づくり(成形)	作陶の技術・手びねり	
6. 1	作品づくり	抹茶茶碗をつくる	
8	素焼き、釉薬づくり	素焼き・焼成温度と窯	
15	釉薬かけ、窯詰	釉薬づくり・窯詰	
16	本焼き(焼成温度)	本焼き	
22	窯だし	合評会	

初心者木版画教室  
 期間 平成9年2月7日から3月14日(金) 午後7時30分～9時30分  
 参加者 8×5回=40人

月日	テーマ	内 容	講 師
2. 07	下絵転写(彫り説明)	版画下絵づくり	戸田敏郎氏 版画家
14	彫りの説明・彫り	彫りの基礎	
21	彫り方・試し彫り	彫りの基礎・彫り方	
3. 7	色版説明・刷り	彫りの基礎・刷り方	本刷り・作品完成
3. 14	本刷り	本刷り・作品完成	

期間 平成9年5月17日(日)～6月21日 午前9時30分～12時  
 参加者 21×7=147人

月日	テーマ	内 容	講 師
5. 17	陶芸について、土練り	陶芸の話・土練りの基礎	柴田 繁 陶芸作家
24	作品づくり(成形)	作陶の技術・手びねり	
31	作品づくり	抹茶茶碗をつくる	
7	素焼き、釉薬づくり	素焼き・焼成温度と窯	
13	釉薬かけ、窯詰	釉薬づくり・窯詰	
14	本焼き(焼成温度)	本焼き	
22	窯だし	合評会	

月日	テーマ	内 容	講 師
	作陶		山本瑞穂氏 日本画家
6. 19	素焼き、釉薬づくり	素焼き・焼成温度と窯	
20	釉薬かけ、窯詰	釉薬づくり・窯詰	
27	本焼き(焼成温度)	本焼き	
7. 3	窯だし	合評会	

初心者水墨画教室  
 期間 平成12年1月28日(金)～3月31日  
 参加者 20×10回

月日	テーマ	内 容	講 師
1. 28	調墨と線の描き方	墨のすりかた、色合い	山本瑞穂氏 日本画家
2. 4	葉の描法	画法の獲得	
11	竹の描法		
16	ぶとうと葎の描法		
25	楮の描法		
3. 3	白木蓮の描法		
10	蛙の描法		
17	菊の描法	画法の獲得	
24	牡丹の描法	画法の獲得	
31	作品の裏打ち・合評回	裏打ちの技術	

# ひだまりハイキング

期日 平成元年10月8日(日)  
 参加者 33人  
 コース 松林分館(バス)…奥多摩有料道路敷馬口…都民の森…精口峠…三頭山…三頭大滝テッキ…都民の森…奥多摩有料道路敷馬口(バス) —— 松林分館

期日 平成3年3月17日(日)  
 参加者 11人  
 コース 福生駅(電車) —— 青梅駅…永山公園…青梅丘陵…哉吹…青梅街道…梅の公園…即清寺…二俣尾 —— 福生駅

期日 平成4年1月6日(日)  
 参加者 33人  
 コース 福生駅(電車) —— 東青梅…王泉寺…宗建寺…延命寺…清宝院…地藏院…明白院…間修院…東青梅 —— 福生駅

期日 平成5年3月30日(火)  
 参加者 13人  
 コース 東福生駅(電車) —— 東飯能 —— 武蔵横手…五常の滝…北向地蔵…鎌北湖…物見山…駒高…日和田山…高麗駅 —— 東飯能 —— 東福生駅

期日 平成6年3月29日(火)  
 参加者 8人  
 コース 福生駅(電車) —— 御嶽…滝本…御岳山…長尾平…日の出山…吉野梅郷日和田 —— 福生駅

平成6年度は雨天のため中止

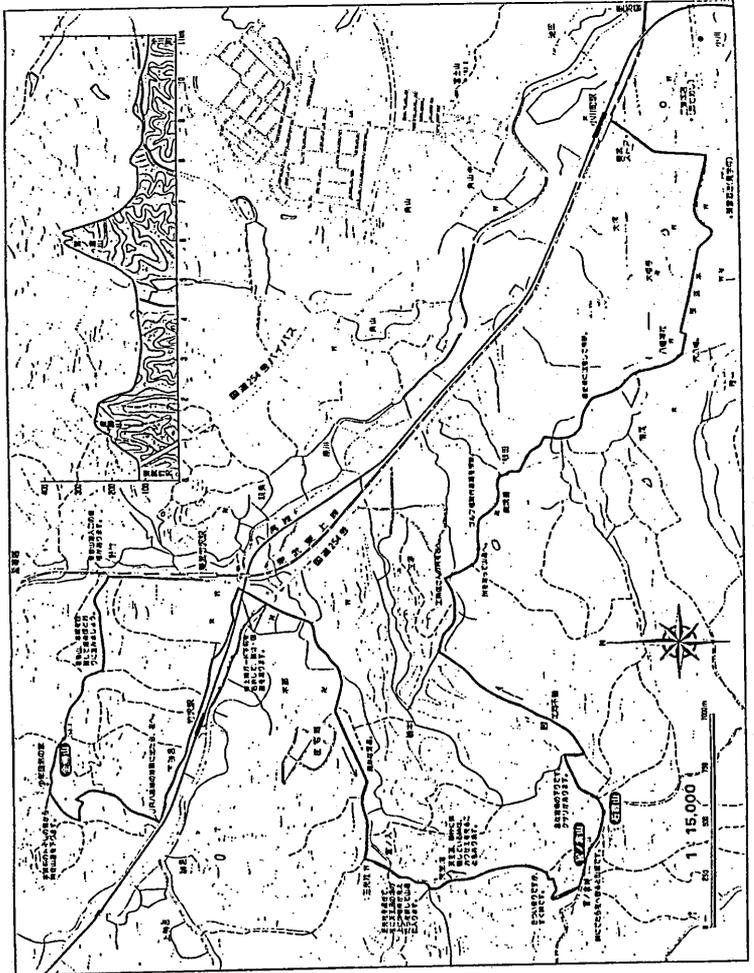
期日 平成8年3月28日(木)  
 参加者 18人  
 コース 東福生駅(電車) —— 西武秩父駅…13番礼所…26番礼所…奥の院(岩井堂)…27番礼所…28番礼所(橋立鍾乳洞)…浦山口 —— 東福生駅

期日 平成9年3月19日(水)  
 参加者 15人

コース 東福生駅(電車) —— 竹沢駅…三光社…宮ノ倉山…石尊山…北向不動…八幡神社…小川町 —— 東福生駅

期日 平成10年3月25日(水)  
 参加者 6人  
 コース 東福生駅(電車) —— 高麗駅…巾着田…金刀比羅神社…日和田山…物見山…北向地蔵…ユガチ…東吾野 —— 東福生駅

期日 平成11年3月26日(金)  
 参加者 15人  
 コース 東福生駅(電車) —— 大野原駅…龍石寺…岩乃上堂…観音寺…栄福寺…音楽寺…西光寺…秩父神社 —— 東福生駅



シネ・フェスティバル FOR PEACE

期日 平成2年8月9日(木)及び8月12日(日)

月日	上映	映 作 品	上映時間等	入場者
8. 9	ガラスのうさぎ		午後 1時～1回	10人
12	象のハナ子		午前10時～1回	18
		トビウオのぼうやはびょうきです おかあちゃんごめんね		

期日 平成3年8月11日(日)

期日	上 映	映 作 品	上映時間等	入場者
		せんすいかんに恋をしたクジラの話	午前10時30分	
		トビウオのぼうやはびょうきです	～11時45分	20人
		草原の少女ローラ	午後1時30分	
		せんすいかんに恋をしたクジラの話	～4時30分	15人
		トビウオのぼうやはびょうきです		
		草原の少女ローラ		
		はだしのゲン(パートI)		

期日 平成4年8月16日(日)

期日	上 映	映 作 品	上映時間等	入場者
		おこりじぞう	午前10時～11時	15人
		おかあちゃんごめんね		
		トビウオのぼうやはびょうきです	午後1時～4時	15人
		はだしのゲン(パートII)		
		平和の谷	午後5時 ～6時30分	15人

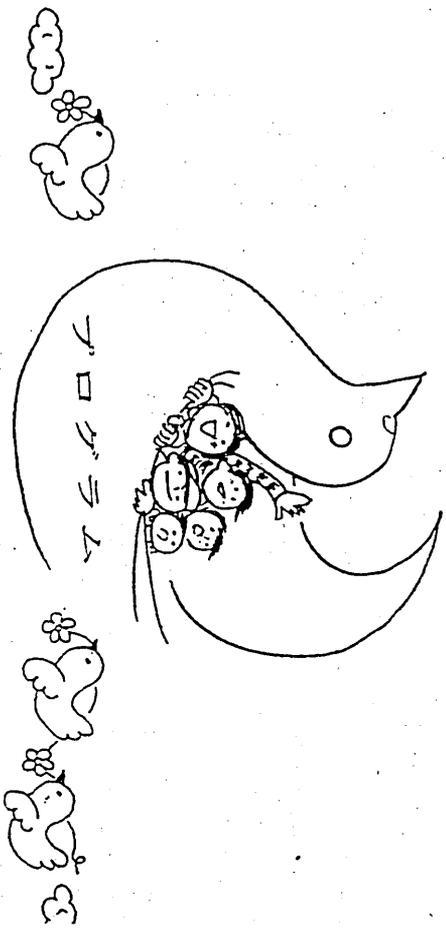
期日 平成5年8月4日(水)～8月6日(金)

月日	上 映	映 作 品	上映時間等	入場者
8. 4	ナイチンゲール・おこりじぞう		午前10時～ 午後10時 1回	9人
		平和の谷・黒い雨		
5	おかあちゃんごめんね・つるにのって		午前10時～ 午後10時 1回	10人
		ビルマの罫琴・抵抗の詩II		
6	マヤの一生・つるにのって		午前10時～ 午後10時 1回	12人
		ガラスのうさぎ・戦争と青春		

シネ・フェスティバル FOR PEACE

7月23日(金)	上映時間	作 品 名
	午前10時～11時	トビウオのぼうやはびょうきです せんすいかんに恋をしたクジラの話 おかあちゃん ごめんね
	午後2時～3時10分	ぼくは孫悟空～手塚治虫物語
	午後7時～8時50分	ガラスのうさぎ
	午前10時 ～11時50分	はだしのゲン (第1部)
	午後2時～3時10分	二十四の瞳
	午後7時～8時40分	原爆の子
24日(土)	午前10時～11時	核戦争 つるにのって 十六地蔵物語
	午後2時～4時	はだしのゲン (第2部)
	午後7時～9時	戦場の女たち 子供たちの昭和史
25日(日)		

戦争体験の風化が伝えられる今日、戦争を知らない世代にその実態を伝え、平和の尊さを次代に受け継いでいくという願いを込めて...  
 場所 松林会館 ※入場無料  
 対象 幼児～一般(昼間は幼児・小学生向けです)  
 問合せ 公民館松林分館へ。



福生市公民館 松林分館

期日 平成10年7月24日(金)～7月26日(日)

月日	上映作品	上映時間等	入場者
7.24	赤いお月さま・ピカドン・白旗の少女～琉子 きけ、わだつみの声	午後1時～ 午後9時 1回	62人
25	トビウオのぼうややびょうきです・ヒロシマのエノキ 最後の空襲KUMAGAYA・うしろの正面だあれ 思い出のアン	午後1時～ 午後9時 1回	95人
26	おこりじぞう・ながさきのこうま・時計は生きていた もうひとつのヒロシマ「アリランのうた」 チャップリンの兵隊さん	午後1時～ 午後9時 1回	94人

'98 シネ・フェスティバル FOR PEACE  
～平和のための映画祭～

会場 松林会館  
入場無料  
公民館松林分館  
電話 552-3624

7月24日(金)  
午後1:00～2:00 赤いお月さま・ピカドン  
3:00～4:00 白旗の少女 琉子  
7:00～9:00 きけ、わだつみの声



7月25日(土)

期日 平成6年8月11日(木)～8月13日(土)

月日	上映作品	上映時間等	入場者
8.11	ガラスのうさぎ おぼけ煙突のうた・一つの花	午前10時～1回 午後2時～2回	5人 5人
12	冬のリトルボーイ 象のいない動物園・さくら隊散る	午前10時～ 午後8時 1回	21人
13	象のいない動物園・さくら隊散る 冬のリトルボーイ・チャップリンの兵隊さん	午前10時～ 午後8時 1回	19人

期日 平成7年8月4日(金)～8月5日(土)

月日	上映作品	上映時間等	入場者
8.4	ナイチンゲール・おこりじぞう 平和の谷・黒い雨	午前10時～ 午後10時 1回	9人
5	おかあちゃんごめんね・つるにのって ピルマの竖琴・抵抗の詩II	午前10時～ 午後10時 1回	10人
6	マヤの一生・つるにのって ガラスのうさぎ・戦争と青春	午前10時～ 午後10時 1回	12人

期日 平成8年8月2日(金)～8月4日(日)

月日	上映作品	上映時間等	入場者
8.2	おかあさんの木・ながさきの子うま・おこりじぞう おかあさんの声が聞こえる・象のハナ子・地下水道	午前10時～ 午後10時 1回	21人
3	夏服の少女たち・一つの花・トビウオのぼうややびょうき です・青葉学園物語・オキナワの少年	午前10時～ 午後10時 1回	16人
4	しんちゃんのさんりんしゃ・煙突屋ペロロ・ ひろしまのうた・千羽づる・二十四の囃	午前10時～ 午後10時 1回	20人

期日 平成9年8月8日(金)～8月10日(日)

月日	上映作品	上映時間等	入場者
8.8	対馬丸・千羽づる・戦争と青春	午前10時～ 午後9時 1回	24人
9	一つの花・十六地蔵物語 戦争一子ともたちの遺言	午前10時～ 午後9時 1回	18人
10	ヒロシマに一番電車が走った・おこりじぞう 沖繩第1部・第2部	午前10時～ 午後9時 1回	22人

# 高齢者の事業（さつきひろば）

平成元年 1989  
 平成2年 1990  
 平成3年 1991  
 平成4年 1992  
 平成5年 1993  
 平成6年 1994  
 平成7年 1995  
 平成8年 1996  
 平成9年 1997  
 平成10年 1998  
 平成11年 1999

さつきひろば

活動内容
介護保険 映画 国会議事堂 反省会
北沢美術館 この問題 消防署博物館 高齢者と体操
箱根緑生花園 リサイクルカレッジ と谷戸沢処分場見学
映画 山野草の話 緊急処置 都民の森 江戸東京博物館 青少年犯罪について
映画会 高麗の里 在名福祉 富弘美術館 映画 江戸東京たて映画 もの園 体操
健康管理 市の防災対策 介護講座 植物観察 映画会 早仙峡 料理教室 体操 中野正剛を語る 史跡見学
若さを保つ体操 陶芸教室 都民の森 江戸東京博物館 青少年犯罪について 高齢者と家族
栄養と料理 検査審査会 川越探訪 高齢者と体操 悪徳商法 お茶の作法
作陶 地域探訪 福祉史 健康

松林さつきひろば

期 間 平成4年9月10日(木)～11月26日(木) 全11回  
 会 場 松林分館他  
 参加者 36人×11回=396人

月 日	内 容	講 師
9 10	内容紹介、自己紹介、作陶	島 田 京 子
9 17	作 陶	"
10 1	"	"
10 8	牛浜駅周辺地区の散策	立 川 愛 雄
10 15	福生の歴史について	"
10 29	健康について	村 野 栄 子
11 4	バス見学(昇仙峡)	
11 12	作 陶	島 田 京 子
11 19	"	"
11 20	"	"
11 26	作陶についての反省会	"

期 間 平成5年9月9日(木)～12月16日(木) 午前10時～12時全10回  
 参加者 42人×10回=420人

月 日	内 容	講 師
9 8	内容紹介、自己紹介、語り合い	

9 30	若さを保つ栄養と料理(講演)	福生保健所栄養士
10 7	" (実習)	"
10 14	検察審査会制度について	須田耕造(元福岡検察庁検事)
10 28	小江戸「川越」の街並み散策(お茶77-)	劉斐斌、尾形あかね(お茶77-会員)
11 11	高齢者の体の変化について	宮川栄次(皇野病院院長)
11 18	若さを保つ体操	福生保健所指導員
11 25	福生の歴史について	高崎勇作
12 2	悪質商法について	村千鶴子
12 16	お茶の作法を学ぶ	高山宗打

期 間 平成6年9月8日(木)～12月8日(木) 全10回  
 参加者 延べ288人

月 日	内 容	講 師
9 8	内容紹介、自己紹介、語り合い	
10 6	若さを保つ体操	神原あつ子(お茶77-会員)
10 21	陶芸教室	柴田 繁(陶芸家)
10 28	"	"
11 11	"	"
11 18	"	"
11 25	"	"

12 2	陶芸教室	柴田 繁 (陶芸家)
12 3	"	"
12 8	高齢者と家族について	平揚紘一(月刊)編集

期 間 平成7年9月7日(木)～12月14日(木) 全11回

参加者 延べ335人

月 日	内 容	講 師
9 7	内容紹介、自己紹介、語り合い	
9 28	健康管理について	市健康管理課職員
10 5	市の防災対策について	市地域防災課長
10 13	介護講座	竹中星郎(精神科医)
10 19	植物観察(神代植物公園)	
11 2	映画会(花いちもんめ)	
11 9	昇仙峡見学	
11 16	料理教室(若さを保つ栄養と料理)	原島敦子(経理師会社)
11 30	若さを保つ体操	神原あつ子(ｽｰﾌﾟﾌﾞﾙ)
12 7	戦後50年「父「中野正剛」を語る」	中野泰雄(東北大学客員)
12 14	市内史跡見学	立川愛雄

期 間 平成8年9月19日(木)～12月5日(木) 全10回

参加者 延べ374人

月 日	内 容	講 師
9 19	内容紹介、自己紹介、語り合い	
9 26	映画会(ふるさと)	
10 3	高麗の里バスハイク	
10 24	在宅福祉行政について	市在宅福祉課長
10 31	富弘美術館バスツアー	
11 7	若さを保つ体操I	市体育館職員
11 14	映画会(昭和の歴史)	
11 21	江戸東京たてももの園バスツアー	
11 28	若さを保つ体操II	神原あつ子(ｽｰﾌﾟﾌﾞﾙ)
12 5	反省会	

期 間 平成9年9月18日(木)～12月11日(木) 全11回

参加者 延べ444人

月 日	内 容	講 師
9 18	内容紹介、自己紹介、語り合い	
9 25	映画会	
10 2	箱根原生花園(バスツアー)	
10 15	リサイクルセンター・谷戸沢処分場見学	
10 30	山野草の話	斉藤一朗

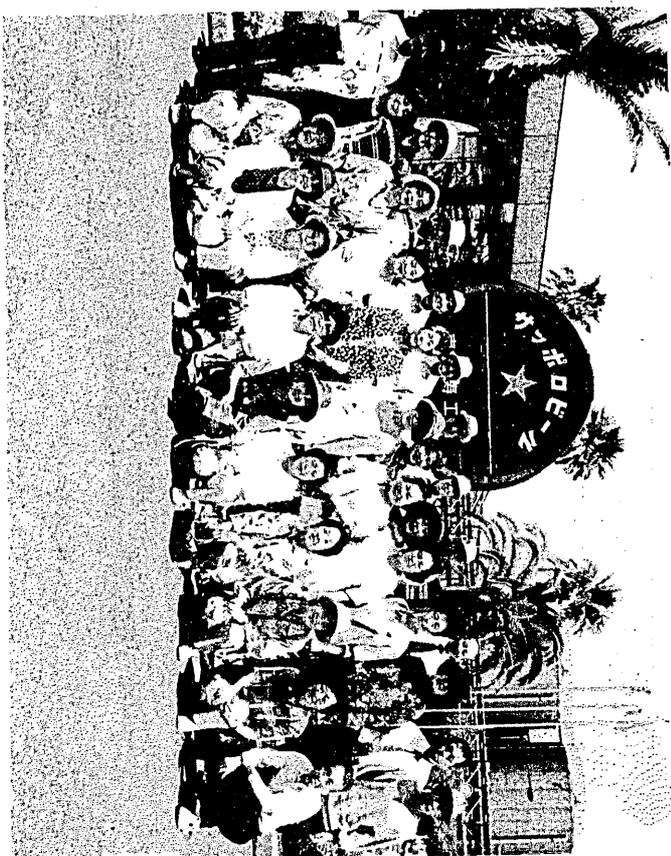
期 間 平成11年9月9日(木)～12月16日(木) 全7回  
 参加者 279人

月 日	内 容	講 師
9 9	内容紹介、自己紹介、誓り合い	
9 22	介護保険について	福祉部介護保険課
10 7	映画会「四万十川」	
10 20	国会議事堂・相田みつを美術館(1班)	バスツアー
10 29	国会議事堂・相田みつを美術館(2班)	バスツアー
11 11	若さを保つ体操	市体育館職員
12 16	反省会	

11 6	映画会	
11 13	応急手当てについて	福生消防署
11 21	若さを保つ体操	市体育館職員
11 26	都民の森	
12 4	江戸東京博物館(バスツアー)	
12 11	青少年の犯罪について・反省会	福生警察署

期 間 平成10年9月17日(木)～12月17日(木)  
 参加者 延べ406人

月 日	内 容	講 師
9 17	内容紹介、自己紹介、誓り合い	
9 25	北沢美術館・原田泰治美術館	バスツアー
10 1	こみ問題について	市民部福祉課
10 8	消防博物館・NHK・都庁	バスツアー
10 29	若さを保つ体操	市体育館職員
11 5	山梨県立美術館・ライナリー工場	バスツアー
11 19	高齢者の健康と食事について	多摩川保健所
11 26	映画会	
12 3	古美術を語る	砂川 哲
12 17	反省会	



IX.  
地域と結んで

○だれでもなんでも展

○松林ホーム・シアター

1990年(平成2)~1999年(平成11)



だれでもなんでも展実行委員会



第17回だれでもなんでも展

## IX. 地域と結んで

### だれでもなんでも展

1990年(平成2)から1999年(平成11)

#### I. だれでもなんでも展

1980年(昭和55)開館して1年後の、利用者交流会に松林分館職員側から、①地域の手作りの文化を育てるために ②サークルやグループの活動の発表の場として、③出合い、ふれあいの場をめざし、④公民館の活動を出来るだけ地域の人々に知ってもらうため、そして、何よりも、皆で一つのものをつくり出す経験を共有しながら、地域に働きかけていく力を利用者が持つと言うことを期待して提案した。

利用者交流会の論議の中では、「だれでもが、気軽に参加できる場にしていこう。それこそ、子供たちの夏休みの宿題でも、コツコツ作ってきた趣味の作品でも、地域でそうしたことをやりながらも、なかなか発表する機会の無い人達も大勢いるのでは?、そうした人々の作品を松林のサークルやグループで活動している人が、ミニ文化祭に展示できるようお誘いしたらば。」と言うことで、そのネーミングも、幼児から高齢者まで、気軽に参加できるようにと「だれでもなんでも展」と名付けられた。

そして「あなたと同じ仲間が、各サークルで週1回学習を楽しんでいます。手作りの暖かさ、素朴な味を大切に、丹精こめて創作に励み、時には制作を忘れて、お互いに生活を語り合ったり、人生の生き方みたいな、何かを学び、ふれあいの喜びを感じています。ちょっとした生活の知恵、ご意見など、皆様の声を是非松林の窓口にお持ち込み下さい。地域社会のふれあいの場として、松林のサークル活動は、これからも、皆様の要望に応え、限りなく明日を切り開いていくでしょう。」という呼びかけが、だれでもなんでも展実行委員会から出された。あれから19回目の「だれでもなんでも展」が今年1999年10月に開催されている。

その後この「だれでもなんでも展」は、回数を重ねるなかで「1. 地域でこつこつと行なわれている文化的な営みを掘り起こし、繋げていく、2. その役割を松林分館の利用者と地域の人々が共同で担っていくこと、3. サークル、グループの活動や松林分館の活動を地域に繋げていく。「展」単なる利用者発表会とは違い地域で行なわれている地道な文化的な営みを掘り起す作業と、自分たちの行なっているサークル活動の中身を伝え合うという相互の関係から成り立っているものである。」という位置づけを実行委員会で毎年確認をしながら、続いてきた。毎年、利用者交流会で「だれでもなんでも展」の実施が検討され、討議を経て、実行が決まると、「だれでもなんでも展実行委員会」が組織されていく。そして、代表、副代表、が選出され、テーマの論議が行なわれていく。この10年間におけるテーマは次の通りである。

だれでもなんでも展 テーマ一覧

1989年	まるく・まるく ひろがれ 手づくり10年の波	10月21・22日
1990年	おいで、おいでマイ・ステージ 新しい出会い、懐かしい出会いを求めて	10月27・28日
1991年	あなたのテーマパークなんでも展 もえろ・もやせ手づくりパワー	10月26・27日
1992年	いま輝こう、あなたもわたしも、可能性を信じて ーひろがれ、手づくりネットワークー	10月24・25日
1993年	出会い、つどい、発信、この街から ー手づくり文化祭、だれでもなんでも展ー	10月23・24日
1994年	出会い、ふれあい、発信、この街から	10月28・29日
1995年	出会い、ふれあい、発信、この街から	10月15・16日
1996年	ひろげよう、つなげよう 手づくりのよろこび	10月19・20日
1997年	ひろげよう、つなげよう 手づくりのよろこび	10月25・26日
1998年	地域のWA サークルのWA 手づくりのWA	10月24・25日
1999年	創りあげる喜び・ささえあえるよろこび・ わかちあえる喜び	10月23・24日

こうしたテーマは毎年、実行委員会の中で、かなり論議をしいながら決められていく。そして、ポスター等はすべて、原画作成の呼びかけがされて、それに応じる形で毎年数サークルから幾つかの原画が出され、実行委員会の中で、討議され、決定されていく。ポスターの張り出し「だれでもなんでも展」のチラシ配付等を含めて、主体的に実行委員会を中心に実行していく。こうした会議が10回前後行なわれていく中で、毎年の「だれでもなんでも展」は作り上げられていく。

1991年(平成3)の「だれでもなんでも展」の見学者の一人は「小さい子から大人までとてましたのしめました。参加者が一生懸命創っているのがわかりました。(36歳女)」「全体として出品者のあたたかい心とできあがるまでのご苦労のあとが感じられ大変楽しく拝見させていただきました、ありがとうございます。(78歳女)」「皆様の努力の成果がありありと見えます。プロ顔負けの製品におどろきました。今後も続けてほしいです。(71歳男)」1996年(平成8)の「みんなで

	団体・出品者総数		一般応募	利用サークル	作品総数		一般	サークル	演 示	参 加
	人数	団体	人	団体	点	点	点	点	点	サークル
昭和63	124	113	11		489	359	130	6	20	
平成1	78	63	15		773	535	238	9	25	
平成3	66	42	24		540	238	302	7	26	
平成5	73	47	26		398	192	206	9	26	
平成6	38	25	13		422	137	285	8	24	
平成7	74	47	27		698	330	368	10	27	
平成8	73	47	26		495	132	365	9	28	
平成9	68	58	10		600	240	360	9	24	
平成10			12		508	145	363	8	29	
平成11	65	43	22		500	145	365	8	27	

「だれでもなんでも展」出品者・団体の変遷

歌おう」のコーナーで参加した人は「今年もなんでも展に参加させていただきありがとうございます。また、コーラスの練習と重なったり、委員会にあまり出席できず、すいません。当日、喫茶の方では、コーヒーメーカーがこわれ、又演示の方も打ち合わせと違ってしまい、(略)幕が途中で下りたりスッタモンダの一日ではありました。私も作業に少し慣れてきたのか、ハープ&ピース、日舞等とでもしみじみしたものを味合わせて貰いました。野田さんが白梅会の方に『ずーっと続けてきて、ここで一段越えられたのでは』とおっしゃってましたが、本当に“継続は力なり”ですね。それと受け手の暖かい気持ちが入り込んでいてとてもうれしく、発信する側と受け手とで感動をつくっていくものだ、と新たに実感しました。私のコーナーも細かいミスはあったものの、皆様のおかげで楽しいひとときになりました。来年も又参加させてください。女」と感想を書いている。1998年第18回の「だれでもなんでも展」の参加者は、「なんでも展にしては、結構工夫されて居ると思います。場所は小さかったけど、でも手作りでの催し物は暖かく感じました。女」「はじめてきましたが、こんなにいっぱいの方がここで活動されているのにびっくりしました。来年もがんばってください。女」「いろいろな人と交流がもてて大変よかった。これからもこう言った交流を21世紀にも続けられたらと思います」と言う感想を述べてくれた人、また「少々マンネリ化した感じは入場者と作品製作者の顔ぶれでわかる感じがありました。新しいメンバーをもっと積極的にリクルートしましょう。PTAの運動会と重なってしまって残念だな。男」と述べてくれる人、その時々展を現実を実に的確に感想として書いていた。

実行委員会の会議は「だれでもなんでも展」の話だけではなく、1998年には、配食サービスのボランティアをしている、女性の方が、実行委員会の席上で、「配食ボランティアの手が少ないのでどなたか、やって頂けませんか」との呼びかけに応じて「囲碁愛好会」の高齢者の方が配食ボランティアの活動に参加していった。

だれでもなんでも展は毎年、展示される方にメッセージを作品に書いて貰っている。制作過程での思いや、苦心したところなども含めて、それぞれの作品に作者のメッセージがあり、それがまた、作品の出展者と来館者を繋ぐものにもなっている。

そして、この「だれでもなんでも展」に地域の精神障害者の共同作業所「ひまわり」が参加申し込みをして、「ひまわり」コーナーを設けるようになったのが1991年(平成3)、いまは、受け付けや、喫茶コーナーとも、担当サークルの方と一緒に作業を担っている。「だれでもなんでも展」に参加して10年を迎えている。そうした意味では、さまざまな形で地域と結んだ活動が「だれでもなんでも展」は実現している。

加えて、さまざまな形で模擬店をサークルで開いているが、その売り上げを、福祉に寄付する団体も少なくないが、実行委員会としてプールし、次年度の模擬店の準備資金として使われていく。こうして、地域の福祉とも関わりを持ちはじめた「だれでもなんでも展」として発展している。

しかし、1998年の見学者の一人が指摘しているように、地域に呼びかけるという取り組みに対する主体的な力が弱まってきていることも事実であった。この現状をどのように解決していくかが、問われ始めた近年の「だれでもなんでも展」である。

最後に1992年の「だれでもなんでも展」の呼びかけ文は語りかける。

夜空の星を結んで星座を見つけた時、旧友に出会えたような喜び、無から無限の夢を生

み出すシャボン玉の不思議さを見つめる時の目の輝き、毎日の忙しさ、慌ただしさの中で忘れてしまったそんなひとときを味わいに、松林分館の「だれでもなんでも展」に出掛けませんか。

手作りする人々の喜び、思いに触れることで、目を閉じてしまっていた自らの可能性を又信じられるようになるかもしれません。同じ思いの仲間がいる、それはとても、心強いことです。来年は自分も出品してみよう、という思いを抱いて帰って頂ければ、「だれでもなんでも展」は大成功です。是非、松林の手づくりネットワークを見にお出掛けください。

## II. 松林ホームシアターの10年

1989年(平成元)から1999年(平成11)

### 1. 松林ホーム・シアター

1979年(昭和54)松林分館が開館し最初に取り組んだ歴史的な事業である。

子ども達の生活は資本主義社会の中で、最も豊かな国の一つになった日本であるが、その中で、子ども達が豊かに育っているかという点、残念ながら、そうっていない現実がある。国連の子どもの権利条約批准国の国際会議が1998年にスイスで開催された。国際会議の中で先進諸国では唯一日本の子ども達の現状が問題となった。その中で児童虐待や、遊ぶ権利を奪っている日本の現状について批判されていた。ものの豊かさが必ずしも、子ども達を幸せにはしないし、むしろ、子どものゆたかな成長にとっての生活環境は極めて悪化してきた。とりわけ、文化環境も、あまり豊かとはいえない状況が続いている。この10年間、子どもの発達への歪みは深刻さを増してきた。とりわけ、1990年代は、子どもの精神的な発達のもつれが大きな課題になっている。子どもたちは、自分達の生活を能動的につくっていく力が萎えてきていることに止まらず、否定的な事態に自らの生活を追い込んでいくという危険性が非常につよくなったのも1990年代の一つの特徴であった。

加えて、映像文化や雑誌文化の頹廃もあって、子どもの人権意識や平和や暴力に対する感性が非常に萎えてきた事も事実であった。こうした中で、子どもや父母に対して優れた映像や児童文化財を改めて提供するという仕事は重要性を増してきた。

松林分館の「松林ホームシアター」は優れた映像文化を通して、子供たちに豊かな感性と豊かな知力を育てる場の一つとして始められた。

松林ホームシアターの目的は、1. 優れた映像作品や児童文化財を提供していくこと、2. 子ども達が自ら作っていく文化活動の発表の場であり、地域で子どもの文化にかかわっている大人や青年に発表の場を提供していくという役割を持つように努力をしてきた。

ホームシアターのフィルム選定に当たっては、

- ① 子どもの生活がみずみずしく描かれているもの
- ② 子どもの仲間との創造的な働きが描かれていること。
- ③ 深い人間愛に貫かれていること。

④ 作品を通して「平和」「基本的人権」「人間愛」にかかわった問題提起の出来ること

この4点を作品選定の条件としてきた。近年は、幼児に見せたいと言う若い母親達が増えてきた。この10年間における、上映フィルム数と上映回数と参加者人員は下表のようになっている。

平成元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
本数18	8	11	13	19	13	13	13	17	17
回数17	7	10	10	15	13	11	10	13	10
参加者66	169	334	293	347	270	427	238	224	331

こうした映画とは別に、人形劇鑑賞が1990年(平成2)「劇団びぼたあむ」の「ばばあちゃんのいそがしい夜・すえっ子ねこのルウ」、1992年(平成4)同劇団で「ふたりのお話」を、1995年(平成7)「ばばあちゃんのいそがしい夜・すえっ子ねこのルウ」の再演、1998年、人形劇団「なるにあ」で「ジャックと豆の木」が上演されている。

だれでもなんでも展実行委員会  
 第9回～19回  
 だれでもなんでも展  
 第9回～19回

第9回だれでもなんでも展実行委員会 (平成6月17日-10月29日)

月 日	内 容
6 17	日程、イメージの検討の話し合い
7 1	日程決定、イメージの検討、テーマの論議
7 8	テーマの決定、委員長決定、
7 22	よびかけ文の検討、決定、ポスター原案
9 2	参加サークル募集、当日の内容検討
9 9	ポスター、チラシ原案決定、作品募集
9 30	各サークルの作品、一般応募作品の集約
10 7	当日役割分担の決定
10 14	展示会場の割りつけ、一般作品の応募状況、準備体制について
10 20	だれでもなんでも展準備
10 29	反省会

参加者 16人×11回=176人

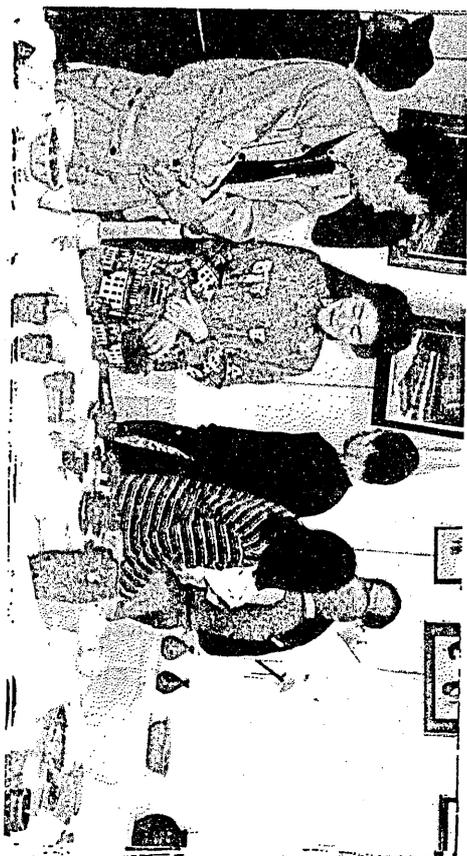
今年のテーマ まるく まるく ひろがれ 手づくり10年の故

開催日 平成元年10月21日(土)～22日(日)

10月21日(土)午後1時～5時

展 示 絵画、陶芸、彫刻、書道、七宝焼、文章、サークル紹介  
 演 示 映画「草原の少女ローラー」 「15少年漂流記」

そのまんまコンサート、歌(伊東律子) ピアノ(堀谷亮子)



喫茶コーナー

10月22日(日) 午前10時～午後4時30分

展 示 絵画、陶芸、彫刻、書道、七宝焼、文章、サークル紹介  
 演 示 映画「草原の少女ローラー」

お嬢子

ジヤズ演奏(福生ジヤズ愛好会)

コーラス(コーラス虹)

剣詩舞(剣詩舞同好会)

人形劇-ワルメソンの音楽隊「人形劇団わんぱく坊主」

踊り

喫茶コーナー 模擬店コーナー 囲碁コーナー 竹細工・工作コーナー

展示作品 753点(一般536点 サークル200点)

出品者 一般80人 団体15サークル

参加サークル 20団体 入場者数 延べ2,600人

今年、伊東律子さんの手で「松林分館のうた」が作詞、作曲された。

第10回だれでもなんでも展実行委員会 (平成7年8月2日-11月10日)

月 日	内 容
8 2	委員長決定、実施日、テーマ決定
8 23	よびかけ文決定、ポスター原案決定
9 1	ポスター、チラシの配布、参加状況調べ

第11回だれでもなんでも展実行委員会 (平成3年6月29日~11月9日)

月日	内 容
6 29	正副実行委員長選出 実施日決定
7 13	テーマ決定
8 3	よびかけ文決定、ポスター原案決定
9 7	ポスター、チラシ配布
9 14	演示の順番、時間等を決めた
9 21	展示場所を決めた
10 5	テント、机の確認、演示の再確認等
10 19	細部の確認
11 9	反省会

参加者 延べ119人

テーマ あなたのテーマパークなんでも展 もえろもやせ手づくりパワー

開催日 平成3年10月26日(土)・27日(日)

10月26日(土)午後1時~5時

展 示 絵画、陶芸、彫刻、書道、七宝、文章、サークル紹介

演 示 映画「二十四の瞳」

・喫茶コーナー コーヒー・ジュース

10月27日(日)午前10時~4時30分

展 示 絵画、陶芸、彫刻、書道、七宝、文章、サークル紹介

演 示 人形劇「さるかに合戦」「おだんごパン」(パテット)

コーラス(コーラス虹)(コール・コスモス)

剣詩舞(剣詩舞同好会)

新舞踊(白梅会)

コンサート(伊東律子)

マジック(アマチュアマジッククラブ)

喫茶コーナー・模擬店コーナー・囲碁コーナー

展示作品 540点(一般 227点 サークル 313点)

出品者 一般42人 団体15サークル

参加団体 24サークル

入場者数 延べ1,491人

第12回だれでもなんでも展実行委員会 (平成4年6月29日~11月9日)

月日	内 容
6 27	正副実行委員長選出、実施日決定
7 11	テーマ決定
7 25	ポスター原案決定
8 22	よびかけ文決定
9 5	参加状況調べ
9 12	展示会場を決めた
9 19	演示時間、受付担当を決めた
9 26	ポスター、チラシの配布
10 3	材料、消耗品等の確認
10 17	細部の確認
11 7	反省会

参加者 延べ131人

今年のテーマ いま、輝こうあなたもわたしたしも、可能性を信じて

=ひろがれ、手づくりネットワーク=

開催日 平成4年10月24日(土)・25日(日)

10月24日(土)午後1時~5時

展 示 絵画、陶芸、彫刻、書道、七宝、文章、サークル紹介

演 示 映画「ベルとかいじゅう王子」 「アルプスの少女ハイジ」  
 喫茶コーナー コーヒー・ジュース  
 10月25日(日) 午前10時～4時30分  
 展 示 絵画、陶芸、彫刻、書道、七宝、文章、サークル紹介  
 演 示 劇「いじわる王子さま」(ファンタスティック)

マジック (アマチュアマジッククラブ)  
 合唱 (ひまわり共同作業所)  
 シヤンソン (福生シャソンをうたう会)  
 コーラス (コール・コスモス) (コーラス虹)  
 大正琴 (琴松会)  
 新舞踊 (白梅会)  
 剣詩舞 (剣詩舞同好会)  
 民謡 (峰敏会)  
 つぶやきコンサート  
 フリーマーケット  
 獅子舞

喫茶コーナー 模擬店コーナー 囲碁コーナー  
 展示作品 558点 (一般 278点 サークル 280点)  
 出品者 一般44人 団体10サークル  
 参加団体 29サークル 入場者数 延べ1,985人

第13回だれでもなんでも展実行委員会 (平成5年6月5日～11月6日)

月 日	内 容
5 22	正副実行委員長決定、実施日決定
6 5	テーマ決定
6 19	呼びかけ文の検討
7 3	呼びかけ文決定
7 24	ポスター原案の承認
9 4	出展内容について

9 18	会場、時間の割り当て
10 2	受付担当、客室当番の決定
10 9	会場設営について
10 16	細部の最終確認
11 6	反省会

参加者 延べ383人  
 今年のテーマ 出会い、つどい、発信、この街から  
 =手づくり文化祭、だれでもなんでも展=  
 開催日 平成5年10月23日(土)・24日(日)  
 10月23日(土) 午後1時～5時

展 示 絵画、陶芸、手芸、書道、七宝、絵本、サークル紹介  
 演 示 映画「親バカちゃんりん」  
 マジック (アマチュアマジッククラブ)  
 喫茶コーナー コーヒー・ジュース・ケーキ

10月24日(日) 午前10時～4時30分  
 展 示 絵画、陶芸、手芸、書道、七宝、絵本、サークル紹介  
 演 示 映画「親バカちゃんりん」  
 コーラス (コール・コスモス)

(コーラス虹)  
 マジック (アマチュアマジッククラブ)  
 みんなで歌おうコーナー  
 大正琴 (琴松会)

剣詩舞 (剣詩舞同好会)  
 新舞踊 (白梅会)  
 劇「ふくろうと子ども」(ファンタスティック)

喫茶コーナー 模擬店コーナー 囲碁コーナー  
 展示作品 398点 (一般 192点 サークル 206点)  
 出品者 一般47人 団体8サークル  
 参加団体 26サークル  
 入場者数 延べ1,796人

第14回だれでもなんでも展実行委員会 (平成6年6月10日~11日11日)

月 日	内 容
6 10	正副実行委員長選出
6 24	実施日、テーマの決定
7 8	呼びかけ文決定、ポスター原案の承認
7 22	出展・展示内容について
9 2	模擬店について
9 9	会場・時間の割り当て、受付担当の決定
9 30	模擬店、会場設置について
10 7	出展数量、展示作業について
10 21	各事項の最終確認
11 11	反省会

参加者 延べ198人

今年のテーマ 山あい ふれあい 発信 この街から

開催日 平成6年10月28日(土)・10月29日(日)

10月28日(土) 午後1時~5時

展 示 絵画、陶芸、手芸、書道、七宝、絵本、サークル紹介  
演 示 映画「はれときどきぶた」「木を植えた男」

マジック (アサチユアマジッククラブ)

喫茶コーナー コーヒー ケーキ ビザ

10月29日(日) 午前10時~4時30分

展 示 絵画、陶芸、手芸、書道、七宝、絵本、サークル紹介  
演 示 映画「はれときどきぶた」「木を植えた男」

大正琴 (琴風会)

(琴松会)

新舞踊 (白梅会)

民謡 (峰敬会)

剣詩舞 (剣詩舞同好会)

コーラス (コーラス虹)

(コール・コスモス)

みんなで歌おうコーナー

マジック (アサチユアマジッククラブ)

朗読劇「一つの花・他」(劇団フレンジアスライク)

喫茶コーナー、模擬店コーナー、囲碁コーナー

展示作品 698点(一般 330点 サークル 368点)

出品者 一般47人 サークル11

参加団体 27サークル 入場者数 延べ1,978人

第15回だれでもなんでも展実行委員会 (平成7年6月4日~10月29日)

月 日	内 容
6 4	正副実行委員長選出、実施日決定
6 18	テーマ決定
7 2	呼びかけ文決定
7 23	ポスター原案の承認
9 3	出展内容について
9 10	会場、時間の割り当て、受付担当の決定
9 17	模擬店について
10 1	会場設置について
10 8	各事項の最終確認

10 29	反省会
-------	-----

参加者 延べ208人

今年のテーマ 出会い ふれあい 発信 この街から  
開催日 平成7年10月15日(土)・16日(日)

10月15日(土) 午後1時～5時

展示 絵画、陶芸、手芸、書道、七宝、絵本、サークル紹介  
映画「鉢かつぎ瓶」「ゆかいなピエロとにげだした6匹の熊」

ワジツク (アマチュアワジツククラブ)

喫茶コーナー コーヒー・紅茶・おしるこ・ケーキ・ピザ

10月16日(日) 午前10時～4時30分

展示 絵画、陶芸、手芸、書道、七宝、絵本、サークル紹介  
映画「鉢かつぎ瓶」「ゆかいなピエロとにげだした6匹の熊」  
大正琴 (琴風会)

(琴松会)

新舞踊 (白梅会)

剣詩舞 (剣詩舞同好会)

コーラス (コーラス虹)

(コール・コスモス)

みんなで歌おうコーナー

ワジツク (アマチュアワジツククラブ)

劇「花咲き山考」(フアンタスティアック)

喫茶コーナー、模擬店コーナー、囲碁コーナー

展示作品 422点(一般 137点 サークル 285点)

出品者 一般30人 団体13サークル

参加団体 24サークル 入場者数 延べ1,927人

第16回だけれどもなんでも実行委員会 (平成8年10月22日-11月02日)

月 日	内 容
6 22	テーマ決定
7 6	呼びかけ文決定、ポスター原案の承認

7 20	出展、演示内容について
9 7	模擬店について
9 14	会場・時間の割り当て、受付担当の決定
9 28	模擬店、会場設置について
10 5	出展数値、演示作業について
10 12	各事項の最終確認
11 2	反省会

参加者 延べ191人

今年のテーマ ひろげよう つなげよう 手づくりのよろこび  
開催日 平成8年10月19日(土)・20日(日)

10月19日(土) 午後1時～5時

展示 手芸、絵画、陶芸、絵本、七宝、水彩画、サークル紹介

映画「アラジンとふしぎなランプ」

ワジツク (アマチュアワジツククラブ)

喫茶コーナー コーヒー ケーキ

10月20日(日) 午前10時～4時

展示 手芸、絵画、陶芸、絵本、七宝、水彩画、サークル紹介

映画「まねし小僧」(劇団フアンタスティアック)

大正琴 (ハーブ&ピース)

新舞踊 (文化教室剣詩舞)

コーラス (コーラス虹)

(コール・レーベン)

(コール・コスモス)

みんなで歌おうコーナー

ワジツク (アマチュアワジツククラブ)

喫茶コーナー 模擬店コーナー

展示作品 495点(一般 132点 サークル 363点)

出品者 一般47人 団体12サークル

参加団体 28サークル 入場者数 延べ1,882人

第17回だれでもなんでも展実行委員会 (平成9年6月14日~11月18日)

月日	内 容
6 14	正副実行委員長選出、実施日、委員会日程について
6 28	テーマ、呼びかけ文、ポスター原案の作成について
7 12	ポスター原案の検討について
7 26	ポスター原案の検討、演示、展示、模擬店について
9 6	出展、演示内容、模擬店について
9 13	会場、時間の割り当て、受付担当、各室の当番について
9 27	模擬店、会場設営について
10 4	会場及び展示作業の人数確定、出展数値について
10 18	各事項の最終確認について
11 18	反省会

参加者 延べ200人

今年のテーマ ひろげよう つなげよう 手づくりのよろこび

開催日 平成9年10月25日(土)・26日(日)

10月25日(土)午後1時~5時

展 示 絵画、陶芸、写真、七宝、水彩画

演 示 映画「おむすびころりん」「ぶんぶくちやがま」「風の又三郎」

マジック(アマチュアマジッククラブ)

喫茶コーナー コーヒー ケーキ 焼そば フランクフルト

10月26日(日)午前10時~午後4時30分

展 示 絵画、陶芸、写真、七宝、水彩画

演 示 映画「おむすびころりん」「ぶんぶくちやがま」「風の又三郎」

大正琴(ハーブ&ピース)

新舞踊(白梅会)

剣詩舞(剣詩舞同好会)

コーラス(コーラス虹)

(コール・コスモス)

(コール・レーベン)

みんなで歌おうコーナー(伊東律子)

マジック(アマチュアマジッククラブ)

喫茶コーナー コーヒー ケーキ 焼そば クッキー ドーナツ 囲碁コーナー

展示作品 600点(一般 240点 サークル 360点)

出品者 一般56人 団体10サークル

参加団体 24サークル 入場者数 延べ1,491人

第18回だれでもなんでも展実行委員会 (平成10年6月18日~11月14日)

月日	内 容
6 13	正副実行委員長選出、実施日、委員会日程について
6 27	テーマ、呼びかけ文、ポスター原案の作成について
7 4	演示、展示、模擬店について
7 18	ポスター原案の検討について
9 5	演示、演示内容、模擬店について
9 19	展示会場、演示時間割当、受付担当、各室の当番について
10 3	模擬店(飾格、抽品)、会場設営、展示作業の人員について
10 17	各事項の最終確認について
11 14	反省会

参加者 延べ202人

今年のテーマ 地域のWA サークルのWA 手づくりのWA

開催日 平成10年10月24日(土)・25日(日)

10月24日(土)午後1時~4時

展 示 木工作品、絵画、陶芸、手芸、七宝焼、造花、水彩画、絵手紙他

演 示 映画「白雪姫」

マジック (アマチュアマジッククラブ)

喫茶コーナー コーヒー 紅茶 ケーキ

10月25日(日)午前10時~午後4時

展 示 木工作品、絵画、陶芸、手芸、七宝焼、造花、水彩画、水墨画

演 示 映画「西遊記」

大正琴 (ハーブ&ピース)

マジック (アマチュアマジッククラブ)

コーラス (コール・コスモス)

(コール・ルーベソ)

(コーラス虹)

剣詩舞 (剣詩舞同好会)

みんなで歌おうコーナー (伊東律子)

喫茶コーナー コーヒー ケーキ 焼そば 蒸しケーキ 囲碁コーナー

展示作品 508点 (一般 145点 サークル 363点)

出品者 一般51人 団体12サークル

参加団体 28サークル 入場者数 延べ1,447人

### 第19回だれでもなんでも展実行委員会 (平成11年6月26日-11月30日)

開催日

平成11年10月23日(土)・24(日)  
10月23日(土)午後1時~4時

展 示 すずきの型細工、銅板工芸、造花、墨絵、油絵、陶芸、絵手紙

演 示 映画(ポン松五郎の生活)

マジック (アマチュアマジッククラブ)

喫茶コーナー コーヒー 紅茶 ケーキ 焼そば おでん 手打ちそば

10月24日(日)午前10時~午後4時

展 示 すずきの型細工、銅板工芸、造花、墨絵、油絵、陶芸、絵手紙

演 示 映画(セロ弾きのゴーシュ・雪渡り・注文の多い料理店)

大正琴 (ハーブ&ピース)

コーラス (コーラス虹)

(コール・コスモス)

(コール・ルーベソ)

民謡 (絆敬会)

マジック (アマチュアマジッククラブ)

みんなで歌おうコーナー (伊東律子・梶谷克子)

喫茶コーナー コーヒー 紅茶 ケーキ 焼そば おでん 手打ちそば

囲碁コーナー

展示作品 566点 (一般143点 サークル423点)

出品者 一般38人 団体10サークル

参加サークル 27団体

入場者数 延べ1,547人

月 日	内 容
6 26	テーマ、呼びかけ文、ポスター原案について
7 10	ポスター原案の検討について
7 24	演示・展示・模擬店について
9 11	展示会場・演示時間割当・模擬店・絵本コーナーの当番について
9 25	受付担当・各室の当番・模擬店(価格・備品)等について
10 16	会場数管及び作品展示作業・各事項の最終確認について
11 13	反省会

参加者 170人

今年のテーマ 創りあげる喜び、ささえあえる喜び わちあえる喜び

松林ホームシアター上映作品

1989年～1999年  
平成元年5月27日～平成2年3月25日

松林ホームシアター  
上映作品一覽  
1989年～1999年

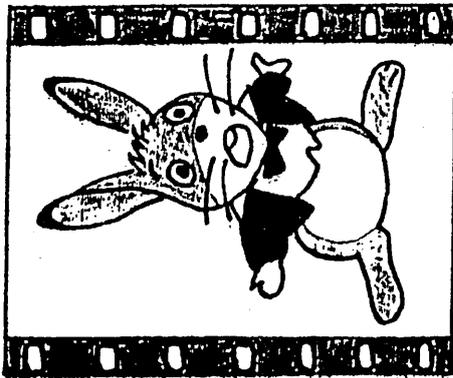
期日	上 映 作 品	上 映 時 間	入 場 者
5.27	やさしいライオン・ムーミン ミイってやさしいの？	午後2時30分	63人
28	"	午前10時30分	40
6.24	大どろぼうホッツェンブロッツ	午後2時30分	22
25	"	午後2時	20
7.22	牙王	午後2時40分	20
23	"	午前10時40分	6
8.19	人間の運命	午後6時30分	5
20	ナイチンゲール・おこりじぞう・平和の谷	午後2時	19
21	ヒルマの竖琴	午後6時30分	20
9.23	がんばれスイミー・杜子春	午後2時30分	34
10.21	草原の少女ローラ I・十五少年漂流記	午後1時20分	65
11.25	冒険者たち (劇団四季による)	午後2時	10
12.23	ジャンバルジャン物語	午後2時	25
1.27	フランダースの犬・ベルとかいじゅう王子	午後2時	9
2.24	草原の少女ローラ II・空とぶジュータン	午後2時	52
3.4	冒険者たち (アニメーション)	午前9時30分	30
25	ドカベン・赤毛のアン	午後2時	46

831

松林ホームシアター 春休み映画会  
教室205号



日時 3月26日(金) 午前10時～午後2時～  
会場 松林会館 入場無料  
主催 福生公民館 松林会館



日時 2月26日(土)  
PM. 1:30 ~ 3:00 ~ 2回上映

平成2年9月30日～平成3年3月24日

月日	上 映 作 品	上 映 時 間	入 場 者
9.30	ピッピの宝島	午前10時	46人
10.27	長くつ下のピッピ	午後2時	85
11.25	銀河鉄道777・ミッキーマウスのゆかいな船長さん	午前10時	10
12.23	いたずら天使 ミッシェル	午前10時	11
2.24	わんぱくぼうやと魔法のおじさん 第1話、第2話	午前10時	12
3.3	天空の城 ラピュタ	午前9時30分	20
24	人形劇団「ひばりあむ」による①ばばあちゃんの忙しい夜 ②すえっこねこのルウ	午後2時30分	70

平成3年4月27日～平成4年3月15日

月日	上 映 作 品	上 映 時 間	入 場 者
4.27	アラジンとふしぎなランプ	午後3時	38人
5.25	走れメロス・やさしい怪獣	午後2時	42

月日	上映作品	上映時間	入場者
6.30	上 映 作 品 ピッピ船にのる	午前10時	29人
7.28	ピコリーノの冒険①～③	午後2時	20
10.6	ムーミン(おちてきた星の子)・いたずらあまんじゅく	午前10時	31
10.26	二十四の瞳	午後1時・3時	95
12.15	クリスマスキャロル	午前10時・午後2時	31
1.26	故郷の空	午後2時	5
2.9	風の谷のナウシカ	午前10時	33
3.15	路傍の石	午後3時	10

平成4年4月26日～平成5年3月7日

月日	上映作品	上映時間	入場者
4.26	母をたずねて三千里 ①～③	午後3時	12人
5.10	母をたずねて三千里 ④～⑥	午後3時	13
6.21	トム・ソーヤの冒険	午後3時	12
7.6	ガリバー旅行記	午後3時	15
19	アルプスの少女ハイジ	午後3時	19
10.24	ベルとかいじゅう王子・アルプスの少女ハイジ	午後2時	33
12.21	クリスマスツリー・ミッキーハウスと魔法の帽子 ムーミン(はばたけペガサス)	午後3時	44
1.31	ジャングル大帝(約束)・くまのプーさん(イーヨのお誕生日)	午後3時	30
2.21	魔女の宅急便	午前9時	38
3.7	人形劇団「ひばぼたあむじによる公演「ふたりのお話」	午後2時	77

平成5年6月26日～平成6年3月26日

月日	上映作品	上映時間	入場者
6.26	上 映 作 品 モチモチの木・こむぎいろの天使	午後2時	14人
7.24	先生の通信簿	午後2時30分	7
9.25	長ぐつをはいたねこ・ポナルドとわんぱく小僧	午後2時	30
26	“ ”	午後1時	13
10.23	親バカちゃんりん(子育て番長記)	午後1時30分	20
24	“ ”	午前10時	20
11.27	クマのプーさん2(プーさんと大あらし)・竜の子太郎	午後2時	14
28	“ ”	午前10時30分	33
12.25	ウエストサイド物語	午後3時・午後7時30分	13
26	ミッキーハウスのメリークリスマス・クリスマスツリー	午後1時30分	30
1.29	ジャングル大帝(誕生)・リボンの騎士	午後2時	40

月日	上映作品	上映時間	入場者
1.30	ジャングル大帝(誕生)・リボンの騎士	午後1時30分	21人
2.26	ちなしごハッチ・まげうさぎ・やさしいライオン	午後2時30分	51
27	“ ”	午後2時	10
3.26	ちから太郎	午後2時	27

平成6年4月29日～平成7年2月25日

月日	上映作品	上映時間	入場者
4.29	白雪姫・まえがみ太郎	午前11時	24人
5.28	ガリバー旅行記	午後2時	45
6.25	クマのプーさん(イーヨのおたんじょう日)・三年寝太郎	午後2時	32
7.23	王様のはらはら耳	午後2時	30
8.27	ラリオンエクスプレス	午後2時	4
9.25	かえると王女・金色の足あと	午後2時	20
10.15	鉢かつぎ姫・ゆかいなピエロとにげだした6匹の熊	午後1時30分	40
10.16	“ ”	午前10時	40
1.28	ジャングル大帝(約束)・クマのプーさん(プーさんと虎)	午後2時	15
2.25	ゆかいなアジカ騒動	午後2時30分	20

平成7年5月28日～平成8年3月23日

月日	上映作品	上映時間	入場者
5.28	上 映 作 品 ピッピの宝島	午後2時	14人
6.24	ピッピの新しい冒険	午後2時	12
7.22	ぼくら秘密探偵団	午後2時	10
9.23	ドン松五郎の生活	午後2時	23
10.28	はれときどきぶた・木を植えた男	午後1時30分	35
10.29	“ ”	午前10時	30
11.25	魔女の宅急便	午後2時	30
12.16	赤鼻のトナカイ(トルク物語)	午後2時	40
1.21	人形劇団「ひばぼたあむじ」による公演・すえっこねこのルウク ・はばあちゃんのいそがしい夜	午後2時	82
2.24	生きているってすばらしい・くまのおいしやさん	午後2時	27
3.23	小象のピンポ・ミルクとチョコと7人の天使たち	午後2時	24

平成8年4月27日～平成9年3月15日

月日	上映作品	上映時間	入場者
4.27	上 映 作 品 いたずら天使 ミッシェル	午後2時	17人

月日	上映作品	上映時間	入場者
5.25	やさしいライオン・不思議なメルモ	午後2時	23人
6.22	マリエンクスプレス	午後2時	23
7.27	長くつしたのピッピ	午後2時	24
9.28	アルプスの少女ハイジ	午後2時	18
10.19	アラジンとふしぎなランプ	午後2時	30
11.23	あしたふたの日ふたじかん	午後2時	10
12.21	くまのおいし屋さん・ミッキーマウスとゆかいな仲間たち	午後2時	24
1.18	小さなバイキングビッケ・がんばれスイミー	午後2時	18
2.22	のどか森のリトルジョイ・ワンザくん	午後2時	25
3.15	ピッピの宝島	午後2時	26

期間 平成9年4月26日～平成10年3月14日

月日	上映作品	上映時間	入場者
4.26	ふしぎなメルモ・フランダースの犬	午後2時	24人
5.24	みなしごハッチ・まけるなハッチ	午後2時	18
6.28	リボンの騎士	午後2時	21
7.25	はだしのゲン 第1部	午後2時	14
7.26	はだしのゲン 第2部	午後2時	12
7.27	はだしのゲン 第3部	午後2時	13
9.27	原爆の子	午後2時	14
10.25	おむすびころりん・ふんぶくちやがま・風の又三郎	午後1時	36
11.29	典子は、今	午後2時	16
12.13	クリスマスツリー	午後2時	7
1.24	走れ!ほくの小さな友だち	午後2時	13
2.28	ピッピの新しい冒険	午後2時	18
3.14	若草物語	午後7時	18

期間 平成10年4月25日～平成11年3月28日

月日	上映作品	上映時間	入場者
4.25	3丁目のタマ・ほくのおきにいり・小さなバイキングビッケ	午後2時	29人
5.23	こむぎいろの天使	午後2時	20
8.21	つるにのって・ムーミンのほくは王様だ	午後2時	53
9.26	ぼくへそまでまんが・リトルツイズ～旅立ち～	午後2時	30
10.24	西遊記・白雪姫	午後2時	86
11.28	いたずら天使ミッシェル	午後2時	14
12.20	ミッキーマウスのメリークリスマス・クマのプーさん2	午後2時	3

月日	上映作品	上映時間	入場者
1.23	わらしべ長者・泣いた赤おに	午後2時	22
2.28	ジャングル大帝	午後2時	2
3.28	人形劇団「なるにあ」による公演・ジャックと豆の木	午後2時	72

ある日、大魔物が町を襲って、  
ドロンと飛来した。おにが  
勇者と戦って倒された。

アミーゴの魔法使い

4月23日(日)  
午後2時～3時

場所 松林会館  
電話 552-3624

★入場無料

松林会館  
ホームシアター

“フレックとわい  
おぼせのはなし”

★ムーミン-新しいおひら-  
★絵からとびだした  
ねこ

日時 8月28日(土)  
午後2時～3時

場所 松林会館  
TEL 552-3624

★入場無料





X

松林分館資料集

1. 松林分館だより  
発行 松林分館  
NO. 1・2・3・5・6・7・  
8・10・23・25・30. 50号
2. 劇団ファンタスティック新聞  
発行 劇団ファンタスティック  
NO. 創刊・1・140・141・142・143  
160・257号・公演チラシ(1996年)
3. こども教室新聞  
発行 こども教室すんばらしいリーダー会  
NO創刊準備号・創刊・1・2・4・5・6・  
7・8・9・61・62・73号
4. だれでもなんでも展  
テーマソング
5. 統計資料



6.28	チームワークのこころ
7.5	北山公園の自然
7.12	ふじの山と自然
19	ふじの山と自然
21.22	ふじの山と自然

全学年 午前10時から午後12時まで  
 期日 六月二十八日(水)のみ

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

6.27	チームワーク
7.4	北山公園の自然
7.11	ふじの山と自然
7.18	ふじの山と自然
7.25	ふじの山と自然
8.1	ふじの山と自然
8.8	ふじの山と自然

全学年 午前10時から午後12時まで  
 期日 六月二十八日(水)のみ

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

## 六月の 学級講座



6.27	チームワーク	フジの山と自然
7.4	北山公園の自然	フジの山と自然
7.11	ふじの山と自然	ふじの山と自然
7.18	ふじの山と自然	ふじの山と自然
7.25	ふじの山と自然	ふじの山と自然
8.1	ふじの山と自然	ふじの山と自然
8.8	ふじの山と自然	ふじの山と自然

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

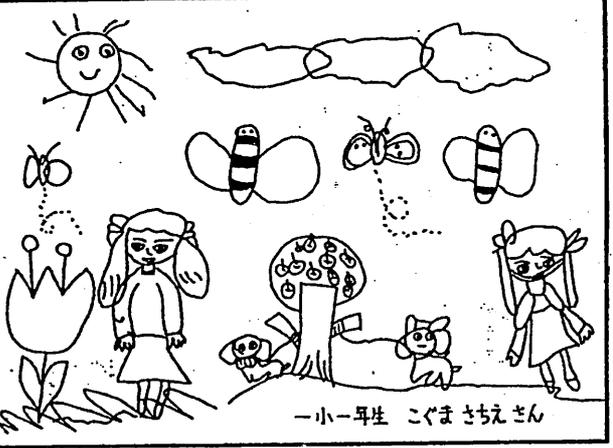
6.30	ふじの山と自然
7.7	ふじの山と自然
7.14	ふじの山と自然
7.21	ふじの山と自然
7.28	ふじの山と自然
8.4	ふじの山と自然
8.11	ふじの山と自然
8.18	ふじの山と自然
8.25	ふじの山と自然
9.1	ふじの山と自然
9.8	ふじの山と自然
9.15	ふじの山と自然
9.22	ふじの山と自然
9.29	ふじの山と自然

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

## 公民館 松林分館だより

福生市公民館 松林分館  
 〒197福生市武蔵野台 1丁目15番地1  
 TEL 0425(52)3624  
 昭和55年5月25日発行



一・小一年生 こぐま さえき さん

「ふじの山」の遊び  
 考えた遊ばせ  
 自然の生き生きとした姿を  
 感じながら、自然の恵みを受けて  
 遊ぶ。

## 5.6月の社会教育活動

- 公民館 TEL (52) 1711
  - 市民大学講座 (経済) 毎週金曜 5/20 ~ 5/25
  - 婦人学級 (豊かさと生活) 毎週木曜 5/2 ~ 5/31
  - 幼思の成長発達を考える 毎週土曜 5/4 ~ 9/24
  - たんけん教室 月2回土曜 5/8 ~ 5/31
  - 夏休み自然教室 週2回 5/25 ~ 5/31
  - 水生昆虫観察会 全1回 5/8
  - 植物観察会 全1回 5/6
- 白梅分館 TEL (53) 3454
  - 白梅親子映画会 「ピッピの新しい冒険」 5/4

## かわら版

このページは、サークル、グループの情報交換の場として、ご利用ください。記事は、月はじめに松林分館までお待ちください。

- 市民体育館 TEL (52) 5511
  - 親子スポーツ教室 毎週土曜 5/6 ~ 5/28
  - トレーニング教室 毎週水・土 5/6 ~ 5/28
  - 初心者軟式庭球教室 毎週土曜 5/6 ~ 5/14
- 中央図書館 TEL (53) 3111
  - ファンタジー文学について 講演・猪熊理子氏 5/4
- 郷土資料室 TEL (53) 3111
  - 婦人セミナー・自作作成のために 毎週月曜 5/6 ~ 5/22
  - 初心者古文書講座 毎月第2・第4水曜 5/29 ~ 5/31
  - 郷土資料室・子供友の会 毎月1回土曜 5/4から
  - ホタルの生態を知ろう 全2回 5/1 ~ 5/4
  - 石造遺物調査 毎月1回日曜 6月より

# 松林分館一年

私が利用者の声から、松林分館の一年を振り返ると、大変充実した一年であった。特に、子供たちの成長と、地域住民との交流が、大きな喜びであった。今年度も、引き続き、子供たちの成長と、地域住民との交流を、最大の目標として取り組んでいく。また、松林分館の活動が、地域住民の生活に貢献できるよう努めていく。今年度の活動報告は、この冊子を通じて、皆様へお届けする。皆様のご理解とご支援を、引き続きお願いいたします。

## 6月の学級講座

### 「わんぱく教室」

おともくいきり遊びながら、仲間のうち方など、子ども会生活の心構えを身に付けていきます。必要知識を身に付けていきます。全10回、午後2時～4時。対象：小学4年生から中学1年生まで。先着40名。

## 「サバイバル教室」

今年度のサバイバルは、野外活動の中心として、サバイバルの心構えを身に付けていきます。必要知識を身に付けていきます。全10回、午後2時～4時。対象：小学4年生から中学1年生まで。先着40名。

生活の場としての松林分館は、地域住民の生活に貢献できるよう努めていく。今年度の活動報告は、この冊子を通じて、皆様へお届けする。皆様のご理解とご支援を、引き続きお願いいたします。

### 松林ホームシアター

#### 影絵のファンタジー

赤ずきん、おとぎ話、他、作品を上演します。創作影絵、制作影絵、演出。日時：6月29日(日) 午後1時半～3時。入場無料。

### 「学級講座の準備会」

学級講座の準備会を開催します。日時：6月29日(日) 午後1時半～3時。対象：小学4年生から中学1年生まで。先着40名。

### 「サークル紹介」

松林分館のサークル紹介です。活動日時、場所、内容などを紹介します。

松林分館の活動内容です。各種講座、サークル活動、イベントなどを紹介します。

### 「子ども会関係者研修会」

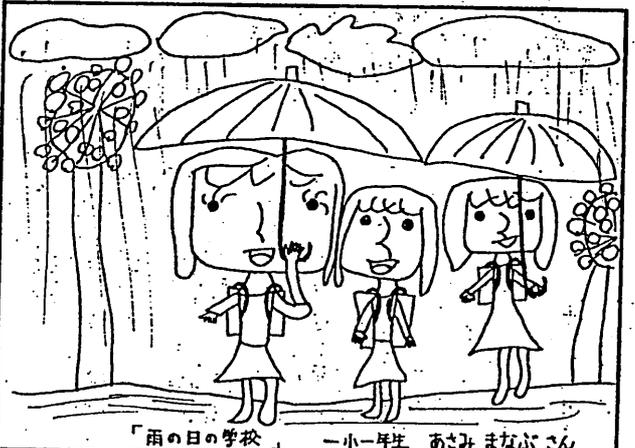
子ども会関係者研修会を開催します。日時：6月29日(日) 午後1時半～3時。対象：小学4年生から中学1年生まで。先着40名。

### 「婦人問題講座準備会」

婦人問題講座準備会を開催します。日時：6月29日(日) 午後1時半～3時。対象：小学4年生から中学1年生まで。先着40名。

## 公民館 松林分館だより

福生市公民館 松林分館 〒197 福生市武蔵野台 1丁目15番地1 TEL 0425(52)3624 昭和55年6月20日発行



### むかし、昔の武蔵野台(二)

段川、武蔵野台、昔の武蔵野台の様子を紹介します。段川、武蔵野台、昔の武蔵野台の様子を紹介します。

## 6.7月の社会教育活動

- 公民館 TEL (52) 1711
- 市民名画劇場「おむの木の説」 午後3時～7時 1/5
- 16ミリ映画機講習会 全5回 1/5
- 植物観察会 全1回 1/5
- たんけん教室 月2回土曜 1/5
- 夏休み自然教室 全12回 1/5
- 水注昆虫観察会 全1回 1/5
- 市民文化教室 将棋 第2期1回 1/5
- 市民文化教室 民謡 毎週金曜 1/5
- 市民文化教室 日本人形 毎週金曜 1/5
- 市民文化教室 盆裁 第1期3土曜 1/5

## かわの橋

このページは、サークル、グループの情報交換の場として、ご利用ください。記事は、月ごとに松林分館までお持ちください。

- 白梅分館 TEL (53) 3454
- 子供手芸教室 全5回 1/5
- わんぱく教室 毎週水曜 1/5
- 市民体育館 TEL (52) 5511
- フールびらさ 午前10時 1/5
- 主婦の水泳教室 全4回 1/5
- 初心者水泳教室 全4回 1/5
- 救急法講習会 全1回 1/5
- 記録にチャレンジ 午前9時半集合 1/5
- 郷土資料室 TEL (53) 3111
- 郷土資料室・子供友の会(自然科学系) 毎月1回土曜 1/5
- 郷土資料室・子供友の会(人文科学系) 毎月1回土曜 1/5

## 学校教育と考ふ

6月27日(金)から 午前10時から午後12時 しまじこのおかれて状況と明らかにし、その指導と教務計画を立てていきます。

# 公民館 松林分館だより

福生市公民館 松林分館  
〒197 福生市武蔵野台 1丁目15番地1  
TEL 0425(52) 3624  
昭和55年9月26日発行



— 小三年生 大場 由美さん

## 10月の社会教育活動

- 公民館 TEL. 52-1711
- 福祉の自然と環境を考える 全5回 1%~1%
  - 植物観察会 場所・南公園 1%
  - 市民文化教室・陶芸 全10回 1%~1%
  - 高齢者の語らいの場づくり準備会 全7回 1%~1%
- 白梅会館 TEL. 53-3454
- 白梅親子映画会 AM.10~PM.2 1%
  - 指人形教室 全10回 1%~1%
  - 家庭教育学級 全8回 1%~1%

## かわら版

- 市民体育館 TEL. 52-5711
- 老人健康教室 全10回 1%~1%
  - 婦人健康教室 全10回 1%~1%
  - トレーニング教室 全11回 1%~1%
- 中央図書館 TEL. 53-1111
- 子供映画会 AM.2~PM.2 1%
  - 映画会「影の縁功の世帯」 P.M.1:30~3:00 1%

## — 松林ホームシアター —

**翼は心につけて**  
平凡な少女が、人生にすべてをかけたいのちを燃やした女の記録

監督 坂川弘通  
出演 フランキー堺 日時 9月27日出  
香川京子 午後3時半~、7時~、2回上映  
石田えり 場所 松林会館 入場無料  
主権 公民館松林分館 TEL. 52-3624

**むかし、昔の武蔵野台 (四)**

前回は、地形の成り立ちを述べた。今回は、地形が生まれるまで、そこに植物がどのように生きているか、その様子を見てみることにしよう。

大昔の植物を調べると、花の形や葉の形、高さ、色、匂いなど、いろいろな種類がある。これは、その土地の気候や土壌、水などの環境によって、それぞれに приспособして生きているからである。

武蔵野台の地質は、白土層が主体である。これは、約200万年前に、川が削り出した地形である。この地形は、現在もなお、その特徴を生かして、さまざまな植物が生息している。

**サークル紹介**

**松岡墨翠会 (書道)**

本会の活動は、書道を中心としたものである。初心者の方も歓迎いたします。お申し込みは、公民館松林分館まで。

日時 毎週金曜日 午前10時~正午  
場所 松林会館和室  
連絡先 小田中 51-5881

**松林文庫**

おもしろい本がたくさんあります。小学生もおともだちといっしょに松林会館へ行こう。

文庫のある日 毎週木曜  
時間 午後3時半~5時  
場所 松林会館 52-3624

**主催事業のご案内**

- 家庭教育学級・準備会 9/25(水)から毎週木曜 全4回 午前10時~正午
- 新任主婦の生き方をめぐって 9/27(金)から毎週金曜 全4回 午後7時~9時

お問い合わせは松林会館52-3624

日時 10/25(土)、26(日)

場所 松林会館(公民館)

出品物受付 9/18(水)~10/17(金)  
この期間に松林会館 52-3624  
までご連絡ください。

作品搬入日 10/23(水)



手作りの小さな文化祭「だれでもなんでも展」をひらきます。このたよりを御覧になったあなた。あなたの御家族、お友達、だれでも出品できます。自分の手で作ったもの。お店では買えないものならなんでもいいんです。

一往けんめい作った夏休みの作品。日曜大工、趣味、手芸の品々。なんでも結構。自分ひとりで楽しんだら、今度は地域のみなさんにも見せてはいただけませんか。きっとあなたの作品もよろこぶのではないのでしょうか。

どうしても出品物がないとなっちゃんどうしても出品物になるだけでも楽しいですよ。当日は、人形劇、映画等も上演されます。

みなさんのご参加をお待ちしています。一人こい!二人こい!みんなこい!!

松林会館

**だれでもなんでも展**

松林会館 (52) 3624

# 公民館 松林分館だより

福生市公民館 松林分館  
〒197福生市武蔵野台 1丁目15番地1  
TEL 0425(52)3624  
昭和55年12月26日発行



「だれでもなんでも展」 六一一年生 なかむらまゆみさん

むかし、昔の武蔵野台(五) 約一万年ぐらい前になる。そのころは、動物の骨や、木の葉、石の器などが、土の中に埋まっていた。それを発掘して、研究すると、昔の生活の様子や、気候の変わりなどが、よくわかる。最近、武蔵野台の発掘調査が進んで、昔の生活の様子や、気候の変わりなどが、よくわかる。最近、武蔵野台の発掘調査が進んで、昔の生活の様子や、気候の変わりなどが、よくわかる。

## 1月の社会教育活動

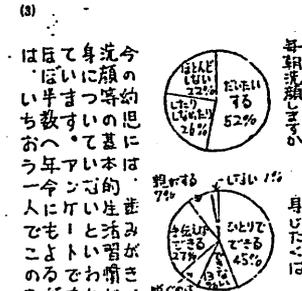
市民体育館 TEL. 52-5511	小学生バレーボール教室 全12回 34~36
	小学生バトミントン教室 全12回 34~36
	婦人健康教室 全6回 36~38
	老人健康教室 全6回 36~38
郷土資料室 TEL. 53-3111	幕末の多摩地政を学ぶ 全2回 34, 36
	市内石造遺物調査 月1回
	天体観望会 全2回 34, 36

## かわの版

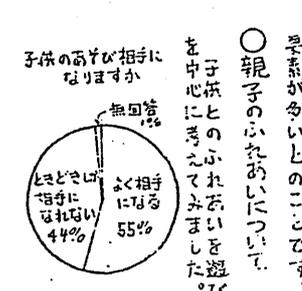
公民館 TEL. 52-1711	子供会リーダー研修会 全6回 34~36
	吹奏楽講習会 全10回 34~36
	成人のつどい実行委員会 随時
	音楽愛好者連絡会 月1回
	放送劇の創作講座 全10回
	青春教室 毎週土曜
	高令者の語り連合会 月1回

市民大学講座・法律  
講場所 松林公民館  
講師 松林公民館  
日時 1/30(日) 午後2時~4時

申込先 講場所 日自現こ  
込先 講場所 日自現こ  
松林公民館 1/22(日) 午後2時~4時



子供の生活リズムを  
朝ごはんを食べる子供は52%、食べない子供は48%です。朝ごはんを食べる子供は、生活リズムが整い、健康的な生活を送っています。

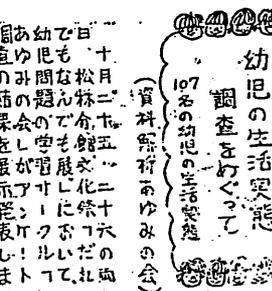


親の生活リズムについて  
親の生活リズムが子供の生活リズムに合う子供は55%、合わない子供は45%です。親の生活リズムを整えることが、子供の生活リズムを整えることに繋がります。



子供の生活リズムについて  
朝ごはんを食べる子供は55%、食べない子供は45%です。朝ごはんを食べる子供は、生活リズムが整い、健康的な生活を送っています。

朝ごはんを食べる子供は55%、食べない子供は45%です。朝ごはんを食べる子供は、生活リズムが整い、健康的な生活を送っています。



朝ごはんを食べる子供は55%、食べない子供は45%です。朝ごはんを食べる子供は、生活リズムが整い、健康的な生活を送っています。

朝ごはんを食べる子供は55%、食べない子供は45%です。朝ごはんを食べる子供は、生活リズムが整い、健康的な生活を送っています。

「だれでもなんでも」  
文化祭の新しい試み

だれでもなんでも  
文化祭の新しい試み  
「だれでもなんでも」  
文化祭の新しい試み

サークル紹介

民謡松友会

民謡松友会  
初級者も歓迎  
日時 毎週木曜日(月三回)  
午後七時半～九時  
場所 松林会館  
講師 三味線大谷先生  
連絡先 守谷 51-4975



水墨同好会



水墨同好会  
活動の中心は  
墨の濃淡と筆の  
運びの美しさを  
追求する。また  
自然の風景や動  
植物を描くこと  
も行う。初心者  
も歓迎する。

日時 毎週金曜日  
午後一時～三時半  
場所 松林会館  
講師 田中 51-6338

家庭教育学級



家庭教育学級  
親子関係の改善  
子どもの成長を  
支えるための知  
識と技術を学ぶ  
機会を提供する。  
講師 松林会館  
連絡先 守谷 51-4975

日時 毎週金曜日  
午後一時～三時半  
場所 松林会館  
講師 田中 51-6338

変化のある確し物  
「だれでもなんでも」  
文化祭の新しい試み

空の響き  
「だれでもなんでも」  
文化祭の新しい試み

公民館 松林分館だより



「たこあげ」  
-小一年生 石田 ゆかさん

福生市公民館  
松林分館  
〒197福生市武蔵野台  
1丁目15番地1  
TEL.0425(52)3624  
昭和56年1月30日発行

2月の社会教育活動

- 公民館 TEL. 52-1711
  - 社会教育・公民館を考える 全7回 3/21～3/22
  - 婦人学級「40才前後の婦人のために」 全7回 3/29～3/30
  - 子供会指導者講習会 全6回 3/29～3/30
  - 若い師匠の講座「中東情勢を考える」 準備会 3/4から
- 白梅分館 TEL. 53-3454
  - 婦人学級「女の一生を考える」 全9回 3/21～3/27
  - 白梅親子夜話会「サミは小さな大選手」 3/22 A.M.10:00～, P.M.2:00～
  - 子供会指導者研修会 全3回 3/4～3/8
- 市民体育館 TEL. 52-3511
  - トレーニング教室 全8回 3/3～3/30
  - スキー教室 於志賀高原 3/6～3/7
  - 硬式テニス教室 全5回 3/1～3/7
  - 小学生バトミントン教室 全12回 3/4～3/8
- 郷土資料室 TEL. 53-3111
  - 地方史講習会「近世の多摩地方」 講師 北原道氏 3/4
  - 天体観測会 夜の星空観望 全2回 3/8, 3/14

松林ホームシアター

サミーは小さな大選手

2月15日(日)  
午後1時  
福生市民会館

2月21日(土)  
午後2時～  
午後3時30分～

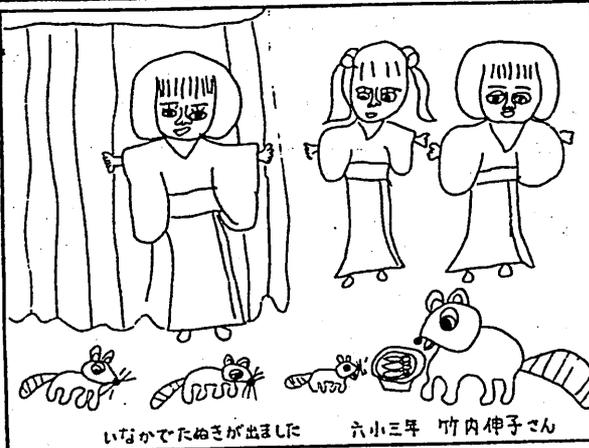
場所 松林会館  
TEL. 52-3624  
入場無料  
主催 福生市公民館松林分館





# 公民館 松林分館だより

福生市公民館  
松林分館  
〒197福生市武蔵野台  
1丁目15番地1  
TEL.0425(52)3624  
昭和56年8月31日発行



いなかでたぬきが出ました 六小三年 竹内伸子さん

一 小松址なて堀土に式思居な二か十た多心中つれ建月さ  
月体堀一わはが約土わ址こ一六六に教に期のまつかた長  
育さ基れ昭扶あ千密れ三てきて年芳の 沖してらた沢  
八節れ 和桑り点やる軒発線 九ニ打若加址たいハの道  
月建 縄五五合まを加土 堀の消月次製干曾が る月は跡  
行管第文領十館し教曾堀縄と扱防署ら堀斧勝二見のろは格  
な行工二期ケニのたえ利十文れ中署ら堀斧勝二見のろは格  
れマ芝城式八設築石式基堅事の三前型はが板式とれが消十  
わマ芝城式八設築石式基堅事の三前型はが板式とれが消十  
たこが基のに畔次の土勝壘式と道月和と器は 堀壘年調  
のーが好行 発出壘坂と住モ二に回れ 中文六さの七查

むかし、昔の武蔵野台

## 9月の社会教育活動

- 松林分館 TEL.52-3624
- 講座・学校教育を考える 全12回 3/6 ~ 1/26
  - 郷土史専門講座準備会 全4回 3/27 ~ 1/25
  - 万葉集を詠む準備会 全4回 3/28 ~ 1/24
  - 家庭教育学級準備会 全4回 3/30 ~ 1/21
- 白梅分館 TEL.53-3454
- 婦人学級準備会 全4回 3/4 ~ 3/28
  - 子供指人形教室 全13回 3/6 ~ 57.18
  - 子供まつり実行委員会 全10回 3/6 ~ 1/28

## かわら版

- 公民館 TEL.52-1711
- 市民文化教室・茶道コース 全10回 3/4 ~ 1/26
  - 市民文化教室・日本舞踊コース 全10回 3/6 ~ 1/23
  - 婦人文化交流会 年間 3/6より
  - 若い市民のための初心者ギター教室 全11回 3/6 ~ 1/23
  - 婦人学級・ネットワークのつくりかたを学ぶために 全8回 3/6 ~ 1/20
  - 青年学級英会話 年間 毎週水曜夜間

### 今日の展示コーナー

松林分館のロビーに新設された展示コーナー  
気軽にのぞいてみてください。

#### 陶芸作品展

やきもの製作の過程と手法のいろいろを解説し、作品の数々を展示しています。(フレッシュ会)

#### サバイバル教室写真展

サバイバル教室での毎回の内容とともに、異年齢集団の中での子供達の生き生きとした姿がご覧になれます。

\* みなさんの作品の発表の場です。展示をご希望の方はお気軽においでください。



### 特集 子ども会をより豊かに 地域の子育ての場を 求めて

出席 溝淵幸太郎氏 原島三郎氏

#### 子ども会の自主的活動が

原島三郎氏 溝淵幸太郎氏

歌にあくは始何やあたと進のに原島  
すをりりくのろりおん再動たに島  
正表演はママ介前いども何ども  
ばりや劇を。ちららた回まも  
人すつをやたで各とちかつた  
ま手するマやと進班にの行は  
すれわみつたえ痛がにの行は  
びやみみき。てきとをがしほ

た熱マを 何個性一マ域うでくすれとそきたをを場をすに  
部し身 まにも小とこしうり原島ね一ンた広たり喜はマか、飾  
分てえ ういっる子マうさうとい人懸ハがでけるた何りたさ  
ありと子わう。もんガの考けいわ今見やノきりす動。月し泊がけ  
ありまきもでまうれく広がる かマ僕 てっコ庄ま。を村もたキ一  
まし。たすがいなばうすと地たすも ていてマギし給毎津前。マヤ  
せれた子ち。な。る。づき。域ち。るいりとはは週をが子完し  
んかびに く地と五だる福性マをれをを。し。や。あ。ら。つ。成。た  
マ。モテ。な。域。一。小。と。わ。性。と。道。二。を。け。行。て。子。回。つ。つ。福。を。祝。ん  
し。さ。は。マ。で。過。の。け。会。い。ん。が。マ。マ。つ。び。地。め。面。た。広。い。で

じ今溝いマ郎治現栄昭と自さへどきもあすきし左はるるにの  
ての割マニさ躍狂の和思由れんうしががれし地わで行き  
子さいがんさ。子四いてをし子れこなきて域け。むど  
とさんる教はれ親どすまおい申た活どてのいのいでわも  
とも。わ望。て子もニす語る心ら動もい機状かる公す滅れ会夏  
こを当け現い映会年。しおによがらる会況がわのがにて行林  
うく時でごたま画でか溝い。い。でし現にが充け組。子い事み  
はらのす指。すや治ら判に下地のさく状。あ介で織あどまがで  
？ベ子か導公。マ動三さだり域かる。と子るにすともすさす  
てど。い。民原丁さ年んけの。で。に。住。じよ。性。し。免。会。ま。  
も。た。館島A丸間はれ方治まはき子もうがして味がとご各  
感と。下でマで。福。ばに動の。庄。ど。のでし。か。存。て。あ。こ。ま。地

をすち魁か介まらなとどに明分整モフ目に下にそや間  
やび原もカ。選すなかかモ出聞てと下ごせなしんの子溝  
つじ島やが子がぬいな。をを整のちわし下ら。な。当。ど。刺  
て。ら。な。ど。葉。子。か。遊。見。さ。調。の。開。の。け。て。ち。な。下。に。時。も  
い。僕。い。な。け。も。し。だ。ど。お。ぶ。る。三。聖。先。集。集。で。子。に。か。し。間。会。四  
ま。は。ま。い。れ。会。い。か。も。も。時。し。し。生。さ。ま。す。よ。つ。ど。題。整。に。十。二  
す。ま。ま。わ。は。を。遊。う。会。う。間。た。て。と。り。も。る。た。も。に。と。か。二  
が。な。け。や。び。に。よ。が。野。間。話。子。も。治。会。子。今。な。い。か。年  
わ。れ。で。子。る。を。本。じ。な。間。子。し。ど。い。動。道。ど。当。は。こ。う。わ。ら  
活。か。た。す。ど。と。か。当。つ。に。い。が。今。ど。合。も。い。に。管。モ。時。じ。石。の。一。三  
動。も。整。よ。も。い。る。に。て。集。と。な。か。も。か。し。子。を。会。間。か。が。た  
に。マ。か。た。と。自。い。ま。か。い。子。会。て。自。ど。や。を。子。題。年





(サークル紹介)

あかね雲(文章)

と書けるそしと自何者にすあうおはひの方いは興  
 だき本文よ思介がいかるなじき者と中もニニ味文  
 れを読する人て見者み何たすといし残やはあは手あを  
 にだ教人のそいつくたかてがよし山だり者  
 けわていあ達るぬこいとてたどてほけまくと  
 てなみくつの方直とつなしとせれせと  
 上ててらまぐもしにたよあるんい  
 違みも文リルおてよなる書二書二  
 てるも話作すアリたて人いき文と  
 もて法はこい



くこの片さ町の  
 私書もで手いで  
 介の出つ・習都あり  
 のら多屋山り  
 みる中りせ  
 みるぞん  
 みるぞん  
 みるぞん  
 みるぞん  
 みるぞん  
 みるぞん  
 みるぞん

活動日  
 第二・第四  
 七時～九時  
 松林分館

(4)

にあ達明さでしす然のよしる然後 意明とこ果鐘と檢とにら  
 流しこの日まて環安う私のれらさ日るかたをい証と証しと  
 れよまと命のし命き知境全に次運再がわせにこう鳴ますは并  
 づた思の命たのた恵がをな第の生みたら生と畏てらすはをして  
 い河幸を幸生をゆ保つに活動えしれきも敬くす・自人爾た私  
 る命泉とせ祈河せ活詩ら碑て環かよてのてるしれ実開し命  
 のかをおより泉がのりいしきま境が浄き多さまは謙て謙の生た私  
 の時話り考なの齊豊ててまを自化ま摩ままし虚い室安抵活の中  
 りがねまえが生せか力かきくし長然力し川ししばさまの全理のし  
 私るすくら物細さをたれた化ををたしたさむを役性が行てど置  
 のこい達つの鼓のるす庄上ををしをををしををしををしををし  
 中とさき私のて影舞で自命の迫迫自も 決たびどを警き

(サークル紹介)

MY MINE  
 フォーク・コンサート



練習日  
 毎週月  
 松林分館  
 7時～9時  
 52号室

あゆみの会からの伝言  
 びて欠雅とをたみん  
 いい園いとはので先  
 たまたのうこ就也会日  
 し記一資に学が展の  
 ました事都料預前出の  
 すのがにのけのしのれ  
 て揚客中まおた時れ  
 載観むす子にても  
 ひさ性かでああも  
 詫れを幼しまなゆな

「MY MINE」の  
 フォーク・コンサート  
 日時 12月19日(日)  
 午後1時～4時半  
 会場 松林分館

人形劇団

「小さな仲間達」

団員募集中



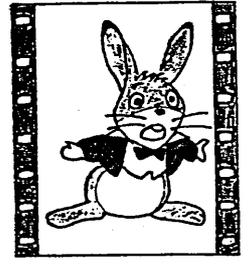
に思 形るさつたは劇はな団  
 やつ 人劇通れとち子が仲人  
 がつ 形団生て運にど好小形  
 てい 劇ててい皆もき形  
 むみるをす唯一の子どもの人  
 みまはやつてしてみたいと  
 せんか

練習日  
 毎週  
 松林分館  
 52号室

No. 17 福生市公民館 松林分館  
 〒197福生市武蔵野台 丁目15番地1  
 TEL.0425(52)3624  
 昭和58年1月31日



松林ホムシアター  
 トンデモネズミ  
 大活躍



日時 2月26日(土)  
 PM. 1:30 ~  
 3:00 ~ 2回上映  
 会場 松林分館 入場無料

かわの版

公民館 TEL.52-1711  
 レタリング入門教室 全8回 2/5 ~ 2/29  
 創作童話入門準備会 全3回 2/8 ~ 3月1日  
 合唱教室 全5回 2/9 ~ 2/29  
 録音技術入門教室 全5回 2/6 ~ 2/26  
 白梅分館 TEL.53-3454  
 中級8ミリ映画制作 全5回 2/2 ~ 2/29  
 手ぶくろ人形教室 全3回 2/6 ~ 2/26

ま竹めり税畑不御 球結元必原と 葉りとが  
 すらてまとは年石野林は 果年になつ江江 丸はこの  
 れ後すし反で負高畑畑 換車り福戸取直まいの武蔵  
 乙地かてご反ハハ=次地列。旺時り隣むる武蔵野台  
 いをら納とご租五町町のをり先村代にのの武蔵野台  
 た受めにと税十七六反のよし候年の末菜村林は野台  
 ニつ元る拾に一六反反うたと(者)方記い草戸に  
 が税元と文ハ武敷飲別 反:るは録ら原時間  
 わ全年し取文林井宅三 別:るは録ら原時間  
 かまにとり畑九歩歩 高と元マ蔵たは広で  
 りか箱あ祖野は合 高と元マ蔵たは広で

家庭教育学級  
 講師 中村尚志氏  
 会場 松林分館52号室

2/4(土)	子育てをめぐって
2/6(月)	乳幼児の成長・発達
2/13(月)	
2/15(水)	乳幼児の体づくり 心と体の健康
2/18(土)	乳幼児のあそびと文化
2/20(月)	私たちの課題







# かわら版

このペジは、フル・フ・フルのご  
利用ください。くわしいことは、取  
組に気軽にたずねてください。

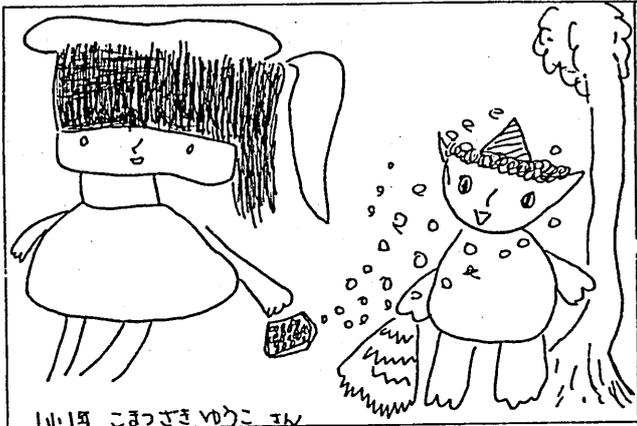
## 小径会

松林会館の文芸教室から自主ク  
ループになりました。  
気軽に、何でも語りあえるお  
つりです。あなただい、いし。  
にやってみませんか。

活動日 毎週金曜日 午前10時  
午後  
会場 松林会館小径会室  
連絡先 ⑤51,2948 松林会館

## 公民館 松林分館だより

昭和60年2月 1日  
No.25  
〒197 福生市武蔵野台1-15-1  
福生市公民館松林分館  
TEL 0425(52)3624



### 講師派遣事業

#### 実施のお知らせ

公民館「こども」にもつて来年内  
に講師派遣事業に、今年度は6サ  
イクルから申込みがありました。  
この制度は、公民館で自主的  
学習をしている団体の活動を推進  
するため、公民館女子部の他  
門で講師を募集するものです。  
サイクル以外の方も、お気軽に  
ご参加ください。(この他に三  
つほど実施されています。)

#### 自立への旅立ち

一子どもの自立から  
母親である私の自立へ

日時 3月7日(木) 午前10時  
正午  
会場 松林会館  
講師 高橋信子(創価大学教授  
兼任) 藤田(理事)  
主催 サイクル「おどろろ」協  
連絡先 ⑤51,2948 松林会館

### 七宝焼講習会

日時 2月20日(木) 午後1時  
3時

会場 松林会館  
講師 青森美寿子氏(七宝焼専修  
打掛) 美登枝氏  
主催 七宝つづ  
連絡先 小林 ⑤51,9649

#### 子どもにこころ

本堂の前の本と

生間(何十種類も出版)する子  
ども向けの図書や、子どもにと  
って面白い本の条件をめぐって  
ます。

日時 3月14日(木) 午前10時  
正午  
会場 松林会館  
講師 高橋信子(但馬女子大学  
教授) サイクル「おどろろ」  
主催 サイクル「おどろろ」協  
連絡先 入田 ⑤51,4233

### むかし、昔の武蔵野台

(23)

当時の青森線は、レール幅二尺六  
寸(約0.76米)の狭軌線であ  
った。その後、交通量が増え、明治  
四十一年二月に幅員三尺六寸(約一  
〇七米)の標準軌にあらためられし  
た。これは現在の青森線と同じ  
です。

船主取付船場と呼ばれ、当時、  
駅前には、馬車輸送のため、馬車  
台もあっていました。後、五日市  
の出来から本村船主取付まで運  
びたわけです。船主の待合場は、  
川や五日市などの町並に接して  
あつたわけですね。そのころ、大正  
二年、福生駅の発着の取付も  
みるに、一年間で、福生から船出  
れたものが二八三三ト(一日平  
均七ト)と、福生に入つて来た貨物  
が六〇〇ト(一日平均一ト)とい  
ふことになりました。水陸交通は  
一日平均一八三トであつた。  
この二年後、大正四年に、福生に  
初めて電燈の灯りをつけました。

夜11.10の朝の朝の、生活のリズム

# 幼児の生活リズム

公民館幼児室事業「子どもの生活時間調べ」より



このところ、生活のリズムの乱  
れ、というご問題として指摘  
されています。  
学校・幼稚園・保育園で遊びや  
学習の意欲がでない、朝からあく  
びばかりしている、午前中元気が  
ない、その原因を調べてみると、  
生活のリズムが乱れていることか  
先づかれています。  
保育園や小・中学校の先生から  
も「このころの子は、リズムが乱  
れている」と言っているのを見  
ることが多くなっています。  
リズムが乱れる原因は、生活のリ  
ズムが乱れていることか先づか  
れています。  
リズムが乱れる原因は、生活のリ  
ズムが乱れていることか先づか  
れています。

### 福生の子は夜いっほり

朝の生活リズムをどうやって  
生活のパターンをどうやって

幼児の生活時間調査は、朝の  
リズムが乱れていることか先づか  
れています。  
リズムが乱れる原因は、生活のリ  
ズムが乱れていることか先づか  
れています。

朝の生活リズムをどうやって  
生活のパターンをどうやって

Table with 2 columns: 起床時間 (起床時間) and 生活時間 (生活時間). Rows show time intervals and corresponding counts.

朝の生活リズムをどうやって  
生活のパターンをどうやって

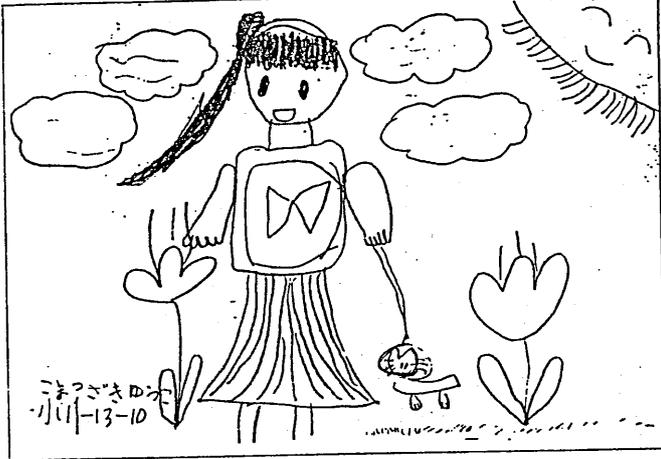
Table with 2 columns: 起床時間 (起床時間) and 生活時間 (生活時間). Rows show time intervals and corresponding counts.

朝の生活リズムをどうやって  
生活のパターンをどうやって



# 公民館 松林分館だより

昭和61年2月24日  
No.29  
福生市武蔵野台1-15-1  
福生市公民館松林分館  
☎52-3624



### むかし、昔の武蔵野台 (25)

一九二三年、ちょうど福生に初めて電燈がついた一年前、ヨーロッパでは、セルビアの青年がはなつた一発の銃声、ヨーロッパ全土を三年間にわたってまきこみ、九〇〇万人の戦死者と、二〇〇万人の負傷者と、一、〇〇〇万人の市民が死んだ第一次世界大戦がはじまりました。そして、日本はその軍需熱気に巻き込まれていました。

日本の全体の産業構造も大きく変化し、産業や工場がめざましく発展を遂げていきます。日本の総生産額中、農業が三五・一%、工業が五六・八%と大きく変化していきました。一方で、その急激な発展は、都市や農村でもさまざまな矛盾を深めていきました。

工業の発展は同時に通信、交通手段を一段と発展させます。福生にも一九一八年(大正七年)に、初めて電話・電報事業が福生郵便局で始まりました。

### プログラム

2/27(木) 福生の古代から江戸まで  
- 通史にみる福生  
講師 立川愛雄氏

3/6(土) 西多摩の中世  
- 菟山城をめぐる  
講師 中田正光氏

3/13(月) 中世の福生は...  
講師 久保田昌希氏

3/20(土) 近世の福生村・熊川村  
講師 坂上洋三氏

3/30(日)

### 主催事業のお知らせ

#### 郷土史を学ぶ

市史編纂事業が始まり、福生市の歴史の発掘が進められていきます。この機会に、あらためて、私たちの住む郷土の歴史を、最近の研究成果をふまえて学んでみませんか?

日時 2月27日(木)午後7時30分~9時30分  
以後、毎週木曜日(最終日は日曜日)

#### 松林木工教室

##### 『つり綱に挑戦』

木取りから組み立て、壁紙まで、手づくりを楽しんでみませんか?

あなたのお部屋のインテリアにぴったりのデザインですよ。

日時 3月1日(土)午後2時~6時 以後、毎週土曜日 全4回  
(但し、22日はお休み)

### プログラム

2/26(水) 『高齢化社会とは...』  
講師 谷内 真理子氏

3/5(水) 『看とりは女だけ...なのか』  
講師 富永 静枝氏

3/12(水) 『働きづづけることと老人介護』  
講師 沖藤 典子氏

3/19(水) 『公的介護・地域ぐるみでの介護』  
講師 谷内 真理子氏

3/26(水) 『高齢化社会と女の自立』  
講師 谷内 真理子氏

### 「高齢化社会と女の自立」

野口優雄氏、林池俊彦氏(職業訓練校) 費用 材料費千五百円程度

講師 野口優雄氏、林池俊彦氏(職業訓練校)

「つり綱に挑戦」

そのことをあらためて考えていくとともに、自立した老いを求めるために、今、なにが必要なのでしょう? 日時 2月26日(水)午後7時~9時 以後、毎週水曜日 全5回

「高齢化社会と女の自立」

そのことをあらためて考えていくとともに、自立した老いを求めるために、今、なにが必要なのでしょう? 日時 2月26日(水)午後7時~9時 以後、毎週水曜日 全5回

(3) No.29

No.29 (2)

表1-B 家庭での夫婦の役割分担(本人職業別)

(N)	夫が仕事をし、妻が家事全般をみる	夫も妻も仕事をし、家事は三にまかふる	その他
自営業(家族を営む)(109)	33	47	18
事務・技術系勤め(162)	34	35	29
事務・技術系勤め(125)	44	45	10
無業その他(199)	89	12	16
その他(33)	46	18	24

表2-B 本来の夫婦の役割分担(妻・年齢別)

(N)	夫が仕事をし、妻が家事全般をみる	夫も妻も仕事をし、家事は三にまかふる	その他
男(小計)(253)	83	12	5
20代(21)	62	3	3
30代(91)	52	14	5
40代(73)	36	18	12
50代(62)	41	10	5
60歳以上(46)	51	27	11
女(小計)(345)	49	20	3
20代(45)	19	11	7
30代(97)	31	16	3
40代(101)	45	24	1
50代(63)	46	24	2
60歳以上(39)	64	23	5

職業別に見たのが表1-Bです。

表2-Bは、現実と無関係に、家庭における本来の夫婦の役割はどうあるべきかを聞いたものです。夫が仕事をし、妻が家事全般をみるという答えは五五%と、実際より四%少ないだけで、女性が、夫も妻も仕事をし、家事は主に妻がみるという実態と比べて十三%も少なく、「夫も妻も仕事をし、ともに家事を分担する」は十五%も多くなっています。共働き比率自体は変わらず、その中で、「家事は妻の一人が」とも「分担する」に変わ

表1-Bは本来の夫婦の役割分担を男女・年齢別に見たものです。この表からもわかるように、「家事は妻」から「ともに分担」に変わる比率は、性別・年齢別に大きな違いがみられます。男性では、実際一九%の二倍強、十九%に増えただけであるのに対して、女性では、実際の四倍強に増えています。年齢別では、「ともに家事をみる」は、「二十代女性二八%、同男性十九%、三十代女性二四%、同男性二四%、四十代では女性三三%、男性三二%、と大きく差が広がります。

しかし、この調査からもわかりますように、性別役割分担を本来の姿と考える割合は、男女ともに七割

No.29 (2)

### 特集! あなたは 性別役割分業をどう考える?

男・女、どっち? 家事労働は共同の労働の一考えは九%

昭和六十一年七月、福生市市勢調査が行なわれ、その結果については「広報ふっさ」昭和六十一年一月号に報告があったとおりですが、この調査の中で、一四歳婦人の十年一最終年にかかわって男女平等意識を調査した項目がありました。とても興味深い調査結果を報告しています。(一)〇〇〇名の市民を対象に回収率八一・二%の

男女の平等意識について (一)家庭での夫婦の役割分担 (二)本来の夫婦の役割分担 (三)男女の地位・立場 (四)女性の

「共働きの要」

表1は、表1-Bは夫婦の役割を仕事と家事労働を通して聞いたものです。表1-Bは、実際現実の夫婦の役割分担を、表2-Bは、本来あるべきだと

### 表1 家庭での夫婦の役割分担

(N=628)

夫が仕事をし、妻が家事全般をみる	夫も妻も仕事をし、家事は三にまかふる	その他
39	29	9

### 表2 本来の夫婦の役割分担

(N=628)

夫が仕事をし、妻が家事全般をみる	夫も妻も仕事をし、家事は三にまかふる	夫も妻も仕事をし、家事は三にまかふる	その他
35	16	24	4

強です。この調査でみる限り、四割の家が共働きです。女性の肩に思い可

International Association of Women's Clubs

国際婦人年は二〇〇〇年まで延長

動きはじめた

婦人問題解決に向けて

一九七五年(昭和五十年)六月、平等、昇進、平和をスローガンに、第一回国際婦人年世界会議が日本の手でメキシコシティで開催され、国際婦人年の目標達成のため一性による差別、人間の尊厳に対する侮辱等、ある一と高らかにうたった。世界行動計画を採択し、その年の十二月、第三回国連総会で、一九七六年から一九八五年まで、一國連婦人の十年とすることを宣

がのしかかっているといえます。(次号につづく)

日本もこの条約を批准しました。女性差別撤廃条約の前文では次の様な女性の権利と男女平等に関する理念を打ち出しています。婦人に対する差別は、権利と平等の原則及び人間の尊厳の尊重の原則に違反するものとして、第一に、世界の福祉及び平和の大義のためには、婦人が男子と同様の条件で最大限に参加することが必要である。

等の達成に欠くべからざることを、おぼえています。そして、具体的には、第一条から三十条で、労働、家庭、教育等あらゆる分野での差別を禁止しています。第一条には「婦人に対する差別」という用語は、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他あらゆる分野において、婚姻上の地位にかかわらず、男女平等を基礎として、婦人が人権と基本的自由を承認され、それらを享受、行使する効果や目的をもつ、性にもとづくすべての差別、排除または制限を意味するものと明確にし、性によるあらゆる差別の撤廃を明らかにしています。

昭和五十六年には一田内行動計画後援重点目標」が発表され、昭和六十一年に「差別撤廃条約」が批准されました。東京都では、昭和五十二年に「婦人問題解決のための東京府行動計画」が作られ、昭和五十八年には「婦人問題解決のための新東京都行動計画」を作りました。三多摩でも進む

今、または男女に対する固定的役割にもとじた偏見、習慣、およびあらゆるその他の慣行の撤廃を達成することをめざし、男女の社会的、文化的行動形態を改善する。(ロ)家族に関する教育は、社会的機能としての母性の正しい理解、児童の養育と教育は、男女共通の責任であるとの認識をふくむことを保障する。あらゆる場合に、児童の利益は優先的に考慮され、理解される。として、はつきりと性による固定観念および性別役割分業を婦人問題の中心的課題としてとらえ、その解決をはっきり打ち出してきました。そして、その十年間の成果と課題を世界的に確め、二十一世紀に向けての婦人の地位向上を話

し合う国際会議として「田連婦人の十年」世界会議がナイロビで開催されました。そして、一国際婦人年の十年の目標達成のため、世界行動計画の趣旨を二、〇〇〇年まで延長させ、平等、昇進、平和に向け、六本からなる「四二二、〇〇〇年」にむけての婦人の地位向上のための将来戦略」を採択しました。

日本国内で、国際的な動きの中で、政府レベルでは、一九七七年(昭和五十二年)国内行動計画が作られ、以後、都道府県、その他公共団体レベルでそれぞれの行動計画が作られています。

昭和五十六年には一田内行動計画後援重点目標」が発表され、昭和六十一年に「差別撤廃条約」が批准されました。東京都では、昭和五十二年に「婦人問題解決のための東京府行動計画」が作られ、昭和五十八年には「婦人問題解決のための新東京都行動計画」を作りました。三多摩でも進む

この機会に日本の生活でなげなく見過ごしている性別役割をあらためて見直し、日本の行動を通じて、性別役割分業撤廃に向けての努力を、それぞれが主人公になって、おこなって行きたいものです。そうしたことを考える資料として、この特集を読んでいただければと思います。

公民館 松林分館だより

昭和61年3月30日 No.30 福生市武蔵野台1-15-1 福生市公民館松林分館 ☎52-3624



かえってきた(こ)ろ。六小三年生のみなさん。むかし、昔の武蔵野台 (26) 大正七年五月現在で、福生町の戸数四七〇戸、人口は男一、三八八三人、女一、三〇〇人、合計二、六八八人。その当時の多数は、農園で住み、農園は畑や果樹園とよって、木林がまじっていました。農園別戸数を見ると、農園一四八戸、工業一〇戸、商店二戸、雑一八〇戸となっていました。農園戸数五三三戸です。昭和十年代末の福生町の農園別戸数は九五戸が農園でしたから、福生は日本全体の産業の變化がおしよせてきていることがわかります。しかし、この時代は農園が農園であつたといふ、この時代はわかりません。しかも、農園別戸数八戸作上ノ買力二対ノ畑畑ヲ生スル材種ニシテ其産額モ村ノ買力ヲ五スルニ至ラシ(西多摩郡福生町村買力等小学校校士教育資料)福生市買力資料(昭和五十九年)とつづいておつた。

松林ホームシアター -ウォルト・ディズニーアニメ特集- 「クマのアーさんとちみ子」「小さなインディアン・ハイワサ」「ピーターと虫」など短編を中心にお送りいたします。小さいお子さんも「これならOK」もちろん小学生の君も、大人の方も十分楽しめますよ! 日時 4月26日(土) 午後2時~3時30分~。上映時間 1時間20分 会場 松林会館 入場 無料 問合せ 松林分館 ☎52-3624へ!

主催事業のお知らせ

教育講座準備会 受講費、いじめ、非行... などさまざまな問題をかかっている今日、教育講座! 松林会館 問合せ・申込み 松林分館 ☎52-3624へ! 四月一日(水)午後七時三〇分から九時まで、以後、隔週として毎週木曜日 全四回 会場 松林会館 問合せ・申込み 松林分館 ☎52-3624へ! 四月一日(水)午後七時三〇分から九時三〇分 会場 松林会館 問合せ 松林分館 ☎52-3624へ!

# 男女の平等意識について

前回、家庭における夫婦の地位についての調査結果をみました。今回、「職場における男女の地位」「就労の機会」についての調査をみていただきたいと思えます。

働く女性が増える中で、

職場の女性の地位は...

正社員にして、パート労働しろ、社会に出て働く女性が最近多くなってきた。昭和五年の地方法計調査の「労働力調査」によると、婦人労働者一、四八六万人、そのうち、既婚者が八八、九%、約七割が、家庭を持っているわけだ。

職場における男女の地位や立場について調査したが、表一、現在の職場において男女が対等の立場に立っている」と感じている人は、二七%、「適切に区別

表-I 男女の地位・立場 (N=412)

対等の立場に立っている	適切に区別がなされている	女性が差別されている	男性が差別されている
16	36	33	22

がなされている」と感じている人は三六%で、約半数が特に問題はないと答えている。

表-II 男女の地位・立場 (按・年齢別)

性別	対等の立場に立っている	適切に区別がなされている	女性が差別されている	男性が差別されている
男(小計) (367)	23	42	17	17
20代 (62)	16	50	14	13
30代 (110)	24	41	22	13
40代 (79)	19	49	17	14
50代 (65)	32	29	18	23
60歳以上 (51)	22	37	12	28
女(小計) (445)	11	33	31	27
20代 (73)	10	42	23	4
30代 (109)	6	34	21	21
40代 (115)	14	28	21	21
50代 (82)	15	38	25	20
60歳以上 (60)	9	11	32	71

表-III (本人回答別)

職業	対等の立場に立っている	適切に区別がなされている	女性が差別されている	男性が差別されている
経営者(専業主婦) (135)	27	29	17	26
事務・技術系 (210)	21	47	26	10
労働者 (160)	17	34	31	16
専業主婦 (206)	3	38	28	31
その他 (81)	9	21	17	52

表-IV 女性の就労機会 (N=312)

まったく働いていない	ほとんど働いていない	働いている	もっと働きたい
11	40	33	14

表-V 女性に就労の機会 (按・年齢別)

性別	まったく働いていない	ほとんど働いていない	働いている	もっと働きたい
男(小計) (367)	13	44	29	11
20代 (62)	10	47	23	9
30代 (110)	14	44	24	9
40代 (79)	18	49	23	8
50代 (65)	20	39	21	9
60歳以上 (51)	16	41	20	20
女(小計) (445)	8	36	36	17
20代 (73)	7	43	47	3
30代 (109)	7	32	31	4
40代 (115)	9	38	41	14
50代 (82)	9	46	23	16
60歳以上 (60)	9	26	21	42

三二%です。男性の立場には、「女性が差別されている」と思う人の年齢差はあまりありませんが、女性の立場では、二十代から四十年代まではほぼ四割が「差別されている」と感じ、就職の状況を知らない六十代では、わずか八%です。職業別に見たのが表五です。

働きたくても機会が少ない

三十代の女性の約半(五五%)は「就労の機会」は十分と答えています。

女性に社会に出て働くというところ、かえてきましたが、実際に働く場所はかなり狭いのが現実です。女性の就労の機会が十分とえられているか、どうかを見ただの表五です。

女性の就労の機会が「十分に与えられている」と思っている人「一割」にのりかたといえませんが、「十分」と思っている人が四〇%。これに対して、「与えられていない」「三三%」と「十分と与えられていない」「二九%、計三三%」です。しかし、女性自身からみると、しかも「一割」に十分と与えられていない「一割」に十分と与えられていないの合計は二十代で四八%、三十代で五五%、四十代では四四%になっていきます。一割の機会が十分と与えられていない「という意識を持つている女性が半割近いこと

表-V 女性に就労の機会 (按・年齢別)

充分に与えられている	十分と与えられていない	三三% (十分と与えられていない)	二九% (十分と与えられていない)	その他
53	10	13	11	12

女性自身が働きたいという意識が強いので、最大の障害は何かを聞いたのが表六です。一仕事、育児との両立や家族

「ほしい家族の協力を理解」「女性自身が働きたいという意識が強いので、最大の障害は何かを聞いたのが表六です。一仕事、育児との両立や家族

がわかります。

「女性が差別されている」という見方は男女間の差が大きく、男性一七%に対し、女性は約二倍の

# “5月11日に決定”



## 第四回「子どもフェスティバル」

「このほり協和国建国に、みんなで参加しよう！」

毎年五月、「子どもフェスティバル」の手で企画・運営される、子どものお祭りです。今年も、五月一日に行われます。



子どもフェスティバルは五月十一日(日)に行われます。  
会場：松林公園  
時間：午前九時～午後三時  
参加費：無料  
お問い合わせ：松林公園

表-VI 女性に就労の機会 (按・年齢別)

性別	充分に与えられている	十分と与えられていない	三三% (十分と与えられていない)	二九% (十分と与えられていない)	その他
男(小計) (367)	53	10	13	11	12
20代 (62)	48	12	15	10	10
30代 (110)	60	8	17	7	8
40代 (79)	48	15	14	8	9
50代 (65)	53	6	15	11	9
60歳以上 (51)	19	8	15	11	28
女(小計) (445)	52	12	13	11	13
20代 (73)	51	10	16	11	9
30代 (109)	58	7	11	12	10
40代 (115)	57	7	15	17	14
50代 (82)	48	10	12	10	20
60歳以上 (60)	36	9	14	14	52



の協力、理解などを家庭内の問題」といいます。一労働条件や給与、休暇など企業側の姿勢「一三%」一、内容的に不十分など社

代、四十代の女性に「家庭内の問題」が多くなり、また、二十代の女性では「社会生活での不十分さ」をあげる人が一割を占めています。



以上が本市の市勢調査結果にあらわれた「男女の平等意識」の概観です。この調査でも明らかになった、男女間の平等意識は、女性就業とかわりなく、女性と男性の職業の差は大きく、また、就労の条件の最大の障害が「仕事、育児との両立、家族の協力、理解など」の家

公民館  
松林分館だより

昭和63年8月8日  
No.39  
〒197  
福生市武蔵野台1-15-1  
福生市公民館松林分館  
☎52-3624

哀しく激しく燃えさかる女の心に、咲き乱れる  
ひまわりは愛のかげろう



"Sunflower" ひまわり

松林シネマフェスティバル  
For Peace  
8/11-13

松林シネマフェスティバル For Peace

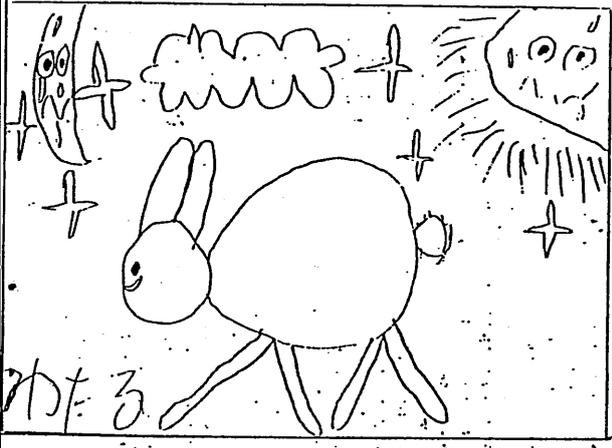
入場無料 会場 松林分館 松林会館 (福生市武蔵野台1-15-1)

日	時間	内容	時間	内容
8月11日(土)	午前(11時から)	象のハナ子 人形アニメ、幼	午後(1時から)	一輝沖津ならなううよと 対馬九郎(守) 70分 ア
8月12日(日)	午後(1時から)	象のハナ子 人形アニメ、幼	午後(1時から)	裸で狼の詩の群(守) 105分
8月13日(月)	午後(1時から)	おかあちゃんごめんね 人形アニメ、幼 26分 トビウオのはらうややはびょうです アニメ、幼 19分	午後(1時から)	ひまわり 劇(守) 105分
		8月9日(日) 長崎 ア 10分		マルシカのカの(守) 90分

幼………幼児からごらんになります。  
数字(分)は上映時間です。

公民館  
松林分館だより

1991年12月10日  
197-NO.50  
福生市武蔵野台1-15  
☎0425-52-3624



むかし、昔の武蔵野台 (37)

昭和20年8月15日、この日は朝から曇り、雨の降る日でした。朝の雨は、いそいそと急いで出ていきました。今日は、朝から曇り、雨の降る日です。お天気の日は、庭で砂遊び、保育室ではブロック、粘土、指を塗った遊具(じょう)などで遊んでいます。兄弟、姉妹で参加している子どもも多く、機がながります。機がながります。機がながります。

かわら版

このページは、グループ、サークルなどの情報交換の場としてご利用ください。くわしいことは、職員に気軽にたづねてください。



こたばの会

なんらかの理由で、学校へ行けなかったり、行けなかったりしたため、日本語の練習、書きが上手になかったり、充分でなかったりする人。あるいは、はじめて日本語に出会う外国人の人々。一緒に日本語の勉強をしませんか。  
9月9日(月曜日)から毎月  
時間 午後一時三十分から4時まで  
場所 松林会館 ☎52-3624 武蔵野台1-15

子育てを豊かに  
しませんか

△公民館専務棟  
△保育サークル棟 棟長 太田 郎

子ども3人に母親一人が目安で保育。おやつをたべたあと、自由に遊ぶ。お天気の日は庭で砂遊び、保育室ではブロック、粘土、指を塗った遊具(じょう)などで遊んでいます。兄弟、姉妹で参加している子どもも多く、機がながります。機がながります。機がながります。

活動日 毎週木曜日  
午前10時から11時四十分  
そのあとお弁当を食べて帰る  
会場 松林会館  
武蔵野台一の十五  
連絡先 石田(51) 6716  
森下(51) 6298

学び合いませんか

地域福祉研究会  
1 地域福祉研究会  
松林の「高齢化社会を生きる講座」から生まれたサークルです。

高齢化社会が進む中で、これからの課題は在宅介護も含めて、地域での福祉の在り方が問われています。いま、地域で高齢化社会に向けての課題は何かを話しあっている仲間です。お気軽に参加しませんか。  
活動 月2回  
連絡先 松林分館 52-3624



# Fantastic Vol.1

S62.10.24(土)

コロンビア

## 劇団 Fantastic 結成!!

先週、10月17日に結成された、できたてのほやほやの劇団です。今はまだ演技もうまくないうけどこれからいっしょけんめい練習して、がんばろう!

まず初めの目標は「がんばって、練習しよう」ということで、やっています!  
**あらはくすたおねえさん**

あらはくすたおねえさんしょうかいします。久保 裕紀さんと、権信 なほこさんと、手塚 かりさんです。ヨロシクね!!

### ～ 前回 の こと ～

- 部長 名々井 美帆(中1) 劇団名
- 副部長 平野 聖子(小5) 劇団 若草、げきだんどりい、むろやいんど、ロミオとジュリエット、Fantastic、げきだんどうぼうねん座、
- 書記 箱用 美雪(中1) 劇団白雪姫、11ぴぎのねこ、音空座、ブルースカイ、劇団 風...など
- 品川 祥子(小3) ♪ってなるかぞう!! Fantasticに決定しました。

### 指導者

松林子供教室の加藤さん、香藤リーターにお願いします。







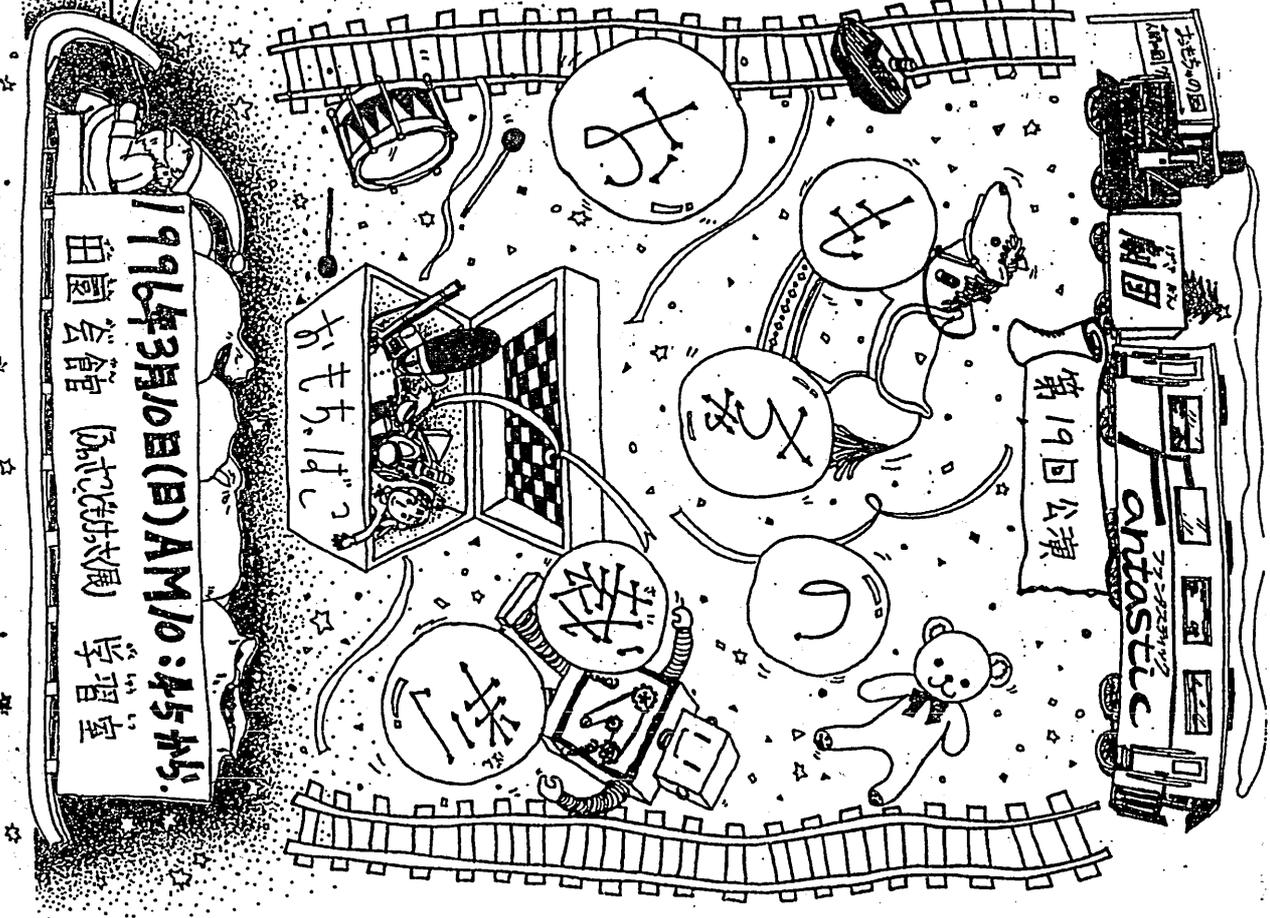




# 劇団 Fantastic 1916

劇団 Fantasticは、多岐な分野の劇団です。練習も道具も、自分たちで揃えています。—— '87年10月に 松林会館の3階教室の中へおこぼれやりにうたが 集まり、発足しました。—— 今年の10月、10年目になります。現在、下は小学2年生、上は中学一年生で、小学生が中心となり活動しています。(他に、裏方で手伝ってくれている中学生たちもいます)練習は、毎週土曜日(本会館は水曜日と日曜日)松林会館にて15人から20人が集まっています。

- ☆ ————— 今までの公演 —————
- 1 88年5月8日 松林分館 集回多岐な松林会館 「おまけの劇」
  - 2 88年10月22日 松林分館 劇団 Fantastic 年日行 「おまけの劇」
  - 3 89年3月21日 田園会館 「おまけの劇」
  - 4 89年8月28日 松林分館 知事先生講演会 「おまけの劇」
  - 5 90年3月10日 田園会館 「おまけの劇」
  - 6 90年10月28日 松林分館 劇団 Fantastic 年日行 「おまけの劇」
  - 7 91年3月17日 松林分館 大観覧会 「おまけの劇」
  - 8 91年10月10日 田園会館 「おまけの劇」
  - 9 92年3月19日 田園会館 大観覧会 「おまけの劇」
  - 10 92年10月28日 松林分館 「おまけの劇」
  - 11 93年3月31日 松林分館 大観覧会 「おまけの劇」
  - 12 93年10月23日 松林分館 「おまけの劇」
  - 13 94年3月11日 田園会館 「おまけの劇」
  - 14 94年10月14日 松林分館 「おまけの劇」
  - 15 94年3月5日 松林分館 大観覧会 「おまけの劇」
  - 16 95年10月29日 松林分館 劇団 Fantastic 年日行 「おまけの劇」
  - 17 96年3月10日 田園会館 「おまけの劇」
- 松林分館 1回  
田園会館 1回  
大観覧会 4回  
田園会館 4回  
松林分館 1回  
田園会館 1回  
大観覧会 1回  
松林分館 1回  
田園会館 1回  
大観覧会 1回



1996年3月10日(日)AM10:45  
松林会館 劇団 Fantastic 学習室

# 子ども教室新聞

1996年8月6日(水)  
 松林会館  
 3階教室(おどろき)  
 No. 174  
 (627)No.1

## 森 キャンプのしおり作り

小学校5年生が作ることにしました。担当は次の通り。  
 ★ 名刺の ... 中倉 ☆ キャンプの ... 杉沢  
 ☆ スケジュール ... 乳井 ★ 名刺 ... 加納、五十嵐  
 ★ 食事 ... 漆山 ☆ うた ... 榎本、谷口  
 ★ 表紙 ... 中倉、乳井 ☆ 本日は午前10時に松林会館集合の予定です。

## キャンプ目前!!

今月10、11日のワークキャンプ  
 に向けて8月4日(日)の子ども  
 教室で、キャンプについての話

し合いが行われました。大野、樋口、柏谷の1年生組からは、「川に行くのかわらねえ」という疑問を投げかけてくれました。

前日は、五十嵐(5)、福永、清水(6)とびじおに来てくれてしおりを配って説明開始。説明をつけ加えながら一通り読んで後、

休憩をはさんで『本キャンプのメニュー決め』。進行役は、榎沢 & 中倉。榎沢が司会。中倉さんが「黒板係り」。

### 本キャンプのメニュー

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <b>15日の夜</b><br>高菜とすし<br>ハンバーグ<br>ステーキ | <b>16日朝</b><br>お茶のみ<br>サンドイッチ<br>インスタント<br>トースト | <b>16日の夜</b><br>やき肉<br>ハンバーグ<br>カレー<br>お茶のみ<br>サンドイッチ |
|--|---|---|

### 17日の夜

- カレー
- ハンバーグ
- ステーキ

### 17日の朝

- お茶のみ
- サンドイッチ
- トースト

15日朝 ... 16日朝 ... 17日朝 ...

15日朝 ... 16日朝 ... 17日朝 ...

15日朝 ... 16日朝 ... 17日朝 ...

## 班編成

◎ → 班名 1-2 〇 → 班名 2-2

本キャンプの班編成です。五十嵐(5)、小泉、高崎、名刺がリーダー。

<b>1班</b> ◎ 加納 4元(5) 〇 五十嵐 4元(5) 小泉 4元(3) 西 4元(2) 樋口 4元(1) 柏谷 4元(1)	<b>2班</b> 〇 榎沢 4元(5) 〇 中倉 4元(5) 下原 4元(4) 丸井 4元(4) 丸井 4元(3) 高崎 4元(1)	<b>3班</b> 〇 榎沢 4元(5) 〇 谷口 4元(5) 大野 4元(1) 藤原 4元(3) 長岡 4元(1) 大野 4元(1)	<b>4班</b> 〇 榎沢 4元(5) 〇 谷口 4元(5) 大野 4元(1) 藤原 4元(3) 長岡 4元(1) 大野 4元(1)
---	---	---	---

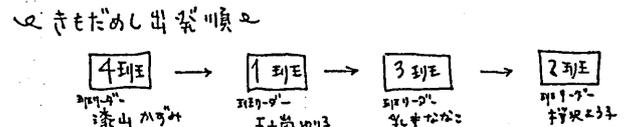
## おどろきキャンプの準備会

1996年8月7日(木)  
 松林会館3階教室  
 おどろきキャンプ会

## きもだめし 特集!!

8月6日(水)の1-2班会で「きもだめし練習キャンプの」について、いくつか話し合いました。2人に報告します。

きもだめしルート下見  
 8月7日(木) 今日(木) 5:00am 松林会館集合。7時前に解散予定  
 実際に歩いて、ルートを把握する。所用時間を調べる。また、公園のトイレの場所や、交通量が多く危険な場所、エスケープルートなどを確認する。2の下見をもとに、当日きもだめしでの班行動をどこからどこまでするか、を決める。



中学生と、高校生以上の男子は、各担当班について行動して下さい。班行動時は、班の子ども達の数を常にチェックし、後ろにのりたは、自分より後ろに子どもがいないようにして下さい。もちろん、車、バイク等にも目を光らせて下さい。特に夜は車が少ないので、みんな形はして運転がしかならないので、道を横断する時は十分注意して下さい。

高校生男子は、おどろき(側)にまわりまわすラストの班(2班)が、自分(側)のおどろきの前を通った後、班名をうしろにつけて行きます。

- カド横さんは、2班について見ます。
- きもだめしの際に1-2班が持っているもの
- 10円玉、6枚 + ティッシュ + 折り紙
  - 懐中電灯 + 予備電池
  - タオル、ハンカチ、帽子
  - 無線機 (トランシーバー)

無線機  
 無線機は、各班1人ずつと、おどろき役の高校生たち(4人)が持ちます。緊急事態が起きた時は、すぐに本部にかけつけて連絡して下さい。

- そのほか
- きもだめしに行く前に、全員必ずおどろきに行かせること!! 特に1年生!! 出る前夜に園から、とにかくトイレに行かせます。
  - 行動中、トイレに行きたい場合は、緊急班などがあてつけられる場合は、高崎(木)宛に「びびん」をよびます。高崎(木)宛に「びびん」をよびます。
  - くじけたり、おどろきが終わった時 → 高崎(木)に4人をよびます。予備電池をよびます。





# Children School Times

## 6/22 新聞可回返せ教室

今回は新聞を返す教室です。新聞は毎日発行されていますが、その中には多くの情報が含まれています。新聞を返すことで、新聞の役割や重要性について学ぶことができます。また、新聞の発行から廃棄までの流れについても学びます。



新聞は私たちの生活に欠かせないものです。新聞を通じて、国内外のニュースや天気予報、スポーツ情報などを得ることができます。また、新聞には多くの広告や娯楽情報も含まれています。新聞を返すことは、環境保護にも貢献します。

## 大連 実力派 高校生2人に野

小泉 元香  
 都立北野高等学校 3年H組  
 趣味は読書、音楽、映画鑑賞。将来は小説家になりたい。

高崎 克一  
 都立北野高等学校 2年B組  
 趣味はサッカー、読書。将来はプロサッカー選手になりたい。

## 下見場所決定

7月8日(土)に下見場所を決定しました。場所は左の通りです。

- ① 相模の清・時城峠
- ② 今熊山
- ③ 金山
- ④ 城山(戸倉城跡)



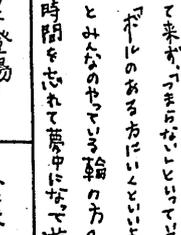
7月12日に下見場所を決定しました。場所は左の通りです。

- ① 相模の清・時城峠
- ② 今熊山
- ③ 金山
- ④ 城山(戸倉城跡)

# Children School Times

## 6/29 日第回返せ教室

今回は中・高生リーダーが中心となって行われる予定です。リーダーたちは、今回の教室を通じて、リーダーとしての役割や責任について学びます。また、新聞の発行から廃棄までの流れについても学びます。



新聞は私たちの生活に欠かせないものです。新聞を通じて、国内外のニュースや天気予報、スポーツ情報などを得ることができます。また、新聞には多くの広告や娯楽情報も含まれています。新聞を返すことは、環境保護にも貢献します。

## 行動派と口だけ派 相対する二人のために登場...

平野 陽子  
 都立八王子東高校 2年  
 特技 人まねです。

名村 新  
 明星大学1年 教育学部  
 趣味は特技ホー・ビーズです。

今回は中・高生リーダーが中心となって行われる予定です。リーダーたちは、今回の教室を通じて、リーダーとしての役割や責任について学びます。また、新聞の発行から廃棄までの流れについても学びます。

## 保護者会 日にち決定!

7月24日(木)  
 PM 7時30分

保護者会説明内容  
 ・本学2・3年練習内容  
 ・今までの活動のこぼれ  
 ・キャンプの持ち物について  
 ・キャンプについて気になること

# Children School Times

## 7/6 だいやかいこどもきょうしつ

今日の子ども教室は、1時30分  
 に集合して、川遊びをするため  
 に、羽村の堰まで歩いていきま  
 した。7月の暑い炎天下の中、  
 子どもたちを連れていくリリー  
 ーにとろてはすずしのつらさ。が  
 ちよもたちは、またまた元気な  
 おしゃべりをしはげあつてい  
 く。かたより木陰をおくれば  
 涼しい感じが、さすがの小学  
 生も羽村の堰が近づくにつれて  
 少しづつ分れてきたのか、体づく  
 りをほしめる子がふえいきました  
 をこの羽村大橋の下で休むのを

20分とりました。みんなさ、てきたがかしこ  
 友達したり、リリーをのんびりどりどり有義義  
 にすましました。そしてここから今日の大  
 インの川遊び。ところは昨日はたか村の  
 堰で水泳大会に、いそいそと準備が  
 着、水ももてきていたので、全身がしよ  
 れには、いそいそと準備が  
 着、水ももてきていたので、全身がしよ  
 れには、いそいそと準備が  
 着、水ももてきていたので、全身がしよ

## 7/2(日) 7/3(日) 研修キャンプ報告ロケ!

7/2(日)の本営をたもとキャンプ2日目に見に行  
 くと、定どろたが、朝から雨のため中止。時30分  
 松林分館のミーティング、研修報告会に入  
 2日目、研修報告会の中、高生  
 とつてかありのつらさ、つらさ、つらさ  
 の研修報告会も、つらさ、つらさ、つらさ  
 の研修報告会も、つらさ、つらさ、つらさ  
 の研修報告会も、つらさ、つらさ、つらさ

High Tention  
 日を有、おどろ!  
 高生、高生、高生  
 高生、高生、高生  
 高生、高生、高生

## 報告書作成

- ~~~~~保ご者会用~~~~~
- 5月25日 福永
  - 6月1日 清水
  - 8日 高崎
  - 15日 村上
  - 22日 村田
  - 29日 名々井
  - 7月6日 五十嵐
  - 13日 村田
  - 20日 平野

大きさは1つものB4サイズです。  
 7/20 5時までです

# Children School Times

## 7/13 第8回子ども教室 指導リレー・村田憲彦

今日は、今年はじめからリレーが  
 3じむ教室の指導してました。リレー  
 1ヶ月間、大活躍をしてくれました。  
 指導してました。リレーが  
 3じむ教室の指導してました。リレー  
 1ヶ月間、大活躍をしてくれました。  
 指導してました。リレーが  
 3じむ教室の指導してました。リレー

おつた。大活躍をしてくれました。  
 リレーが3じむ教室の指導してました。  
 1ヶ月間、大活躍をしてくれました。  
 指導してました。リレーが  
 3じむ教室の指導してました。リレー

## 7/13 七不思議をもちろす...

- 水村
- 高生

高生、高生、高生  
 高生、高生、高生  
 高生、高生、高生

## 天気講座

天気講座  
 天気講座  
 天気講座

天気講座  
 天気講座  
 天気講座

## キャンプの思い出

- 1 はじめのキャンプ
- 2 火・木・木の神話
- 3 高生、高生、高生
- 4 高生、高生、高生
- 5 高生、高生、高生
- 6 高生、高生、高生
- 7 高生、高生、高生
- 8 高生、高生、高生
- 9 高生、高生、高生
- 10 高生、高生、高生
- 11 高生、高生、高生
- 12 高生、高生、高生
- 13 高生、高生、高生
- 14 高生、高生、高生

高生、高生、高生  
 高生、高生、高生  
 高生、高生、高生

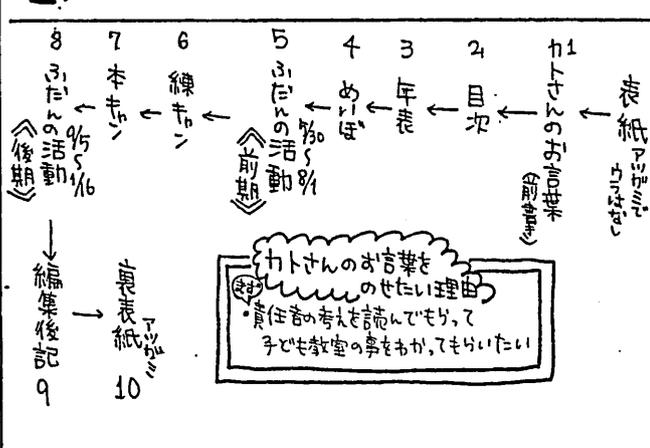
ち..るどれんすく~るたいむ's

1999.12月 14日(火) No.30

文集作り

始動

文集作りが、始動です。原稿は提出してください。しゅりやりのついでに、お楽しみ会も開催予定です。



**NO5 NO8の細かいところ**

① 中表紙をいじり、報告書の子ども作文の文をいじり、2つを日付け、お楽しみ会の原稿を入れる。

① 中表紙をいじり、報告書の子ども作文の文をいじり、2つを日付け、お楽しみ会の原稿を入れる。

**NO7 本キャン**

① 中表紙をいじり、報告書の子ども作文の文をいじり、2つを日付け、お楽しみ会の原稿を入れる。

**NO8 ぶたんの活動後期**

① 中表紙をいじり、報告書の子ども作文の文をいじり、2つを日付け、お楽しみ会の原稿を入れる。

ち..るどれんすく~るたいむ's

1999. 1月 29日(土) No.42

**文集づくりの進捗具合**

今日は、お楽しみ会に編集作業を行いました。お楽しみ会に編集作業を行いました。

**明日やること**

- ・お楽しみ会に編集作業
- ・お楽しみ会に編集作業
- ・お楽しみ会に編集作業

**お楽しみ会**

お楽しみ会に編集作業を行いました。

ち..るどれんすく~るたいむ's

1999.12月 14日(火) No.31

**次回編集会議**

12月17日(金)午後5時30分から。お楽しみ会に編集作業を行いました。

**お楽しみ会**

お楽しみ会に編集作業を行いました。

**お楽しみ会**

お楽しみ会に編集作業を行いました。

松林「だれでなんでも展」

テーマソング

作詩・作曲

伊東律子

C = F

1. かつえよ う きのぬくもりを  
 2. ちづくらりの 二のやさしさを

Dm11

うけとめて のおむいき  
 見と聞い とふれに あじわて

C

ほかいにかわらう ぼほあを

Dm11 C

むと殿か人むと 御まいに

F C

あはれああーよ = 3を

F Em E C

ほぐくむらよ づ=カを

Dm11 Em7 C

= 松林から

松林分館の1990年～1999年資料

松林分館の利用統計

年度/区分	主催事業	住民の社会 教育活動	公共団体	政治宗 教団体	企 業	その他	合 計
1990件	330	1,331	26	8	0	103	1,798
平成2年人	6,015	17,645	716	170	0	1,805	26,351
1991	309	1,575	103	7	5	77	2,073
平成3年	5,294	20,144	2,413	84	183	1,431	29,549
1992	260	1,446	178	0	15	84	1,983
平成4年	5,706	19,275	3,311	0	256	1,118	29,666
1993	317	1,387	137	0	5	75	1,975
平成5年	7,337	17,882	2,542	0	154	1,975	28,975
1994	316	1,255	120	0	7	85	1,786
平成6年	6,319	16,503	2,570	0	130	1,208	26,730
1995	260	1,446	178	0	15	84	1,983
平成7年	5,706	19,275	3,311	0	256	1,118	29,666
1996	422	1,102	112	0	0	73	1,719
平成8年	7,498	12,712	2,251	0	0	1,069	23,530
1997	380	1,209	77	1	0	111	1,778
平成9年	6,916	15,936	1,635	20	0	1,706	26,213
	302	1,247	51	0	11	167	1,778
平成10	5,624	16,194	1,208	0	367	2,527	25,920

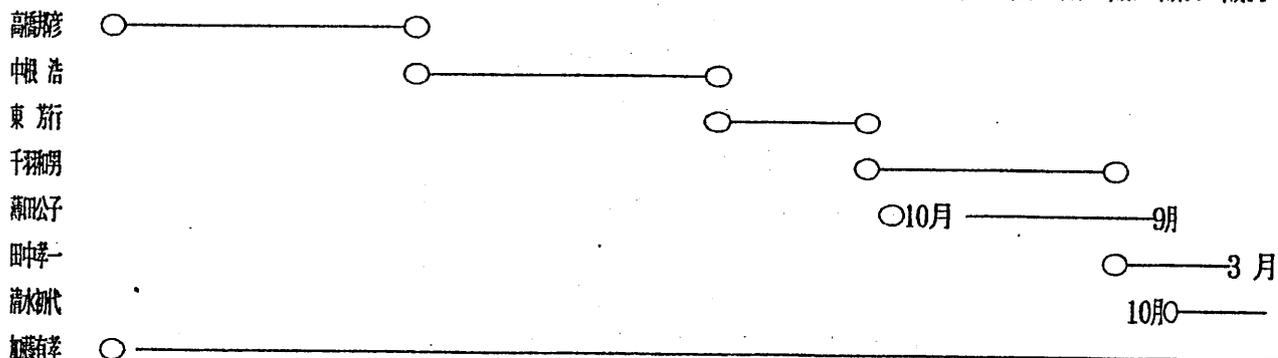
松林分館部屋別利用統計 1990年～1999年

年度	件数	大集会		小集会室		和室		学習室		保育室		合計	
		主催	一般	主催	一般	主催	一般	主催	一般	主催	一般	主催	一般
1991年	71	438	179	311	25	509	15	376	16	133	281	1,767	
平成3年	2,600	8,505	2,042	3,670	280	6,076	204	3,587	168	2,417	5,294	29,549	
1992年	99	400	94	375	10	517	37	289	20	142	260	1,983	
平成4年	1,669	7,854	1,674	4,763	172	6,126	1,207	2,719	2,498	5,706	29,666		
1993年	129	403	173	282	12	487	33	305	24	127	371	1,604	
平成5年	3,074	7,910	2,648	3,586	335	5,286	770	3,013	510	1,843	7,337	21,638	
1994年	103	359	173	262	2	432	6	268	32	149	316	1,470	
平成6年	2,535	7,197	2,370	3,584	161	5,051	623	2,518	630	2,061	6,319	20,411	
1995年	124	313	160	305	2	399	8	266	36	109	330	1,392	
平成7年	3,038	5,999	2,080	3,883	181	4,338	698	2,670	640	1,524	6,637	18,414	
1996年	109	305	186	251	14	411	12	221	101	109	422	1,297	
平成8年	2,201	5,244	2,470	2,925	286	4,250	767	2,144	1,774	1,469	7,498	16,032	
1997年	99	357	174	307	17	384	7	255	83	95	380	1,398	
成9年	2,370	6,519	2,222	3,557	413	3,999	255	2,450	1,276	2,772	6,916	19,297	
998年	48	364	166	295	2	402	2	316	84	99	302	1,476	
成10年	1,415	7,061	2,226	3,535	169	4,043	382	3,426	1,432	2,231	5,624	20,296	

松林分館職員動統

- 1979年4月～1984年3月 高橋邦彦 (社会教育主幹) ・加藤有孝 (社会教育主幹)
- 1984年4月～1989年3月 中根 浩 (社会教育主幹) ・加藤有孝
- 1989年4月～1993年3月 東 芳行 (主査・係長) ・加藤有孝  
在学中館社会教育主幹研修 ・加藤有孝
- 1993年4月～1996年3月 千羽和男 (主査・係長) ・加藤有孝  
在学中館社会教育主幹研修
- 1994年10月～1998年 9月 薄田公子 (分館初めの姓) ・千羽和男 ・加藤有孝
- 1996年 4月～2000年 3月 田中孝一 (主査・課長) ・薄田公子 ・加藤有孝
- 1998年10月～ 清水初代 ・田中孝一 ・加藤有孝

昭和54 昭和55 昭和56 昭和57 昭和58 昭和59 昭和60 昭和61 昭和62 昭和63 平成1 平成2 平成3 平成4 平成5 平成6 平成7 平成8 平成9 平成10 平成11



松林分館の歩み  
福生市公民館松林分館  
20周年記念誌

発行年月 平成12年3月

発行者 福生市公民館松林分館  
福生市武蔵野台1-15  
電話 042(552)3624

印刷者 福生市公民館松林分館  
製本 福生市公民館松林分館



